

山口大学東アジア研究科
博士論文

自然会話における二連鎖感動詞類に関する研究

2021年03月

劉 伝霞

目次

1. はじめに	1
1.1. 研究背景・動機	1
1.2. 研究目的	3
1.3. 本論文の構成	3
2. 先行研究	4
2.1. 談話の定義	4
2.2. 感動詞類の定義	5
2.3. 談話分析の感動詞類における研究	10
2.3.1. 田窪行則 (1995)	10
2.3.2. 定延利之・田窪行則 (1995)	11
2.3.3. 富樫純一 (2001)	12
2.3.4. 友定賢治 (2005)	13
2.3.5. 定延利之 (2015)	14
2.3.6. 陳海濤 (2017)	15
2.4. 感動詞類における共起現象	15
2.4.1. 田窪行則 (1994)	15
2.4.2. VUONG THI BICH LIEN (2012)	16
3. 本論文の立場	18
3.1. 研究対象	18
3.1.1. 感動詞類	18
3.1.2. 二連鎖感動詞類	18
3.1.2.1. 二連鎖感動詞類の定義	18
3.1.2.2. 二連鎖感動詞類の発話位置	19
3.2. 研究方法	20
3.2.1. データについて	20
3.2.2. データの文字化	24
3.2.2.1. 「データⅠ, データⅣ」の文字化	24
3.2.2.2. 「データⅡ, データⅢ」の文字化	25
3.2.2.3. 会話データの表記	27

4. 1 ターンの一連鎖感動詞類に関する考察	29
4. 1. 日本語の考察	29
4. 1. 1. 「あ, ~」類	29
4. 1. 1. 1. 「あ, そー」類	29
4. 1. 1. 2. 「あ, うん」類	34
4. 1. 1. 3. 「あ, はい」類	37
4. 1. 2. 「あつ, ~」類	39
4. 1. 2. 1. 「あつ, そー」類	39
4. 1. 2. 2. 「あつ, うん」類	40
4. 1. 3. 「え, ~」類	41
4. 1. 3. 1. 「え, そー」類	41
4. 1. 4. 「あー, ~」類	42
4. 1. 4. 1. 「あー, そー」類	42
4. 1. 4. 2. 「あー, うん」類	44
4. 1. 4. 3. 「あー, はい」類	46
4. 1. 5. 「えー, ~」類	48
4. 1. 5. 1. 「えー, うん」類	48
4. 1. 6. 「うーん, ~」類	49
4. 1. 6. 1. 「うーん, そー」類	49
4. 1. 6. 2. 「うーん, うん」類	50
4. 1. 6. 3. 「うーん, はい」類	50
4. 1. 7. 「うん[↑], ~」類	51
4. 1. 7. 1. 「うん[↑], うん」類	51
4. 1. 8. 「まー, ~」 「~, まー」	52
4. 1. 8. 1. 「まー, そー」類	52
4. 1. 8. 2. 「まー, うん」類	53
4. 1. 8. 3. 「あ, まー」類	53
4. 1. 8. 4. 「うーん, まー」類	55
4. 1. 9. 「~, そー—[↓↑]」類	56
4. 1. 9. 1. 「あ, そー—[↓↑]」類	56
4. 1. 9. 2. 「え, そー—[↓↑]」類	57
4. 1. 9. 3. 「あつ, そー—[↓↑]」類	57
4. 1. 10. 認知ユニットに関する仮説	59
4. 1. 11. 認知ユニットに関する仮説の検証	63
4. 1. 11. 1. 感動詞類の反復	63
4. 1. 11. 1. 1. 同じ形式の反復	63

4.1.11.1.2. 同じ群の反復	65
4.1.11.2. リセット感動詞類	70
4.1.12. まとめ	73
4.2. 中国語の考察	74
4.2.1. 「啊, ~」(あ, ~) 類	74
4.2.1.1. 「啊, 对」(あ, そ一) 類	74
4.2.1.2. 「啊, 嗯—— [↑↓]」(あ, うん—— [↑↓]) 類	76
4.2.2. 「哦, ~」(あ, ~) 類	78
4.2.2.1. 「哦, 嗯」(あ, うん) 類	78
4.2.2.2. 「哦, 也对」(あ, ま一) 類	79
4.2.2.3. 「哦, 也是」(あ, ま一) 類	80
4.2.3. 「啊一, ~」(あ一, ~) 類	80
4.2.3.1. 「啊一, 对」(あ一, そ一) 類	81
4.2.4. 「哦一, ~」(あ一, ~) 類	81
4.2.4.1. 「哦一, 对」(あ一, そ一) 類	82
4.2.5. 「嗯一, ~」(うん, ~) 類	83
4.2.5.1. 「嗯一, 也是」(うん, ま一) 類	83
4.2.6. 認知ユニットに関する仮説	85
4.2.7. 認知ユニットに関する仮説の検証	87
4.2.7.1. 感動詞類の反復	87
4.2.7.1.1. 同じ形式の反復	87
4.2.7.1.2. 同じ群の反復	87
4.2.7.2. リセット感動詞類	91
4.2.8. まとめ	93
4.3. 比較	94
5. 1 ターン内の二連鎖感動詞類に関する考察	96
5.1. 日本語の考察	96
5.1.1. ターン初頭の二連鎖感動詞類	96
5.1.1.1. 「あ, ~, …」	96
5.1.1.1.1. 「あ, え, 新情報」類	
5.1.1.1.2. 「あ, あ一, 新情報」類	
5.1.1.1.3. 「あ, あの一, 新情報」類	
5.1.1.1.4. 「あ, え一, 新情報」類	
5.1.1.1.5. 「あ, ま一, 新情報」類	
5.1.1.1.6. 「あ, そ一, 新情報」類	

5.1.1.1.7.	「あ, うん, 新情報」類	
5.1.1.1.8.	「あ, ま, 副詞」類	
5.1.1.1.9.	「あ, うん, 動詞」類	
5.1.1.1.10.	「あ, うん, 同語重複」類	
5.1.1.1.11.	「あ, そー, 同語重複」類	
5.1.1.2.	「え, ~, …」	109
5.1.1.2.1.	「え, あ, 新情報」類	
5.1.1.3.	「あっ, ~, …」	109
5.1.1.3.1.	「あっ, そー, 新情報」類	
5.1.1.3.2.	「あっ, はい, 新情報」類	
5.1.1.4.	「あー, ~, …」	111
5.1.1.4.1.	「あー, まー, 新情報」類	
5.1.1.4.2.	「あー, そー, 新情報」類	
5.1.1.4.3.	「あー, はい, 新情報」類	
5.1.1.4.4.	「あー, うん, 動詞」類	
5.1.1.4.5.	「あー, うん, 同語重複」類	
5.1.1.5.	「えーっと, ~, …」	115
5.1.1.5.1.	「えーっと, あの一, 新情報」類	
5.1.1.6.	「うーん, ~, …」	116
5.1.1.6.1.	「うーん, まー, 新情報」類	
5.1.1.6.2.	「うーん, そー, 新情報」類	
5.1.1.7.	「うん, ~, …」	119
5.1.1.7.1.	「うん, そー, 新情報」類	
5.1.1.7.2.	「うん, そー, 同語重複」類	
5.1.1.7.3.	「うんー, うん, 副詞」類	
5.1.1.8.	「そー, ~, …」	123
5.1.1.8.1.	「そー, うん, 新情報」類	
5.1.1.9.	「あー—[↑↓], ~, …」	124
5.1.1.9.1.	「あー— [↑↓], うん, 動詞」類	
5.1.1.10.	ターン初頭の二連鎖感動詞類のまとめ	125
5.1.2.	ターン中の二連鎖感動詞類	128
5.1.2.1.	「…, あ, ~, …」類	128
5.1.2.1.1.	「新情報, あ, え, 新情報」類	
5.1.2.2.	「…, え, ~, …」類	129
5.1.2.2.1.	「新情報, え, あ, 新情報」類	
5.1.2.3.	「…, あー, ~, …」類	130

5.1.2.3.1.	「新情報, あー, まー, 新情報」類	
5.1.2.4.	「…, あの一, ～, …」類	131
5.1.2.4.1.	「新情報, あの一, その一, 新情報」類	
5.1.2.4.2.	「新情報, あの一, ま, 新情報」類	
5.1.2.4.3.	「新情報, あの一, そー, 新情報」類	
5.1.2.5.	「…, うーん, ～, …」類	134
5.1.2.5.1.	「新情報, うーん, まー, 新情報」類	
5.1.2.6.	「…, えーっと, ～, …」類	135
5.1.2.6.1.	「新情報, えーっと, まー, 新情報」類	
5.1.2.7.	「…, その一, ～, …」類	136
5.1.2.7.1.	「新情報, その一, えー, 新情報」類	
5.1.2.8.	「…, まー, ～, …」類	137
5.1.2.8.1.	「新情報, まー, うん, 新情報」類	
5.1.2.9.	ターン中の二連鎖感動詞類のまとめ	138
5.1.3.	ターン末尾の二連鎖感動詞類	140
5.1.3.1.	「…, うん, ～」類	140
5.1.3.1.1.	「同語重複, うん, そー」類	
5.1.3.2.	「…, あー, ～」類	140
5.1.3.2.1.	「新情報, あー, はい」類	
5.1.3.3.	ターン末尾の二連鎖感動詞類のまとめ	142
5.1.4.	認知ユニットに関する仮説の修正	144
5.1.4.1.	仮説の修正	144
5.1.4.2.	反復	145
5.1.4.3.	リセット感動詞類	145
5.1.5.	まとめ	149
5.2.	中国語の考察	150
5.2.1.	ターン初頭の二連鎖感動詞類	150
5.2.1.1.	「哦, ～, …」(あ, ～, …)類	150
5.2.1.1.1.	「哦, 欸, 新情報」(あ, えっ, 新情報)類	
5.2.1.1.2.	「哦, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報)類	
5.2.1.1.3.	「哦, 对, 副詞」(あ, そー, 副詞)類	
5.2.1.1.4.	「哦, 欸, 同語重複」(あ, えっ, 同語重複)類	
5.2.1.2.	「啊, ～, …」(あ, ～, …)類	154
5.2.1.2.1.	「啊, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報)類	
5.2.1.3.	「欸, ～, …」(えっ, ～, …)類	155
5.2.1.3.1.	「欸, 对, 同語重複」(えっ, そー, 同語重複)類	

5.2.1.4.	「哦ー, ~, …」(あー, ~, …) 類	156
5.2.1.4.1.	「哦ー, 对, 新情報」(あー, そー, 新情報) 類	
5.2.1.5.	「嗯ー, ~, …」(うーん, ~, …) 類	157
5.2.1.5.1.	「嗯ー, 也行, 新情報」(うーん, まー, 新情報) 類	
5.2.1.5.2.	「嗯ー, 对, 新情報」(うーん, そー, 新情報) 類	
5.2.1.5.3.	「嗯ー, 是, 新情報」(うーん, そー, 新情報) 類	
5.2.1.6.	「嗯, ~, …」(うん, ~, …) 類	160
5.2.1.6.1.	「嗯, 对, 同語重複」(うん, そー, 同語重複) 類	
5.2.1.7.	「啊ー [↓], ~, …」(あー [↓], ~, …)	161
5.2.1.7.1.	「啊ー [↓], 嗯, 新情報」(あー [↓], うん, 新情報) 類	
5.2.1.8.	ターン初頭の二連鎖感動詞類のまとめ	163
5.2.2.	ターン中の二連鎖感動詞類	166
5.2.2.1.	「…, 哦, ~, …」(…, あ, ~, …) 類	166
5.2.2.1.1.	「新情報, 哦, 是, 新情報」(新情報, あ, そー, 新情報) 類	
5.2.2.2.	ターン中の二連鎖感動詞類のまとめ	168
5.2.3.	ターン末尾の二連鎖感動詞類	170
5.2.3.1.	「…, 哦, ~」(~, あ, ~) 類	170
5.2.3.1.1.	「新情報, 哦, 哦ー」(~, あ, あー) 類	
5.2.3.1.2.	「新情報, 哦, 对」(~, あ, そー) 類	
5.2.3.2.	「…, 欸, ~」(~, えっ, ~) 類	171
5.2.3.2.1.	「新情報, 欸, 对」(~, えっ, そー) 類	
5.2.3.3.	ターン末尾の二連鎖感動詞類のまとめ	173
5.2.4.	認知ユニットに関する仮説の修正	175
5.2.4.1.	仮説の修正	175
5.2.4.2.	反復	176
5.2.4.3.	リセット感動詞類	176
5.2.5.	まとめ	178
5.3.	比較	179
6.	まとめ	182
6.1.	二連鎖感動詞類について	182
6.2.	先行発話・後続発話について	183
6.3.	認知ユニットについて	184
7.	問題点・今後の課題	185
7.1.	データについて	185

7.1.1. データの量	185
7.1.2. データの種類	185
7.1.3. 発話者の属性	185
7.2. 感動詞類について	185
7.2.1. 感動詞類の待遇性, 位相性	186
7.2.2. 感動詞類と終助詞・語気(助)詞	187
7.2.3. 感動詞類のイントネーション	187
7.2.4. 各群の感動詞類	187
7.2.5. 感動詞類の反復	188
7.2.6. 連鎖感動詞類	188
7.2.7. リセット感動詞類	190
7.3. 新情報(X)・命題について	191
7.4. 非言語音声について	193
8. おわりに	197
参考文献	198
謝辞	206
【付録】	

表目次

表 1	「データ I」の概要	20
表 2	「データ II」の概要	22
表 3	「データ III」の概要	23
表 4	「データ IV」の概要	23
表 5	「データ I, データ IV」の記号凡例	24
表 6	「データ I, データ IV」の感動詞類のイントネーション表記	25
表 7	「データ II, データ III」の記号凡例	25
表 8	会話データの表記	27
表 9	日本語の二連鎖感動詞類の統語的順序	60
表 10	日本語の二連鎖感動詞類の同じ形式の反復	64
表 11	中国語の二連鎖感動詞類の統語的順序	85
表 12	中国語の二連鎖感動詞類の同じ形式の反復	87
表 13	日本語と中国語の 1 ターンの二連鎖感動詞類に関する比較	94
表 14	ターン初頭の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧	125
表 15	日本語のターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ	126
表 16	ターン中の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧	138
表 17	日本語のターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせ	138
表 18	ターン末尾の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧	142
表 19	日本語のターン末尾の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ	142
表 20	真偽判断に関する認知プロセスが反復される日本語の会話データ一覧	145
表 21	ターン初頭の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧	163
表 22	中国語のターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ	164
表 23	ターン中の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧	168
表 24	中国語のターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせ	168
表 25	ターン末尾の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧	173
表 26	中国語のターン末尾の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ	173
表 27	真偽判断に関する認知プロセスが反復される中国語の会話データ一覧	176
表 28	日本語と中国語の 1 ターン内の二連鎖感動詞類に関する比較	179

1. はじめに

1.1. 研究背景・動機

日本語においても、中国語においても、自然会話¹では、感動詞類が頻繁に出現する。日本語の感動詞類には、「え」、「ま（あ）」などの感動詞、「うん」、「はい」などの応答詞（cf. 田窪行則 1995:1023-1024）のようなことばが含まれる。中国語の感動詞類には、「啊{a}」、「哦{o}」などの感動詞（cf. 劉月華 1992:188）、「嗯{en}」、「对{dui}」などの応答詞（cf. 黄麗華 2002:47）のようなことばが含まれる²。具体的には、次の例を見られたい。

(1)

X：これ結構辛いよ

Y：あ，本当？

(2)

X：今日授業ある？

Y：うん，あるよ

(3)

X：这个很辣的

これ結構辛いよ

Y：啊，真的吗？

あ，本当？

(4)

X：今天有课吗？

今日授業ある？

Y：嗯，有啊

うん，あるよ

(1)と(2)の Y の下線部の日本語の「あ」、「うん」及び、(3)と(4)の Y の下線部の中国語の「啊{a}」(あ)、「嗯{en}」(うん)のような単独で現れる感動詞類（「単独感動詞類」と呼ぶ）は自然会話では非常に頻繁に使われている。従来の研究により、「単独感動詞類」は「感動詞」と呼ばれ、名詞、動詞、形容詞、副詞などと同様に、1つの品詞として位置づけられて

¹ 「自然会話」とは、「実験的に設定されたもの」ではなく、「基本的におしゃべりの類、すなわち日常会話のことである」（cf. H. サックス・E. A. シェグロフ・G. ジェファソン 2010:8, 12）。

² 本論文では、中国語の拼音（ピンイン）を記号{ }の中に記す。また、中国語の発話の下には、日本語訳を付ける。日本語訳は、本文中では丸括弧で挙げる場合もあるが、いずれも筆者によるものである。

いる。しかし、定延利之(2005:38)には、「名詞や動詞などとは違って、感動詞は子供の頃から間違えない、もしくは間違えにくい。これは感動詞が、名詞や動詞などとは大きく違った存在である」ことが示唆されている。従って、単独感動詞類の本質については、まだ明らかになっていない。

単独感動詞類に対して、2つの異なる形式の感動詞類が連続している場合（「二連鎖感動詞類」と呼ぶ）がある。以下に例を示す。

(5)

X：夏休み、どこに行きたい？

Y：あ，うーん

(6)

X：朝早く行けば、列に並ばなくてもいい

Y：うん，そーそーそー

(7)

X：暑假想去哪里？

夏休み、どこに行きたい？

Y：啊，嗯ー

あ，うーん

(8)

X：一早去，不用排队

朝早く行けば、列に並ばなくてもいい

Y：嗯，对对对

うん，そーそーそー

(5)のYの発話内容は、下線部の「あ」と「うーん」からなる二連鎖感動詞類であり、(6)のYの発話内容は、「うん」と「そーそーそー」からなる二連鎖感動詞類である。(7)のYの発話内容は、「啊{a}」（あ）と「嗯ー{en:}」（うーん）からなる二連鎖感動詞類であり、(8)のYの発話内容は、「嗯{en}」（うん）と「对对对{dui dui dui}」（そーそーそー）からなる二連鎖感動詞類である³。

以上のように、日本語においても、中国語においても同様に二連鎖感動詞類の発話が観察される。ここで疑問が生じる。なぜこのように複数の単独感動詞類が連続して現れるのだろうか。二連鎖感動詞類は単に単独感動詞類が2つ並んだものなのだろうか。例えば、「あ、

³ 中国語表記の「ー」「:」は、音声を伸ばしていることを表している。

うーん」は、「あ」と「うーん」の時系列の意味の総和なのだろうか。そうではなく、別の仕組みが存在するのではないだろうか。しかも、二連鎖感動詞類については、従来の研究には見られないことから、この仕組みを解明することには意義があると考えられる。

1.2. 研究目的

本論文の目的は、感動詞類の複数連鎖という言語現象に潜んでいる普遍的なルールや法則性を導き出すことである。具体的には、日本語と中国語の自然会話に現れる二連鎖感動詞類を対象とし、前項（前に位置するもの）と、後項（後に位置するもの）にはどのような感動詞類が分布するのかを記述するとともに、そこにどのような認知プロセスが流れているのかという問題を解明する。さらに、日中両言語における二連鎖感動詞類の共通点と相違点を探ることによって、言語普遍的な仕組みを見出していく。

1.3. 本論文の構成

本論文は、全部で8章から構成される。第1章から第3章までは、先行研究及び本論文の方法論である。第4章から第8章までは、会話データの分析を通して、二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの仕組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知プロセス」の仮説を提示し、検証する。詳細は下記である。

第1章は、「はじめに」で、研究背景・動機、研究目的と論文の構成を述べる。

第2章は、「先行研究」で、談話の定義、感動詞類の定義、及び談話分析の感動詞類、感動詞類における共起現象について、それぞれに関する先行研究を述べる。

第3章では、本論文の立場を述べる。具体的には、研究対象（二連鎖感動詞類）、研究方法（会話調査の要領及びデータの詳細、データの文字化）について示す。

第4章では、各データに現れる1ターンの二連鎖感動詞類を観察した上で、二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの仕組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知プロセス」の仮説を提示し、検証する。さらに、自然会話における1ターンの二連鎖感動詞類に関する記述について、日本語と中国語を比較する。

第5章では、各データに現れる1ターン内の二連鎖感動詞類を観察した上で、二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの仕組みを明らかにする。また、二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の関係を論じる。そして、「真偽判断に関する認知プロセス」の仮説を検証する。さらに、自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類に関する記述について、日本語と中国語を比較する。

第6章では、以上の考察を踏まえて、分析結果をまとめる。

第7章では、問題点と今後の課題を論じる。

第8章では、二連鎖感動詞類に関する研究を展望する。そして、本論文が様々な研究領域に対してどのような貢献ができるのかを述べる。

2. 先行研究

本章では、談話の定義、感動詞類の定義、及び談話分析の感動詞類、感動詞類における共起現象について、先行研究を見てみる。

2.1. 談話の定義

『言語学大辞典 第6巻 【術語編】』(1995)は、談話について、次のように定義している⁴。

談話 (だんわ) 英 discourse, 仏 discours, 独 Diskurs 《文法》

[用語の定義] いくつかの文が連続し、まとまりのある内容をもった言語表現を談話という。話されたもの、書かれたものの両者を含む。たとえば、日常会話、スピーチ、ニュース、手紙、小説、広告文など。このほか、文が連なったものではないが、注意書(例:「禁煙」)や標語、看板、あるいは俳句など、一文(語)からなるものも広く談話に含められることが多い。

談話は、テキスト* (text, テクストとも)と同義で使われることもある。その場合、「テキスト」はヨーロッパ系の研究者が、「談話」はアメリカ系の研究者が用いる傾向がある。一方、談話とテキストを別概念とすることもある。この場合は、「話されたもの」対「書かれたもの」、「表現・理解行為」対「(音声・文字で)産出されたもの」、あるいは、「発話としての実現物」対「抽象的構成物」などといった区別がなされる。また、テキストは談話を構成する要素であるとみる人もいる(以下、本項では、両者を特に区別しない)。

(cf. 『言語学大辞典 第6巻 【術語編】』1995:897)

『日本語キーワード事典』(2007)は、談話について次のように定義している。

言語単位の一つ。文より大きな単位のことをいい基本的には複数の文の集合体で、あるまとまりをもったものを指す。文と談話の違いを量ではなくレベルの差ととらえる立場をとれば、一文で談話を形成することもあり得る。音声言語・文字言語ともに含むが、文字言語について文章、音声言語について談話と違って区別することもある。談話には、終始一人の人が話す独話(演説や講義など)と、複数の人が対面して言葉を交わす対話がある。

(cf. 『日本語キーワード事典』2007:280)

『認知言語学大事典』(2019)の談話の定義は次のようになっている。

⁴ 『言語学大辞典 第6巻 【術語編】』(1995:v)によると、「* (右肩) 見出し語への参照指示」である。

いくつかの文が連続し、まとまりのある内容をもった言語表現を談話という。話されたもの、書かれたものの両者を含む。たとえば、日常会話、スピーチ、ニュース、手紙、小説、広告文など。このほか、文が連なったものではないが、注意書（例：「禁煙」）や標語、看板、あるいは俳句など、一文（語）からなるものも広く談話に含められることが多い。

(cf. 『認知言語学大事典』 2019:898)

以上のように、談話の種類は様々である。本論文では、談話の1種類である二者間の日常会話のデータを用いて、二連鎖感動詞類について考察を行う。

2.2. 感動詞類の定義

感動詞類に関して、田窪行則(1994, 1995, 2005)は、以下のように述べている。

感動詞類、終助詞類、陳述副詞、接続副詞といった語類の機能をデータ管理操作の指令と見ることにより、データベース更新の計算操作と関連させて位置づけることが可能になり、これらの語類が、どのような機能を果たしているのかを明確にすることができる。

(cf. 田窪行則 1994:16)

感動詞類、終助詞類、陳述副詞、接続副詞といった語類の機能を心的なデータ管理操作のモニタ標識と見ることにより、これらの言語形式を対話による記憶データベース更新の計算操作と関連させて位置づけることが可能になり、どのような機能を果たしているのかを明確にすることができる。

(cf. 田窪行則 1995:1025)

感動詞類は本来意味を持たず、心的な情報処理の際に非意図的に生じるいわば音声的身振りのようなものとみることが可能である。しかし、それらのある程度意図的に発することで、自分の心的処理状態を相手に知らせることで意味を生じると考えるのである。

(cf. 田窪行則 2005:16)

以上のように、田窪行則(1994, 1995, 2005)は、「感動詞類」という概念を用いて、その機能を「心的なデータ管理操作のモニタ標識」と提案している。

また、感動詞類に関しては、従来の日本語の研究により、「感動詞」、「感嘆詞」、「フィラー（間投詞）」などと呼ばれている。例えば、『言語学大辞典 第6巻 【術語編】』(1995)では、「間投詞」として、次のように定義している。

間投詞 (かんとうし) 英・仏 interjection, 独 Interjektion, Empfindungswort 《文法》

品詞*の一つ。喜怒哀楽など種々の感情や反応、相手に対する働きかけの意志などを、非分析的に表す語。通常、文の他の要素とは文法的関係をもたない独立性の強い要素で、一般に不変化詞*に属する。場面依存性が強く、同一語形がさまざまなニュアンスで使われることが多い。また、それに応じて、イントネーション*が重要な役割を担う。話し言葉で多く用いられ、談話を生彩あるものになっている。感動詞、感嘆詞ともいわれる。国文法*では、感動詞という名称が一般化している。

(cf. 『言語学大辞典 第6巻 【術語編】』1995:250)

『オックスフォード言語学辞典』(2009)でも、「間投詞」として、次のように定義している。

間投詞 interjection

伝統的には、「心理状態」を表現し、他の語と特定の統語的關係はもたない言語形式をいう。例えば、Wow, Yuk, Phew. なかには phew [ɸ:] のように独特の音声素性をもつものは、個人音(idiophone)でもある。

古代ローマ人によるラテン語の記述では*品詞[の1つとされた]。最近ではより広範でより不確定な範疇へと拡張されているが、伝統的な間投詞はその範疇のごく一部分しか占めていない。

(cf. 『オックスフォード言語学辞典』2009:62)

ここでは、感動詞類の範疇が広がっているということを指摘している。しかし、具体的にどのようなものがあるのかに関しては言及していない。

また、『日本語キーワード事典』(2007)では、「感動詞」として、次のように定義している。

品詞の一つ。自立語で活用がなく、文の独立語となることができる。概念内容をもたず、感嘆などの感情が分析を加えられず直接的に表出されたもの。感嘆詞、間投詞とも呼ばれる。独立語として文頭にくるか、一文となることが多い。主なものを次にあげる。

A 感嘆などの感情を表出するもの ①ああ/あら/おや/へえ/まあ ②さて/なんと/それ(かけ声)/どれ(ものをのぞきこむときなど)/畜生

B 呼びかけ おい/こら/ねえ/もしもし

C 応答 はい/いいえ/うん/ええ

D 発話の意志を表すもの。つなぎ言葉 あー/あのー/えー/えーつと

このほか、上の例が音の変化を起こして、多くの変異形を生み出している(例:どれ→どうれ, はい→へい, こら→こりゃ)。

A の①については、同じ感情の表出でも、「きゃあ」(呼び声)、「わはは」などは単なる音声と見なし、語とは認めない。「うーん」「ええと」なども、感情の表出といえるかどうか問題がある。②にあげた「さて(接続詞)」、「なんと(副詞)」、「それ・どれ(代名詞)」、「畜生(名詞)」などは、ほかの品詞(上記カッコ内)から転成したものである。

C は応答詞と呼ばれるもので、感動詞に含める立場と含めない立場とがなる。おなじ「はい」でも、応答を求められる場面で発する「はい」と、かけ声としての「はい」(「はい、始めましょう」)とは異なる。応答詞は前者のみである。

D は音声言語特有のもので、発話内容をまとめつつあること、発話しつつけますよのサインとして用いられる。

(cf. 『日本語キーワード事典』2007:84)

これによると、感動詞類は品詞の1つとして、4種類の機能があり、発話者はその機能に応じて感動詞類を選択している。しかし、挙げられているものは、自然会話でどのように発話されているのかについては言及していない。

一方、中国語に関する従来の研究では、感動詞類は、「嘆詞」、「感嘆詞」などと呼ばれている。

鹿琮世・藤山和子(1988:43)は、「嘆詞とは、感嘆、呼びかけ、応答を表すことばである」としている。そして、「嘆詞の特徴」について、以下のように記している。

①嘆詞は特殊な品詞で、語の確実な意味も持たないし、語法上の意味も表さない。構造の上からも、いかなる成分とも結合せず、通常、文の成分ともなれない。ただ一定の意味は持っている。

②嘆詞は、通常、文のはじめに置かれるが、ときには文中に挿入されたり、文末に置かれたりする。

(中略)

③嘆詞の数は比較的多く、それが表す感情もさまざまである。同一の嘆詞が、別の文の中では違った感情を表すことがある。また、漢字の書きかたも一定していない。

(中略)

④嘆詞は単独で文となることができ、独語句(一語文)と考えられる。

(中略)

⑤嘆詞は文中で文の成分となることがあるが、これは嘆詞の特殊用法である。

(cf. 鹿琮世・藤山和子 1988:44-45)

鹿琮世・藤山和子(1988)は、感動詞類の特徴である特殊性、独立性、発話位置の任意性について指摘している。しかし、文の中に、どのような感動詞類がどの位置に現れるのかについては言及していない。

劉月華(1992:184)は、「感嘆詞は激しい感情をあらわす単語であり、単独で感嘆文を構成することができる」としている。また、「感嘆詞」について、以下のように分類している。

- 1) 喜びや楽しい気持ちを表す感嘆詞。
“啊”、“嘍” [ō]。
- 2) 称賛をあらわす感嘆詞。
“嘯”、“喝”、“呵”、“嗯”、“嘖”、“嘖嘖”。
- 3) 驚きやいぶかりをあらわす感嘆詞。
“呀”、“哎呀” [aiyà]、“呦”、“哎呦”、“嘍” [ō]、“嘍” [huò]。
- 4) 苦惱、嘆息、哀悼をあらわす感嘆詞。
“咳”、“嚯”、“嗨”。
- 5) 不同意（反対）や恨みをあらわす感嘆詞。
“哎” [ǎi]、“哎呀” [aiya]、“噯” [hm]。
- 6) 軽蔑、不満、憤慨をあらわす感嘆詞。
“哼”、“呸”、“嘍” [huò]。
- 7) はっと悟ったり、会得したことをあらわす感嘆詞。
“嗯” [n]、“唔”、“噢” [ò]、“哦”、“喔” [ò]、“啊” [à]。
- 8) 心痛をあらわす感嘆詞。
“哎哟” [aiyò]。

中国語の感嘆詞は表記法があまり確定していない。たとえば心痛をあらわすものは“哎哟”“喔唷”どちらも用いられる。

感嘆詞の中には“啊”“唉哟”などのように、一種類に留まらず、複数の感情を表すことができるものもある。

(cf. 劉月華 1992:187-188)

これによると、感動詞類は1つ1つ異なる機能があり、発話者はその機能に応じて感動詞類を選択し、自分の感情（気持ち）を表している。感動詞類の発話は発話者が何らかの目的を達成するためであるかどうかについてまだ触れていない。

李丛禾(2007)は、感動詞類について、以下のように指摘している。

感叹词(interjection)通常是一种插入性成分，独立于句法结构之外，是以模拟人类自己的声音，表示人类自身情感为主的词类。无论是在日常语言还是在文学作品当中，都少不了感叹词。它可以使平淡的描述生动起来，使人的情感得以渲染和丰富。可以说，感叹词普遍存在于所有人类语言当中。

(cf. 李丛禾 2007:118)

(感嘆詞(interjection)は一般的には挿入的な成分であり、文法構造の上から独立している。人間の音声をシミュレートし、人間の感情を表す品詞である。日常会話でも文学作品でも、感動詞は欠かせないものである。それは平板な言葉を生き生きさせたり、人の感情を豊かに表したりすることができる。感動詞はすべての人間の言語に普遍的に存在していると言える。)(筆者訳)

また、李丛禾(2007)によると、感動詞類の特徴は、以下のようである。

感叹词的数量并不多，无论英语还是汉语，都有大约三十个左右的常用感叹词。其在句子中的位置也相当灵活，可用于句首、句中或句后。感叹词有时还可以活用作其他词类，如动词、名词、形容词或副词。英语中的个别感叹词可以通过加缀的方式派生出其他词类，如 **yuck** 加后缀 **y** 构成形容词 **yucky** (令人讨厌的或厌恶的)。

(cf.李丛禾 2007:119)

(感嘆詞の数はそれほど多くない。英語においても、中国語においても、よく使われているのは約 30 個である。感動詞は文の中に出現する位置も決まっておらず、文のはじめ、文中、文末に置かれる。感動詞は動詞、名詞、形容詞、副詞などの品詞に転用されることもある。英語の個別的な感動詞は接尾辞をつけることで、他の品詞を派生する。例えば **yuck** に接尾辞 **y** を添えて、形容詞 **yucky** になる (嫌みたらしい。)(筆者訳)

ここでは、単なる意味論、目的論の観点から感動詞類について考察しているだけではなく、語用的な観点を視野に入れながら、理論的な考察を行っている。しかし、感動詞類のバリエーションは様々であり、どのような言葉が感動詞類であるか、それぞれの感動詞類の発話位置がどうなっているのかなどに関しては、言及していない。

刘丹青(2011:147)は、感動詞類について、以下のよう述べている。

叹词(interjection)又称感叹词，是词类系统中最特殊的类别，也可能是最古老的类别或“语言化”(linguisticization)程度最低的类型

(cf.刘丹青 2011:147)

(嘆詞(interjection)は感動詞とも呼ばれ、品詞の中の最も特殊な種類の 1 つであり、また最も古い種類の 1 つであるかもしれないし、あるいは「言語化」が最も低い種類の 1 つである。)(筆者訳)

また、刘丹青(2011:151)は、感動詞類を「代句詞」であるという観点から分析し、以下のよう述べている。

因此，在词类系统中，叹词在本质上最接近的此类其实是代词。

叹词和代词的共同点是替代, 因为都属于广义的替代形式(pro-forms)。主要区别在于, 代词 (包括人称代词、指示代词和疑问代词等) 代替词或短语, 而叹词代替句子。

(cf. 刘丹青 2011:151)

(したがって, 品詞の中に, 嘆詞と本質的に最も近いものは代名詞である。

嘆詞と代名詞の共通点は代替である。いずれも広義的な代替形式(pro-forms)に属するからである。主な違いは, 代名詞 (人称代名詞, 指示代名詞, 疑問代名詞など) は単語あるいはフレーズを代替する一方で, 嘆詞は句を代替する。) (筆者訳)

ここでは, 特殊な品詞である感動詞類の本質を明らかにし, 「代句詞」の概念を提唱している。また, 感動詞類の発話時に何を代替しているかに関しては, 内省判断によるとしている。

以上より, 感動詞類は特殊な品詞の1つとして認識され, 研究者によって定義が異なり, その性質がまだ明らかになっていない。一方, 感動詞類は, 単に文の成分あるいは, 1文となることではなく, 談話の進行における「話し手の心的操作」, 「心的な情報処理」, 「人間の何らかの内部状態」などを反映しているという見方がある。次に, 談話分析の感動詞類に関する研究を見てみる。

2.3. 談話分析の感動詞類における研究

感動詞類の研究は研究者によって, さまざまな観点が検討されてきた。以下に談話分析におけるアプローチの代表的な説を挙げる。

2.3.1. 田窪行則 (1995)

田窪行則(1995:1025)は, 感動詞類について, 以下のように指摘している。

感動詞類は句の境界に現れるが他の句境界を示す要素 (=ポーズや文節末母音の長音化) と異なり, その形式の多様性を処理の種類と対応させてモニタの役目をよりきめ細かいものとすることができる。同じく感動詞に分類される要素でも, 「ね, さ, よ」のように句末をマークするもの (間投助詞) と「あの, その, この」のように句頭にマークするものとはその機能は異なる。さらに, 「ま」のように句末感動詞と句頭感動詞の間に位置するものや言い淀むときに発せられる「ええ」のように, どの位置でも現れるフィラーの役目のものまで機能分化がある。

(cf. 田窪行則 1995:1025)

また, 田窪行則(1995:1023-1024)は, 感動詞類を「入出力制御系」と「言い淀み系」の2つに分けている。具体的な分類は以下のようになっている。

入出力制御系

便宜上以下の5つに分ける。これらは網羅的なものではないし、分類のためにつけた名称もそれほど深く考察したものでもない。

応答系：ああ、はい、はあ、ええ、うん、んん、ふん（下降イントネーション）

問い返し系：は、はあ、え、ええ、へえ、ふん（上昇イントネーション）

登録失敗：あっ、えっ、はっ、ふんっ

評価中：ううん（高平長）

入力終了：ふうん、へええ、ええ（低平長）

ここでは表記の簡便化のため、音声記号を用いず、ひらがなで表す。「う」は有声、「ふ」は無声の両唇鼻音を表す。「っ」は声門閉鎖、あるいは、声の急速な停止を表す。母音はすべて鼻音化された変異形を持つ。()内は通常使われる音調である。

(cf.田窪行則 1995:1023)

言い淀み系

言い淀み系は、非語彙的なものと語彙的なものに分ける。

非語彙的形式：え、ええ、単語末母音の長音化

語彙的形式：

内容計算：ええ（っ）と、ううんと

形式検索：あの（ー）、その（ー）、この（ー）

評価：ま（あ）、なんというか、なんか、やっぱり

(cf.田窪行則 1995:1024)

田窪行則(1995)は、感動詞類を2大別（「入出力制御系」「言い淀み系」）している。「入出力制御系」と「言い淀み系」の感動詞類は何らかの関連性をもっているのか、また自然会話では、どのように現れているのかに関しては、言及していない。

2.3.2. 定延利之・田窪行則（1995）

定延利之・田窪行則(1995:76)は、感動詞類について、以下のように指摘している。

日常の談話において極めて頻繁に用いられているにもかかわらず、感動詞の機能がこれまで明確にとらえられていなかったのは、そもそも感動詞が心的操作モニターという、認知的・動的な新しい視点なくしては語れない性質をもっているからであろう。モノや事態、節関係を指示する機能を持たず、反射的に、無自覚に用いられがちな感動詞は、話し手の心的操作をそれだけ純粋に反映すると考えられる（この意味で、本稿では以下、感動詞を「心的操作標識」と呼ぶ）。

(cf.定延利之・田窪行則 1995:76)

また、定延利之・田窪行則(1995:76)によれば、「具体的な考察対象は現代日本語の心的操作標識「ええと」と「あの(一)」であるという。なお、「心的操作標識」に関しては、定延利之・田窪行則(1995:77-78)では、以下のようになっている。

心的操作標識はセグメンタルな要素を持つので、標識どうしの使い分けが容易である。結果として、心的操作標識の使用には、次のような効果ないし意義がある。

まず、話し手にとっての効果・意義。話し手は心的操作ごとに対応づけられたモニター標識を使い分けて発話することにより、自分のおこなっている心的操作を明確化でき、支援できる。つまり、何をしていたのか途中でわからなくなってしまうことを避けるために、話し手は自分のおこなっている心的操作をモニター標識で明確にし、さらにその心的操作を勢いづけることができる。

次に、話し手と聞き手双方にとっての効果・意義。話し手は、自分のおこなっている心的操作を聞き手に察知させることにより、コミュニケーションの途絶を防ぐことができる。(ただ黙っていたのではコミュニケーションはそこで切れてしまいかねないし、聞き手からの「助け船」も期待できない。)さらに、後続する発話を聞き手に予測させ、談話の進行を円滑なものにできる。

(cf.定延利之・田窪行則 1995:77-78)

ここでは、「ええと」「あの(一)」を「心的操作標識」と考え、話し手と聞き手にとって、効果・意義があると言及している。しかし、「ええと」「あの(一)」以外の感動詞類を使用する効果・意義はどうなっているのか、またなぜ「コミュニケーションの途絶を防ぐ」ことや、「談話の進行を円滑」にすることなどをしなければならないかといった談話進行についての基盤となる前提に関しては、言及していない。

2.3.3. 富樫純一(2001)

富樫純一(2001:19)は、「談話標識という用語を心的操作標識と同じ意味を持つもの」として扱っている。また、富樫純一(2001)によると、分析対象となる感動詞類を「「あ」系」(「あっ、えっ、おっ」)、「「ふーん」系」(「ふーん、へえ、ほう、はーん」)、「「はい」系」(「はい、うん、はあ」)の3つに分けている。そして、各系の機能に関しては、富樫純一(2001)は、以下のように指摘している。

「あ」系の機能：バッファへの情報書き込みという処理操作を示す

(cf.富樫純一 2001:27)

「ふーん」系の機能：情報をデータベースへ書き込んだことを示す標識。バッファに情報を残さないことで、**active** な性格を付与させない

(cf.富樫純一 2001:30)

「はい」系の機能：領域間のデータのやりとり(計算処理)による情報(linking)獲得を示す。それにより獲得した情報はバッファに置かれるため、**active** な属性となる

(cf.富樫純一 2001:35)

ここでは、「あっ、えっ、おっ、ふーん、へえ、ほう、はーん、はい、うん、はあ」を「談話標識」として考え、「話し手の心内での情報処理を標示する」(cf.富樫純一 2001:35)としている。特に、「あ」系、「ふーん」系、「はい」系の全体的な機能と、それぞれの系に属している単独の感動詞類の具体的な機能を指摘している。

しかし、この3種類の系の間は何らかの関連性があるのか、またこれらの研究対象以外の感動詞類はどうなっているのか(言い換えれば、ほかの感動詞類の発話時にも、話し手の心内での情報処理の過程を反映しているか)に関しては、深く追求していない。また、ここでの感動詞類の用例は、内省判断によるものであるが、実際の自然会話はどうなっているのかについては言及していない。

2.3.4. 友定賢治 (2005)

友定賢治(2005:56)は、感動詞類を「「立ち上げ詞」という観点から分析し、談話レベルの方言研究としての可能性」を探っている。「立ち上げ詞」について、友定賢治(2005:56-57)は、以下のように述べている。

相手の言葉を受けて、自分の感情の表明や意見を述べる時の最初の言葉であったり、自分が何か動作を始めようとする際の最初の言葉であったり、相手との関係を作って会話を進めていく時の最初に用いることが前提であることから、会話を成立させる前触れになっていることが認められる。そこで、「立ち上げ詞」(江端義夫氏の命名による)と呼んでみたい。位相差に応じたいろいろな語が存在し、文全体の待遇の程度、改まりの度合いなども集約的に表現される。

(cf.友定賢治 2005:56-57)

また、友定賢治(2005:56)は、「それぞれの立ち上げ詞は、談話の中でどのような立ち上げをしているのかという観点から、大きく三分類」している。具体的な分類は以下の通りである。

- A 自分の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信するもの

- オーオー カワイーコトー。(おうおう、可哀想にね。老・女→幼児)
- B 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げるもの
- インヤー マダ ガッコージャガー。(いいえ、まだ学生じゃないの。中・女→中・女)
- C 他者との関係を立ち上げるために、他者に向かって発信するもの
- オイ ドケー イキュールンナラ。(おい、どこに行ってるんだ。中・男→中・男)

(cf.友定賢治 2005:58)

ここでは、発話開始部に現れる感動詞類を、方言を対象とした談話的アプローチによって、「立ち上げ詞」の概念を提唱している。また、立ち上げ詞の地域差、位相差についても述べている。しかし、感動詞類の待遇的性質（上下関係、親密度など）や位相的性質（男女差、地域差、個人差など）を探究することが主な目的であるため、感動詞類の発話に潜んでいる普遍的なルールや法則性については注目されていない。

2.3.5. 定延利之 (2015)

定延利之(2015:3)は、「典型的な感動詞がいわゆる「指示的意味」や「文法的機能」を持たず、人間の何らかの内部状態と結びついている（たとえば感動詞「あ」が気づきや痛みという内部状態と結びついている）ということは広く認められている」と述べている。また、定延利之(2015:11-12)は、「感動詞は基本的には、現場性が極端に高く、結びつく内部状態は「いま・ここ・私」の内部状態である」と指摘しており、「感動詞は、結びつく内部状態が「いま・ここ・私」の内部状態のもの（1類）と、そうでないもの（2類）に2分できる」と提案している。そして、感動詞類の位置づけに関しては、定延利之(2015:13)は、以下のように指摘している。

感動詞が「ふつう」のことばとは違っていることを考慮したものでもある。「ふつう」のことばは、母語話者であっても覚え（時に覚え間違い）、必要に応じて思い出し（時に思いだし損ね）、使い分ける（時に使い間違い）ものだが、感動詞は母語話者は幼少時から忘れず、間違わない。感動詞の観察を通じて、この「母語話者の誤用の不可能性」がいかんして実現されているかを今後さらに検討するためにも、感動詞を「ふつう」の記号的なことばから遠いものとして位置づけておく次第である。

(cf.定延利之 2015:13)

ここでは、感動詞類は発話時に、「人間の何らかの内部状態と結びついている」と主張している。しかし、感動詞類の本質については、まだ明らかになっていない。

2.3.6. 陳海濤(2017)

陳海濤(2017:630)によれば、「フィラーは「情報処理的な心身行動を行っている」と同時に、「心的な状態を反映する言語化された音声表記」である。また、陳海濤(2017:629)によると、「近称指示詞から変容した指示詞系フィラー「这个」について考察しており、「フィラー“这个”に関する使用法は話し手の心内行動により、四つに分けられている。それぞれは「発話編集中断」と「話題転換」、「発話編集」、「文の編集」である。

ここでは、フィラー「这个」の使用法について論じている。しかし、「这个」以外の感動詞類はどうなっているのか（言い換えれば、他の感動詞類の発話時にも、話し手の心的な状態を反映しているのか）に関しても考察する必要がある。

以上より、日本語の感動詞類の研究では、単独感動詞類が「話し手の心的操作」、「心的な情報処理」、「人間の何らかの内部状態」などを反映していると結論付けている。しかし、これらの性質が、二連鎖感動詞類にも当てはまるかどうかについては言及していない。ただ、認知的な考えが単独感動詞類だけに適用されるとは考えにくいため、二連鎖感動詞類に対しても認知的アプローチが必要であることは間違いない。

一方、中国語の感動詞類の研究では、感動詞類は高い独立性を持っているという記述からも分かるように、従来、意味論・語用論といった理論的な研究が多いが、談話的、認知的な研究は断片的で、まだまだ進んでいない。近年、中国語の感動詞類について、多角的な分析が行われ始めており、日本語の感動詞類に関する考え方を取り入れているようである。しかし、これらの性質が二連鎖感動詞類にも適用できるかどうかについての研究には、まだ手が付けられていない。

2.4. 感動詞類における共起現象

本節では、感動詞類とほかの要素との共起に関する研究を挙げる。

2.4.1. 田窪行則(1994)

田窪行則(1994:16)は、感動詞類とほかの要素との共起について、以下のように述べている。

感動詞、終助詞、接続詞といった語類は、意味の構成に直接関与しないためこれまであまりその機能がはっきりとらえられていなかったが、このような操作や制御に関わるものと考えるとその役割が理解できる。これらは、それ自身では、情報内容を構成するものではないが、情報の発出、受け入れに関する話者の処理状態や処理過程の登録、管理に関わるものであり、間接的に文形式を規定する。

例えば、「ふうん、どうも田中君は来ないようだね」という文においては、「ふうん」、「どうも」、「ようだ」、「ね」は思考伝達内容(=データ)の構成に関わるというよりは、自分の推論とか、計算操作をモニターする役目を果たしていると考えられる。「ふうん」

は、新規に得た情報を基づいて推論し、結論に達したこと、「どうも」は、複数の計算の結果が同じであること、「ようだ」は証拠にもとづく計算の答えを、「ね」は予想した答えと計算結果を合わせるために計算中であることを表す。このように、感動詞類、終助詞類、陳述副詞、接続副詞といった語類の機能をデータ管理操作の指令と見ることにより、データベース更新の計算操作と関連させて位置づけることが可能になり、これらの語類が、どのような機能を果たしているのかを明確にすることができる。

(cf.田窪行則 1994:16)

ここでは、感動詞、終助詞、陳述副詞、接続副詞などをそれぞれ1つの語類として考えている。そして、これらの語類が共起することによって構成される発話には、「話者の処理状態や処理過程」が流れていると結論付けている。

2.4.2. VUONG THI BICH LIEN (2012)

ここでは、感動詞類について、以下のように述べている。

感動詞とは、間投詞とも呼ばれ、そもそも自立語で活用がなく、文の独立語となることができる。そして、概念内容をもたず、感嘆などの感情が非分析的に表出されたものであると考えられている。

(cf.VUONG THI BICH LIEN 2012:53)

VUONG THI BICH LIEN (2012:55)は、感動詞類の品詞面での新しい用法を探究するために、プレ調査、アンケート調査を行い、感動詞類のバリエーションを捉えている。

ここでは、感動詞と共起するパターンとして、次の6種類を得ている。

- [[[感動詞] って] 名詞] : [感動詞] =名詞
- [[[感動詞] だった] : [感動詞] =名詞
- [[[感動詞] Ø] 形容詞] : [[感動詞] Ø] =フィラー
- [[[感動詞] と] 形容詞] : [[感動詞] と] =フィラー
- [[[感動詞] って] 動詞] : [感動詞] =名詞
- [[[感動詞] と] 動詞] : [感動詞] =名詞

(cf.VUONG THI BICH LIEN 2012:59)

また、感動詞類は名詞、フィラーに転成できると指摘している。しかし、感動詞類と感動詞類が共起する発話について言及していない。

以上より、感動詞類はほかの要素と共起する発話がよく見られる。しかし、従来の研究により、二連鎖感動詞類のような感動詞類同士の共起という言語現象に言及したものは管見の限り見当たらない。

3. 本論文の立場

本章では、本論文の学術的な立場、研究対象、研究方法について述べる。

先行研究の中で、単独感動詞類に関する談話的・認知的アプローチの代表的な説には、田窪行則(1994, 1995, 2005), 定延利之・田窪行則(1995), 定延利之(2015)などがある。本論文では、前述の研究と同様に談話的・認知的アプローチを取る。一方、それらと異なる点は、日本語と中国語の自然会話における感動詞類の複数共起という言語現象に流れている認知プロセスを探究することである。従って、日中両言語の対照研究を行い、言語の普遍的な性質を見出し、人間の言語に共通している認知プロセスを究明する。

3.1. 研究対象

本論文では、日本語と中国語の自然会話に現れる二連鎖感動詞類を前後の文脈とともに取り上げ、観察する。

その際、研究の前提として必要な感動詞類と二連鎖感動詞類について、以下に規定する。

3.1.1. 感動詞類

感動詞類に関しては、2.2, 2.3 でも挙げたように、様々な捉え方が見られる。本論文では、田窪行則(1994, 1995, 2005)の考え方に基づいて、「感動詞類」を次のように定義する。

(9)感動詞類：

感動詞類とは、自然会話における発話者の心的な認知プロセスをモニターする標識である。

ただし、ここでいう「感動詞類」は、単独感動詞類のことである。

3.1.2. 二連鎖感動詞類

ここでは、本論文の考察対象である二連鎖感動詞類について規定する。

3.1.2.1. 二連鎖感動詞類の定義

まず、「二連鎖感動詞類」を、次のように定義する。

(10)二連鎖感動詞類：

二連鎖感動詞類とは、自然会話における発話者の一連の心的な認知プロセスをモニターする標識の組み合わせである。

本論文では、二連鎖感動詞類を1つの集合(まとまった単位)として扱い、それを構成する2つの異なる単独感動詞類の統語的、認知的な関係を考察する。

3.1.2.2. 二連鎖感動詞類の発話位置

次に、二連鎖感動詞類の会話における発話位置について説明する。

本論文では、談話分析の視点を設定することによって、会話における1ターンの発話を観察し、次のような概念を用いる。

(11)①ター ン：自然会話における発話権を持っている1人の発話者が話し始めてから話し終えるまでの発話のことである⁵。

②命 題：自然会話において、事柄（「□□は※※である」）を表す内容である。

③先行発話：二連鎖感動詞類の直前にある1つの命題がある発話である。

④後続発話：二連鎖感動詞類の直後にある1つの命題がある発話である。

なお、二連鎖感動詞類の発話は、単独で1ターンを構成する場合と1ターン内に現れる場合（ターン初頭、ターン中、ターン末尾）により、4つの自然会話パターンが想定できる。それらを以下に示す。

(12)①「1ターンの二連鎖感動詞類」

発話者1：・・・

発話者2：△, ▲

②「ターン初頭の二連鎖感動詞類」

発話者1：・・・

発話者2：△, ▲, ***

③「ターン中の二連鎖感動詞類」

発話者1：・・・

発話者2：・・・, △, ▲, ***

④「ターン末尾の二連鎖感動詞類」

発話者1：・・・

発話者2：・・・, △, ▲

△：前項の感動詞類
▲：後項の感動詞類
<u>△, ▲</u> ：二連鎖感動詞類
・・・：先行発話
***：後続発話

(12)のパターン①、②の二連鎖感動詞類の先行発話は、直前にある別の発話者の発話内容であるが、③、④の二連鎖感動詞類の先行発話は、二連鎖感動詞類の発話者の発話内容である。

本論文では、これら4つのパターンに現れる二連鎖感動詞類に着目し、その先行発話及び後続発話を観察する。また、二連鎖感動詞類、先行発話、後続発話の発話時に、これらがど

⁵ 一人の発話者が話し始めてから、沈黙（1秒以上のポーズ）がある場合、発話者は発話権を一旦手放したとする。

のような連携を取りつつ、どのような認知プロセスを行っているかということ、認知的な観点から考察する。

3.2. 研究方法

3.2.1. データについて

本論文では、二連鎖感動詞類という言語現象に潜んでいる普遍的なルールや法則性を導き出すという研究目的を達成するために、以下の日本語自然会話（3種類）、中国語自然会話（1種類）のデータを用いて分析を行う。

- (13)①筆者が2017年の間に収集した日本語自然会話のデータ（以降「データI」と呼ぶ）
- ②宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018年版』のデータ（「音声あり」）（以降「データII」と呼ぶ）
- ③宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018年版』のデータ（「音声なし」）（以降「データIII」と呼ぶ）
- ④筆者が2019年～2020年の間に収集した中国語自然会話のデータ（以降「データIV」と呼ぶ）

まず、本論文で扱うデータIIは、日本語母語話者の二者間の自然会話である。調査は日本語母語話者合計12名を対象に行い、2人ずつに分かれ、6本のデータを収集した。発話者は全員10代後半～20代の学生同士で、親しい友人関係にある。出身地はほとんどが中国地方であるが、本論文では性別とともに分析対象とはしない。

調査の前に、被調査者（以後「発話者」と呼ぶ）に「話者承諾書」（【付録】に掲載している）を渡し、個人情報や言語データが記された資料は、厳重に保管することを説明し、調査への参加の同意をもらった。調査では、調査者（筆者）は同席せず、また会話内容や話題も指定していない。調査時間は、1組につき約30分である。調査におけるすべての発話は、iPhoneの「ボイスメモ」で録音した。

表1に「データI」の概要を挙げる。

表1 「データI」の概要

データ番号	発話者記号	時間数	データ番号	発話者記号	時間数
I-01	ⓂF01-ⓂF02	0時29分35秒	I-04	ⓂF07-ⓂF08	0時30分00秒
I-02	ⓂM03-ⓂM04	0時28分00秒	I-05	ⓂM09-ⓂM10	0時29分03秒
I-03	ⓂM05-ⓂM06	0時28分00秒	I-06	ⓂM11-ⓂM12	0時28分26秒

(*ⓂF：日本語母語話者 女性 (Japanese Female) ⓂM：日本語母語話者 男性 (Japanese Male))

表1には、データIのデータ番号、発話者記号、(会話)時間数を示す。表中の発話者記号の「①F」は「日本語母語話者 女性 (Japanese Female)」, 「①M」は「日本語母語話者 男性 (Japanese Male)」の省略であり、発話者の属性を表す。「①F01」, 「①F02」は発話者記号である。例えば、データ番号I-01の会話は、発話者日本語母語話者女性01と日本語母語話者女性02の自然会話で、会話の長さは29分48秒である。

次に、データIIであるが、これは以下に示すようなオープンコーパスである。

宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー:宇佐美まゆみ)

このコーパス(以下「BTSJコーパス」と呼ぶ)には、合計333本、総時間4746分24秒(約79時間)の会話が集められている。そのうち音声付データは203本、2402分22秒(約40時間)である。収録された会話は、話者の年齢、性別、話者間の親疎・上下関係などが統制された形で集められている。

データIIは、BTSJコーパスの中の24本、総時間380分(約6時間)の日本語母語話者の音声がある自然会話のデータである。BTSJコーパスの中から、友人関係を持つ10代後半～20代の学生同士の二者間の日本語自然会話を選択し、対象とした⁶。宇佐美まゆみ(2018)は、話題に関しては、「学校生活」から話し始めよう」としている。

表2に「データII」の概要を挙げる。

⁶ 本論文の目的には、ある特定の言語現象に潜んでいる普遍的なルールや法則性を導き出すという点がある。筆者がこれまで観察したBTSJコーパスの会話では、話者間の親疎関係、上下関係により、二連鎖感動詞類の使用が多少異なっている。それは個人レベルの言語運用(linguistic performance)の問題であるため、本論文が目指す言語能力(linguistic competence)の問題ではない。従って、インフォーマントの属性が二連鎖感動詞類にどのように影響を与えるかについては、今後の課題とする。

表2 「データII」の概要

データ番号	発話者記号	時間数	データ番号	発話者記号	時間数
II-01	JFB025-JF098	0時21分28秒	II-13	JMB008-JM032	0時15分20秒
II-02	JFB025-JM026	0時16分38秒	II-14	JMB008-JF104	0時12分37秒
II-03	JFB026-JF099	0時17分27秒	II-15	JMB009-JM033	0時15分05秒
II-04	JFB026-JM027	0時14分27秒	II-16	JMB009-JF105	0時18分18秒
II-05	JFB027-JF100	0時12分26秒	II-17	JMB010-JM034	0時17分11秒
II-06	JFB027-JM028	0時16分17秒	II-18	JMB010-JF106	0時16分31秒
II-07	JFB028-JF101	0時15分35秒	II-19	JMB011-JM035	0時13分32秒
II-08	JFB028-JM029	0時13分34秒	II-20	JMB011-JF107	0時13分45秒
II-09	JFB029-JF102	0時14分44秒	II-21	JMB012-JM036	0時15分52秒
II-10	JFB029-JM030	0時16分16秒	II-22	JMB012-JF108	0時14分32秒
II-11	JFB030-JF103	0時21分59秒	II-23	JMB013-JM037	0時14分58秒
II-12	JFB030-JM031	0時14分41秒	II-24	JMB013-JF109	0時13分42秒

(*JF：日本語母語話者 女性 (Japanese Female) JM：日本語母語話者男性 (Japanese Male)

B：ベース (Base) 同じ人がそれぞれ異なる条件で異なる相手と会話をする場合の元になる人)

表2にデータIIのデータ番号，発話者記号，(会話)時間数をまとめて示す⁷。BTSJ コーパスでは，「JF」は「日本語母語話者 女性 (Japanese Female)」，「JM」は「日本語母語話者男性 (Japanese Male)」，「B」は「ベース (Base)」の省略であり，発話者の属性を表す。「JFB025」，「JF098」は発話者記号である。例えば，データ番号II-01の会話は，発話者日本語母語話者女性025と日本語母語話者女性098の自然会話で，会話の長さは21分28秒である。

データIIIでは，データIIと同様にBTSJ コーパスを利用している。

データIIIは，20本，総時間385分(約6時間)の日本語母語話者の音声がない自然会話のデータである。本論文では，BTSJ コーパスの中から，友人関係を持つ20代の女性学生同士の二者間の日本語自然会話を選択し利用している。宇佐美まゆみ(2018)は，話題に関しては，「指定なし」としている。

表3に「データIII」の概要を挙げる。

⁷ 「データ番号」は筆者によるものである。「発話者記号」，「時間数」は宇佐美まゆみ監修(2018)から引用したものである。

表3 「データⅢ」の概要

データ番号	発話者記号	時間数	データ番号	発話者記号	時間数
III-01	JF041-JF042	0時22分29秒	III-11	JF061-JF062	0時14分52秒
III-02	JF043-JF044	0時23分07秒	III-12	JF063-JF064	0時26分14秒
III-03	JF045-JF046	0時17分54秒	III-13	JF065-JF066	0時15分13秒
III-04	JF047-JF048	0時15分08秒	III-14	JF067-JF068	0時17分03秒
III-05	JF049-JF050	0時17分17秒	III-15	JF069-JF070	0時15分58秒
III-06	JF051-JF052	0時27分15秒	III-16	JF071-JF072	0時17分27秒
III-07	JF053-JF054	0時17分06秒	III-17	JF073-JF074	0時15分00秒
III-08	JF055-JF056	0時26分45秒	III-18	JF092-JF093	0時21分47秒
III-09	JF057-JF058	0時11分41秒	III-19	JF094-JF095	0時19分23秒
III-10	JF059-JF060	0時20分10秒	III-20	JF096-JF097	0時22分27秒

(*JF : 日本語母語話者 女性 (Japanese Female) JM : 日本語母語話者男性 (Japanese Male)

表3 にデータⅢのデータ番号, 発話者記号, (会話) 時間数をまとめて示す⁸。

データⅣは, 中国語母語話者の二者間の自然会話である。調査は中国語母語話者合計 18 名を対象に行い, 2 人ずつに分かれ, 10 本のデータを収集した。発話者は全員 19 歳~20 代の学生同士で, 親しい友人関係にある。また, 発話者は調査当時全員, 筆者の周辺にいた在日中国人留学生であり, 日本語上級学習者である。

出身地はほとんどが中国の人口密度が高い地方 (山東省 5 名, 河南省 3 名, 安徽省 2 名, 内モンゴル自治区, 遼寧省, 北京市, 山西省, 湖北省, 重慶市, 四川省, 雲南省各 1 名) であるが, 本論文では性別とともに分析対象とはしない。さらに, 第二言語 (日本語) が母語 (中国語) に与える影響は当然考えられるが (cf. 黄郁蕾・玉岡賀津雄(2015)), 本論文では考慮しない。

表4 に「データⅣ」の概要を挙げる。

表4 「データⅣ」の概要

データ番号	発話者記号	時間数	データ番号	発話者記号	時間数
IV-01	◎F01-◎F02	0時28分20秒	IV-06	◎F11-◎F12	0時27分03秒
IV-02	◎F03-◎F04	0時30分00秒	IV-07	◎M13-◎M14	0時30分00秒
IV-03	◎F05-◎F06	0時26分52秒	IV-08	◎M14-◎F15	0時30分00秒
IV-04	◎F07-◎F08	0時27分27秒	IV-09	◎M16-◎M17	0時28分00秒
IV-05	◎F09-◎F10	0時30分04秒	IV-10	◎M17-◎F18	0時30分00秒

(*◎F : 中国語母語話者 女性 (Chinese Female) ◎M : 中国語母語話者 男性 (Chinese Male)

表4 にデータⅣのデータ番号, 発話者記号, (会話) 時間数を示す。表中の発話者記号の「◎F」は「中国語母語話者 女性 (Chinese Female)」, 「◎M」は「中国語母語話者 男性

⁸ 「データ番号」は筆者によるものである。「発話者記号」, 「時間数」は宇佐美まゆみ監修(2018)から引用したものである。

(Chinese Male)」の省略であり、発話者の属性を表す。「©F01」,「©F02」は発話者記号である。

3.2.2. データの文字化

本節では、データの書き起こしについて示す。

3.2.2.1. 「データ I, データIV」の文字化

まず、データI, データIVの書き起こしには、以下の記号を用いている。

表5 「データI, データIV」の記号凡例

,	[全角]ごく短いポーズ
—/—	日本語の表記では、「—」は音声を伸ばしていることを表している。中国語の表記では、「—」は音声を伸ばしていることを表している。いずれも音声の長さは最短でも1秒である。
《 s》	[半角]沈黙の秒数（1秒以上のポーズを沈黙とする。）
< >	[半角]同時発話されたものは、重なった部分双方を< >で括る。
()	[半角]相手の発話の間、相手の発話と同時のあいづちなどを()で括る。
#	[半角]聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#をつける。
‘ ’	[全角]①複数の読み方がある場合、その読み方を‘ ’に入れて示す。 ②日本語の読み方を‘ ’に入れてローマ字で示す。 ③漢字がない擬音語、擬態語などを、‘ ’に入れてピンインで示す。
“ ”	[全角]発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”で括る。
[↑][↓]	[半角]感動詞類のイントネーション（上昇調，下降調）を表す。
?	[半角]疑問文につける。
[]	その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、笑い、あくび、咳、舌打ちなどをするとともに、[笑]，[咳]，[舌]，[あくび]などと表記する。（中国語の場合は、[笑]，[咳]，[舌]，[喝水声]（水を飲む音），[信息铃声]（着信音），[打哈欠]（あくび）などと表記する。）
「 」	固有名詞等、発話者のプライバシーの保護のために明記できない人名、国家名、地域名などを表すときに用いる。また、各データでの出現順による通し番号を付ける（例えば、「国名1」，「人名2」，「地名1」など）。

(宇佐美まゆみ(2015:16-17)を参考に筆者作成)

また、感動詞類のイントネーションの表記については、表 6 に従う。

表 6 「データⅠ, データⅣ」の感動詞類のイントネーション表記

	感動詞類の表記	イントネーション
データⅠ	あ／うん／うんー／え／そー／はい／まー／ま	下降調
	あ[↑]／うん[↑]／え[↑]	上昇調
	あー／あの一／うーん／えー／えーっと／その一	平板調
	あー[↓]	下降調
	あーー[↑↓]	上昇してから下降する
	そーー[↓↑]	下降してから上昇する
データⅣ	啊／对／是	下降調
	啊ー[↓]	下降調
	啊ー／哦ー／嗯ー	平板調
	嗯ーー[↑↓]	上昇してから下降する

3.2.2.2. 「データⅡ, データⅢ」の文字化

データⅡ, データⅢの書き起こしには、以下の記号を用いている。

表 7 「データⅡ, データⅢ」の記号凡例

。	[全角]1 発話文の終わりにつける。
”	発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。
、	[全角]1 発話文および 1 ライン中で、日本語表記の慣例の通りに読点をつける。なお、慣例として表記する箇所に短い間がある場合には、「, 」をつける。(次の説明を参照)
,	[全角]発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
‘ ’	①[全角]複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。 ②[全角]通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
『 』	[全角]視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、例えば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『 』でくくる。

“ ”	[全角]発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
?	疑問文につける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
[↑][→][↓]	イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
《少し間》	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
《沈黙 秒数》	1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話してのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的に繋がっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点の「。」または英語式コンマ2つの「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける。
...	文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
< >{ } < >{< }	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{< }をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{> }をつける。
【 【 】 】	[全角]第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【 【 】 】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 【 】 をつけ、第2話者の発話文の冒頭には】】をつける。
[]	文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを[]に入れて記しておく。
()	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。
< >	笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。

(< >)	相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い >) とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「 」	[全角]トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

(cf.宇佐美まゆみ 2015:16-17)

また、長音の表記については、以下の原則に従っている。

副詞 こう そう ああ どう
助動詞 よう そう
応答詞 ええ はあ
終助詞 ねー よー
あいづち えーえー はー

(cf.宇佐美まゆみ 2015:8)

ここでは、宇佐美まゆみ(2015:8)は、長音の表記を統一していない。そのため、データの中には、1つの長音について2種類の表記(例えば、「まあ」、「まー」)があるが、本論文では、BTSJ コーパスの会話データを挙げる場合には、ある種の引用であるため、その表記をそのまま使用する。

また、宇佐美まゆみ(2015)は、「,」「,」「。」をつけている箇所はいずれも1秒より短い間がある場合である。しかし、「,」「,」「。」についてはそれぞれどのぐらいの間を表しているのかを詳細に記述していない。本論文では、データI、データIVを文字化する際に、1秒より短い間がある場合には、すべて「,」をつけている。1人の発話者の発話の終わりには何もつけていない。すなわち、本論文では、データII、データIIIの「,」「,」「。」をデータI、データIVの「,」と同一視し、「1秒より短い間」を表す。

3.2.2.3. 会話データの表記

本論文では、会話データの表記については、表8に従う。

表8 会話データの表記

<u>太字二重線</u>	考察対象である二連鎖感動詞類を示す。
・ 傍 点	二連鎖感動詞類の先行発話を示す。
横 線	二連鎖感動詞類の後続発話を示す。

波_____線 命題部分を示す。

次に、上記の記号を用いて文字化したデータの例を提示する。

(14)

0248①F08 : 忙しいんだよ, こっちは

0249①F07 : あ, はい ([笑])

(15)

316JFB025 : だから、それ、が、1つ悔いではあるけど、(うん) 練習自体、まー、うん、悔いはない。

データ(14), (15)には、「0249①F07」、「316JFB025」のような発話番号を使用する。「①F07」、「JFB025」のような発話者記号以外の数字「0249」、「316」は発話の通し番号である。

なお、本論文では、データは代表例のみを挙げる。同じ機能や構造を持つそのほかのデータについては【付録】を参照されたい。

4. 1 ターンの二連鎖感動詞類に関する考察

本章では、自然会話に現れる 1 ターンの二連鎖感動詞類について分析する。

4. 1. 日本語の考察

本節では、データI, データII, データIIIを利用し、日本語の自然会話における 1 ターンの二連鎖感動詞類について観察していく。本論文では、二連鎖感動詞類の前項、後項の反復回数などにより、それぞれ別のパターンとする。また、二連鎖感動詞類の前項、あるいは後項に同じ感動詞類がくる場合、全体的には1つのまとまりとして「～, ～」類とする。

4. 1. 1. 「あ, ～」類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「あ」がくるもの、即ち「あ, そー」類, 「あ, うん」類, 「あ, はい」類を扱う。

4. 1. 1. 1. 「あ, そー」類

本節では、「あ, そー」類を扱う。まず、「あ, そー」について考察する。

(16)

0269①M09 : 肉の天ぷらって肉?, 肉の天ぷら

0270①M10 : 鶏, とり天的な感じ

0271①M09 : あ, そー

0272①M10 : あー

(16)では、0271①M09 に二連鎖感動詞類「あ, そー」が現れている。ここでの「あ」や「そー」は、どのような意味・機能を持っているのだろうか。また、なぜ両者が組み合わさっているのだろうか。

「あ」については、定延利之(2010:35)は、「気づきという認知行動と結びつくフィラー」であるとする。また、森山卓郎(2015:65)は、「応答における「あ, そう」は、情報をそのまま新しいものとして導入することを表す導入のサイン」と述べている。

ここで(16)を見ると、0271①M09 の「あ」は、先行発話 0270①M10 に単に注意を向けただけではないように考えられる。即ち、「あ」の発話時では、発話者①M09 は、先行発話の「鶏, とり天的な感じ」という命題にアクセスしているのではなかろうか。そのうえで、発話者①M09 が「そー」という発話によって、その命題を肯定している⁹。つまり、「そー」の

⁹ 定延利之(2002:81-82)では、

X : ツバメって、渡り鳥?

Y : そう。

という会話データを挙げ、「この応答は、問題となっている命題内容(たとえば[ツバメは渡り鳥である])

発話時点で、発話者は先行発話の命題に対して真偽判断の確定を行っている¹⁰。つまり、森山卓郎(2015)が言うように「あ、そー」全体が1つの機能(導入のサイン)を担っているのではなく、「あ」と「そー」がそれぞれ別の機能を担いつつ、全体で1つの応答トークンを構成しているのではなかろうか。そう考えると、「アクセス」、「真偽判断の確定」は、それぞれ1つの認知的なプロセス(「認知プロセス」と呼ぶ)と仮定できるだろう。

同様のことは、以下の場合でも考えられる。

(17)

0275①F01: えっ、高いじゃん、そーいう写真

0276①F02: そっか、高いね、でも、なんか、お姉ちゃんおりたけど、(うんうん)そー、お姉ちゃんやったプランと同じのをやったから、なんかすぐやった、ほんまに、すぐってゆーか

0277①F01: 着て撮って、[笑]

0278①F02: そー、着物も着物って、あれ何、着物か

0279①F01: 振袖、[笑]

0280①F02: 振袖、[笑]、振袖ももー決まってて

0281①F01: あ(そー)、自分で決めたんじゃないくて、向こーは決める

0282①F02: あ、そー

0283①F01: あ、そーなん

(17)では、0282①F02に二連鎖感動詞類「あ、そー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F02が、0281①F01の発話内容の命題「自分で決めたんじゃないくて、向こーは決める」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F02が「そー」という発話によって、その命題を肯定している。つまり、「そー」の発話時点で、発話者は先行発話の命題に対して真偽判断をしているのである¹¹。

次も、同じ「あ、そー」のデータである。

(18)

389JF098: ゼミ、じゃー今は、

390JFB025: 一応行ってるよ、もちろん。

391JF098: 行ってるけど、(うんうん)単位にはならないんだー。

392JFB025: そう。

が真であることを表す、命題レベルでの応答と言うことができる」と述べている。ここでは「そー」という単独感動詞類がデータとなっているが、二連鎖感動詞類の後項に現れる場合も同じであると考えられる。

¹⁰ 「真偽判断」とは、自然会話において、発話者が命題の真偽値を判断することである。

¹¹ 0281①F01の感動詞類の「あ」は、発話者①M01のモダリティ形式であるが、これを含めた発話全体にアクセスしていると考えられなくもないが、「そー」と判断している対象は命題のみであると考えられる。

- 393JF098 : そっかー。
- 394JFB025 : ほんっと、もう、人生(〈笑い〉)終わったって思ったもん、その時。
- 395JF098 : まだ、まだまだまだ〈軽く笑いながら〉。
- 396JFB025 : うん、もうややー、ほんとに〈軽く笑いながら〉。
- 397JFB025 : だから、後期、もう、全体的な、モチベーションがめっちゃ下がった〈笑い〉。
- 398JF098 : あ、そう〈笑い〉。
- 399JFB025 : 学校行く一気にもならなかったしー、(〈笑い〉) 自分が悪いのにな (〈笑い〉)。

(18)では、398JF098 に二連鎖感動詞類「あ、そう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF098 が、397JFB025 の発話内容の命題「だから、後期、もう、全体的な、モチベーションがめっちゃ下がった」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF098 が「そう」という発話によって、その命題を肯定している。

次も、同じ「あ、そー」のデータである。

(19)

- 224JM027 : え、「JFB026 名」はどこ行くの?。
- 225JFB026 : 「JFB026 名」は「地名 1」。
- 226JM027 : あ、そう。
- 227JFB026 : 《少し間》だから、ほんとに来年「部名 1」部、友達がなくなったら。

(19)では、226JM027 に二連鎖感動詞類「あ、そう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JM027 が、225JFB026 の発話内容の命題「「JFB026 名」は「地名 1」」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JM027 が「そう」という発話によって、その命題を肯定している。

次に、「あ」と「そーそー」の組み合わせについて考察する¹²。

(20)

- 33JF044 : 暑かったよね<2人で軽く笑う>。
- 34JF044 : <笑い>なんかごちそうになったよ。
- 35JF043 : <笑い>そうだっけ。
- 36JF043 : ファミレスかなんかで<2人笑い>。
- 37JF044 : ジョナサンで<笑いながら>。
- 38JF043 : あ、そうそう<笑いながら>。
- 39JF044 : <笑い>。

¹² 反復形については 4.1.11.1 節を参照されたい。

(20)では、38JF043 に二連鎖感動詞類「あ、そうそう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF043 が、37JF044 の発話内容の命題「ジョナサンで」にアクセスしている。そのうえで、「そうそう」という発話によって、その命題を肯定している。

次に、「あ」と「そーそーそー」の組み合わせについて考察する。

(21)

0597①F07：じゃがいもとしてもポテト指してる？

0598①F08：概念としてもポテト

0599①F07：それとフライドポテト指してるの？

0600①F08：えーっと、ね、じゃがいも

0601①F07：私、ずっと

0602①F08：不可視さー、じゃがいも

0603①F07：あの粉吹き芋みたいな

0604①F08：あ、そーそーそー

0605①F07：じゃ当たるよね

(21)では、0604①F08 に二連鎖感動詞類「あ、そーそーそー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F08 が、0603①F07 の発話内容の命題である「あの粉吹き芋みたいな」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F08 が「そーそーそー」という発話によって、その命題を肯定している¹³。

次に、「あ」と「そーそーそーそー」の組み合わせについて考察する。

(22)

0475①F07：食器を

0476①F08：食器全部

0477①F07：そー、金持ちみたい

0478①F08：[笑]、マジやばいよ

0479①F07：#服を着せん

0480①F08：マジ、本当皿に関しては、一度使ったらもーなんか、使えなくなるよね

0481①F07：潔癖みたい

0482①F08：ね、なんか、こっち来てから、潔癖になっちゃった

0483①F07：えっ、でも、潔癖は分かる、[笑]（[笑]）、なんか、自分で、汚すのはいーんよ

0484①F08：うん

¹³ 0603①F07 の終助詞の「な」は、発話者①F07 のモダリティ形式であるが、これを含めた発話全体にアクセスしていると考えられなくもないが、「そー」と判断している対象は命題のみであると考えられる。

0485①F07：他人に

0486①F08：あ、そーそーそーそー

0487①F07：汚されるのは好きじゃない

(22)では、0486①F08 に二連鎖感動詞類「あ、そーそーそーそー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F08 が、0485①F07 の発話内容の命題である「他人に」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F08 が「そーそーそーそー」という発話によって、その命題を肯定している。

次に、「あ」と「そーそーそーそーそー」の組み合わせについて考察する。

(23)

1JF108：###は?[音声では聞き取り不能 話者に確認したところ、教育実習のレポート返却について話しているらしい]。

2JMB012：まだ、取り行ってないんだよね。

3JF108：〈笑い〉。

4JF108：でも、すぐ、すぐもらえたよ、あれ。

5JMB012：あれはさ、なんか平日の8時5時とかでしょ？。

6JF108：あ、そうそうそうそうそう。

7JMB012：空いてねーつつうの。

(23)では、6JF108 に二連鎖感動詞類「あ、そうそうそうそうそう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF108 が、5JMB012 の発話内容の命題である「あれは平日の8時5時とか」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF108 が「そうそうそうそうそう」という発話によって、その命題を肯定している。

以上から、「あ、そー」類の場合、以下のような仮説が立てられる。

(24) 「あ、そー」類についての仮説：

後項が「そー」（「そー」、「そーそー」のような「そー」の反復形など）である二連鎖感動詞類の場合、前項の「あ」が発話された時点で、発話者は、先行発話の命題にアクセスしている。そのうえで、後項によって、その命題を新情報として肯定的に導入している。

前項の「あ」は、先行発話の命題を指しているという意味で、従来指示詞が担っている「文脈指示」と同じように見える。しかし、異なっている点は、それが感動詞類によって行われていることから、感動詞類の形式が指示の機能を担っているのではなく、その感動詞類を発

話している発話者が脳内で命題を参照（照応）しているということである。まさに、その発話者が命題にアクセスしたとほぼ同時に、感動詞類が（無意識に）発話されているのである。アクセスが行われたことを示す発話（モニターの発話）とも言えよう。そして、後項はその命題に対して真偽判断の確定を行っているのである。つまり、「あ、そー」類の二連鎖感動詞類が、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる¹⁴。

以上のように考えてくると、後項に「そー」類以外で真偽判断を表す感動詞類がくる二連鎖感動詞類を観察する必要が生じてくる。そこで次に、「うん」がくる「あ、うん」類、「はい」がくる「あ、はい」類の二連鎖感動詞類を観察する。

4.1.1.2. 「あ、うん」類

本節では、「あ、うん」類について扱う。まず、「あ、うん」について考察する。

(25)

0087①M11：あるいは夏休み、それこそ、この夏休み、どこか行きたいとかある

0088①F12：この夏休み？

0089①M11：うん

0090①F12：えー、夏か、それも今考えよーってね

0091①M11：うん、そーだろー、[笑]

0092①F12：京都もいーけど

0093①M11：うん、あつ、いや、それは京都とか、こだわらんとか

0094①F12：<あ、うん>

0095①M11：こだわらんでいーけど

(25)では、0094①F12に二連鎖感動詞類「あ、うん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F12が、0093①M11の発話内容の命題「それは京都とか、こだわらんとか」にアクセスしていると考えられる。そのうえで、発話者①F12が「うん」という発話によって、その命題を肯定している。

次も、同じ「あ、うん」のデータである。

(26)

64JM033：なんとか村?、忍者村??、じゃないな(<笑い>)、なんとか村に<軽く笑いながら>、
800円でできるところがあるって、1回。

¹⁴ 「あ、そーね」、「あ、そーだ」、「あ、そーだよね」、「あ、そーなんだ」などという発話も現れている。「そー」の直後に「ね」、「だ」などがくる場合、「そー」は感動詞類の機能をもっていないように見える場合がある。そのため、本論文では、このような発話は、二連鎖感動詞類として取り扱わない。

65JMB009 : へー、それ教えてくれるの?。
66JM033 : うん、ちゃんと質問できる。
67JMB009 : でも忍者でしょ?。
68JM033 : いや、わかんない。
69JMB009 : でもここも、ちゃんとしてるとこかどうかわかんないからね。
70JM033 : 《沈黙 8 秒》「地名 2」が夜の部なら#####な一。
71JMB009 : ううん、ない、#####。
72JM033 : うん。
73JMB009 : 《沈黙 13 秒》今年中にはでも、なん、ちょっと形にしたいね。
74JM033 : あ、うん。
75JMB009 : 《沈黙 8 秒》何しよっか?,,

(26)では、74JM033 に二連鎖感動詞類「あ、うん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JM033 が、73JMB009 の発話内容の命題「今年中にはでも、ちょっと形にしたい」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JM033 が「うん」という発話によって、その命題を肯定している¹⁵。

次も、同じ「あ、うん」のデータである。

(27)

11JF046 : 気まずい=。
12JF045 : =え、なんかよく飲んでない?。
13JF0462 : 回目だね。
14JF0452 : 回目?、それでも。
15JF046 : うん。
16JF046 : まだ2回目だよ。
17JF045 : あ、うん。
18JF046 : え、ゼミででしょ?。

(27)では、17JF045 に二連鎖感動詞類「あ、うん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF045 が、16JF046 の発話内容の命題「まだ2回目だ」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF045 が「うん」という発話によって、その命題を肯定している。

次に、「あ」と「うんうん」の組み合わせについて考察する。

(28)

47JF055 : で今年ね、恋人役なの<2人笑い>。

¹⁵ 本論文では、73JMB009 の「今年中にはでも」のような従属節の発話を命題要素とする。

- 48JF056 : あら[↑]。
- 49JF055 : そうそう、主役の子の<彼女役なんだけど>{<}。
- 50JF056 : <あ、うんうんうんうん>{<}。
- 51JF055 : でもそれもね、うん、まあいいや。
- 52JF056 : <笑い>。
- 53JF055 : <笑い>演出家の、演出家がね、それで決めたから{<}。
- 54JF056 : <あ>{<}、うんうん。
- 55JF056 : あ、じゃー「JF055 名」さ、けっこうさ (んー)、準主役っていうか、<ヒロイン>{<}??、ヒロイン。

(28)では、54JF056 に二連鎖感動詞類「あ、うんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF056 が、先行発話の命題「演出家の、演出家がそれで決めたから」にアクセスしていると考えられる。そのうえで、発話者 JF056 が「うんうん」という発話によって、その命題を肯定している。これらの認知プロセスは、「あ、うん」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あ」と「うんうんうん」の組み合わせについて考察する。

(29)

- 114JF056 : え、ど、どんな…、あ、なんかさ、文法、分析、説明しろとこかって…}{<}。
- 115JF055 : <そうそう>{<}そうそう。
- 116JF055 : なんか(あー)、こないだのやつは日本語と一緒にだ、<感じで楽だったじゃん>{<}。
- 117JF056 : <あ、うんうんうん>{<}=。
- 118JF055 : =あの、授業中 (うんうん)、授業最初にやったのは。

(29)では、117JF056 に二連鎖感動詞類「あ、うんうんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF056 が、先行発話の命題「こないだのやつは日本語と一緒にだ、感じで楽だった」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF056 が「うんうんうん」という発話によって、その命題を肯定している。これらの認知プロセスも、「あ、うん」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あ」と「うんうんうんうん」の組み合わせについて考察する。

(30)

- 47JF055 : で今年ね、恋人役なの<2人笑い>。
- 48JF056 : あら[↑]。
- 49JF055 : そうそう、主役の子の<彼女役なんだけど>{<}。
- 50JF056 : <あ、うんうんうんうん>{<}。

51JF055 : でもそれもね、うん、まあいいや。

(30)では、50JF056 に二連鎖感動詞類「あ、うんうんうんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF056 が、先行発話の命題「主役の子の彼女役なんだ」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF056 が「うんうんうんうん」という発話によって、その命題を肯定している。これらの認知プロセスも、「あ、うん」の場合と同じであると言えるだろう¹⁶。

次に、「あ」と「うんうんうんうんうん」の組み合わせについて考察する。

(31)

0449①F01 : 私何も全然してないけど、確かに、シドニーの人で、結構やってる人多いかもしれない、Facebook

0450①F02 : あ、そーなんや

0451①F01 : うん

0452①F02 : それは、シドニーに行って、オーストラリア人じゃなくて、シドニーに行ってる人

0453①F01 : シドニー工科大学の(あー[↑↓])留学生だったり

0454①F02 : あー[↑↓], なるほどね

0455①F01 : 生徒だったりって、結構(うーん), 私も「人名 16」も友達の中に

0456①F02 : 「人名 17」とか

0457①F01 : あ、うんうんうんうんうん

0458①F02 : おった、おったよね、だが、自分は結構、シドニーの人と留学生繋がりがある

(31)では、0457①F01 に二連鎖感動詞類「あ、うんうんうんうんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F01 が、先行発話の命題「「人名 17」とか」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F01 が「うんうんうんうんうん」という発話によって、その命題を肯定している。

以上のことから、「あ、うん」類の二連鎖感動詞類も「あ、そー」類と同様、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.1.1.3. 「あ、はい」類

本節では、「あ、はい」類について扱う。まず、「あ、はい」について考察する。

¹⁶ 本論文では、49JF055 の「けど」という接続語の発話が、直前に発話した命題の存在を示唆しているが、これを含めた発話全体にアクセスしていると考えられなくもないが、「うん」と判断している対象は命題のみであると考えられる。命題要素としない。

(32)

0243①F07：何?, 暇な時何するの?

0244①F08：暇な時, 暇な時ずっと動画を見てる

0245①F07：あ, それは分かる

0246①F08：うん, 暇な時がないから

0247①F07：あー, ね, 動画見るから

0248①F08：忙しいんだよ, こっちは

0249①F07：あ, はい ([笑])

0250①F08：動画は毎日あがるから (うん), 見るので忙しい, 放送もあるし

(32)では, 0249①F07 に二連鎖感動詞類「あ, はい」が現れている。ここでは, 「あ」の発話時点で, 発話者①F07 が, 先行発話の命題「忙しいんだ, こっちは」にアクセスしている。そのうえで, 発話者①F07 が「はい」という発話によって, その命題を肯定している。

次に, 「あ」と「はいはい」の組み合わせについて考察する。

(33)

0110①F08：夏休みはどこに行く

0111①F07：うーん, じゃない, [笑]

0112①F08：あ, そっか, 来るんやったね

0113①F07：そー

0114①F08：うん

0115①F07：そー, 17 かなー

0116①F08：うん

0117①F07：8月17から私が合宿行くまでの, <間>

0118①F08：<あ, はいはい>

0119①F07：やけ, 一週間くらい

(33)では, 0118①F08 に二連鎖感動詞類「あ, はいはい」が現れている。ここでは, 「あ」の発話時点で, 発話者①F08 が, 先行発話の命題「8月17から私が合宿行くまでの間」にアクセスしている。そのうえで, 発話者①F08 が「はいはい」という発話によって, その命題を肯定している。これらの認知プロセスは, 「あ, はい」の場合と同じであると言えるだろう。

次に, 「あ」と「はいはいはいはいはい」の組み合わせについて考察する。

(34)

0659①F07：肝, 吸い?

0660①F08：うん、肝の吸い物、〈鰻の肝の吸い物〉
 0661①F07：〈あー、肝好きじゃない〉、苦い
 0662①F08：〔笑〕、苦くないよ、肝、鰻は
 0663①F07：うそ？
 0664①F08：ほかの魚と違うから
 0665①F07：うーん、魚と違うから、ほとんどある
 0666①F08：ほとんど、何だ、ほとんどなんか、苦い部は抜いてある
 0667①F07：あー、ね
 0668①F08：本当にこれぐらいちよろっと、なんか、白子みたいな
 0669①F07：あ、はいはいはいはいはい
 0670①F08：感じで、ぺってしているけど

(34)では、0669①F07に二連鎖感動詞類「あ、はいはいはいはいはい」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F07が、先行発話の命題「本当にこれぐらいちよろっと、白子みたい」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F07が「はいはいはいはいはい」という発話によって、その命題を肯定している。これらの認知プロセスも、「あ、はい」の場合と同じであると言えるだろう。

以上のことから、「あ、はい」類の二連鎖感動詞類も「あ、そー」類、「あ、うん」類と同様、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.1.2. 「あっ、～」類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「あ」の促音である「あっ」がくるもの、即ち「あっ、そー」類、「あっ、うん」類を扱う。

4.1.2.1. 「あっ、そー」類

本節では、「あっ、そー」類を扱う。まず、「あっ、そー」について考察する。

(35)

428JF069：これ、何時これ？。
 429JF070：2時。
 430JF069：2時か。
 431JF070：うん、そうだよ。
 432JF069：なんか多分夜…、(うん)まだなんか詳細決まってるから、
 433JF070：あっ、そう。
 434JF069：25日までに、(うん)“返事くれ”とか。

(35)では、433JF070 に二連鎖感動詞類の「あっ、そう」が現れている。ここでの「そう」の発話時点で、発話者 JF070 が、先行発話の命題「多分夜まだ詳細決まってないから」に対して肯定の真偽判断を下している¹⁷。しかし、「あっ」は、どのような機能をもっているのだろうか。

「あっ」については、富樫純一(2001:39)に、「バッファにない新規情報を獲得したこと」とある。また、「これらの談話標識には発音および表記上のヴァリエーションが存在する」とし、「あ」と「あっ」を「同じ談話標識として扱う」(cf.富樫純一 2001:21)と述べている。要するに、「あっ」は「あ」と同様、その発話時に発話者が直前発話の命題にアクセスしていると考えられる。

同様のことは、次の「あっ、そーそーそーそーそーそーそー」の場合でも考えられる。

(36)

269JF071 : でもそれで…〈笑い〉でもね、なんかね、結構ね、(うん)修論を書いてる時にみんなそうなのかもしれないけど、結構はね、ひ、“あっ、やんなきゃ”って思い始めた途端に、(うん)結構悲壮感たっぷりになって、(〈大きな笑い〉)なんか、

270JF072 : すごい分かる。

271JF071 : 何やってたんだろうみたいな。

272JF072 : 〈笑い〉なんかさ、本当にさ、そう、なんか、修士に入ってから、(うん)精神的なアップダウンが 【。

273JF071 : 】 あっ、そうそうそうそうそうそう。

274JF072 : うん。

(36)では、273JF071 に二連鎖感動詞類「あっ、そうそうそうそうそうそう」が現れている。「あっ」の発話時に発話者 JF071 が、先行発話 272JF072 の命題「本当に修士に入ってから、精神的なアップダウンが」にアクセスしている。「そうそうそうそうそうそう」の発話時に発話者が、直前発話の命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あっ、そー」の場合と同じであると言えるだろう。

以上のことから、「あっ、そー」類の二連鎖感動詞類も、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

同様の働きをするものとして、次の「あっ、うん」類、「え、そー」類がある。

4.1.2.2. 「あっ、うん」類

¹⁷ 本論文では、432JF069 の「から」という接続語の発話が、直前に発話した命題の帰結を示しているため、命題要素とする。

本節では、「あっ、うん」類について扱うが、本論文では「あっ、うんうんうんうん」しか現れていない。(37)を見られたい。

(37)

587JF095：あんま見せないもんね、レポート。

588JF094：誰に？。

589JF095：ゼミの子には送るけどさー(うん)、いつもー。

590JF094：うん。

591JF095：で、読むけどー、

592JF094：うん。

593JF095：人のレポートってあんま見ないじゃん>{<}。

594JF094：<あっ、うんうんうんうん>{>}。

595JF094：そうだよねー、うん。

(37)では、594JF094 に二連鎖感動詞類の「あっ、うんうんうんうん」が現れている。ここでは、「あっ」の発話時に発話者 JF094 が、先行発話 593JF095 の命題「人のレポートってあんま見ない」にアクセスしている。「うんうんうんうん」の発話時に発話者が、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。つまり、「あっ、うん」類の二連鎖感動詞類も、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.1.3. 「え、～」類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「え」が来るもの、即ち「え、そー」類を扱う。

4.1.3.1. 「え、そー」類

本節では、「え、そー」類について扱うが、本論文では「え、そー」しか現れていない。(38)を見られたい。

(38)

0286①M04：結構、なんか、うん[↑]、[笑]、（[笑]）そっくりじゃない？、すげー

0287①M03：誰と思った？

0288①M04：うん

0289①M03：人間の上

0290①M04：人間の上、予約出来ますね

0291①M03：[笑]、いやー、これは面白いわ

0292①M04：うん、誰が考えるのかなー、こんな

0293①M03：え、そー

0294①M04：面白けつまらんことな一

(38)では、0293①M03に二連鎖感動詞類「え、そ一」が現れている。この場合も、「え」の発話時に発話者①M03が、0292①M04の発話にアクセスしていると考えられる。しかも、「誰が考えるのかな一、こんな」という発話全体ではなく、「誰が考えるんか、こんな」（「こんなことを誰が考えるのか」）という命題にアクセスしているように見える。そのうえで、発話者①M03が「そ一」という発話によって、その命題を肯定しているのではなかろうか。つまり、「え、そ一」類の二連鎖感動詞類も、「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

以上4.1.1～4.1.3より、①「あ」、「あっ」、「え」などのような感動詞類は「アクセス」という認知プロセスをモニターする、②「そ一」、「うん」、「はい」などのような感動詞類は「真偽判断の確定」という認知プロセスをモニターする、と考えられる。

4.1.4. 「あ一、～」類

ここでは、「あ一」が含まれる二連鎖感動詞類を観察することによって、「あ一」が「アクセス」、「真偽判断の確定」のいずれに属するかどうかについて検討する。

4.1.4.1. 「あ一、そ一」類

本節では、「あ一、そ一」類を扱う。まず、「あ一、そ一」について考察する。

(39)

359JF064：やっぱ苦しいよね=。

360JF064：=ノルマあったり一、，

361JF063：まあね。

362JF064：なんか、それなりに対応はしてくれるけど、がんばっても、なんかどうしようもならない時とかも、ある、<よね>{<}。

363JF063：<うん>{>}。

364JF064：でやっぱり、明らかに、企業の資本を増やすためっていうのは、<見える…>{<}。

365JF063：<あ一>{>}、そう。

366JF064：なんか、それが、(うん)当たり前なんだろうけど、(うん)なんか、うーん、当たり前なんだけど…。

(39)では、365JF063に二連鎖感動詞類「あ一、そう」が現れている。前述したように、後項の「そう」の発話時に発話者JF063が、先行発話364JF064の命題である「やっぱり、明らかに、企業の資本を増やすためっていうのは、見える」に対して肯定の真偽判断を下して

いる。しかし、「あー」はどのような機能を担っているのだろうか。「あ」、「あっ」とは何か相違点があるのだろうか¹⁸。

富樫純一(2002b:145)では、「あー」は「あっ」とは異なり、情報に対するある程度の理解がないと用いることができない」と述べている。ここで言う「ある程度の理解」とは、おそらく命題の真偽について検討していると考えてよいだろう。即ち、「あー」の発話時に、発話者 JF063 が、364JF064 の命題に対する真偽の検討を行っていると考えられる

次に、「あー、そーそー」について考察する。

(40)

0046①F08：キッチン、キッチンで踊ってる、([笑]), キッチンで踊りくるってる

0047①F07：あー

0048①F08：あのレンジ待ちとか

0049①F07：あね、分かる、それ分かる ([笑]), あの腕だけ踊るの

0050①F08：あー、そーそー

0051①F07：上半身だけ

(40)では、0050①F08 に二連鎖感動詞類「あー、そーそー」が現れている。「あー」の発話時に発話者①F08 が、先行発話 0049①F07 の命題「あの腕だけ踊るの」の真偽を検討している。後項の「そーそー」の発話時点で、発話者①F07 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、そー」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あー、そーそーそーそー」について考察する。

(41)

145JF049：参考文献のところ、あ、参考文献じゃない。

146JF050：教科書。

147JF049：の(うん)、あの一何て言うんだっけ、あの一、説明んところ。

148JF050：うん。

149JF049：この言葉って線引いてあって{<},,

150JF050：<あー、そう>{>}そうそうくそう>{<}。

151JF049：<後ろ>{>}で参照みたいなやつ。

(41)では、150JF050 に二連鎖感動詞類「あー、そうそうそうそう」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF050 が、先行発話 149JF049 の命題「この言葉って線引いてあって」の真偽を検討している。後項の「そうそうそうそう」の発話時点で、発話者 JF050 は、その命

¹⁸ 本論文では、364JF064 の「やっぱり」のような文副詞を命題要素とする。

題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、そー」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あー、そーそーそーそーそーそー」について考察する。

(42)

49JF052：なんか、ほら、精神的にけっこう不安定だからー(うん)、ちょっと心配で=。

50JF052：=だって返事来ないんだもん。

51JF051：え、いつも来る?、すぐ。

52JF052：来る。

53JF051：は一、そっか。

54JF052：だから、なんかちょっと(###)、うん。

55JF051：あの会社の子?。

56JF052：違う。

57JF052：ホテルの子。

58JF051：あー、そうそうそうそうそう。

59JF052：うん、なんか、おかしくなっちゃった。

(42)では、58JF051 に二連鎖感動詞類「あー、そうそうそうそうそう」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF051 が、先行発話 57JF052 の命題「ホテルの子」の真偽を検討している。後項の「そうそうそうそうそう」の発話時点で、発話者 JF051 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、そー」の場合と同じであると言えるだろう。

同様の働きをするものとして、次の「あー、うん」類がある。

4.1.4.2. 「あー、うん」類

本節では、「あー、うん」類を扱う。まず、「あー、うん」について考察する。

(43)

296JF047：なんか、わざわざプレート1個で食べる必要なさそう<笑いながら>。

297JF047：だったら、テイクアウトすればいいじゃん、みたいな<気がしてしまうので…>{<}

298JF048：<うんうんうん>{>}。

299JF048：何だったら、上からかけるとかじゃないとだめなの?。

300JF047：中に入れるっていうこと?。

301JF048：=いやたとえば、お皿で頼むと(うん)、お皿でちょんちょんについてくる>{<}。

302JF047：<あー>{>}、うん。

303JF0482：種類ついてきて、“どちらでも好きなほうをつけてください”<と…>{<}

(43)では、302JF047 に二連鎖感動詞類「あー、うん」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF047 が、先行発話 301JF048 の命題「たとえばお皿で頼むと、お皿でちょんちょんとついてくる」の真偽を検討している。後項の「うん」の発話時点で、発話者 JF047 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。

次に、「あー、うんうん」について考察する。

(44)

338JF048 : あとは、ワッフルのほうってさー(うん)、あれはいるの?、あの一、特別メニューというか。

339JF048 : わたしは、紅茶は、クイズを出したら、<スペシャルメニューがあつて>{<},,

340JF047 : <あー、うんうん>{>}。

341JF048 : で、“それコストかかるよね” って後で言われたんだけど、

(44)では、340JF047 に二連鎖感動詞類「あー、うんうん」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF047 が、先行発話 339JF048 の命題「わたしは、紅茶は、クイズを出したら、スペシャルメニューがあつて」の真偽を検討している。後項の「うんうん」の発話時点で、発話者 JF047 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスは、「あー、うん」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あー、うんうんうんうん」について考察する。

(45)

10JF072 : うんとね、(うん)あ、もともと、お爺ちゃんお婆ちゃんの家っていうのがあつて、それを相続したの、うちの母親が。

11JF071 : あー、お母さんが相続したの。

12JF072 : そうそうそう。

13JF072 : それで、そこ、その家が、その親戚の溜まり場になつてるのね。

14JF071 : ふんふん。

15JF072 : うん。

16JF071 : でもいま、基本的に誰も住んでないの?。

17JF072 : うん、住んでない。

18JF071 : あっ、そうなんだ。

19JF072 : で、だから、母と父が帰った時に、(うん)親戚が集るんだけど、(あー) その中の親戚の1人が、(うん) ちょつとぼけちゃつたつていう状態で…。

20JF071 : あー、うんうん<うんうん>{<}。

21JF072 : <うんうん>{>}。

(45)では、20JF071 に二連鎖感動詞類「あー、うんうんうんうん」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF071 が、先行発話 19JF072 の命題「そこの中の親戚の1人が、ちょっとぼけちゃったっていう状態で」の真偽を検討している。後項の「うんうんうんうん」の発話時点で、発話者 JF071 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、うん」の場合と同じであると言えるだろう。

以上より、「あー、うん」類の二連鎖感動詞類は、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

同様の働きをするものとして、次の「あー、はい」類がある。

4.1.4.3. 「あー、はい」類

本節では、「あー、はい」類を扱うが、本論文では「あー、はい」は現れておらず、「あー、はいはい」、「あー、はいはいはい」などが現れている。まず、「あー、はいはい」について考察する。

(46)

47JFB030：あ、このあいだ私も受けてきた、〈地元の企業〉{<}。

48JF103：〈あ、本当に?〉{>}。

49JF103：どうだった?、筆記。

50JFB030：〈笑い〉。

51JF103：難しい?、筆記。

52JFB030：筆記無理だねー(〈笑い〉)。

53JFB030：私頭悪いのかなー(〈笑い〉)。

54JF103：えー、なんで?。

55JFB030：勉強してないからなんだけど。

56JFB030：全然ねー、なんか。

57JF103：何出るんだっけ、なんか難しいの出るって言ってたよね。

58JFB030：なんかーでもー、「地名」問題とかも出るんだけど=。

59JF103：=あ、そっかそっか、地理的なもの(うん)、名産が…、お茶が名産。

60JFB030：出身者、「地名」出身者みたいなやつの、

61JF103：あー、はいはい。

62JFB030：誰々、文学者誰かとか(うーん)。

(46)では、61JF103 に二連鎖感動詞類「あー、はいはい」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF103 が、先行発話 60JFB030 の命題「出身者、「地名」出身者みたいなやつ」の真偽を検討している。後項の「はいはい」の発話時点で、発話者 JF103 は、その命題に対し

て肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスは、「あー、はい」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あー、はいはいはい」について考察する。

(47)

0188①F12：友達が、オランダがいー言うとして

0189①M11：オランダがいー

0190①F12：オランダがいー

0191①M11：そー、聞かない名前だなー

0192①F12：で、写真見せてもらったけど

0193①M11：うん

0194①F12：もーね、どこ撮ってもね

0195①M11：うん

0196①F12：絵本の世界ってゆーか

0197①M11：あー、はいはいはい

0198①F12：写真映えはすごいよ

(47)では、0197①M11 に二連鎖感動詞類「あー、はいはいはい」が現れている。「あー」の発話時に発話者①M11 が、先行発話 0196①F12 の命題「絵本の世界ってゆーか」の真偽を検討している。後項の「はいはいはい」の発話時点で、発話者①M11 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、はい」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あー、はいはいはいはい」について考察する。

(48)

189JF109：〈まあ、まあ〉{ } 「大学名 1」は放任、放任主義だからね。

190JF109：え?。

191JMB013：この子、この子、この子。

192JF109：あー、はいはいはいはい。

193JMB013：覚えとる?。

(48)では、192JF109 に二連鎖感動詞類「あー、はいはいはいはい」が現れている。「あー」の発話時に発話者 JF109 が、先行発話 191JMB013 の命題「この子、この子、この子」の真偽を検討している。後項の「はいはいはいはい」の発話時点で、発話者 JF109 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、はい」の場合と同じであると言えるだろう。

次に、「あーあー、はいはいはい」について考察する。

(49)

205JF096：たらなんか、けっこう何??、それで慕われたっていうか、絶対親に言われると思
ってたらしくて、その、彼は、殴った<彼は><く>。

206JF097：<あーあー><}>、はいはいはい。

207JF096：で、でも、お兄ちゃんは、殴った後も、親に言わなかったけど、その後ほっとく
訳じゃなくて、殴られたからビビる訳じゃなくて、

(49)では、206JF097 に二連鎖感動詞類「あーあー、はいはいはい」が現れている。「あー、あー」の発話時に発話者 JF097 が、先行発話 205JF096 の命題「彼は、殴った彼は」の真偽を検討している。後項の「はいはいはい」の発話時点で、発話者 JF097 は、その命題に対し肯定の真偽判断を下している。これらの認知プロセスも、「あー、はい」の場合と同じであると言えるだろう。

以上より、「あー」は、「アクセス」、「真偽判断の確定」とは異なる、「真偽の検討」といった認知プロセスを仮定する必要があるだろう。また、「あー、そー」類、「あー、うん」類「あー、はい」類の二連鎖感動詞類が、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

同様の機能を持っている感動詞類として、「え」の長音形である「えー」と、「うーん」、「うん[↑]」がある。

4.1.5. 「えー、～」類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「えー」がくるもの、即ち「えー、うん」類を扱う。

4.1.5.1. 「えー、うん」類

本節では、「えー、うん」類について扱うが、本論文では「えー、うん」しか現れていない。(50)を見られたい。

(50)

0500①F08：茶碗

0501①F07：洗わん

0502①F08：ない、[笑]

0503①F07：そっか

0504①F08：うん

0505①F07：じゃ、ラップだわ

0506①F08：ラップだよ

0507①F07：かー

0508①F08：ラッパンしかない

0509①F07：ラッパンにある，[笑]，飲み物もちゃんと飲み捨てる(うん)，ラッパン飲み，
ラップではなかった

0510①F08：ラッパン飲み，[笑]，いや，捨て

0511①F07：えー，うん

0512①F08：だめだねー，自炊はできるんだけどねー

(50)では，0511①F07 に二連鎖感動詞類「えー，うん」が現れている。「えー」の発話時に発話者①F07 が，先行発話 0510①F08 の命題「捨て」（捨てる）の真偽を検討している。後項の「うん」の発話時点で，発話者①F07 は，その命題に対して肯定の真偽判断を下している。つまり，「えー，うん」類の二連鎖感動詞類は，「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.1.6. 「うーん，～」類

ここでは，二連鎖感動詞類の前項に「うーん」がくるもの，即ち「うーん，そー」類，「うーん，うん」類，「うーん，はい」類を扱う。

4.1.6.1. 「うーん，そー」類

本節では「うーん，そー」類を扱うが，本論文では「うーん，そー」は現れておらず，「うーん，そーそー」しか現れていない。(51)を見られたい。

(51)

130JF061：あたしがちょうど図書館、「図書館名」図書館から出てきた時に(うん)、なんか
掲示板に、こう、でかでかと(へー)、い、“1名退学処分にする<ことにしました”、
とかって>{<}。

131JF062：<でもさでもさ>{>}、(うん) あれ以来さ、「サークル名」あんまり報道されない
じゃん。

132JF061：うーん、<そうそう>{<}。

133JF062：<絶対>{>}「大学名1」がさー、<出してるよね>{<}<笑い>。

(51)では，132JF061 に二連鎖感動詞類「うーん，そうそう」が現れている。「うーん」の発話時に発話者 JF061 が，先行発話 131JF062 の命題「あれ以来、「サークル名」あんまり報道されない」の真偽を検討している。後項の「そうそう」の発話時点で，発話者 JMB012 は，その命題に対して肯定の真偽判断を下している。

同様の働きをするものとして，次の「うーん，うん」類がある。

4.1.6.2. 「うーん、うん」類

本節では「うーん、うん」類を扱うが、本論文では「うーん、うん」しか現れていない。(52)を見られたい。

(52)

397JF061 : 多分、その、情報源なの<かなー、と##…>{< }。

398JF062 : <じゃ、そうなん>{>}だろうねー。

399JF061 : えー、でも、あんなのただってさー 【。

400JF062 : 】ありえないよねー。

401JF061 : すごい、[息を呑む]広告収入<だよねー>{< }。

402JF062 : <うーん>{>}、うん。

403JF061 : なんか、なんなんだろ。

(52)では、402JF062 に二連鎖感動詞類「うーん、うん」が現れている。「うーん」の発話時に発話者 JF062 が、先行発話 401JF061 の命題「すごい、広告収入だ」の真偽を検討している。後項の「うん」の発話時点で、発話者 JF062 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。

同様の働きをするものとして、次の「うーん、はい」類がある。

4.1.6.3. 「うーん、はい」類

本節では「うーん、はい」類を扱うが、本論文では「うーん、はい」は現れておらず、「うーん、はいはい」しか現れていない。(53)を見られたい。

(53)

298JF054 : なんか、その人が(うん)、今院の1年(うん)、2年??、たぶん。

299JF054 : で、あたしがもし、来年 (うん) 卒論書くことになったら、

300JF053 : うーん、はいくはい>{< }。

301JF054 : <絶対>{>}来年もおるやん。

(53)では、300JF053 に二連鎖感動詞類「うーん、はいはい」が現れている。「うーん」の発話時に発話者 JF053 が、先行発話 299JF054 の命題「あたしがもし、来年卒論書くことになったら」の真偽を検討している。後項の「はいはい」の発話時点で、発話者 JF053 は、その命題に対して肯定の真偽判断を下している。

以上のことから、「うーん、そー」類、「うーん、うん」類、「うーん、はい」類の二連鎖感動詞類も、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.1.7. 「うん[↑], ~」類

ここでは、「うん[↑]」が前項になる二連鎖感動詞類、即ち「うん[↑], うん」類を扱う。

4.1.7.1. 「うん[↑], うん」類

本節では、「うん[↑], うん」類について扱うが、本論文では「うん[↑], うん」しか現れていない¹⁹。(54)を見られたい。

(54)

0354①F12：私は(うん), 自分の過去とか, も一どーでもよくて

0355①M11：うん

0356①F12：マジで江戸時代とか行きたい

0357①M11：あっ, そのレベル, < [笑], あ, なるほどね>

0358①F12：<マジで平安時代とかもいーね>ってゆー

0359①M11：うん, うんー

0360①F12：どんな感じなんやろー

0361①M11：[笑]

0362①F12：だから, こっち

0363①M11：うーん, 昔, じゃない, うん

0364①F12：あ, これ前話したかも, <そういう時は>

0365①M11：<あ, いーよいーよ>, うん

0366①F12：やっぱね, ルールとして「人名1」君もだけど

0367①M11：うん[↑], うん

0368①F12：やっぱ, 見えないよーになっとったほーがいーと思うんよね

0369①M11：あ, それはね, [笑]

(54)では, 0367①M11 に二連鎖感動詞類「うん[↑], うん」が現れている。ここでは, 「うん[↑]」の発話時に発話者①M11 が, 0366①F12 の発話内容の命題「ルールとして「人名1」君もだ」について疑問を持っているため, 真偽の検討を行っている。後項の「うん」の発話時点で, 発話者①M11 は, その命題に対して肯定の真偽判断を下している。つまり,

¹⁹ 言うまでもなく, 自然会話では, 「うん[↑] うんうん」のような発話が予測される。このような場合, 2つの感動詞類「うん[↑], と「うんうん」として扱う。なぜなら, 感動詞類のイントネーションが異なっている場合, 感動詞類の意味も異なっているからである。感動詞類のイントネーションについては, 今後の課題とする。

「うん[↑], うん」類の二連鎖感動詞類も、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

以上 4.1.1~4.1.7 より, ①「あ」, 「あっ」, 「え」などのような感動詞類は「アクセス」という認知プロセスをモニターする, ②「そー」, 「うん」, 「はい」などのような感動詞類は「真偽判断の確定」という認知プロセスをモニターする, ③「あー」, 「えー」, 「うーん」, 「うん[↑]」などのような感動詞類は「真偽の検討」という認知プロセスをモニターする, と考えられる。

4.1.8. 「まー, ~」 「~, まー」

ここでは、「まー」が含まれる二連鎖感動詞類を観察することによって、「まー」が「アクセス」, 「真偽の検討」, 「真偽判断の保留」のいずれに属するかどうかについて検討する。

4.1.8.1. 「まー, そー」類

本節では「まー, そー」類を扱うが, 本論文では「まー, そー」は現れておらず, 「まー, そーそーそーそー」しか現れていない。(55)を見られたい。

(55)

0150①F08 : いや, でも将棋とか覚えてたら楽しいんだろーだけどね

0151①F07 : 覚えれん

0152①F08 : 時間がないんだよね

0153①F07 : うん, 覚えてもやれる人おらんやん, <めったに>

0154①F08 : <そーそーそーそーそー>, だって, 将棋をやって楽しいって人少ないじゃん

0155①F07 : うん, 頭いー人

0156①F08 : オセロぐらいしかできんわ

0157①F07 : オセロってひっくり返すやつ(そう), 挟んで(そう), あー

0158①F08 : リバーシやねー

0159①F07 : あれはいける, 分かる, できる, 勝てやんけど

0160①F08 : オセロもさー, 言ってもあれさー, なんか勝利パターンあるやん

0161①F07 : うん, 角を取ればいーみたいな

0162①F08 : まー, そーそーそーそー

0163①F07 : 勝負は

(55)では, 0162①F08 に二連鎖感動詞類「まー, そーそーそーそー」が現れている。前項「まー」の発話時に発話者①F08 が, 少なからず先行発話の命題の真偽についての判断にも関与していると考えられる。

富樫純一(2002a:15)では、「まあ」の本質的機能は「処理過程の曖昧性を標示する」と記している。また、富樫純一(2002a:21)は、「計算結果の曖昧性は計算処理過程の曖昧性から発生すると捉えることができ、「まあ」が直接関わっているのは計算処理過程であると位置づけることができる」と述べている。ここで言う「処理過程の曖昧性」とは、“中途半端”な判断（あるいは、真偽判断の保留）を行っていると考えてよいだろう。即ち、「まー」においては、発話者は真偽判断をかなり中途半端に行っている²⁰。

従って、「まー」の発話時に、発話者①F08 は先行発話の命題「角を取ればいーみたい」に対する真偽判断を完全には達成しておらず、保留している。それを完全に達成するのは、後項「そーそーそーそー」の発話時である。

また、同様の働きとして、次の「まー、うん」類がある。

4.1.8.2. 「まー、うん」類

本節では、「まー、うん」類を扱うが、本論文では「まー、うん」しか現れていない。(56)を見られたい。

(56)

0293①M11：うん、そーいうこそ泳がんかったけど、元々、泳ぐ気がなかった感じ

0294①F12：泳ぐ気がなかった（うんー）、そもそも、水着にもってないし

0295①M11：あ、そーなんじゃ

0296①F12：うん、買わないといけなかった、買えばよかったけど

0297①M11：うん

0298①F12：買うお金がなかったから

0299①M11：まー、うん

0300①F12：じゃ、いーです（[笑]）、でも、まー、せっかくだし

(56)では、0299①M11 に二連鎖感動詞類「まー、うん」が現れている。前項「まー」の発話時に発話者が、先行発話の命題「買うお金がなかったから」に対する真偽判断の保留を行っている。発話者の真偽判断を完全に達成するのは、後項「うん」の発話時である。

同様の働きとして、次の「あ、まー」類がある。

4.1.8.3. 「あ、まー」類

本節では、「あ、まー」類を扱う。まず、「あ、まー」の会話データを取り上げる。

²⁰ 「処理過程」については、真偽判断に関わっていると考え。計算論的な立場では、「処理過程」がどの程度の時間で行われているか、もしくは真偽の検討にも関わっているかなどについて議論すべきかもしれないが、ここでは保留する。

(57)

- 0136①F08：将棋の駒も 100 個あったらテンション上がる
0137①F07：上がる，こんなんどーやって動かすのみたいな，〔笑〕
0138①F08：わりとあるけどね，100 個
0139①F07：この前ちょっと覚えた
0140①F08：あ，そーなん
0141①F07：なんか王様は取られたらあかん
0142①F08：あ，まー
0143①F07：〔笑〕

(57)では，0142①F08 に二連鎖感動詞類「あ，まー」が現れている。前項「あ」の発話時に発話者①F08 が，先行発話の命題「王様は取られたらあかん」へのアクセスを表したものである。そのうえで，発話者①F08 が「まー」の発話時に，その命題に対する真偽判断の保留を行っている。

次も，同じ「あ，まー」のデータである。

(58)

- 0191①F01：いや，でも，海外が働くって怖いなー
0192①F02：え，会話怖いよね
0193①F01：でも，英語だから，いーじゃん
0194①F02：あ，まー
0195①F01：私，まずドイツ語（そっか），習得してから

(58)では，0194①F02 に二連鎖感動詞類「あ，まー」が現れている。ここでは，「あ」の発話時に発話者①F02 が，0193①F01 の発話内容の命題「でも，英語だから，いー」にアクセスしている。そのうえで，発話者①F02 が「まー」という発話によって，その命題に対する真偽判断の保留を行っている。

次も，同じ「あ，まー」のデータである。

(59)

- 314JFB025：氷だけあったって，（あ，ま，たしかに）体に（たしかに）ながせんがいね，（あ，まー）でもその子は，氷しか持ってこんかってんて，（あー），すんげーきれて，あたし（<笑い>）。
315JFB025：“はー”って，“もう全然分かってない”つつって，（あー）で，そんな悪い気分のままスタートしてんね，（あー）じ，自己ベストより 20 秒遅かった（あー）。
316JFB025：だから，それ，が，1 つ悔いではあるけど，（うん）練習自体，まー，うん，悔

いはない。

317JM026：うんー。

(59)では、314JFB025の発話の中に、JM026のあいづちである二連鎖感動詞類「あ、まー」が現れている。前項「あ」の発話時に発話者JM026が、先行発話の命題「氷だけあったって、体にながせんがい」（氷だけあったって、体に流さないほうがいい）へのアクセスを表したものである。後項「まー」の発話では、発話者JM026がその命題内容に対する真偽判断の保留を行っている。

4.1.8.4. 「うん、まー」類

本節では、「うん、まー」類について扱うが、本論文では「うん、まー」しか現れていない。(60)を見られたい。

(60)

0102①M04：そーいう、なんってやる、家族と一緒にいったこともないし、なんとも教師、友達と一緒にいったこともないキャンプよ

0103①M03：えー[↑]

0104①M04：ここだったら、なんか貸してくれるしね、いろいろ、持っていかにやダルいじゃん、キャンプ(うんー)そもそもやろーと思って、なんか、燃料とかさー

0105①M03：道具ね、一から揃えな、面倒くさいじゃない

0106①M04：全部貸してくれるさー，###，本当はね，二日ぐらいあるんだったらさー(うん)，一泊ぐらいするのも楽しんやろー

0107①M03：うん、まー

0108①M04：「人名3」さんもそういうわけにはいかんけえさー

(60)では、0107①M03に二連鎖感動詞類「うん、まー」が現れている。前項「うん」の発話時には、発話者①M03が先行発話の命題「本当は、二日ぐらいあるんだったら、一泊ぐらいするのも楽しん」の真偽の検討を行っているものである。後項「まー」の発話時に、発話者①M03がその命題に対する真偽判断の保留を行っている。

以上より、「まー」は、「アクセス」、「真偽の検討」、「真偽判断の確定」とは異なる、「真偽判断の保留」といった認知プロセスを仮定する必要がある²¹。つまり、「まー、そー」類、「まー、うん」類「真偽判断の保留→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れを、「あ、

²¹ 「あ、まーね」という発話も現れている。「まー」の直後に「ね」がくる場合、「まー」は感動詞類の機能をもっていないように見える場合がある。そのため、本論文では、このような発話は、二連鎖感動詞類として取り扱わない。

まー」類「アクセス→真偽判断の保留」という認知プロセスの流れを、そして「うーん、まー」類は「真偽の検討→真偽判断の保留」という認知プロセスの流れをそれぞれモニターしていると考えられる。

同様の機能を持っている感動詞類として、「そーー[↓↑]」がある²²。

4.1.9. 「～，そーー[↓↑]」類

ここでは、「そーー[↓↑]」が含まれる二連鎖感動詞類について検討する。

4.1.9.1. 「あ，そーー[↓↑]」類

本節では、「あ，そーー[↓↑]」類について扱うが、本論文では「あ，そーー[↓↑]」しか現れていない。(61)を見られたい。

(61)

0184①M10：イカ？、イカ唐揚げは好き、ゲソ

0185①M09：生はいけない？

0186①M10：生，あんまり好きじゃないし

0187①M09：あの一，トゥルントゥルンしてる感じ

0188①M10：トゥルントゥルンでも，だいぶ食べれるよーになったけどね

0189①M09：まー，ね，あのおいしくいただければね，魚，なんか食えるになった

0190①M10：うん，昔は嫌いだった

0191①M09：すごい意外だったけどね

0192①M10：あ，そーー[↓↑]

0193①M09：なんか，こー運動するし

0194①M10：うん

0195①M09：なんかよく食べるし，今，ゆっくり，ゆっくり，よく食べるから

(61)では，0192①M10 に二連鎖感動詞類「あ，そーー[↓↑]」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で，発話者①M10 が，0191①M09 の発話内容の命題「すごい意外だった」にアクセスしている。しかし、「そーー[↓↑]」は，どのような機能をもっているのだろうか。

「そーー[↓↑]」について，定延利之(2002:83)は，「ここで「疑念の「そお～？」と呼ぶのは，他者からの情報提供に対して，これを受け入れようとしつつも疑念を表す際に発せられる「そう」である。つまり「本当にそうなのか。そうではないのではないか」という態度を表す」と述べている。ここで言う「「本当にそうなのか。そうではないのではないか」とい

²² 「そーー[↓↑]」のイントネーションは，1拍目から2拍目にかけては下降調で，2拍目から3拍目にかけては上昇調である。

う態度」とは、真偽判断の保留を行っていると考えてよいだろう。即ち、「そー[↓↑]」の発話時点で、発話者は先行発話の命題に対して真偽判断を完全には達成しておらず、保留していると考えられる。

4.1.9.2. 「え、そー[↓↑]」類

本節では、「え、そー[↓↑]」類について扱うが、本論文では「え、そー[↓↑]」しか現れていない。(62)を見られたい。

(62)

224JF108：あたし、甲子園に出てる子で一、坊主じゃないと応援しない。

225JF108：なんか<笑い>。

226JMB012：いやー、でもねー、結構最近坊主じゃないとこ多いよ。

227JF108：でしょー、私すごい許せない。

228JMB012：仙台育英とかさー、(うん、あ)強いけど(うん)坊主じゃないじゃん。

229JF108：すごいやだ。

230JF108：坊主にしろって思っちゃう<笑い>。

231JMB012：すごい珍しいと思うよ、それ。

232JF108：え、そう？。

233JMB012：本当に。

234JMB012：だって女の子ってあんまり、いないよね?坊主好きな子。

235JMB012：いる?。

236JF108：そう?。

237JF108：私坊主にしてほしい。

(62)²³では、232JF108 に二連鎖感動詞類「え、そう?」が現れている。ここでは、「え」の発話時点で、発話者 JF108 が、231JMB012 の発話内容の命題「すごい珍しいと思う、それ」にアクセスしている。「そう?」については、その発話時点で、発話者 JF108 はその命題に対して真偽判断の保留を行っている。「そう?」は聞き手への質問形式ではあるが、発話者自身の認知プロセスとしては真偽判断を確定していない状態であると考えられる。

4.1.9.3. 「あっ、そー[↓↑]」類

本節では、「あっ、そー[↓↑]」類について扱うが、本論文では「あっ、そー[↓↑]」しか現れていない。(63)を見られたい。

(63)

²³ 本論文では、疑念の「そう?」が「そー[↓↑]」と同一視する。

5JF067 : 食堂?。

6JF068 : うん、「食堂名」。

7JF067 : グリーンカレー出たんだ?。

8JF068 : そう、そう、なんかね、いつものグリーンスパにミートソ…、何??、(うん)グリーンスパに(うん)ミートソースを頼もうと思ったの。

9JF067 : うん。

10JF068 : “グリーンスパ今日は無くなっちゃったんですよ” ,,

11JF067 : えっ?。

12JF068 : って言って、“明日になったら来ます” ,,

13JF067 : あっ、そう?。

14JF068 : とか言って。

15JF067 : うん。

(63)では、13JF067 に二連鎖感動詞類「あっ、そう?」が現れている。ここでは、「あっ」の発話時点で、発話者 JF067 が、12JF068 の発話内容の命題「“明日になったら来ます”」にアクセスしている。「そう?」の発話時点で、発話者 JF067 はその命題に対して真偽判断の保留を行っている。

以上のことから、「あ、そー[↓↑]」類、「え、そー[↓↑]」類、「あっ、そー[↓↑]」類の二連鎖感動詞類も、「アクセス→真偽判断の保留」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

以上 4.1.1~4.1.9 より、①「あ」、「あっ」、「え」などのような感動詞類は「アクセス」という認知プロセスをモニターする、②「そー」、「うん」、「はい」などのような感動詞類は「真偽判断の確定」という認知プロセスをモニターする、③「あー」、「えー」、「うーん」、「うん[↑]」などのような感動詞類は「真偽の検討」という認知プロセスをモニターする、④「まー」、「そー[↓↑]」などのような感動詞類は「真偽判断の保留」という認知プロセスをモニターする、と考えられる。

4.1.10. 認知ユニットに関する仮説

日本語の考察をまとめると、二連鎖感動詞類を構成する感動詞類には、以下のように大きく4種類の認知プロセスが見られる。

- (64)①「A群」(「あ」、「え」、「あっ」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対するアクセスを行う。
- ②「B群」(「あー」、「うーん」、「えー」、「うん[↑]」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽の検討を行う。
- ③「C群」(「まー」、「そー[↓↑]」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の保留を行う。
- ④「D群」(「そー」、「うん」、「はい」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

また、これらの群は統語的な順序も決まっており、A群、B群の感動詞類は前項に位置し、D群の感動詞類は後項に位置している。ただし、C群は前項にも後項にも現れる。次に、4.1.1～4.1.9で扱った二連鎖感動詞類の統語的順序を表9に示す²⁴。

²⁴ 表9には、二連鎖感動詞類が同じ組み合わせである場合、1つのみ挙げる。

表9 日本語の二連鎖感動詞類の統語的順序

A群	B群	C群	D群	
あ		まー		
あ		そーー[↓↑]		
え				
あっ				
あ			そー	
			そーそー	
			そーそーそー	
			そーそーそーそー	
			そーそーそーそーそー	
			うん	
			うんうん	
			うんうんうん	
			うんうんうんうん	
			うんうんうんうんうん	
あっ			そー	
			そーそーそーそーそーそーそー	
			うんうんうんうん	
え			そー	
	うーん	まー		
	うん[↑]		うん	
	あー			そー
				そーそー
				そーそーそーそー
				そーそーそーそーそーそー
				うん
				うんうん
				うんうんうんうん
				はいはい
	はいはいはい			
	はいはいはいはい			
	あーあー			はいはいはい
	えー			うん
うーん			そーそー	
			うん	
			はいはい	
		まー	そーそーそーそー	
			うん	

表9に示した組み合わせをA群～D群で置き換えると、以下のようになる。

(65) 「A群, C群」「A群, D群」

「B 群, C 群」「B 群, D 群」

「C 群, D 群」

本論文が扱った会話データには、「A 群, B 群」の組み合わせが見当たらなかったが、「あ、うーん」、「あつ、えー」などは文法的に不自然ではないことが確認されている。以下の会話データを見られたい²⁵。

(66)

発話者 1: 夏休み, どこに行きたい?

発話者 2: あ, うーん

発話者 1: 沖縄はどー?

(67)

発話者 1: 最終レポートの締め切り, 来週よね

発話者 2: あつ, えー

発話者 1: 違うの?

そうすると、4 種類の群ではすべての組み合わせが許されることになる。

また、二連鎖感動詞類の認知プロセスは、単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序が決まっている。即ち、「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」という一連の認知プロセスがあると仮定できる。もちろん、各群は任意の要素であるため、そのうち 2 つの群の異なる感動詞類が現れれば二連鎖感動詞類となり、ある群の 1 つの感動詞類が現れれば単独感動詞類ということになる。また、二連鎖感動詞類における統語的位置としては、A 群, B 群は前項に現れているが、D 群は後項に現れている。C 群は前項にも後項にも現れている。

「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」という一連の認知プロセスは、真偽判断に関する認知的なマクロプロシージャ (macro procedure) のようなものなので、これを「認知ユニット」と捉え、以下のように定義する。

²⁵ (66), (67) は作例であるが、ネイティブチェックの結果、いずれも自然な発話であるとのことである。現時点で、「A 群, B 群」の組み合わせが見当たらなかったのは、おそらく、命題にアクセスする (A 群) 時点から、命題に対して真偽の検討を行う (B 群) 時点まで、わずかな時間しかないため、発話者の認知が言語形式として反映されない可能性があるからであろう。また、命題へのアクセスについては、A 群のみのプロセスとして書いているが、一度アクセスした後は、B, C, D 群においても継続していると考えられる。計算論的な立場では、命題へのアクセスがどの程度の時間や頻度で行われているか、もしくはアクセスではなくバッファーへの蓄積が行われているかなどについて議論すべきかもしれないが、ここでは保留する。

(68) 認知ユニット：

自然会話において二連鎖感動詞類が現れる場合、そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

ただし、本論文で仮定したのは真偽判断に関する認知プロセスだけである。そのため、これ以外の認知プロセスが存在するかどうか、またそれが存在したとして、認知ユニットを構成するかどうかについては現時点では不明である。従って、本論文では、(69)のように限定して認知ユニットを仮定する²⁶。

(69) 真偽判断に関する認知ユニット：

【アクセス (A 群) → 真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の保留 (C 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】

本論文では、(69)はデフォルトで肯定の真偽判断を行うものであると考える。二連鎖感動詞類だけからなるターンでは、先行発話の命題に対して、当該の発話者は、基本的には真と判断する²⁷。

(69)は本論文で扱った二連鎖感動詞類のすべてに適用されると考えられるが、一部例外とも捉えられるようなものも存在する。(70)を見られたい。

(70)

301JF069：一応ね、こう、なんか、フェンスみないのがあるけど、(うんうん)そんなのもう、
通り越してボンボン来てね、だからね、カコーンって、

302JF070：えっ?、すごい<笑い>。

303JF069：当たる。

304JF069：で、打っ倒れる子が続出するくらいの危険区域で(<笑い>)。

305JF069：で、こっちはね、なんかオーケストラ??。

306JF070：うん、あー。

307JF069：吹奏楽部の部屋で、もう、うるさくて、声も聞こえない、本当に<2人で笑い>。

(70)では、306JF070に「うん、あー」という発話が見れている。「うん」はD群、「あー」はB群であることから、「D群→B群」という認知プロセスの流れがあり、(69)に違反して

²⁶ 「真偽判断に関する認知ユニット」以外のものについては、今後の課題とする。また、認知ユニットは記号【 】で括って示す。

²⁷ BTSJ コーパスには、「え、ううん[否定]」という発話が見れている。しかし、当該データの音声が開示されていないため、「ううん」の音声を確認することができない。そのため、本当に否定しているかどうかについて保留する。なお、「あ、いいえ、違うよ」のような発話も想定でき、否定の真偽判断を行っていると考えられる。しかし、データが少ないし分析が十分ではないため、確証は得ていない。従って、否定の真偽判断に関する認知プロセスの考察については、今後の課題とする。

いるかのように見える。しかし、これは、【D 群→B 群】という認知ユニットではなく、D 群と B 群それぞれが別の認知ユニットを構成していると考えられる。即ち、「うん」によって最初の認知プロセスの流れが完了し、その次に「あー」によって新たな流れが始まっているのである。このことは、「【うん (D 群)】、【あー (B 群)】」と図示できる。

このような会話データとしては、ほかにも「うん、まー」、「そー、あの一」などが現れているが、いずれも(69)の仮説を崩すものではない。

4.1.11. 認知ユニットに関する仮説の検証

前節では、「真偽判断に関する認知ユニット」といった概念を仮定したが、この仮説をさらに支持するために、「反復」と「リセット」という現象から検証してみる。

4.1.11.1. 感動詞類の反復

二連鎖感動詞類を観察すると、しばしば反復現象が見られる。反復には、同じ形式の感動詞類が反復される場合と、前項と後項で同じ群の感動詞類が反復する場合とがある。

4.1.11.1.1. 同じ形式の反復

まず、「あーあー、はいはいはい」、「あー、そーそーそーそー」、「あ、うんうん」、「うーん、はーはー」などのような、同じ形式の感動詞類が反復される場合を取り上げる。以下、4.1.1~4.1.9 で挙げた同じ形式の感動詞類が反復されるデータを、表 10 にまとめて示す。

表 10 日本語の二連鎖感動詞類の同じ形式の反復

A群	B群	C群	D群	反復回数
あ			そーそー	2
	あー			
	うーん			
あ			そーそーそー	3
あ			そーそーそーそー	4
	あー			
		まー		
あ			そーそーそーそーそー	5
	あー		そーそーそーそーそーそー	6
あっ			そーそーそーそーそーそーそー	7
あ			うんうん	2
	あー			
あ			うんうんうん	3
あ			うんうんうんうん	4
あっ				
	あー			
あ			うんうんうんうんうん	5
あ			はいはい	2
	あー			
	うーん			
	あー		はいはいはい	3
	あーあー			
	あー		はいはいはいはい	4
あ			はいはいはいはいはい	5

表 10 を見ると分かるように、二連鎖感動詞類の後項で、「そー」、「うん」、「はい」の反復がよく見られる。「そー」が 2 回、3 回、4 回、5 回、6 回、7 回反復されている。「うん」が 2 回、3 回、4 回、5 回反復されており、「はい」も 2 回、3 回、4 回、5 回反復されている。これらはいずれも D 群の感動詞類である。二連鎖感動詞類の前項で、「あー」が 2 回反復されている「あーあー」も見られる。

D 群の感動詞類の頻度が圧倒的に高い理由としては、D 群が聞き手に渡さなければならぬ情報であるからであろう。真偽判断結果の情報を可能な限り確実に渡すために反復が行われるのではないかと考えられる²⁸。

²⁸ ここでは、D 群の感動詞類の反復の回数は発話者の肯定の強さと比例するようであるが、なぜ強く肯定する必要があるのか（前項の種類と関係があるのか）、なぜその回数でないといけないのか、という問題については保留する。また、日本語の語呂について、佐藤栄作(2014:6)は、「日本人の、五七五を心地良いと感じること、すなわち五七五を「律化」させる傾向」を指摘している。そのため、感動詞類の反復

4.1.11.1.2. 同じ群の反復

次に、同じ群に属する2つの感動詞類の反復を挙げる。以下の会話データを見られたい。

(71)

0334①F12：えっ，何？，未来を変えたいの？

0335①M11：えっ，いや，変えたいってゆーわけじゃなくて

0336①F12：でも，接触してるよね

0337①M11：あー，えーっと

0338①F12：やっぱ，〈こーいうのルールってさー〉（うん）

(71)では、二連鎖感動詞類「あー，えーっと」が現れている。「あー」，「えーっと」はいずれも先行発話の命題に対して真偽の検討を行っている。即ち，いずれもB群である。

次に，「うん」と「そー」からなるD群同士の反復を見られたい。

(72)

0166①F12：新宿？

0167①M11：あー [↓]

0168①F12：言の葉の庭やったっけ

0169①M11：あー [↑]，ゆーとったね

0170①F12：なんか，それをゆーとった気がする（うん），そーいうことでしょー

0171①M11：そー，そーいうこと，そーいうこと

0172①F12：楽しいね

0173①M11：いろいろ見てまわって

0174①F12：えー [↑]

0175①M11：うん

0176①F12：えっ，そーいう，なんか，さー（うん）私が，ハッ，ここで新選組がとかさー，
〈同じことだろー〉

0177①M11：〈うん，たぶん，そーいう〉，そーいう方向だとは思っとるよ

0178①F12：同じことや

0179①M11：うん，そー

0180①F12：あらまー

(73)

についても，「2・3・4・5」のリズムの心地良さなどが関連することも考えられるが，この点についても保留する。

199JF101 : <へー>{>}、早く決め、決まるといいのにね(ね)。

200JF101 : お店的にもね、みんなにも、ねえ。

201JFB028 : 本当だよね、いつ帰れつつうんだってね。

202JF101 : そうだよねー。

203JFB028 : 《沈黙 2 秒》でも **【**。

204JF101 : **】** 1 日 ‘ついたち’ だけ休みなんだっけ?

205JFB028 : うん、そう。

206JF101 : そうかー、頑張るねー。

(74)

242JF051 : やっぱり文型知らないの。

243JF052 : うん<うんうん>{<}。

244JF051 : <理解も>{>}できないんだけど、たぶん、そこまでの文型入ってない子が来るから…。

245JF052 : 揃わないね。

246JF052 : なかなか…。

247JF051 : でもそれで、それが「学校名 1」ってことが分かってきた。

248JF052 : まあね、<まあね>{<}。

249JF051 : <うん>{>}。

250JF052 : だからそれに対して **【**。

251JF051 : **】** あ、それもありなんだ。

252JF052 : うん=。

253JF052 : =それでも対応してやらなきゃいけないっていう環境だから、

254JF051 : うん、そう。

255JF052 : それ経験できたのは大きいよ、<やっぱり>{<}。

(72)~(74)では、二連鎖感動詞類「うん、そー」が現れている。「うん」、「そー」はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下している D 群同士である。

(75)

611JF096 : あのだって元彼とかにも言いたい放題だったよ、3 年付き合ったからさ。

612JF097 : あー、3 年も付き合ったら(ん)家族みたいなもんですくよね>{<}。

613JF096 : <そう>{>}そうそう、夫婦みたいだったもん。

614JF097 : <笑い>軽く?

615JF096 : うん、そうそう。

616JF097 : 軽く夫婦?=。

(76)

175JMB013 : <アメリカ人の>{>} あーいう気質には<合うのかなー>{<}。

176JM037 : <うんうん>{>}、たぶん=。

177JM037 : =そこにプロフェッショナリズムみたいのを感じる(あーあー)とやっぱりアメリカ人的には、そうなんじゃない?、うーん。

178JMB013 : みんなやんねんな、(うん)あれな。

179JM037 : そうそう、みんなやる。

180JMB013 : ガキの頃からやるんでしょ?。

181JM037 : うん、そうそうそう。

182JMB013 : すげーなー。

(77)

0315①F07 : 私キーボードしかやってなかったからペダルない、[笑]、ペダルない

0316①F08 : うん

0317①F07 : うん、キーボードだけのやつやから(うん)、あとピアノカ

0318①F08 : 私ペダル踏むのはうまかった、([笑]), ビンビンビンビン

0319①F07 : ペダル踏んだら、何なるの

0320①F08 : あのー、長音長くなるとか、あのー、ハウるハウる

0321①F07 : ピピ弦

0322①F08 : うん、そーそーそーそー

0323①F07 : うんー[↑↓]

(78)

121JF072 : でも、本当に、いや、本当に誰かから電話かかってきたと思って、,

122JF071 : そう、<私も>{<},,

123JF072 : <びっ>{>}くりした。

124JF071 : 急に切ったからさ、“誰?” と思ったけど、なんか。

125JF072 : <笑い>残念ながらそういうんじゃないです<笑い><笑い>。

126JF071 : なんだ、そうか。

127JF072 : うん。

128JF071 : えー、じゃあさ、これ…、あれ??、ちょっと待ってね。

129JF072 : うん。

130JF071 : こういうんだよね、開始日時とか。

131JF072 : <うん、そうそうそうそうそう>{<}。

132JF071 : <そう入れると、>{>}っていうんだよね。

(79)

130JF061 : あたしがちょうど図書館、「図書館名」図書館から出てきた時に(うん)、なんか掲示板に、こう、でかでかと(へー)、い、「1名退学処分にする<ことにしました>、とかって><{>。

131JF062 : <でもさでもさ><{>、(うん)あれ以来さ、「サークル名」あんまり報道されないじゃん。

132JF061 : うーん、<そうそう><{>。

133JF062 : <絶対><{>「大学名1」がさー、<出してるよね><{><笑い>。

134JF061 : <そう、「大学名1」><{>、あれね実はでも、けっこう「大学名2」もからんでるって<聞いたね、私は、うん><{>。

135JF062 : <うん、そうそう><{>そうそうそうそう<笑いながら>。

136JF061 : うん。

(75)~(79)では、前項で「うん」が発話されている。後項の「そー」が2回、3回、4回、5回、6回反復されている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下しているD群同士である。

次に、「そー」と「うん」からなるD群同士の反復を見られたい。

(80)

93JMB012 : こういう話ってしていいの?。

94JMB012 : いいの、いいかな。

95JMB012 : まあーの、医学的なことだからね。

96JMB012 : そう全然変なことじゃないから。

97JF108 : そうそう、うん<笑い>。

98JMB012 : 《沈黙 4秒》なんていうの、これ、玉があるじゃん(うんうんうんうん)、、

(81)

177JF051 : あー、今年夏休みどうやって過ごそうかな、と思って。

178JF052 : うん。

179JF051 : 《沈黙 3秒》考えてる場合ではないんだけど<2人笑い>。

180JF051 : 8月入ったらたぶんすごい焦ると思う。

181JF052 : そうそうそう、うん。

182JF052 : だから7月中のほうはまだ余裕ある<と思うんだよね><{>、、

(80)～(81)では、前項で「そー」が2, 3回反復されている。後項で「うん」が発話されている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下しているD群同士である。

次に、「うん」と「はい」、「うん」と「うんー」からなるD群同士の反復を見られたい。

(82)

123JMB011 : 俺「サークル名」の人とカラオケ行ったことないんだけどさ。

124JF107 : うそつき、一緒に行ったじゃんか<笑い>、こないだ。

125JMB011 : うんうん、これどうしようか<笑い>。

126JMB011 : や、けどだってあれは違うじゃん、あれ下見の時、の帰りでしょ??。

127JF107 : うん、はいはいはい。

128JMB011 : でー、たまたま渋谷だったからー、あ、カラオケの場所知ってるよって案内してたの(うんうんうん)。

(83)

0354①F12 : 私は(うん)、自分の過去とか、もーどうでもよくて

0355①M11 : うん

0356①F12 : マジで江戸時代とか行きたい

0357①M11 : あっ、そのレベル、< [笑]、あ、なるほどね>

0358①F12 : <マジで平安時代とかもいいね>ってゆー

0359①M11 : うん、うんー

0360①F12 : どんな感じなんやろー

(82)では、127JF107に二連鎖感動詞類「うん、はいはいはい」が現れている。(83)では0359①M11に二連鎖感動詞類「うん、うんー」が現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下しているD群同士である。

次に、「うんー」と「そー」からなるD群同士の反復を見られたい。

(84)

257JF062 : なんか、自分は、ここ以上入ってきてほしくない<レベルなんだけど>{<>, ,

258JF061 : <ないっていうの、うん、あるけどー>{<>}。

259JF062 : なんか、無神経に感じるぐらい(うん)、ずかずか入ってきてやだー<とか>{<>}。

260JF061 : <向こう>{<>}はね、それが当たり前だと思ってるからね>{<>}。

261JF062 : <そう、うんー>{<>}。

262JF062 : それで助かる部分もあるんだけどー(うんー)、なんか、自分的にはちょっときつかなって言うのがある(うん)、って言ってたからね。

(85)

71JF047 : っていうかね、お皿を洗うのね、あの、い、言うの忘れてたけど(うん)、けっこ
う大変で(うん)、割と遠いでしょ、<####>{<}。

72JF048 : <その洗い場####>{>}####ねく笑いながら>。

73JF047 : こう縦にみると、ちょっと後ろがこころへんにあるじゃん>{<}。

74JF048 : <うんー、そうそう>{>}。

75JF047 : で、洗い場ってここに<あるからー>{<}。

(84)では、261JF062 に二連鎖感動詞類「そう、うんー」が現れている。(85)では 74JF048 に二連鎖感動詞類「うんー、そうそう」が現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下している D 群同士である。

しかし、現時点では A 群や C 群同士の二連鎖感動詞類は現れていない。ただ、「あ、え」(いずれも A 群)、「ま、まー」(いずれも C 群)は不自然ではないため、すべての同群同士は反復できると考えられるだろう。このことから、次のように仮定する。

(86)二連鎖感動詞類の反復に関する条件：

同じ群に属する感動詞類は反復できる。

即ち、自然会話の中に現れる感動詞類が、単独感動詞類、二連鎖感動詞類のみならず、三連鎖感動詞類、四連鎖感動詞類、五連鎖感動詞類などのような「連鎖感動詞類」の存在が予測される²⁹。そして、連鎖感動詞類においては、いずれの場合も認知プロセスが流れていることも考えられるであろう。ここでは、反復現象により、認知プロセスに関する仮説は、自然会話においては、広く適用可能であると考えられ、群という概念の存在意義があると考えられる。

4.1.11.2. リセット感動詞類

真偽判断の認知ユニットの途中で、認知プロセスの流れがキャンセルされ、リセットされる(認知ユニットの開始段階に戻る)場合がある。以下の会話データを見られたい。

(87)

0005①M09 : 昨日さー、話したじゃん、パソコンのさー

0006①M10 : うんー

0007①M09 : マックがアップル(うんー)っていう会社で作ってるやつだね、で、サーフェス

²⁹ 三、四、五連鎖感動詞類とは、3つ、4つ、5つの異なる形式の感動詞類が連続するものである。「連鎖感動詞類」とは、異なる形式の感動詞類が連続するものの総称である。

はマイクロソフトというあのウィンドウズを作ってる会社が(うんー)作って
るよ、で、「人名1」さんが買ったさー、あの一、ごついタブレットあるじゃ
ん、富士通(うんー)、あれ富士通、あれ富士通ってゆー会社これはデルって
いう会社の、パソコン

0008①M10：富士通とかさー(うん)、ウィン、ウィンドウズをなんか、借り借りとるかたち
なん?

0009①M09：あ、え[↑]

0010①M10：マイクロソフト社から

0011①M09：あー[↓]、そーよね、そー、えーつとね、あの一、パソコンを構成するものと
してまずこの箱よね、機械よ

0012①M10：うん

(87)では、0009①M09に「あ、え[↑]」という発話が現れている。前項の「あ」はA群に属するが、後項の「え[↑]」は何であろうか。これは真偽判断をしているわけではなく、先行発話の命題が示す新情報を理解できなかった(取り損なった)ため、発話者①M09が発話者①M10に対し聞き直しているのである。それに対して、発話者①M10は「マイクロソフト社から」という情報を追加している。ここでは、「え[↑]」によって、発話権が①M09から①M10に変わる。そして、発話者①M09は、新情報を獲得し、0011①M09「あー[↓]、そーよね、そー」の発話時点で、真偽判断の確定を達成している。

以上のことから、「え[↑]」は新情報取得の失敗の標示であると考えられる。そして、これによって、発話者①M09は真偽判断の認知プロセスの流れを中断することになる。即ち、「え[↑]」は認知プロセスの流れを止め、最初に戻すという意味で、認知ユニット【あ】をリセットする機能を持っていると考えられる。このような機能を持つ感動詞類を「リセット感動詞類」と呼ぶことにする。

即ち、(87)の「あ、え[↑]」は「【A群】、リセット感動詞類」と表記できる。

「え[↑]」と同様の機能を持つと考えられる感動詞類に、「なんか」があると考えられる。(88)を見られたい。

(88)

0202①F02：今先輩って、何人行ってるん

0203①F01：3人

0204①F02：あー、知らんわ、誰が、えっ、会ったことがある

0205①F01：ない、(ね)なんか、LINEで、なんか、あれ、私のタンデムの前のパートナー知ってる?

0206①F02：あ、知ってる、知ってる

0207①F01：「人名13」

0208①F02：うん，なんか

0209①F01：あの子教えてくれて(えー)この先輩がスイスに行ってるよ今みたいな

0210①F02：マジで？，そんなんや

0211①F01：その先輩に今いろいろ聞いてるけど，ちょっと，不安すぎる(〔笑〕)，なんか，わりにも，スーパーがお腹がすいて，ドイツに買い物に行ってるみたいなー

(88)の 0208①F02 では，D 群「うん」によって，先行発話の命題「人名 13」に対する真偽判断は終了している。「なんか」の発話時に，新情報生成の検討(プランニング)を行っていると考えられる。そして，「なんか」によって，発話権が①F02 から①F01 に変わる。このように考えると，「なんか」はリセット感動詞類であると仮定できる。即ち，(88)の「うん，なんか」は「**[D 群]**，リセット感動詞類」と表記できる。

以上より，「え[↑]」，「なんか」は，真偽判断に関する認知ユニットとは別のものであることが分かる。即ち，リセット感動詞類は，真偽判断に関する認知プロセスの流れの途中に登場し，発話権交替と関わり，それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っている。このように仮定することによって，認知ユニットに関する仮説も維持できることになる³⁰。ただ，リセット感動詞類にどのようなものが属するののかについては，今後の課題である。

³⁰ リセットというからには，リセット感動詞の後ろで別の認知プロセスが開始されることが予測されるが，(87)，(88)ではいずれもリセット感動詞類で発話が終わっている(発話権の交替が起こっている)。リセット感動詞類の後ろに発話が続く場合については，第 5 章の考察を参照されたい。また，BTSJ コーパスにおいては，「え？，うん」，「あ？，えー」のような発話が見られる。ここでは，上昇調の「え[↑]」，「あ[↑]」がターン初頭に現れている。このような場合，「え[↑]」，「あ[↑]」にどのような機能が働いているのか，現時点では不明である。今後の課題とする。

4.1.12. まとめ

4.1 では、日本語の自然会話における二連鎖感動詞類だけで構成されるターンを対象とし、どのような種類の感動詞類が、どのような順序で連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで、二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を提示した。さらに、認知プロセスや認知ユニットといった概念の妥当性について、感動詞類の反復とリセット感動詞類を観察することによって検証した。その結果、以下のことが明らかになった。

- (89)①二連鎖感動詞類を構成する感動詞類には、4種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス (A 群)、真偽の検討 (B 群)、真偽判断の保留 (C 群)、真偽判断の確定 (D 群) によって構成されている。
- ②4種類の認知プロセスは、「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスを1つの認知ユニット (ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」) として仮定する。
- ③二連鎖感動詞類に2種類の反復 (同じ形式の反復と同じ群の反復) が見られる。同じ形式を複数反復する場合、後項で D 群のみが許される。前項と後項で反復する場合、同群同士の反復は許される。
- ④真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類「え[↑]」、「なんか」が存在する。「え[↑]」は新情報を理解できなかった (取り損なった) ことを、「なんか」は、新情報生成の検討 (プランニング) を行っていることを標示する。

4.2. 中国語の考察

本節では、データIVを利用し、中国語の自然会話に現れる 1 ターンの二連鎖感動詞類について観察していく。

4.2.1. 「啊, ~」(あ, ~) 類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「啊」(あ) がくるもの、即ち「啊, 对」(あ, そー) 類, 「啊, 嗯—— [↑↓]」(あ, うん—— [↑↓]) 類を扱う。

4.2.1.1. 「啊, 对」(あ, そー) 類

本節では、「啊, 对」(あ, そー) 類を扱うが、本論文では「啊, 对」(あ, そー) は現れておらず、「啊, 对对」(あ, そーそー), 「啊, 对对对」(あ, そーそーそー) などが現れている。まず、「啊, 对对」(あ, そーそー) について考察する。

(90)

0518◎M16: 嗯, 嗯, 我觉得没必要非得考上什么好的大学

うん, うん, いー大学を目指す必要がないと思うよ

0519◎M17: 嗯, 关键不是我挑, 是他们挑, 因为现在三本学校他都挑, 挑博士, 要求你这要求你那

うん, 問題は私じゃなくて, 向こーが選り好みしているよ, 今は三流大学までも, 博士を選り好みするよ, 結構厳しー

0520◎M16: 全日制必须是一流高校

全日制なら必ず一流大学ね

0521◎M17: 啊, 对对

{a, dui dui}

あ, そーそー

0522◎M16: <然后博士学校>要去全球前几百的

<それで博士課程の学校は>世界のトップぐらい

(90)では、0521◎M17に二連鎖感動詞類「啊, 对对」(あ, そーそー) が現れている。ここでの「啊」(あ) と「对对」(そーそー) は、どのような意味・機能を持っているのだろうか。また、なぜ両者が組み合わさっているのだろうか。

「啊」について、劉月華(1992:187)は「喜びや楽しい気持ちをあらわす」と述べている。また、「对」について、黄麗華(2002:47)は、「相手が示した判断が妥当であると認定する「そう(です)」のタイプ」であるとしている。

ここで(90)を見ると、この前項「啊」(あ) の発話時に発話者◎M17 が「喜びや楽しい気持ち」を表しているとは考えられない。「啊」(あ) の発話時では、発話者は、先行発話の「全

日制必須是一流高校」(全日制なら必ず一流大学)という命題についてアクセスしているのではなかろうか。そのうえで、発話者◎M17が「対対」(そーそー)という発話によって、その命題を肯定している。即ち、「対対」(そーそー)の発話時点で、発話者は先行発話の命題に対して真偽判断の確定を行っている。つまり、「啊, 対対」(あ, そーそー)全体が1つの応答トークンを構成しているのではなかろうか。そう考えると、「アクセス」, 「真偽判断の確定」は、それぞれ1つの認知プロセスと仮定できるだろう。

次に、「啊, 対対対」(あ, そーそーそー)について考察する。

(91)

0269◎M17: 其实理学部还有个老师, 「国名2」人老师

実は理学部にも先生がいる, 「国名2」人の先生

0270◎M16: <「人名10的姓」, 「人名10」>

<「人名10の姓」, 「人名10」>

0271◎M17: 啊, 对对对

{a, dui dui dui}

あ, そーそーそー

0272◎M16: <「人名10的姓」, 「人名10」>

<「人名10の姓」, 「人名10」>

(91)では、0271◎M17に二連鎖感動詞類「啊, 对对对」(あ, そーそーそー)が現れている。ここでは、「啊」(あ)の発話時点で、発話者◎M17が、0270◎M16の「「人名10的姓」, 「人名10」という命題についてアクセスしている。そのうえで、発話者◎M17が「对对对」(そーそーそー)という発話によって、その命題を肯定している。

次に、「啊, 对对对对对」(あ, そーそーそーそーそー)について考察する。

(92)

0295◎F09: 然后, 而且那次参加的人特别少, 就是, 感觉一点

そして, そのとき参加する人もめっちゃ少なかった, なんか, ほんの少しだったよ

0296◎F10: 就是因为过了那个时间了

それは遅かったからね

0297◎F09: 对, 因为过了那个时间了, 而且又不能穿浴衣了那时候

そー, 遅かったからね, 特に浴衣を着ることもできなかつたね

0298◎F10: 啊, 对对对对对

{a, dui dui dui dui dui}

あ, そーそーそーそーそー

0299◎F09：但是今年的话应该会，就是夏天的话，大家穿浴衣的人会很多嘛，然后「人名 4 的名」姐说这次她要（〔咳〕）回来穿浴衣〔笑〕,她说她上次没有穿到
今年ならたぶん，なんか夏なら，浴衣を着る人が多いかもね，そして「人名 4 の名」さんは今回帰って（〔咳〕）浴衣を着るって〔笑〕，前回着られなかったって言ったよ

(92)では，0298◎F10 に二連鎖感動詞類「啊，对对对对对」（あ，そーそーそーそーそー）が現れている。ここでは，「啊」（あ）の発話時点で，発話者◎F10 が，0297◎F09 の「因为过了那个时间了，而且又不能穿浴衣了那时候」（遅かったから，特に浴衣を着ることもできなかった）という命題についてアクセスしている。そのうえで，発話者◎F10 が「对对对对对」（そーそーそーそーそー）という発話によって，その命題を肯定している。

以上から，「啊，对」（あ，そー）類の場合，以下のような仮説が立てられる。

(93) 「啊，对」（あ，そー）類についての仮説：

後項が「对」（そー）（「对」（そー），「对对」（そーそー）のような「对」（そー）「そー」の反復形など）である二連鎖感動詞類の場合，前項の「啊」（あ）が発話された時点で，発話者は，先行発話の命題にアクセスしている。そのうえで，後項によって，その命題を新情報として肯定的に導入している。

ここでは，発話者が先行発話の命題にアクセスしたとほぼ同時に，感動詞類が（無意識に）発話されているのである。アクセスが行われたことを示す発話（モニターの発話）とも言えよう。そして，後項はその命題に対して「真偽判断」をしているのである。つまり，「啊，对」（あ，そー）類の二連鎖感動詞類は，「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる³¹。

以上のように考えてくると，後項に「对」（そー）類以外で真偽判断を表す感動詞類がくる二連鎖感動詞類を観察する必要性が生じてくる。そこで次に，「啊，嗯——〔↑↓〕」（あ，うん——〔↑↓〕）類の二連鎖感動詞類を観察する³²。

4.2.1.2. 「啊，嗯——〔↑↓〕」（あ，うん——〔↑↓〕）類

本節では，「啊，嗯——〔↑↓〕」（あ，うん——〔↑↓〕）類について扱うが，本論文では「啊，嗯——〔↑↓〕」（あ，うん——〔↑↓〕）しか現れていない。

³¹ 「啊，对了」（あ，そーだ），「啊，对呀」（あ，そーね）などという発話も現れている。「对」（そー）の直後に「了」（だ），「呀」（ね）などがくる場合，「对」（そー）は感動詞類の機能をもっていないように見える場合がある。そのため，本論文では，このような発話は，二連鎖感動詞類として取り扱わない。

³² 「嗯——〔↑↓〕」（うん——〔↑↓〕）のイントネーションは，1 拍目から 2 拍目にかけては上昇調で，2 拍目から 3 拍目にかけては下降調である。

(94)

0152◎M14 : CSR, 嗯, 你知道这个吗?

CSR, うん, 知ってるの?

0153◎F15 : 我听说过

聞いたことがあるよ

0154◎M14 : 你听说过

聞いたことがあるのね

0155◎F15 : 对

そー

0156◎M14 : 就企业的, 社会责任报告书啊

企業の, 社会的責任報告書でしょー

0157◎F15 : 对, 我听说, 因为我看那个好像, 好像你这么一说, 好像就是那个企业发的那个
パンフレット ‘panfuretto’ 的时候, 那个上面写的

そー, 聞いたよ, なんかそれみたい, さっき言ったように, その企業が配った
パンフレットの中に, 書いてあるんだよ

0158◎M14 : 啊, 嗯—— [↑↓]

{a, en:}

あ, うん—— [↑↓]

0159◎F15 : 那种东西

それね

(94)では, 0158◎M14 に二連鎖感動詞類「啊, 嗯—— [↑↓]」(あ, うん—— [↑↓]) が現れている。ここでは, 「啊」(あ)の発話時に発話者◎M14 が 0157◎F15 の発話内容の「好像你这么一说, 好像就是那个企业发的那个パンフレット ‘panfuretto’ 的时候, 那个上面写的」(さっき言ったように, その企業が配ったパンフレットの中に, 書いてある)という命題にアクセスしている。しかし, 「嗯—— [↑↓]」(うん—— [↑↓])は, どのような機能をもっているのだろうか。

黄麗華(2002:47)は, 「嗯」は「相手の発話の受け入れを表す「はい、ええ、うん」のタイプ」と述べている。つまり, 「嗯」(うん)は「对」(そー)と同様, その発話時に発話者が先行発話の命題に対する真偽判断の確定を行っていると考えられる。

ここでは, 「嗯—— [↑↓]」(うん—— [↑↓])のイントネーションは, 1拍目から2拍目にかけては上昇調で, 2拍目から3拍目にかけては下降調である。おそらく, 「嗯—— [↑↓]」(うん—— [↑↓])は「嗯」(うん)と同じように, その発話時に発話者が先行発話の命題に対して真偽判断をしているのである。つまり, 「啊, 嗯—— [↑↓]」(あ, うん——

[↑↓] 類の二連鎖感動詞類も「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.2.2. 「哦, ~」(あ, ~) 類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「哦」(あ) がくるもの、即ち「哦, 嗯」(あ, うん), 「哦, 也对」(あ, まー) 類, 「哦, 也是」(あ, まー) を扱う。

4.2.2.1. 「哦, 嗯」(あ, うん) 類

本節では、「哦, 嗯」(あ, うん) 類について扱うが、本論文では「哦, 嗯」(あ, うん) しか現れていない。(95)を見られたい。

(95)

0087©F07 : <非常好笑>

<面白いね>

0088©F08 : <然后>第二天去苍山 (嗯), 那天下大雨 [笑], 那种大雨就是苍山特别冷 (哦, 嗯), 苍山上超级冷, 就冷到那种要穿棉袄的冷, 然后那种狂风大作, 然后马上就要就是下狂风暴雨的那种 (嗯), 我们还是就坚持着去到了山顶

{o, en}

<そして>翌日に蒼山に行った (うん), その日大雨で [笑], そんな大雨で蒼山はめっちゃ寒かった (あ, うん), 蒼山はめっちゃ寒いよ, その寒さはダウンを着る必要があるよ, でね風が激しく吹きまくって, そしても一すぐ暴雨が降りそうだった (うん), 私たちは, 山頂まで頑張って登ったよ

0089©F07 : 嗯ー

うーん

(95)では、0088©F08 の発話の中に、発話者©F07 のあいづちである二連鎖感動詞類「哦, 嗯」(あ, うん) が現れている。ここでの「嗯」(うん) の発話時に発話者©F07 が先行発話の命題「那天下大雨, 那种大雨就是苍山特别冷」(その日大雨で, そんな大雨で蒼山はめっちゃ寒かった) に対して肯定の真偽判断を下している。しかし、「哦」(あ) は、どのような機能をもっているのだろうか。

「哦」(あ) について、劉月華(1992:188)は、「はっと悟ったり, 会得したことをあらわす」と述べている。ここでは、前項の「哦」(あ) の発話時に発話者©F07 が先行発話の命題に対して、「はっと悟ったり, 会得した」とは考えられない。そのため、ここでは、「哦」(あ) の発話時に発話者©F07 が先行発話の命題へアクセスしたことを表していると考えられる。

このように、「哦」(あ) は、「啊」(あ) と同様の働きをしており、その発話時に発話者が直前の命題に対するアクセスのみを行っている。つまり、「哦, 嗯」(あ, うん) 類の二連鎖

感動詞類も「アクセス→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.2.2.2. 「哦，也对」（あ，ま一）類

本節では、「哦，也对」（あ，ま一）類を扱うが，本論文では「哦，也对」（あ，ま一）しか現れていない³³。(96)を見られたい。

(96)

0093◎F01：但是你看你看，如果像有那种资格证书，（嗯）会不会简单一点

でもねー，その資格証があれば，（うん）就職の時に少し有利になるかなー

0094◎F02：嗯ー，也不一定吧，我觉得是分公司的要求吧

うーん，そーじゃないかも，会社の要求によるかなー

0095◎F01：公司的要求

会社の要求

0096◎F02：就是不一定，好比你拿了很多证书，但（嗯）对于这个公司来说你并不是我们想要的人才，只能，<就是这些>证书只能证明你一个学习的能力（嗯），不能证明你工作的能力（嗯）

簡単じゃないよ，例えば，たくさんの資格証を持っているけど，（うん）企業に必要な人材じゃない，ただ，<なんかこれらの>資格証はただ学習能力は証明するけど（うん），仕事の能力を証明することはできないよ（うん）

0097◎F01：<哦，也对>

{o, ye dui}

<あ，ま一>

0098◎F02：还有就是，有一些工作的话，嗯ー [↓]，就是要求很，很，很高，就像是营业，并不是什么样的人都能做的

あとその，例えばほかの仕事，うんー [↓]，なんか要求，とても厳しい，営業みたい，誰でもできる仕事じゃない

(96)では，0097◎F01 に二連鎖感動詞類「哦，也对」（あ，ま一）が現れている。ここでの「哦」（あ）の発話時に発話者◎F01 が，先行発話 0096◎F02 の命題「对于这个公司来说你并不是我们想要的人才」（企業に必要な人材じゃない）へのアクセスを表したものである。そのうえで，発話者◎F01 が「也对」（ま一）という発話によって，直前の命題の真偽について判断していると考えられる。

³³ 本論文では、「也对」は副詞の「也」と感動詞類「对」からなる 1 つの感動詞類と考える。「对」より，肯定応答の度合いが低い。

しかし、「也对」(ま一)は「对」(そ一)のように真偽判断に完全には達成しておらず、保留していると考えられる。なぜなら、0097◎F01の発話は0096◎F02の発話の途中に現れているからである。即ち、0097◎F01の発話時には、聞き手の◎F02の情報を完全には獲得していないため、最終的な真偽判断を示すことができていないことを表しているのである。つまり、「也对」(ま一)の発話時に、発話者◎F01はその命題に対する真偽判断を完全には達成しておらず、保留している。

また、同様の働きをするものとして「哦，也是」(あ，ま一)も観察された。

4.2.2.3. 「哦，也是」(あ，ま一)類

本節では、「哦，也是」(あ，ま一)類を扱うが、本論文では「哦，也是」(あ，ま一)しか現れていない³⁴。(97)を見られたい。

(97)

0465◎M17：而且我们都有电话，你为什么不提前打电话通知

そして私たちは連絡方法もあるのに、なぜ事前に電話をかけてくれないんだ

0466◎F18：哦，也是

{o, ye shi}

あ，ま一

0467◎M17：你想确定你直接打电话不完了

確認したいなら電話で済むじゃん

(97)では、0466◎F18に二連鎖感動詞類「哦，也是」(あ，ま一)が現れている。ここでの「哦」(あ)は、前述のように、発話者◎F18が、先行発話の命題「而且我们都有电话，你为什么提前打电话通知」(そして私たちは連絡方法もあるのに、なぜ事前に電話をかけてくれない)に対するアクセスを行っている。また、後項の「也是」(ま一)の発話時に、発話者◎F18はその命題に対する真偽判断を完全には達成しておらず、保留している。

以上より、「也对」(ま一)、「也是」(ま一)は、「アクセス」、「真偽判断の確定」とは異なる、「真偽判断の保留」といった認知プロセスを仮定する必要があるだろう。つまり、「哦，也对」(あ，ま一)類、「哦，也是」(あ，ま一)類の二連鎖感動詞類も、「アクセス→真偽判断の保留」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.2.3. 「啊一，～」(あ一，～)類

ここでは、「啊」(あ)の長音形である「啊一」(あ一)が前項になる二連鎖感動詞類、即ち「啊一，对」(あ一，そ一)類を扱う。

³⁴ 本論文では、「也是」は副詞の「也」と感動詞類「是」からなる1つの感動詞類と考えている。「是」より、肯定応答の度合いが低い。

4.2.3.1. 「啊一，对」（あ一，そ一）類

本節では、「啊一，对」（あ一，そ一）類について扱うが，本論文では「啊一，对对对」（あ一，そ一そ一そ一）しか現れていない。(98)を見られたい。

(98)

0003◎F01：坐，〈[笑]〉

座って，〈[笑]〉

0004◎F02：〈因为外面太阳太大了〉

〈日ざしが強すぎるから〉

0005◎F01：对呀，我天天早上，早上出门的时候抹一身防晒，然后走到，走到学校，因为捂得特别严实，你上次见我

そ一ね，毎朝，朝出かけるときに日焼け止めクリームを全身に塗る，で歩いて，歩いて学校に行く，全身をびったりと覆っていった，前回会った時ね

0006◎F02：啊一，对对对 [笑]

{a:, dui dui dui}

あ一，そ一そ一そ一 [笑]

0007◎F01：[笑]

[笑]

(98)では，0006◎F02 に二連鎖感動詞類の「啊一，对对对」（あ一，そ一そ一そ一）が現れている。後項の「对对对」（そ一そ一そ一）の発話時点で，発話者◎F02 は，0005◎F01 の命題「因为捂得特别严实，你上次见我」（全身をびったりと覆っていった，前回会った時）に対して肯定の真偽判断を下している。前項の「啊一」（あ一）の発話時に，発話者◎F02 が音声を伸ばし，その命題の真偽の検討を行っていると考えられる。つまり，「啊一」（あ一）は，「アクセス」，「真偽判断の保留」，「真偽判断の確定」とは異なる，「真偽の検討」といった認知プロセスを仮定する必要があるだろう。つまり，「啊一，对」（あ一，そ一）類の二連鎖感動詞類が，「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

同様の機能を持っている感動詞類として，「哦」（あ）の長音形である「哦一」（あ一）がある。

4.2.4. 「哦一，～」（あ一，～）類

ここでは，二連鎖感動詞類の前項に「哦一」（あ一）がくるもの，即ち「哦一，对」（あ一，そ一）類を扱う。

4.2.4.1. 「哦ー，对」(あー，そー)類

本節では、「哦ー，对」(あー，そー)類について扱う。まず、「哦ー，对」(あー，そー)について考察する。(99)を見られたい。

(99)

0020◎F10：难道是因为热的吗？，热的没有睡着

もしかして暑いからなの？，暑くて寝れなかった

0021◎F09：[舌] 但，但是我觉得也不可能呐，我觉得我应该不会热的睡不着觉的那种情况吧，

但现在也不至于开空调吧，晚上

[舌] け，けど不可能だと思うよ，暑くて寝れないことなんかありえないよ，今ならエアコンを入れる必要がないじゃん，夜

0022◎F10：[笑] 哦ー，对

{o:, dui}

[笑] あー，そー

0023◎F09：你开了吗？

入れたの？

(99)では、0022◎F10 に二連鎖感動詞類の「哦ー，对」が現れている。後項の「对」(そー)の発話時点で、発話者◎F10 は、0021◎F09 の命題「但现在也不至于开空调，晚上」(今ならエアコンを入れる必要がない，夜) に対して肯定の真偽判断を下している。前項の「哦ー」(あー) の発話時に、発話者◎F10 は、先行発話の命題に対する真偽の検討を行っている。次に、「哦ー，对对对」(あー，そーそーそー) について考察する。

(100)

0161◎F07：对，明天还要去看，ホタル‘hotaru’的祭り‘matsuri’

そー，明日見に行くよ，ホタル祭り

0162◎F08：哦ー，<对对对>

{o:, dui dui dui}

あー，<そーそーそー>

0163◎F07：< [舌] 我真的>很期待耶

< [舌] 本当に>楽しみにしているよ

(100)では、0162◎F08 に二連鎖感動詞類の「哦ー，对对对」が現れている。後項の「对对对」(そーそーそー) の発話時点で、発話者◎F08 は、0161◎F07 の命題「明天还要去看，ホタル‘hotaru’的祭り‘matsuri’」(明日見に行く，ホタル祭り) に対して肯定の真偽判断を

下している。前項の「哦ー」（あー）の発話時には、発話者◎F08 が、先行発話の命題に対する真偽の検討を行っている。

以上のことから、「哦ー，对」（あー，そー）類の二連鎖感動詞類も、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.2.5. 「嗯ー，～」（うーん，～）類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「嗯ー」（うーん）がくるもの、即ち「嗯ー，也是」（うーん，まー）類を扱う。

4.2.5.1. 「嗯ー，也是」（うーん，まー）類

本節では、「嗯ー，也是」（うーん，まー）について扱うが、本論文では「嗯ー，也是」（うーん，まー）しか現れていない。(101)を見られたい。

(101)

0153◎M17：然后毕业的时候「地名1」工资特别低，我也想我这4年也是浪费，我说干脆学日语出国吧

そして卒業した時には「地名1」は賃金が結構安くて、4年間も無駄になってしまふと思って、思い切って留学して日本語を身につけようと考えたよ

0154◎M16：嗯

うん

0155◎M17：可能有什么〔舌〕

たぶん何かがあるかもね〔舌〕

0156◎M16：会好一点

いーかもね

0157◎M17：稍微好的机会或者是把本专业锻炼锻炼

いーチャンス，あるいは専門知識を深める

0158◎M16：嗯ー，也是

{en:, ye shi}

うーん，まー

0159◎M17：但实际上来「国名1」也是耽误了很长时间

でもね実は「国名1」で結構時間を無駄にってしまったよ

(101)では、0158◎M16に二連鎖感動詞類の「嗯ー，也是」（うーん，まー）が現れている。後項の「也是」（まー）の発話時点で、発話者◎M16は、0157◎M17の命題「稍微好的机会或者是把本专业锻炼锻炼」（いーチャンス，あるいは専門知識を深める）に対して真偽判断の保留を行っている。前項の「嗯ー」（うーん）の発話時には、発話者◎M16が、先行発話

の命題に対する真偽の検討を行っている。つまり、「嗯ー，也是」（うーん，まー）類の二連鎖感動詞類は、「真偽の検討→真偽判断の確定」という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

4.2.1～4.2.5 より，①「啊」（あ），「哦」（あ）などのような感動詞類は「アクセス」という認知プロセスをモニターする，②「也对」（まー），「也是」（まー）などのような感動詞類は「真偽判断の保留」という認知プロセスをモニターする，③「对」（そー），「嗯」（うん），「嗯ー [↑↓]」（うんー [↑↓]）などのような感動詞類は「真偽判断の確定」という認知プロセスをモニターする，④「啊ー」（あー），「哦ー」（あー），「嗯ー（うーん）」などのような感動詞類は「真偽の検討」という認知プロセスをモニターする，と考えられる。

4.2.6. 認知ユニットに関する仮説

中国語の考察をまとめると、二連鎖感動詞類を構成する感動詞類には、以下のように大きく4種類の認知プロセスが見られる。

- (102)①「A群」(「啊」(あ),「哦」(あ)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対するアクセスを行う。
- ②「B群」(「啊ー」(あー),「哦ー」(あー),「嗯ー」(うーん)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽の検討を行う。
- ③「C群」(「也对」(まー),「也是」(まー)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の保留を行う。
- ④「D群」(「对」(そー),「嗯」(うん),「嗯ー [↑↓]」(うんー [↑↓])など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

また、これらの群は統語的な順序も決まっており、A群、B群の感動詞類は前項に位置し、C群、D群の感動詞類は後項に位置している。次に、4.2.1~4.2.5で扱った二連鎖感動詞類の統語的順序を表11に示す。

表11 中国語の二連鎖感動詞類の統語的順序

A群	B群	C群	D群
哦		也对	
		也是	
啊			对对
			对对对
			对对对对对
			嗯ー [↑↓]
哦			嗯
	嗯ー	也是	
	哦ー		对
	啊ー		对对对
			对对对

表11に示した組み合わせをA群~D群で置き換えると、以下のようになる。

- (103)「A群, C群」「A群, D群」
「B群, C群」「B群, D群」

本論文が扱った会話データには、「A 群, B 群」, 「C 群, D 群」の組み合わせが見当たらなかったが、筆者の内省によると、「啊, 嗯ー」(あ, うーん) (A 群, B 群), 「也是, 对对对」(まー, そーそーそー) (C 群, D 群) などは文法的に不自然ではないことが確認されている。以下の会話データを見られたい³⁵。

(104)

発話者 1: 暑假, 想去哪里?

夏休み, どこに行きたい?

発話者 2: 啊, 嗯ー

{a, en:}

あ, うーん

発話者 1: 冲绳怎么样?

冲縄はどー?

(105)

発話者 1: 一早去, 不用排队

朝早く行けば, 列に並ばなくてもいい

発話者 2: 也是, 对对对

{ye shi, dui dui dui}

まー, そーそーそー

発話者 1: 那明天早上 6 点出发吧

じゃ, 明日 6 時に出発しよー

そうすると、4 種類の群ではすべての組み合わせが許されることになる。

また、二連鎖感動詞類の認知プロセスは、単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序が決まっている。即ち、「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」という一連の認知プロセスがあると仮定できる。もちろん、各群は任意の要素であるため、そのうち 2 つの群の異なる感動詞類が現れれば二連鎖感動詞類となり、ある群の 1 つの感動詞類が現れれば単独感動詞類ということになる。また、二連鎖感動詞類における統語的位置としては、A 群, B 群は前項に現れているが、D 群は後項に現れている。

³⁵ (104), (105)は作例であるが、ネイティブチェックの結果、いずれも自然な発話であるとのことである。現時点で、「A 群, B 群」の組み合わせが見当たらなかったのは、おそらく、命題にアクセスする (A 群) 時点から、命題に対して真偽の検討を行う (B 群) 時点まで、わずかな時間しかないため、発話者の認知が言語形式として反映されない可能性があるからであろう。また、「C 群, D 群」の組み合わせが見当たらなかったのは、おそらく、真偽判断の保留 (C 群) と真偽判断の確定 (D 群) が「真偽判断を下す」という 1 つの認知プロセスにまとめられる可能性があるからかもしれない。

従って、中国語自然会話における 1 ターンの二連鎖感動詞類について、日本語と同様の「真偽判断に関する認知ユニット」を仮定することができる。以下のように再掲する。

(106)真偽判断に関する認知ユニット：

【アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)】

4.2.7. 認知ユニットに関する仮説の検証

前節では、「真偽判断に関する認知ユニット」といった概念を仮定したが、この仮説をさらに支持するために、「反復」と「リセット」という現象から検証してみる。

4.2.7.1. 感動詞類の反復

二連鎖感動詞類を観察すると、しばしば反復現象が見られる。反復には、同じ形式が反復される場合と、前項と後項で同じ群の感動詞類が反復される場合とがある。

4.2.7.1.1. 同じ形式の反復

まず、「啊，对对」(あ，そーそー)、「啊，对对对」(あ，そーそーそー) などのような同じ形式の感動詞類が反復される場合である。以下，4.2.1～4.2.5 で挙げた同じ形式の感動詞類が反復されるデータを表 12 にまとめて示す。

表 12 中国語の二連鎖感動詞類の同じ形式の反復

A群	B群	C群	D群	反復回数
啊			对对	2
啊			对对对	3
	哦—			
	啊—			
啊			对对对对对	5

表 12 を見ると分かるように、二連鎖感動詞類の後項で、「对」(そー)の反復がよく見られる。D 群の「对」(そー)が 2 回、3 回、5 回反復されている。

D 群の感動詞類の頻度が圧倒的に高い理由としては、D 群が聞き手に渡さなければならぬ情報であるからであろう。真偽判断結果の情報を可能な限り確実に渡すために反復が行われるのではないかと考えられる。

4.2.7.1.2. 同じ群の反復

次に、同群に属する 2 つの感動詞類の反復を挙げる。以下の会話データを見られたい。

(107)

- 0211©F01 : 再起来做做饭吃吃饭, 我觉得我做饭吃饭最起码要
起きたりご飯を作ったり食べたりするね, なんかご飯を作ったり食べたりする
のは少なくとも
- 0212©F02 : 一天就没了
1日かかる
- 0213©F01 : 两个小时
2時間
- 0214©F02 : 对对对, 我也是
そーそーそー, 私も
- 0215©F01 : 嗯, 然后就是觉得, 好浪费时间一上午就 (对对对), 特别是现在天热, 做做饭
吃吃饭一看十一, 二点了
うん, なんか, 朝の時間の無駄ね (そーそーそー), 特に今暑いし, ご飯を作っ
たり食べたりすると一11, 12時になってしまう
- 0216©F02 : 午睡了 (笑), 该午睡了
昼寝 [笑], 昼寝の時間だ
- 0217©F01 : 嗯, (笑) ([笑]), 一天一上午就那么过去了, 你再午睡一会, <真的就过去了>
うん, [笑] ([笑]), 朝過ぎちゃって, 昼寝して, <本当に過ぎちゃった>
- 0218©F02 : <嗯, 对>
{en, dui}
<うん, そー>
- 0219©F01 : 别说来学校了, 你家门都不出一步的
学校に行くのはなおさら, 部屋から一步も離れない

(108)

- 0027©F01 : 20 瓶防晒也太夸张了吧, <1 年>
20 本の日焼け止めのクリームは多すぎるね, <1 年>
- 0028©F02 : <20 多瓶>
<20 本以上>
- 0029©F01 : 1 年还差不多, 还是整个夏天?
1 年なら, まーたぶん, ある, もしかして一夏?
- 0030©F02 : 我也忘了其实, 是整个夏天吧, 感觉
忘れちゃった実は, 一夏かなー, なんか
- 0031©F01 : 她们就是特别注意防晒
彼女たちは本当に日焼けに注意してるね

0032◎F02 : 嗯, 对

{en, dui}

うん, そー

0033◎F01 : 说是防晒, 紫外线容易让人变得衰老

なんか日焼け止め, 紫外線は人を老化させるね

(109)

0059◎F03 : 我, 我们可以, 你看酒它是个什么玩意儿, 就是我喝那红酒就是果实酒, 对不对?

ワ, 私たちね, お酒ってどんなものでしょー, あの私が飲んだワインは果実酒よね, そーでしょー

0060◎F04 : <嗯—>

<うん—>

0061◎F03 : <它是>果实发酵产生了一种物质, 产生了酒精这个物质

<それ>果実を発酵させた1種のものね, アルコールね

0062◎F04 : 就是<它很健康>〔笑〕

なんか<とても健康だよ>

0063◎F03 : <它并没有>, 并没有这个化学, 那种化学酒精<不是那样的>

<特にない>, 化学的なものは特にない, 化学的なアルコール<じゃないよ>

0064◎F04 : 嗯, <对对>

{en, dui dui}

うん, <そーそー>

0065◎F03 : 所以<我觉得喝那种果实酒>, 挺好的

だから<その果実酒を飲むのが>, めっちゃいいじゃん

(107)~(109)では、「嗯」(うん)と「对」(そー), 「对对」(そーそー)からなる二連鎖感動詞類とが現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下しているD群同士である。

(110)

0337◎F03 : 在「国名4」就没有见过〔笑〕, 很

「国名4」では見たことない, [笑], とても

0338◎F04 : 长得很好看的女生, <就觉得>

きれいな女の子のこと, <なんか>

0339◎F03 : <不是长得>

<顔じゃない>

0340◎F04 : 让人有眼前一亮<那种感觉>

明るい<雰囲気>

0341©F03 : <嗯ー [↓]>, 对

{en:, dui}

<うんー [↓]>, そー

0342©F04 : 你说<尤其是>「国名 4」女生

ね<特に>「国名 4」の女の子

(110)では、「嗯ー [↓]」(うんー [↓])と「对」(そー)からなる二連鎖感動詞類が現れている。いずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下している D 群同士である。

次に、「对」(そー)と「是」(は一)からなる D 群同士の反復を見られたい。

(111)

0283©F03 : 他们对, 那一代人对这个「国名 1 的旧称」什么很有好感的

彼らは, 彼らの時代は「国名 1 の旧称」に好感を持ってるね

0284©F04 : <对, 是>

{dui, shi}

<そー, はい>

0285©F03 : <「国名 2」>跟「国名 1 的旧称」很亲近

<「国名 2」>と「国名 1 の旧称」は仲がいーよね

(111)では、前項で「对」(そー)が発話されており、後項で「はい」が発話されている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下している D 群同士である。

しかし、現時点では A 群や B 群や C 群同士の二連鎖感動詞類は現れていない。ただ、「啊, 哦」(あ, あ) (いずれも A 群), 「啊ー, 嗯ー」(あー, うーん) (いずれも B 群), 「也对, 也是」(まー, まー) (いずれも C 群) は不自然ではないため、すべての同群同士は反復できると考えられる。従って、日本語と同様の「二連鎖感動詞類の反復に関する条件」を仮定することができる。以下のように再掲する。

(112)二連鎖感動詞類の反復に関する条件 :

同じ群に属する感動詞類は反復できる。

即ち、自然会話の中に現れる感動詞類が、単独感動詞類、二連鎖感動詞類のみならず、三連鎖感動詞類、四連鎖感動詞類、五連鎖感動詞類などのような「連鎖感動詞類」の存在が予測される。そして、連鎖感動詞類においては、いずれの場合も認知プロセスが流れているこ

とが考えられる。ここでは、反復現象により、認知プロセスに関する仮説は、自然会話においては、広く適用可能であると考えられ、群という概念の存在意義があると考えられる。

4.2.7.2. リセット感動詞類

真偽判断の認知ユニットの途中で、認知プロセスの流れがキャンセルされ、リセットされる（認知ユニットの開始段階に戻る）場合がある。以下の会話データを見られたい。

(113)

0305◎F11：我觉得像你们研究室那种小小的（嗯），就比较容易〔舌〕

あなたたちの研究室みたい，その小さいのが，いー感じ〔舌〕

0306◎F12：哦ー〔↓〕

あー〔↓〕

0307◎F11：就是那个能，〈更〉

なんかね，〈もっと〉

0308◎F12：〈集中〉吗？

〈集中する〉の？

0309◎F11：嗯，更集中精力，就更能稳下来，太大的话太空旷了，我觉得

うん，精力を集中し，落ち着くね，広すぎるとなんか

0310◎F12：嗯ー〔↓〕，你们专业人多呀

うんー〔↓〕，あなたたちの専攻の人が多いね

0311◎F11：嗯，哎呀

{en, ai ya}

うん，あーあ

0312◎F12：《2s》我们研究室有个「国名3」的小男孩，他也经常不在，而且他是那种他一个人如果他一个人他会在研究室呆着，如果有别人的话就不愿意在研究室，我也觉得他挺奇怪，是不是介意？

《2s》私たちの研究室には「国名3」の男の人ね，よく来る，なんか彼は1人だけの時には，研究室にいるけど，もし，ほかの人が来た場合，彼は研究室にいないよ，なんか変だね，なにか不満があるのかなー？

(113)では、0311◎F11に「嗯，哎呀」（うん，あーあ）という発話が現れている。前項の「嗯」（うん）はD群に属するが、後項の「哎呀」（あーあ）は何であろうか。D群は真偽判断に関する認知ユニットの終了を標示することから、「哎呀」（あーあ）は【嗯】（うん）の認知ユニットには含まれないと考えられる。発話者◎F11は真偽判断の確定を行った直後に「哎呀」（あーあ）を用いて、命題内容に対する判断ではなく、発話を終わらせているのである。

このことは、0310◎F12 と 0312◎F12 の発話からも分かる。0310◎F12 の発話内容は、「你们」（あなたたち）をめぐる話題であるが、0312◎F12 の発話内容の話題は、「我们」（私たち）である。従って、ここでは話題転換が起こっており、そのきっかけは、0311◎F11 の「哎呀」（あーあ）だと考えられる。さらに、「哎呀」（あーあ）によって、発話権が◎F11 から◎F12 に変わる。いわば、この「哎呀」（あーあ）によって、発話者◎F11 は真偽判断の認知ユニットを終了することになる。つまり、【嗯】（うん）が1つの認知ユニットとなっている。「哎呀」（あーあ）はリセット感動詞類である。

即ち、(113)の「嗯，哎呀」（うん，あーあ）は「【D群】，リセット感動詞類」と表記できる。

以上より、「哎呀」（あーあ）は、真偽判断に関する認知ユニットとは別のものであることが分かる。即ち、リセット感動詞類は、真偽判断に関する認知プロセスの流れの途中に登場し、発話権交替と関わり、それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っている。このように仮定することによって、認知ユニットに関する仮説も維持できることになる。ただ、リセット感動詞類にどのようなものが属するのかについては、今後の課題である。

4.2.8. まとめ

4.2 では、中国語の自然会話における二連鎖感動詞類だけで構成されるターンを対象とし、どのような種類の感動詞類が連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで、二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を提示した。さらに、認知プロセスや認知ユニットといった概念の妥当性について、感動詞類の反復とリセット感動詞類を観察することによって検証した。その結果、以下のことが明らかになった。

- (114)①二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、4種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス (A 群)、真偽の検討 (B 群)、真偽判断の保留 (C 群)、真偽判断の確定 (D 群) によって構成されている。
- ②4種類の認知プロセスは、「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスを1つの認知ユニット (ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」) と仮定する。
- ③二連鎖感動詞類に2種類の反復 (同じ形式の反復と同じ群の反復) が見られる。同じ形式を複数反復する場合、後項で D 群のみが許される。前項と後項で反復する場合、同群同士の反復は許される。
- ④真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類「哎呀」(あーあ) が存在する。「哎呀」(あーあ) は、話題の転換を行っていることを標示する。

4.3. 比較

本節では、4.1～4.2 で考察した自然会話における 1 ターンの二連鎖感動詞類に関する記述（二連鎖感動詞類の組み合わせ、感動詞類の反復、リセット感動詞類）について、日本語と中国語を比較する。その結果、表 13 に示す³⁶。

表 13 日本語と中国語の 1 ターンの二連鎖感動詞類に関する比較

項目	言語	日本語	中国語
	二連鎖感動詞類の組み合わせ	A, B	
A, C		○	○
A, D		○	○
B, C		○	○
B, D		○	○
C, D		○	
感動詞類の反復	同じ形式	○	○
	同じ群	○	○
リセット感動詞類		○	○

表 13 より、まず、日中両言語における 1 ターンの二連鎖感動詞類の組み合わせについて、以下のような共通点が見られる。

- (115)①二連鎖感動詞類は、4 種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス (A 群)、真偽の検討 (B 群)、真偽判断の保留 (C 群)、真偽判断の確定 (D 群) によって構成されている。このことは、日本語にも中国語にも仮定できる。
- ②4 種類の認知プロセスは、「アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確定 (D 群)」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスを 1 つの認知ユニット（ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」）として仮定する。
- ③今回の日本語の会話データには、「A 群、B 群」の二連鎖感動詞類の組み合わせは現れていない。中国語の会話データにも、「A 群、B 群」はなく、また「C 群、D 群」の二連鎖感動詞類の組み合わせも現れなかった。しかし、筆者の内省によると、「啊、嗯—」（あ、う—ん）(A 群、B 群)、「也是，对对对」（ま—、そ—そ—そ—）(C 群、D 群) などは文法的に不自然ではないことが確認できる。そうすると、4 種類の群ではすべての組み合わせが許されることになる。

次に、日中両言語における二連鎖感動詞類を構成する感動詞類の反復について、以下のような共通点が見られる。

³⁶ 「○」は該当の組み合わせがあることを示している。

(116)日中両言語において、二連鎖感動詞類に2種類の反復（同じ形式の反復と同じ群の反復）が見られる。同じ形式を複数反復する場合、後項でD群のみが許される。前項と後項で反復する場合、同群同士の反復は許される。

さらに、日中両言語におけるリセット感動詞類について、以下のような共通点が見られる。

- (117)①日中両言語においては、真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類が存在する。
- ②日本語のリセット感動詞類には、「え[↑]」、「なんか」が存在する。「え[↑]」は新情報を理解できなかった（取り損なった）ことを、「なんか」は、新情報生成の検討（プランニング）を行っていることを標示する。一方、中国語のリセット感動詞類には、「哎呀」（あーあ）が存在する。「哎呀」（あーあ）は、話題の転換を行っていることを標示する。

以上より、日中両言語における同様の認知プロセスの仮説が立てられ、認知ユニットの存在も検証できた。

また、日中両言語における1ターンの二連鎖感動詞類には、「アクセス（A群）→真偽の検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスを1つの集合体と考え、それを「認知ユニット」として提案した。

(118)認知ユニット：

自然会話において二連鎖感動詞類が現れる場合、そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

従って、本論文では、(119)のように限定して認知ユニットを仮定した。

(119)真偽判断に関する認知ユニット：

【アクセス（A群）→真偽の検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）】

5. 1 ターン内の二連鎖感動詞類に関する考察

第4章では、自然会話に出現する1ターンの二連鎖感動詞類は、真偽判断に関する1つの独立した認知ユニットが対応している、という仮説が提案されている。しかし、仮説の妥当性を高めるためには、可能な限り様々な会話データに適用できることを検証しなければならない。そこで、本章では1ターン内の二連鎖感動詞類を対象として、仮説の検証を試みる。また、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の関連性について考察する。

5.1. 日本語の考察

本節では、データI, II, IIIを利用し、日本語の自然会話に現れる1ターン内の二連鎖感動詞類について、その出現位置により、「ターン初頭の二連鎖感動詞類」、「ターン中の二連鎖感動詞類」、「ターン末尾の二連鎖感動詞類」の3種類に分けて、観察していく。

5.1.1. ターン初頭の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン初頭の二連鎖感動詞類を対象として、後続発話も含めて考察する。後続発話には、新情報を表す発話と、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話（ここでは、副詞、動詞、同語重複のこと）があると仮定している³⁷。

5.1.1.1. 「あ、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「あ」がくるもの、即ち「あ、え、*新情報*」類、「あ、あー、*新情報*」類、「あ、あの一、*新情報*」類、「あ、え一、*新情報*」類、「あ、ま一、*新情報*」類、「あ、そ一、*新情報*」類、「あ、うん、*新情報*」類、「あ、ま、*副詞*」類、「あ、うん、*動詞*」類、「あ、うん、*同語重複*」類、「あ、そ一、*同語重複*」類を扱う。

5.1.1.1.1. 「あ、え、*新情報*」類

ここでは、「あ、え、*新情報*」類を扱うが、本論文では「あ、え、*新情報*」しか現れていない。(120)を見られたい。

(120)

7JF093：どうしよう、全然リラックスしてないよ。

8JF092：うん。

9JF093：それ【【。

10JF092：】】じゃあ、がんばって。

11JF093：〈笑い〉。

12JF092：〈笑い〉。

³⁷ 実際に発話されている二連鎖感動詞類と区別するため、新情報、副詞、動詞、同語重複を斜体で表記する。

13JF092 : えっとー、

14JF093 : 何?<笑いながら>。

15JF092 : あ、え、昨日昨日昨日。

16JF093 : 何?。

(120)³⁸では、15JF092 に二連鎖感動詞類「あ、え」が現れている。ここでは、「あ」、「え」の発話時点で、発話者 JF092 が 14JF093 の発話内容の命題「何」にアクセスしている³⁹。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、え」は、【アクセス (A 群) →アクセス (A 群)】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。しかし、後続発話の「昨日昨日昨日」は、どのような意味を持っているのだろうか。ここでは、「昨日昨日昨日」という後続発話は、真偽判断を下すことではなく、新情報を表していると考えられる⁴⁰。以下、このような新情報を表す発話を「X」で表記する⁴¹。

即ち、「あ、え、昨日昨日昨日」は「【A 群, A 群】, X」と表記できる。

5.1.1.1.2. 「あ、あー、新情報」類

ここでは、「あ、あー、新情報」類を扱うが、本論文では「あ、あー、新情報」しか現れていない。(121)を見られたい。

(121)

746JF093 : だってさ、その先生だよ、あたしが、ほんとに卒業間際に、車に乗ってどっか行ったときに、

747JF092 : うん。

748JF093 : “「JF093 名」、実はさ、あたし大川興行のファンだったんだよね” っていうのその先生。

749JF092 : え、ちょっと待って[ほとんど聞こえないほど小さな声]。

750JF093 : あ、だから、あー<2人笑い>、同じ穴の貉だなどと思ったんだよ<{}>。

751JF092 : <あ、あー>{}、「JF093 名」もちょっと気をつけなきゃね。

752JF093 : 大川興行は絶対ー(うん)、そんなん絶対好きでもないけどさ、なんか結婚したとかいってさー、だからさ、もう、希望は捨てちゃだめだよ。

³⁸ (120)の会話データの音声が開示されていないため、確認することができない。ここでは、「え」のイントネーションが下降調であると考えられる。

³⁹ 本論文では、14JF093 の「何」のような疑問のフォーカスを命題要素とする。

⁴⁰ 森山卓郎(2015:53)では、「我々の日常の談話では、それまでに持っていなかった情報に接することがよくある」と述べている。従って、本論文では、森山卓郎(2015:53)の考え方に基づいて、「会話では、それまでに持っていなかった情報」を新情報とする。

⁴¹ 新情報を表す発話 X にも何らかの認知プロセスを仮定できるかもしれない。「真偽判断に関する認知プロセス」以外のものについては、今後の課題とする。

(121)では、751JF092 に二連鎖感動詞類「あ、あー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF092 が 750JF093 の発話内容の命題「だから、同じ穴の貉だなと思った」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF0922 が「あー」という発話によって、その命題の真偽を検討している。一方、「JF093 名」もちょっと気をつけなきゃね」という後続発話は、真偽判断を下すことではなく、新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、あー」は、【アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、あー、「JF093 名」はちょっと気をつけなきゃね」は「【A 群, B 群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「あ、あの一、新情報」類がある。

5.1.1.1.3. 「あ、あの一、新情報」類

ここでは、「あ、あの一、新情報」類を扱うが、本論文では「あ、あの一、新情報」しか現れていない。(122)を見られたい。

(122)

0164①M06 : 大人しめな男の人、あんま得意じゃないかもしれない

0165①F05 : 女のは大人しめがいー、なんなん、《4s》[笑]、何で黙るん、[笑]、何で黙るん
([笑]), [咳]

0166①M06 : あ、あの一、スリットの話やけど

0167①F05 : も一、いーやん

(122)では、0166①M06 に二連鎖感動詞類「あ、あの一」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①M06 が 0165①F05 の発話内容の命題「何で黙る」にアクセスしている。そのうえで、発話者①M06 が「あの一」という発話によって、その命題の真偽を検討している。一方、「スリットの話やけど」という後続発話は、真偽判断を下すことではなく、新情報を表出していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、あの一」は、【アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、あの一、スリットの話やけど」は「【A 群, B 群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「あ、え一、新情報」類がある。

5.1.1.1.4. 「あ、え一、新情報」類

ここでは、「あ、え一、新情報」類を扱うが、本論文では「あ、え一、新情報」しか現れていない。(123)を見られたい。

(123)

538JF055 : あたしもかなりなんか言われたかなー<笑いながら>。

539JF056 : へー、え、じゃ## 【 【。

540JF055 : 】】 できると思っていたのに、すごいできていないことが分かった<笑い>=。

541JF056 : =あ、えー、できたたのにー、<ほんとにー>{<}。

542JF055 : <いやー>{<}、すごい、なんか練習したけど、あんなすごい、すご、すごい少ないのに、<せりふ…>{<}。

(123)では、541JF056 に二連鎖感動詞類「あ、えー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF056 が、540JF055 の発話内容の命題「できると思っていたのに、すごいできていないことが分かった」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF056 が「えー」という発話によって、その命題の真偽を検討している。また、発話者 JF056 が「できたたのにー、ほんとに」(ほんとにできたのに) という後続発話によって、自分の考えを新情報として表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、えー」は、【アクセス (A 群) → 真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、えー、できたたのにー、ほんとにー」は「【A 群, B 群】、X」と表記できる。

5.1.1.1.5. 「あ、まー、新情報」類

ここでは、「あ、まー、新情報」類を扱うが、本論文では「あ、まー、新情報」しか現れていない。(124)を見られたい。

(124)

0543①F07 : じゃがいもはあれ

0544①F08 : 澱粉

0545①F07 : それ、米に、米、米の、ほら糖質とか

0546①F08 : うん、糖質とか

0547①F07 : なるやん

0548①F08 : うん

0549①F07 : 米食べんでもいいーやん

0550①F08 : あ ([笑]) , まー , ドイツでは主食ですが

0551①F07 : あ、そーなん

(124)では、0550①F08 に二連鎖感動詞類「あ、まー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F08 が先行発話 0549①F07 の命題「米食べんでもいいー」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F08 が「まー」という発話によって、その命題の真偽判断の

保留を行っている。また、発話者①F08が「ドイツでは主食ですが」という後続発話によって、新情報を表出していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、まー」は、【アクセス(A群)→真偽判断の保留(C群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、まー、ドイツでは主食ですが」は「【A群, C群】, X」と表記できる。

次も、同じ「あ、まー、*新情報*」のデータである。

(125)

42JMB010 : 俺?、お、れは、ま、たぶん<笑いながら>「言語 2」[専攻の意味で]で、たぶん
ワースト,,

43JF106 : うそ。

44JMB010 : うん、3本の指に入る、<できない人の>{<}。

45JF106 : <あ、まあ、「部名 1」>{>}してるもんな。

46JMB010 : まあね、でもそれ、言い訳にはできないけどね。

(125)では、45JF106に二連鎖感動詞類「あ、まあ」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者JF106が先行発話44JMB010の命題「3本の指に入る、できない人の」にアクセスしている。そのうえで、発話者JF106が「まあ」という発話によって、その命題の真偽判断の保留を行っている。また、発話者JF106が「「部名 1」してるもんな」という後続発話によって、新情報を表出していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、まあ」は、【アクセス(A群)→真偽判断の保留(C群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、まあ、「部名 1」してるもんな」は「【A群, C群】, X」と表記できる。

5.1.1.1.6. 「あ、そー、*新情報*」類

ここでは、「あ、そー、*新情報*」類を扱う。(126)を見られたい。

(126)

0306①F12 : うん、確かにね(うん)、えー[↑]、これ卒業論文なんかね

0307①M11 : かね

0308①F12 : すごい

0309①M11 : あ、そー、研究論稿って書いている、図書館とかに結構置いている

0310①F12 : これ、山大の教育学部の全体のやつか入っとるかね

(126)では、0309①M11に二連鎖感動詞類「あ、そー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①M11が先行発話0308①F12の命題「すごい」にアクセスしている。

そのうえで、発話者①M11が「そー」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「研究論稿って書いている、図書館とかに結構置いている」という後続発話は、新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、そー」は、【アクセス (A 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、そー、研究論稿って書いている、図書館とかに結構置いている」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「あ、そー、新情報」のデータである。

(127)

0199①M09 : 魚貝類, あー, まー, カニとか, エビとかまー, 嫌い人もおるしなー, グロイ
って言って, でも分かってないけど, 魚が嫌いって言われた時には, まー嫌い
って苦手だったと言われた時には, “あー” とは

0200①M10 : イー[↑], でも, けっこー子供多いじゃない

0201①M09 : あ, 多いけどさ, なんか, 最近なって食えるようになったとか (あー), だか
ら, それはね, “え[↑]” と思った

0202①M10 : えー

0203①M09 : 確かに自分も, なんか小学校, で中学年ぐらいに, なんかお腹空いた時に, 肉
は出たら嬉しくて, 魚が出たら, <えーってなってたか>

0204①M10 : <あ, そー>, だいたい文句言った, 夜

0205①M09 : なんかなー

(127)では、0204①M10に二連鎖感動詞類「あ、そー」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①M10が先行発話0203①M09の命題「お腹空いた時に、肉は出たら嬉しくて、魚が出たら、えーってなってた」にアクセスしている。そのうえで、発話者①M10が「そー」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「だいたい文句言った、夜」という後続発話は、発話者①M10が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、そー」は、【アクセス (A 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、そー、だいたい文句言った、夜」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「あ、そー、新情報」のデータである。

(128)

220JF106 : で, そん中で, そのほか, あたしより, あたしやないほかの全員は, 面白いって
いうの??, イメージがあっつー。

221JMB010 : あ, そう, <“私だけつまらない” みたいな>{<}。

222JF106 : <私だけ、そうそうそう、“私だけ面白くない” >{}みたいな、

(128)では、221JMB010 に二連鎖感動詞類「あ、そう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JMB010 が先行発話 220JF106 の命題「イメージがあって」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JMB010 が「そう」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「私だけつまらない” みたいな」という後続発話は、発話者 JMB010 が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、そう」は、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、そう、“私だけつまらない” みたいな」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。
次も、同じ「あ、そー、新情報」のデータである。

(129)

157JF055 : そこに一 (うん) 、行ってるんだが…。

158JF056 : 行ってくるんだが>{}<{}<{}笑い。

159JF055 : <あ、そう>{}、聞いて。

160JF056 : <{}笑い。

(129)では、159JF055 に二連鎖感動詞類「あ、そう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF055 が先行発話 158JF056 の命題「行ってる」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF055 が「そう」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「聞いて」という後続発話は、発話者 JF055 が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、そう」は、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、そう、聞いて」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

次に、ターン初頭に「あ、そーそーそー」が現れる会話データについて考察する。

(130)

190JF103 : ね、なんか最近さー、なんか、その、旅行会社とかをさー (うん) 、う、受けるのにさー (うん) 、世界史をやったりー今、地理をやったりしてー (あー) 地図帳とか持ち歩いたり (うんうん) 、してた。

191JFB030 : してたよね (うん) 、温泉地とか調べてた<{}もんね>{}<{}。

192JF103 : <あ>{}、そうそうそう、あれね、受かったの、あそこ<{}笑い。

193JFB030 : あれどこだっけ?。

(130)では、192JF103 に二連鎖感動詞類「あ、そうそうそう」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF103 が先行発話 191JFB030 の命題「温泉地とか調べてた」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF103 が「そうそうそう」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「あれね、受かったの、あそこ」という後続発話は、発話者 JF103 が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、そうそうそう」は、「あ、そー」と同じく【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、そうそうそう、あれね、受かったの、あそこ」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「あ、うん、新情報」類がある。

5.1.1.1.7. 「あ、うん、新情報」類

ここでは、「あ、うん、新情報」類を扱う。(131)を見られたい。

(131)

716JF055 : 1年以上経って<ない>{<}?。

717JF056 : <1年>{<}、1年<経った>{<}。

718JF055 : <あ1年>{<}だね。

719JF056 : 1年<経つー>{<}。

720JF055 : <ちょうど>{<}1年だ。

721JF056 : うんー。

722JF056 : CDに、焼くよ<笑い>。

723JF055 : あ、うん、ありがと<笑いながら>。

724JF056 : CDに、や、焼くよ<笑いながら>。

(131)では、723JF055 に二連鎖感動詞類「あ、うん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF055 が先行発話 722JF056 の命題「CDに、焼く」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF055 が「うん」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「ありがと」という後続発話は、発話者 JF055 が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、うん」は、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、うん、ありがと」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

次に、ターン初頭に「あ、うんうん」が現れる会話データについて考察する。

(132)

- 312JMB012：本当に本当に、プロ入っても打ってほしい奴から打たねーの。
 313JF108：そうそう、やだやだ。
 314JF108：で、あとピッチャーが、かっこ悪くて。
 315JMB012：でもピッチャーさー、あの滝川二高のさ、福沢とか覚えてる?。
 316JMB012：あと,,
 317JF108：あ、うんうん名前はわかる。
 318JMB012：愛知桐朋の、(うん)桐朋高校の奴かな、滝川二高の奴とかすげえ。

(132)では、317JF108 に二連鎖感動詞類「あ、うんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF108 が先行発話 315JMB012 の命題「ピッチャー、あの滝川二高の、福沢とか覚えてる」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF108 が「うんうん」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、後続発話「名前はわかる」の発話時に、発話者 JF108 が、JMB012 の質問「覚えてる?」に応答せず、新情報を出している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、うんうん」は「あ、うん」と同じく、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、うんうん名前はわかる」は【A 群, D 群】、X」と表記できる。

次に、ターン初頭に「あ、うんうんうん」が現れる会話データについて考察する。

(133)

- 0488①F02：今きたシドニーにいる人、何人かおるや、「人名 21」とか
 0489①F01：「人名 21」, 「人名 22」じゃん
 0490①F02：そーそー, 「人名 22」あと何, 「人名 23」とか
 0491①F01：うん, 英語かも, [笑]
 0492①F02：「人名 24」とゆ一人
 0493①F01：あ、うんうんうん、あの人シドニーだったよね
 0494①F02：その人そー, 中国系よーに, たぶん顔

(133)では、0493①F01 に二連鎖感動詞類「あ、うんうんうん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者①F01 が先行発話 0492①F02 の命題「「人名 24」とゆ一人」にアクセスしている。そのうえで、発話者①F01 が「うんうんうん」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「あの人シドニーだったよね」という後続発話は、発話者①F01 が表出している新情報である。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あ、うんうんうん」は「あ、うん」と同じく、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あ、うんうんうん、あの人シドニーだったよね」は「【A 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.1.1.8. 「あ、ま、副詞」類

ここでは、「あ、ま、副詞」類を扱うが、本論文では「あ、ま、副詞」しか現れていない。(134)を見られたい。

(134)

314JFB025 : 氷だけあったって、(あ、ま、たしかに) 体に (たしかに) ながせんがいね、(あ、まー) でもその子は、氷しか持ってこんかってんで、(あー)、すんげーきれて、あたし (<笑い>)。

315JFB025 : “はー” って、“もう全然分かってない” っつって、(あー) で、そんな悪い気分のままスタートしてんね、(あー) じ、自己ベストより 20 秒遅かった (あー)。

316JFB025 : だから、それ、が、1 つ悔いではあるけど、(うん) 練習自体、まー、うん、悔いはない。

317JM026 : うんー。

(134)では、314JFB025 の発話の間に、JM026 のあいづちである二連鎖感動詞類「あ、ま」と後続発話「たしかに」が現れている。ここでの「あ、ま」の発話時点で、発話者 JM026 が314JFB025 の命題「氷だけあったって」にアクセスし、また真偽判断の保留を行っている。そのうえで、発話者 JM026 が、副詞の「たしかに」という発話によって、先行発話の命題に対して肯定し、受容していると考えられる。特に、314JFB025 の発話の間に「たしかに」が単独的に現れ、相手の発話に対する肯定の応答を行っていることから、感動詞類への変化の途中にあると考えられるかもしれない⁴²。

以上より、後続発話に「確かに」のような副詞が現れる場合、以下のような仮説が立てられる。

(135)1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素（ここでは副詞）があるとき、それが D 群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある。そのような要素を、「D'群 (副詞)」とする。

即ち、「あ、ま、たしかに」は「【A 群, C 群, D'群 (副詞)】」と表記できる。

5.1.1.1.9. 「あ、うん、動詞」類

⁴² 本論文では、「確かに」は陳述副詞と考えるが、感動詞類と考えられるかどうかについては、今後の課題とする。

ここでは、「あ、うん、動詞」類を扱うが、本論文では「あ、うん、動詞」は現れておらず、「あ、うんうんうんうん、動詞」が現れている。(136)を見られたい。

(136)

0458①F02：おった、おったよね、だが、自分は結構、シドニーの人と留学生繋がりがある

0459①F01：うそ？、よかったね

0460①F02：そー、だが、「人名 17」とか

0461①F01：え、めっちゃいいじゃん

0462①F02：誰、誰だっけ、女の人

0463①F01：あ、うんうんうんうん、分かる分かる、でも分かる

0464①F02：かわいい、かわいいって、きれいな人、何やったか、忘れたけど

(136)では、0463①F01に二連鎖感動詞類「あ、うんうんうんうん」と後続発話「分かる分かる、でも分かる」が現れている。ここでの「あ、うんうんうんうん」の発話時点で、発話者①F01が0462①F02の命題「誰、誰だっけ、女の人」へのアクセスを行い、また真偽判断の確定を行っている。そのうえで、発話者①F01が「分かる分かる、でも分かる」という動詞「分かる」の反復発話によって、先行発話の命題に対する真偽判断の確定を再度下している。

以上より、後続発話に「分かる」のような動詞が現れる場合、以下のような仮説が立てられる。

(137)1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素（ここでは動詞）があるとき、それがD群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある。そのような要素を、「D'群（動詞）」とする。

即ち、「あ、うんうんうんうん、分かる分かる、でも分かる」⁴³は【A群、D群、D'群（動詞）】と表記できる。

5.1.1.1.10. 「あ、うん、同語重複」類

ここでは、「あ、うん、同語重複」類を扱うが、本論文では「あ、うん、同語重複」しか現れていない。(138)を見られたい。

(138)

682JF092：ええとね、和訳なんだけどー、『ちょっかい出す』みたいな感じ??。

683JF093：あー。

⁴³ 「分かる分かる、でも分かる」は「分かる」の同形式の反復であるとする。

- 684JF093 : 『かまう』でしょ?、だから。
 685JF092 : 『がまる』なんだって。
 686JF093 : ん?。
 687JF092 : 『ちょっかい出す』とか『かまう』とかじゃなくて、
 688JF093 : うん、それは、『がまう』なんだ。
 689JF092 : 『がまる』なの。
 690JF093 : あ、うん、『がまる』なんだ、<うん>{<}。
 691JF092 : <そうそう>{>}そうそうそう。

(138)では、690JF093 に二連鎖感動詞類「あ、うん」と後続発話「『がまる』なんだ」が現れている。ここでの「あ、うん」の発話時点で、発話者 JF093 が 689JF092 の発話内容の命題「『がまる』なの」にアクセスしており、また真偽判断の確定を行っている。そして、後続発話「『がまる』なんだ」の発話時に、発話者 JF093 が先行発話の命題「『がまる』」を繰り返している。このような意味で、「『がまる』なんだ」は先行発話の同語重複である⁴⁴。さらに、「あ、うん、『がまる』なんだ」の後に、「うん」が現れている。「うん」の発話時点で、発話者 JF093 が先行発話の命題に対する再度肯定的な判断を下していると考えられる。

以上より、「『がまる』なんだ」のような「同語重複」が現れる場合、以下のような仮説が立てられる。

- (139)1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素（ここでは「同語重複」）があるとき、それが D 群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある。そのような要素を、「D'群（同語重複）」とする。

即ち、「あ、うん、『がまる』なんだ、うん」は【A 群, D 群, D'群（同語重複）, D 群】と表記できる⁴⁵。

5.1.1.1.11. 「あ、そー、同語重複」類

ここでは、「あ、そー、同語重複」類を扱うが、本論文では「あ、そー、同語重複」は現れておらず、「あ、そーそー、同語重複」が現れている。(140)を見られたい。

(140)

⁴⁴ 熊磊(2016:31)では、先行発話を繰り返すことを「同語重複」と呼んでおり、「直前の発話あるいは話題になる命題の一部を焦点化する言語行動」と設定されている。ここでは、先行発話の命題を焦点化しているだけではなく、先行発話の命題に対して肯定し、受容していると考えられる。

⁴⁵ 【D, D'同語重複, D, D】の中には、D 群と D'群の統語的な順序は「D 群→D'群→D 群」となっている。これを見る限り、D'群の後ろにも D 群が現れることができるということになるが、これは D 群と D'群は統語的順序がないと考えられるであろう。即ち、D 群と D'群を「真偽判断の確定」という 1 つの認知プロセスにまとめられる可能性もある。

7JMB012 : 空いてねーつつうの。

8JF108 : <笑い>。

9JF108 : え、じゃー## 【。

10JMB012 : **】** なんかいろいろ書いてあんの?あれって。

11JF108 : うん、あんま書いてない。

12JMB012 : え、じゃー普通に俺らが書いたあれがそのまま返ってくるだけ?

13JF108 : あ、そうそうそれだけそれだけ。

14JMB012 : なんだよー、なんかすげえいっぱい書いてあるのかと思ったわ、びっくりした、
なんだ。

(140)⁴⁶では、13JF108 に二連鎖感動詞類「あ、そうそう」と後続発話「それだけそれだけ」が現れている。ここでの「あ、そうそう」の発話時点で、発話者 JF108 が 12JMB012 の命題「普通に俺らが書いたあれがそのまま返ってくるだけ」にアクセスをして、肯定的な真偽判断を下している。また、後続発話「それだけそれだけ」の発話時に、発話者 JF108 が 12JMB012 の「普通に俺らが書いたあれがそのまま返ってくるだけ?」という質問に対する肯定的な応答を行っている。「それ」は「普通に俺らが書いたあれがそのまま返ってくる」という内容を指していると考えられる。このような意味で、「それだけそれだけ」は先行発話の同語重複である。

即ち、「あ、そうそうそれだけそれだけ」は【A 群, D 群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

以上より、1 ターン内におけるターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話には、(141)のような認知プロセスが見られる。

(141) 「D'群」: 1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素がある場合、その発話時に、発話者が命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

具体的には、以下のようなものが見られる。

- a. 副詞: 「確かに」
- b. 動詞: 「分かる」
- c. 同語重複: 先行発話 (あるいはその一部) を重複する発話

ここでは、1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の後続発話がある場合、それが D 群と同様に

⁴⁶ 「あ、そうそう」と「それだけそれだけ」の間に、ポーズがない。しかし、形式上「それだけそれだけ」というのは感動詞類ではない。従って、ここでは、「あ、そうそう」と「それだけそれだけ」を2つの部分に分けて考察する。

真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある、ということを示している。

また、ターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話 (D'群) と、新情報を表す発話(X)の2種類が見られる。

5.1.1.2. 「え、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「え」がくるもの、即ち「え、あ、新情報」類を扱う。

5.1.1.2.1. 「え、あ、新情報」類

ここでは、「え、あ、新情報」類を扱うが、本論文では「え、あ、新情報」しか現れていない。(142)を見られたい。

(142)

881JF097：花火大会行きたいですね。

882JF096：行きたくない?、ほんとあたしさー、え【【。

883JF097：】】あー、あたし買いました、花火大会どこであるかっていう本。

884JF096：え、え、今度見してよ。

885JF097：うん。

886JF096：え、<やったー>{<}>。

887JF097：<700円もした>{<}>。

888JF096：え、あ、土曜日土曜日。

889JF096：土曜日さ、今度バイトが<あるの>{<}>。

(142)⁴⁷では、888JF096 に二連鎖感動詞類「え、あ」が現れている。ここでは、「え」、「あ」の発話時点で、発話者 JF096 が 887JF097 の発話内容の命題「700円もした」にアクセスしている。また、後続発話の「土曜日土曜日」は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「え、あ」は、【アクセス (A 群) →アクセス (A 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「え、あ、土曜日土曜日」は「【A 群, A 群】、X」と表記できる。

5.1.1.3. 「あつ、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「あつ」がくるもの、即ち「あつ、そー、新情報」類、「あつ、はい、新情報」類を扱う。

⁴⁷ (142)の会話データの音声が開示されていないため、確認することができない。ここでは、「え」のイントネーションは下降調であるとする。

5.1.1.3.1. 「あつ、そー、新情報」類

ここでは、「あつ、そー、新情報」類を扱うが、本論文では「あつ、そー、新情報」しか現れていない。(143)を見られたい。

(143)

134JF073 : 《沈黙 3 秒》それは、その…、フリーター生活がダラダラとずっとずっずっと続くかどうかは「JF074 名」ちゃんのやる気次第じゃん。

135JF074 : うん。

136JF073 : うん。

137JF074 : 《沈黙 3》なんかフリーターでずっと行くっていうよりも、フリーで動きたいみたいな。

138JF073 : あつ、そう、もともと、<そうか>{<}。

139JF074 : <うん>{>}。

140JF074 : でも【【。

141JF073 : 】】じゃ、やっぱり、(うん)独立?<笑い>。

(143)では、138JF073 に二連鎖感動詞類「あつ、そう」が現れている。ここでは、「あつ」の発話時点で、発話者 JF073 が先行発話 137JF074 の命題「フリーターでずっと行くっていうよりも、フリーで動きたいみたい」にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF073 が「そう」という発話によって、その命題の真偽判断の確定を行っている。また、「もともと、そうか」という後続発話は、発話者 JF073 が何かについて考えており、新情報を表出していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あつ、そう」は、【アクセス(A群)→真偽判断の確定(D群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あつ、そう、もともと、そうか」は「【A群, D群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「あつ、はい、新情報」類がある。

5.1.1.3.2. 「あつ、はい、新情報」類

ここでは、「あつ、はい、新情報」類を扱うが、本論文では「あつ、はい、新情報」は現れておらず、「あつ、はいはいはいはいはいはいはいはい、新情報」が現れている。(144)を見られたい。

(144)

0360①F08 : いや、だってさー、そんな知らんし(うん)、私は楽器はできない

0361①F07 : できない

0362①F08 : 横笛しかできない(え[↑])、祭りの

0363①F07：尺八

0364①F08：尺八はこっち

0365①F07：縦笛はこれ，横？

0366①F08：横はフルートとか（あー[↑↓]），あの一，フルートはできないけど（うん），
本当に篠笛，<あの一，祭りとかの篠笛のやつ>

0367①F07：<あっ，はいはいはいはいはいはいはい>，オカリナはできるよ

0368①F08：うんー[↑↓]

(144)では，0367①F07に二連鎖感動詞類「あっ，はいはいはいはいはいはいはい」が現れている。ここでは，「あっ」の発話時点で，発話者①F07が先行発話0366①F08の命題「本当に篠笛，祭りとかの篠笛のやつ」にアクセスしている。そのうえで，発話者①F07が「はいはいはいはいはいはいはいはいはい」という発話によって，その命題の真偽判断の確定を行っている。また，「オカリナはできるよ」という後続発話は，発話者①F07が新情報を表出していると考えられる。つまり，ターン初頭の二連鎖感動詞類「あっ，はいはいはいはいはいはいはい」は，【アクセス（A群）→真偽判断の確定（D群）】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり，後続発話は新情報(X)である。

即ち，「あっ，はいはいはいはいはいはいはいはい，オカリナはできるよ」は「【A群，D群】，X」と表記できる。

5.1.1.4. 「あー，～，…」

本節では，ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「あー」がくるもの，即ち「あー，まー，*新情報*」類，「あー，そー，*新情報*」類，「あー，はい，*新情報*」類，「あー，うん，*動詞*」類，「あー，うん，*同語重複*」類を扱う。

5.1.1.4.1. 「あー，まー，*新情報*」類

ここでは，「あー，まー，*新情報*」類を扱うが，本論文では「あー，まー，*新情報*」しか現れていない。(145)を見られたい。

(145)

0009①F07：最近ね（うん），筋トレをずっとしくとって>言ったやん（うん）

0010①F08：<あー，してたよね>

0011①F07：も一辞めたよね，〔笑〕

0012①F08：何日続いた

0013①F07：二日，〔笑〕

0014①F08：三日も，三日坊主

0015①F07：違う，違う，違う（うんうん），聞いてほしい（うんうん），時間が取れやん

かった

0016①F08 : あー、まー、バ、バタバタしたしね

0017①F07 : そーそーそーそーそーそーそーそー

(145)では、0016①F08 に二連鎖感動詞類「あー、まー」が現れている。ここでは、「あー」の発話時点で、発話者①F08 が先行発話 0015①F07 の命題「時間が取れやんかった」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まー」の発話時点で、発話者①F08 は、その命題に対して真偽判断を行い、その結果を保留している。また、後続発話の「バ、バタバタしたしね」は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あー、まー」は、【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あー、まー、バ、バタバタしたしね」は「【B 群, C 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「あー、まー、新情報」のデータである。

(146)

295JF064 : なんかそれこそ、友達とかが集まるサロンみたいな作りたいよね<笑い>。

296JF063 : あー、まあ、それは、あれだけどね。

297JF063 : だからやっぱり (うん)、自分の世界をこう花開くためには、その前に資本が必要なわけで、

(146)では、296JF063 に二連鎖感動詞類「あー、まあ」が現れている。ここでは、「あー」の発話時点で、発話者 JF063 が先行発話 295JF064 の命題「それこそ、友達とかが集まるサロンみたいな作りたい」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まあ」の発話時点で、発話者 JF063 は、その命題に対して真偽判断を行い、その結果を保留している。また、後続発話の「それは、あれだけどね」は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あー、まあ」は、【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あー、まあ、それは、あれだけどね」は「【B 群, C 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「あー、まー、新情報」のデータである。

(147)

93JMB013 : めちゃめちゃ、 “なんでこいつら裏原少年なん?” (<笑い>) 裏原大好きな<少年>{<}>。

94JF109 : <少年>{>}だねー。

95JF109 : 奴らみんなね。

96JF109 : でも実際、<笑い>実際ね、そんな感じ<だよね>{>}。

97JMB013 : 〈あー〉{ }、まあ今のうちしかできひんからなー。

98JF109 : そうだね、それ大事だね。

(147)では、97JMB013 に二連鎖感動詞類「あー、まあ」が現れている。ここでは、「あー」の発話時点で、発話者 JMB013 が先行発話 96JF109 の命題「実際、実際、そんな感じだ」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まあ」の発話時点で、発話者 JMB013 は、その命題に対して真偽判断を行い、その結果を保留している。また、後続発話の「今のうちしかできひんからなー」は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あー、まあ」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あー、まあ今のうちしかできひんからなー」は「【B 群, C 群】、X」と表記できる。

5.1.1.4.2. 「あー、そー、新情報」類

ここでは、「あー、そー、新情報」類を扱うが、本論文では「あー、そー、新情報」は現れておらず、「あー、そーそーそーそー、新情報」が現れている。(148)を見られたい。

(148)

48JF100 : 《沈黙 2 秒》なんかあったのかな、仕事ーとか。

49JFB027 : 《沈黙 6 秒》なに、それで、追いコン、だとかそんな話は。

50JF100 : あー、そうそうそうそう、あ、そいで (うん) 誰に連絡をね、取ればいいのかと
思っ (うん) 4 年生。

51JFB027 : うん、あー。

(148)では、50JF100 に二連鎖感動詞類「あー、そうそうそうそう」が現れている。ここでは、「あー」の発話時点で、発話者 JF100 が先行発話 49JFB027 の命題「それで、追いコン、だとかそんな話は」に対して真偽の検討を行っている。後項の「そうそうそうそう」の発話時点で、発話者 JF100 は、その命題に対して真偽判断の確定を行っている。そして、後続発話の「あ、そいで (うん) 誰に連絡をね、取ればいいのかと思っ (うん) 4 年生」の発話時に、発話者 JF100 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あー、そうそうそうそう」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あー、そうそうそうそう、あ、そいで (うん) 誰に連絡をね、取ればいいのかと思っ (うん) 4 年生」は「【B 群, D 群】、X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「あー、はい、新情報」類がある。

5.1.1.4.3. 「あー、はい、新情報」類

ここでは、「あー、はい、新情報」類を扱うが、本論文では「あー、はい、新情報」しか現れていない。(149)を見られたい。

(149)

176JMB012：そんな大変な時期を過ごしてたのに、学校に帰ったらね、いろんなね、まあまあその、取ったとか玉を取ったから始まって、(うんうん)玉が3つになったとか言われて、しまいには<笑い>(<笑い>)。

177JMB012：“なるわけねーだろ”みたいな。

178JMB012：まじねー,,

179JF108：すごい。

180JMB012：3つになるかってのねー (<笑い>)。

181JMB012：ひどいよね。

182JMB012：でも体育祭、棒倒し超えたかったんだけど,,

183JF108：あー、はい、ちょうどかぶってて。

184JMB012：そう、ちょうど退院してから何日か後に体育祭で、(あー)やっぱりまだ気持ち悪いし、全然。

(149)では、183JF108 に二連鎖感動詞類「あー、はい」が現れている。ここでは、「あー」の発話時点で、発話者 JF108 が先行発話 182JMB012 の命題「体育祭、棒倒し超えたかったんだ」に対して真偽の検討を行っている。後項の「はい」の発話時点で、発話者 JF108 は、その命題に対して真偽判断の確定を行っている。そして、後続発話の「ちょうどかぶってて」の発話時に、発話者 JF108 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「あー、はい」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あー、はい、ちょうどかぶってて」は「【B 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.1.4.4. 「あー、うん、動詞」類

ここでは、「あー、うん、動詞」類を扱うが、本論文では「あー、うん、動詞」しか現れていない。(150)を見られたい。

(150)

597JF095：でもあれ、手書きだと全然違うよね。

598JF094：なんで?。

599JF095：なんとなく。

600JF095：なんかさ (はー)、打った方がこうより硬く<見えない?>{<}。

601JF094：<あー>{>}、うん、分かるー。

602JF094 : 『なんとかである』 とか書いてる自分が恥ずかしいもん<2人笑い>。

(150)では、601JF094 に二連鎖感動詞類「あー、うん」と後続発話「分かるー」が現れている。ここでの「あー、うん」の発話時点で、発話者 JF094 が 600JF095 の命題「打った方がこうより硬く見えない」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の確定を行っている。そのうえで、発話者 JF094 は動詞「分かるー」と発話し、先行発話の命題に対する真偽判断の確定を再度下している。

即ち、「あー、うん、分かるー」は【A群, D群, D'群 (動詞)】と表記できる。

5.1.1.4.5. 「あー、うん、同語重複」類

ここでは、「あー、うん、同語重複」類を扱うが、本論文では「あー、うん、同語重複」しか現れていない。(151)を見られたい。

(151)

445JF069 : あの子可愛いよね。

446JF069 : いやっ、性格もいいよ、すごい=。

447JF069 : =なんか、,

448JF070 : すごい可愛い。

449JF069 : 姿勢正しいよね。

450JF070 : あー、うん、正しい。

451JF069 : うんうんうん。

(151)では、450JF070 に二連鎖感動詞類「あー、うん」と後続発話「正しい」が現れている。ここでの「あー、うん」の発話時点で、発話者 JF070 が 449JF069 の発話内容の命題「姿勢正しい」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そのうえで、発話者 JF070 が「正しい」という同語重複によって、先行発話の命題に対する真偽判断の確定を再度下している。

即ち、「あー、うん、正しい」は【B群, D群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

5.1.1.5. 「えーっと、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「えーっと」がくるもの、即ち「えーっと、あの一、新情報」類を扱う。

5.1.1.5.1. 「えーっと、あの一、新情報」類

ここでは、「えーっと、あの一、新情報」類を扱うが、本論文では「えーっと、あの一、新情報」しか現れていない。(152)を見られたい。

(152)

0091①F01：なんか、明日集まるらしー、スイス行く人がく集まって、みんなでやろーかも

0092①F02：<えー[↑], いーね>, 集まるも何も, ちょっと少人数やれば, [笑]

0093①F01：えっ, でも3人の方がちょっと ([笑]) 集まりやすいし, 15人もいるから

0094①F02：誰だっけ, メンバー誰だっけ

0095①F01：えーっと, あの一, 何さんだっけ, 「人名6」君

0096①F02：あー[↑↓], 「人名7」ね

(152)では, 0095①F01 に二連鎖感動詞類「えーっと, あの一」と後続発話「何さんだっけ, 「人名6」君」が現れている。ここでの「えーっと, あの一」の発話時点で, 発話者①F01 が 0094①F02 の命題「誰だ, メンバー誰だ」に対する真偽の検討を繰り返している。そのうえで, 発話者①F01 が「何さんだっけ, 「人名6」君」(「人名6」君だっけ) という発話で, 新情報を考えている。つまり, ターン初頭の二連鎖感動詞類「えーっと, あの一」は, 【真偽の検討(B群)→真偽の検討(B群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり, 後続発話は新情報(X)である。

即ち, 「えーっと, あの一, 何さんだっけ, 「人名6」君」は「【B群, B群】, X」と表記できる。

5.1.1.6. 「うーん, ~, …」

本節では, ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「うーん」がくるもの, 即ち「うーん, まー, 新情報」, 「うーん, そー, 新情報」類を扱う。

5.1.1.6.1. 「うーん, まー, 新情報」類

ここでは, 「うーん, まー, 新情報」類を扱うが, 本論文では「うーん, まー, 新情報」しか現れていない。(153)を見られたい。

(153)

0319①F07：ペダル踏んだら, 何なるの

0320①F08：あの一, 長音長くなるとか, あの一, ハウるハウる

0321①F07：ピピ弦

0322①F08：うん, そーそーそーそー

0323①F07：うんー[↑↓]

0324①F08：ギターの種類

0325①F07：ホール

0326①F08：ホールって言ったよね, ホールリングするとか, なんだろー, えー, なんて

言えばいい?

0327①F07 : 伸びる

0328①F08 : うーん, まー, 加工するみたいなー (あー) , 音を加工するみたいなー

0329①F07 : いや, 音楽はね私できんだね, 打楽器がいわ, ピアノ打楽器やなー

(153)では, 0328①F08 に二連鎖感動詞類「うーん, まー」が現れている。ここでは, 「うーん」の発話時点で, 発話者①F08 が先行発話 0327①F07 の命題「伸びる」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まー」の発話時点で, 発話者①F08 は, その命題に対して真偽判断の保留を行っている。そして, 後続発話の「加工するみたいなー」の発話時に, 発話者①F08 が新情報を表している。つまり, ターン初頭の二連鎖感動詞類「うーん, まー」は, 【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり, 後続発話は新情報(X)である。

即ち, 「うーん, まー, 加工するみたいなー」は「【B 群, C 群】, X」と表記できる。

次も, 同じ「うーん, まー, 新情報」のデータである。

(154)

223JF074 : 私はね, 自分がどこまでね, (うん) そういう企業とか, その組織の中で, のことを, なんだろう, 理解してるか, (うん) ある程度見えてる, 気になってるけど, 実はもっと長く<いないと>{<, ,

224JF073 : <そう>{>}だよな。

225JF074 : 見えて (うん) ないのかもしれないし。

226JF073 : うん。

227JF074 : ってところが, 結構, じ, 身は立つんだけど, (うん) でもなんか, 多分フリーで動きながら, 自分でなんとかするのが多分合ってるんだらうなと<思って, 前>{<}

228JF073 : <うーん, >{>}まあ, 大変だらうけどな。

229JF074 : うん。

(154)では, 228JF073 に二連鎖感動詞類「うーん, まあ」が現れている。ここでは, 「うーん」の発話時点で, 発話者 JF073 が先行発話 227JF074 の命題「多分フリーで動きながら, 自分でなんとかするのが多分合ってるんだらうな」と思って, 前」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まあ」の発話時点で, 発話者 JF073 は, その命題に対して真偽判断の保留を行っている。そして, 後続発話の「大変だらうけど」の発話時に, 発話者 JF073 が新情報を表している。つまり, ターン初頭の二連鎖感動詞類「うーん, まあ」は, 【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり, 後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うーん、まあ、大変だろうけどね」は「【B群, C群】, X」と表記できる。
次も、同じ「うーん、まー、新情報」のデータである。

(155)

155JM028 : や、それは失敗はあるよ、俺もある。

156JFB027 : あるんだ?、どうしたの?。

157JM028 : だけど、(うん) それがあるから、(うん) “今別に言わなくてもいいのかな”
って。

158JFB027 : ふーん、それはさ、別の人の話?。

159JM028 : うーん、まあ、いろんなことが、

160JFB027 : なんだよ。

(155)では、159JM028 に二連鎖感動詞類「うーん、まあ」が現れている。ここでは、「うーん」の発話時点で、発話者 JM028 が先行発話 158JFB027 の命題「それは、別の人の話」に対して真偽の検討を行っている。後項の「まあ」の発話時点で、発話者 JM028 は、その命題に対して真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話の「いろんなことが」の発話時に、発話者 JM028 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うーん、まあ」は、【真偽の検討 (B群) → 真偽判断の保留 (C群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うーん、まあ、いろんなことが」は「【B群, C群】, X」と表記できる。

5.1.1.6.2. 「うーん、そー、新情報」類

ここでは、「うーん、そー、新情報」類を扱うが、本論文では「うーん、そー、新情報」は現れておらず、「うーん、そーそー、新情報」が現れている。(156)を見られたい。

(156)

0278①M04 : うん、本当に船借りてね、釣り行きたいんよ ([笑]) [笑] , うん、本当に

0279①M03 : 普通、普通の釣りもしたことないのに

0280①M04 : うーん、そーそー、だってさー、海で釣りたくね、なんか、まー、テレビ番組で見たけど、送信、やった、できた、宿泊ご利用じゃないんだよなー、でも、ちゃんと、文字で写るのは宿泊じゃないの、こーいう時メールね、大事に、これで、登録かな、キャンプ中得情報、《4s》これで、どーいう返事返ってくるかな、“申し訳ございませんが、D キャンプの場合、予約できるの可能性ないかも”

0281①M03 : それはつらいなー

(156)では、0280①M04 に二連鎖感動詞類「うーん、そーそー」が現れている。ここでは、「うーん」の発話時点で、発話者①M04 が先行発話 0279①M03 の命題「普通、普通の釣りもしたことない」に対して真偽の検討を行っている。後項の「そーそー」の発話時点で、発話者①M04 は、その命題に対して真偽判断の確定を行っている。そして、後続発話の「だってさー、海で釣りたくね、なんか」の発話時に、発話者①M04 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うーん、そーそー」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うーん、そーそー、だってさー、海で釣りたくね」は「【B 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.1.7. 「うん、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「うん」がくるもの、即ち「うん、そー、新情報」類、「うん、そー、同語重複」類、「うんー、うん、副詞」類を扱う。

5.1.1.7.1. 「うん、そー、新情報」類

ここでは、「うん、そー、新情報」類を扱う。(157)を見られたい。

(157)

0284①F08 : 小学校の時私ピアノやってたんだよ

0285①F07 : マジで?, 引けるん?

0286①F08 : 小学校1年生から6年生までやった, 6年間やって引けるよーになったのなんだと思う

0287①F07 : 猫のあれ, 猫を踏むやつ, [笑], あってる

0288①F08 : メリーさんのやつ

0289①F07 : [笑], 私<#>

0290①F08 : <両>両手のメリーさんのやつ, こっちがドソミソして(うん), こっちミレドレミミミ, これが私限界から([笑]), 6年やってこれだよ([笑]), ほかの3学生の子, もう5年生ぐらいになるとさー(うん), 小学校の子入ってくるわけやん(うん), 3年生の子とかもっと上のやつやってるんよ

0291①F07 : うん, エリーゼのためにとか

0292①F08 : うん, そー, そーいうわけがあるのよ, 私はなぜか

0293①F07 : メリーさんの

(157)では、0292①F08 に二連鎖感動詞類「うん、そー」が現れている。ここでの「うん」、「そー」の発話時点で、発話者①F08 が 0291①F07 の発話内容の命題「エリーゼのためにと

か」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そして、後続発話の「そーいうわけがあるのよ、私はなぜか」の発話時に、発話者①F08 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そー」は、【真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うん、そー、そーいうわけがあるのよ、私はなぜか」は「【D 群, D 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「うん、そー、新情報」のデータである。

(158)

616JF095 : もう課題が溜まってる (<笑い>)。

617JF094 : 《沈黙 3 秒》やだねー。

618JF095 : なんかさっき言ってたやつはなんだっけ、授業の、授業中の?。

619JF095 : なんかさっきあっちでさー (うん)、“あとで言うねー”とかって言ったの。

620JF094 : 授業中?。

621JF095 : わかんない、授業関係ないかもしれないけど。

622JF094 : え、キャンプの話だよ。

623JF095 : <あ、キャンプの話か>{<}<。}

624JF094 : <うん、そう>{<}<、本が間違ってた話だよ。}

625JF095 : あー。

(158)では、624JF094 に二連鎖感動詞類「うん、そう」が現れている。ここでの「うん」、「そう」の発話時点で、発話者 JF094 が 623JF095 の発話内容の命題「キャンプの話」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そして、後続発話の「本が間違ってた話だよ」の発話時に、発話者 JF094 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そう」は、【真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うん、そう、本が間違ってた話だよ」は「【D 群, D 群】, X」と表記できる。

次に、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そーそーそーそー」が現れる会話データについて考察する。

(159)

153JMB013 : 悔しいな、それ。

154JM037 : そこが、1 番強い (<笑い>)、<笑いながら>実際のところ。

155JMB013 : でも奴ら高校生じゃないんでしょ、もはや。

156JM037 : <笑い>そうそうそう (<笑い>)。

157JM037 : 日本からしたら“なんだこの巨人は”っていう、たぶんそういう感じなんだけ

ど。

158JM037 : そうそうそう。

159JMB013 : あーじゃ『タイタンズを忘れない』みたいなのに出てくるあーいう感じの。

160JM037 : うん、そうそうそうそう、もう、《少し間》熱いコーチがいて。

161JMB013 : 熱いコーチがいて (うん)。

(159)では、160JM037 に二連鎖感動詞類「うん、そうそうそうそう」が現れている。ここでの「うん」、「そうそうそうそう」の発話時点で、発話者 JM037 が 159JMB013 の発話内容の命題「『タイタンズを忘れない』みたいなのに出てくるあーいう感じの」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そして、後続発話の「もう、《少し間》熱いコーチがいて」の発話時に、発話者 JM037 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そうそうそうそう」も、【真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うん、そうそうそうそう、もう、《少し間》熱いコーチがいて」は「【D 群, D 群】、X」と表記できる。

次に、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そーそーそーそーそー」が現れる会話データについて考察する。

(160)

109JF105 : 今のバイトいつまでやんの？。

110JMB009 : わかんない、あんま、考えてない (んー)。

111JMB009 : でもね (んー)、確かにつまんないけど (んー)、でも近所だし (んー)、ま、今はいいかなって (うん)、ほんとは、身になるようなバイトしたいけど。

112JF105 : うんー。

113JMB009 : 前は結構身になったから、今がくたぶん<{}>,,

114JF105 : <そうだよ>{}。

115JMB0091 : 番身になってない、バイト、ま、料理がうまくなるぐらい。

116JF105 : うんー。

117JF105 : バイトー、でもそうだよ、中身で選ぶと結構、見つけるまでに時間がかかっちゃうかもね。

118JMB009 : うん、そうそうそうそう、なんか学生は取んなかったりね。

119JF105 : 入ってみて楽しければそれでいいんだけどな、あたしは (んー)。

(160)では、118JMB009 に二連鎖感動詞類「うん、そうそうそうそう」が現れている。ここでの「うん」、「そうそうそうそう」の発話時点で、発話者 JMB009 が 117JF105 の発話内容の命題「中身で選ぶと結構、見つけるまでに時間がかかっちゃうかも」に対する真

偽判断の確定を繰り返して行っている。そして、後続発話の「なんか学生は取んなかったりね」の発話時に、発話者 JMB009 が新情報を表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「うん、そうそうそうそうそう」も、【真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「うん、そうそうそうそうそう、なんか学生は取んなかったりね」は「【D 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.1.7.2. 「うん、そー、同語重複」類

ここでは、「うん、そー、同語重複」類を扱うが、本論文では「うん、そー、同語重複」は現れておらず、「うん、そーそー、同語重複」が現れている。(161)を見られたい。

(161)

217JM033 : 俺、大好きだったの、『びっくりマン』。

218JMB009 : え、何を?、俺もすげー持ってたよ。

219JM033 : あれとか、『十字架天女』、(く笑い)『十字架天使』?。

220JMB009 : あ、いたね、なんか、十字架、あの一、なんでしょ,,

221JM033 : おお、く最初に出てくる>< 【。

222JMB009 : 】くものすごい名前が>< } 変わってるやつでしょ?。

223JM033 : 『クロスエンジェル』。

224JMB009 : うん、そうそう、クロスエンジェル く笑いながら>。

225JM033 : 英語にただけなんだけど。

(161)では、224JMB009 に二連鎖感動詞類「うん、そうそう」と後続発話「『クロスエンジェル』」が現れている。ここでの「うん」、「そうそう」の発話時点で、発話者 JMB009 が223JM033 の発話内容の命題「『クロスエンジェル』」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そのうえで、発話者 JMB009 が笑いながら先行発話を同語重複によって、223JM033 の発話内容の命題に対する真偽判断の確定を下していると考えられる。

即ち、「うん、そうそう、『クロスエンジェル』」は【D 群, D 群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

5.1.1.7.3. 「うんー、うん、副詞」類

ここでは、「うんー、うん、副詞」類を扱うが、本論文では「うんー、うん、副詞」は現れておらず、「うんー、うんうんうん、副詞」が現れている。(162)を見られたい。

(162)

115JFB025 : =ほんとでもなんか、会社選ぶときとかって (うん)、結構長く働かんなんから

(うん) みるのは、重要なポイントとしてはお金一は給料が高いかよりも(うん)、楽しい仕事(ね)自分がやりたい仕事でずっと長く続けることと、あと人間関係よね。

116JF098 : そう、環境だよ。

117JFB025 : うん、うんうんうん、ほんとに。

118JFB025 : なんか、学校とか部活も3年とか4年で(うん)絶対終わってしまうがいね。

(162)では、117JFB025 に二連鎖感動詞類「うん、うんうんうん」と後続発話「ほんとに」(本当に)が現れているが現れている。ここでの「うん、うんうんうん」の発話時点で、発話者 JFB025 が 116JF098 の命題「環境だ」に対する真偽判断の確定を繰り返している。そのうえで、発話者 JFB025 が「ほんとに」という発話によって、肯定の程度を強調し、先行発話の命題に対する真偽判断の確定を再度下していると考えられる。

即ち、「うん、うんうんうん、ほんとに」は【D群, D群, D'群(副詞)】と表記できる。

5.1.1.8. 「そー、～、…」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「そー」がくるもの、即ち「そー、うん、*新情報*」類を扱う。

5.1.1.8.1. 「そー、うん、*新情報*」類

ここでは、「そー、うん、*新情報*」類を扱うが、本論文では「そー、うん、*新情報*」しか現れていない。(163)を見られたい。

(163)

254JF060 : が3年生のときに全然先生やらなくて、

255JF059 : うん。

256JF060 : やりはじめるのが遅くて(うん)、そしたら今年、とんでもないことになってるから、

257JF059 : うん。

258JF060 : “今年は早めにはじめます”とか言って。

259JF059 : <笑い>。

260JF059 : あたしとんでもないことになってる (<笑い>) クチ なんだけど <笑いながら>。

261JF060 : そう、うん、どうしよう。

262JF059 : まだ大丈夫。

(163)では、261JF060 に二連鎖感動詞類「そう、うん」が現れている。ここでの「そう」、「うん」の発話時点で、発話者 JF060 が 260JF059 の発話内容の命題「あたしとんでもない

ことになってるクチなんだ」に対する真偽判断の確定を繰り返して行っている。そして、後続発話の「どうしよう」の発話時に、発話者 JF060 が自分の考えを新情報として表している。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「そう、うん」は、【真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、「そう、うん、どうしよう」は「【D 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.1.9. 「あー—[↑↓], ~, …」

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「あー[↑↓]」がくるもの、即ち「あー—[↑↓], うん, 動詞」類を扱う⁴⁸。

5.1.1.9.1. 「あー— [↑↓], うん, 動詞」類

ここでは、「あー— [↑↓], うん, 動詞」類を扱うが、本論文では「あー— [↑↓], うん, 動詞」は現れておらず、「あー— [↑↓], うんうん, 動詞」が現れている。(164)を見られたい。

(164)

0032①F12 : ふんっ, そーか (うん), 私も京都は好きだけど (うん), そーね, なんか, 新しいところに行きたいってゆーのはある

0033①M11 : あー, そーね

0034①F12 : うん, 旅行か, うーん, どーかね, 北海道とか行ってみたいだけどね

0035①M11 : あー—[↑↓], うんうん, 分かる

0036①F12 : 分かる?

(164)では、0035①M11 に二連鎖感動詞類「あー—[↑↓], うんうん」と後続発話「分かる」が現れている。ここでの「あー—[↑↓], うんうん」の発話時点で、発話者①M11 が0034①F12 の命題「北海道とか行ってみたいだ」に対する真偽判断の確定を繰り返している。そのうえで、発話者①M11 が「分かる」という発話によって、先行発話の命題に対して肯定し、受容していると考えられる。つまり、動詞の「分かる」によって、その命題に対する真偽判断の確定を再度下している。

即ち、「あー—[↑↓], うんうん, 分かる」は【D 群, D 群, D'群 (動詞)】と表記できる。

⁴⁸ 「あー—[↑↓]」のイントネーションは、1 拍目から 2 拍目にかけては上昇調で、2 拍目から 3 拍目にかけては下降調である。

5.1.1.10. ターン初頭の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、日本語の自然会話におけるターン初頭の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.1.1.1~5.1.1.9 で扱ったターン初頭の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 14 に示す。

表 14 ターン初頭の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧

発話者 記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)		認知ユニット
		二連鎖 感動詞類	後続発話	
JM026	【あ、ま、たしかに】	A, C	D副詞	{A, C, D副詞}
117JF025	【うん、うんうんうん、ほんとに】	D, D	D副詞	{D, D, D副詞}
0463①F01	【あ、うんうんうんうん、分かる分かる、でも分かる】	A, D	D動詞	{A, D, D動詞}
601JF094	【<あ>{D}、うん、分かるー】	B, D	D動詞	{B, D, D動詞}
0035①M11	【あー [↑↓]、うんうん、分かる】	D, D	D動詞	{D, D, D動詞}
13JF108	【あ、そうそうそれだけそれだけ】	A, D	D同語重複	{A, D, D同語重複}
690JF093	【あ、うん、『がまる』なんだ、うん】	A, D	D同語重複, D	{A, D, D同語重複, D}
450JF070	【あー、うん、正しい】	B, D	D同語重複	{B, D, D同語重複}
224JMB009	【うん、そうそう、『クロスエンジェル』】	D, D	D同語重複	{D, D, D同語重複}
15JF092	【あ、え】、昨日昨日昨日	A, A	X	{A, A}, X
888JF096	【え、あ】、土曜日土曜日	A, A	X	{A, A}, X
751JF092	【<あ、あ>{D}】、「JF093名」もちよつと気をつけなきゃね	A, B	X	{A, B}, X
0166①M06	【あ、あの一】、スリットの話やけど	A, B	X	{A, B}, X
541JF056	【=あ、えー】、できたのに一、<ほんとに一>{<}<	A, B	X	{A, B}, X
0550①F08	【あ (〔笑〕)、まー】、ドイツでは主食ですが	A, C	X	{A, C}, X
45JF106	【<あ、まあ】、「部名 1」>{D}してるもんな	A, C	X	{A, C}, X
0309①M11	【あ、そー】、研究論稿って書いている、図書館とかに結構置いている	A, D	X	{A, D}, X
0204①M10	【<あ、そー>】、だいたい文句言った、夜	A, D	X	{A, D}, X
221JMB010	【あ、そう】、<“私だけつまらない”みたいなの>{<}<	A, D	X	{A, D}, X
159JF055	【<あ、そう>{D}】、聞いて	A, D	X	{A, D}, X
192JF103	【<あ>{D}、そうそうそう】、あれね、受かったの、あそこ	A, D	X	{A, D}, X
723JF055	【あ、うん】、ありがと	A, D	X	{A, D}, X
317JF108	【あ、うんうん】名前わかる	A, D	X	{A, D}, X
0493①F01	【あ、うんうんうん】、あの人シドニーだったよね	A, D	X	{A, D}, X
138JF073	【あっ、そう】、もともと、<そうかい>{<}<	A, D	X	{A, D}, X
0367①F07	【<あっ、はいはいはいはいはいはいはい>】、オカリナはできるよ	A, D	X	{A, D}, X
255JF063	【あのね、えーっと】、あたしが行ったことあるのは、「地名」、「デパート名」	B, B	X	{B, B}, X
0095①F01	【えーっと、あの一】、何さんだっけ、「人名6」君	B, B	X	{B, B}, X
0016①F08	【あー、まー】、バ、バタバタしたしね	B, C	X	{B, C}, X
296JF063	【あー、まあ】、それは、あれだけだね	B, C	X	{B, C}, X
97JMB013	【<あ>{D}、まあ】今のうちしかできひんからなー	B, C	X	{B, C}, X
0328①F08	【うーん、まー】、加工するみたいなの	B, C	X	{B, C}, X
228JF073	【<うーん、>{D}まあ】、大変だろうけどね	B, C	X	{B, C}, X
159JMB028	【うーん、まあ】、いろんなことが、	B, C	X	{B, C}, X
626JF056	【あー、そう】、でなんかでも「人名7名」は、アメリカで、たぶんインターンするって言ってた	B, D	X	{B, D}, X
50JF100	【あー、そうそうそうそう】、あ、そいで(うん)誰に連絡をね、取ればいいのかと思っ(うん)4年生	B, D	X	{B, D}, X
183JF108	【あー、はい】、ちようどかぶってて	B, D	X	{B, D}, X
0280①M04	【うーん、そーそー】、だっ(き)ー、海で釣りたくね、なんか	B, D	X	{B, D}, X
0292①F08	【うん、そー】、そーいうわけがあるのよ、私はなぜか	D, D	X	{D, D}, X
624JF094	【<うん、そう>{D}】、本が間違ってた話だよ	D, D	X	{D, D}, X
160JM037	【うん、そうそうそうそう】、もう、《少し間》熱いコーチがいて	D, D	X	{D, D}, X
118JMB009	【うん、そうそうそうそうそう】、なんか学生は取んなかったりね	D, D	X	{D, D}, X
261JF060	【そう、うん】、どうしよう	D, D	X	{D, D}, X

表 14 に示したターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせを以下のようにまとめて示す。

表 15 日本語のターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)					
二連鎖 感動詞類	後続発話				
	D	D'副詞	D'動詞	D'同語重複	X
A, A					○
A, B					○
A, C		○			○
A, D	○		○	○	○
B, B					○
B, C					○
B, D			○	○	○
C, C					
C, D					
D, D		○	○	○	○

表 15 を見ると分かるように、ターン初頭の二連鎖感動詞類では、「C 群, D 群」の組み合わせが見当たらなかったが、「まー、そーそー、明日 6 時に出発しよー」、「まー、そーそー、確かに」などは文法的に不自然ではないことが確認されている。以下の会話データを見られたい⁴⁹。

(165)

発話者 1: 朝早く行けば、列に並ばなくてもいい

発話者 2: まー、そーそー、明日 6 時に出発しよー

(166)

発話者 1: 朝早く行けば、列に並ばなくてもいい

発話者 2: まー、そーそー、確かに

発話者 1: じゃ、明日 6 時に出発しよー

そうすると、4 種類の群ではすべての組み合わせ（（「A 群, B 群」, 「A 群, C 群」, 「A 群, D 群」, 「B 群, C 群」, 「B 群, D 群」, 「C 群, D 群」））が許されることになる⁵⁰。

⁴⁹ (165), (166) は作例であるが、ネイティブチェックの結果、いずれも自然な発話であるとのことである。

⁵⁰ 同群の反復「A 群, A 群」「B 群, B 群」「C 群, C 群」「D 群, D 群」は各群の統語的順序とは関係ない。

また、二連鎖感動詞類の認知プロセスは、単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっている。

そして、ターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話(D'群)と、新情報を表す発話(X)の2種類が見られる。

ここでは、ターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群・D'群」という統語的順序が決まっている。

なお、ターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、少なくとも「A群→B群→C群→D群→X」という統語的順序が決まっている。

5.1.2. ターン中の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン中の二連鎖感動詞類を対象として、先行発話・後続発話も含めて考察する。先行発話・後続発話には、新情報を表す発話しか現れていない。

5.1.2.1. 「…、あ、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「あ」がくるもの、即ち「新情報、あ、え、新情報」類を扱う。

5.1.2.1.1. 「新情報、あ、え、新情報」類

ここでは、「新情報、あ、え、新情報」類を扱うが、本論文では「新情報、あ、え、新情報」しか現れていない。(167)を見られたい。

(167)

322JF056 : <あ>{ }、それは…、そっか、そういう教科書もあるんだ。

323JF055 : うん。

324JF056 : ふーん。

325JF055 : <笑い>。

326JF056 : え、今(んー)、え、何分ぐらいなんだろう。

327JF055 : <笑い>。

328JF056 : 時間分かんなくない?。

329JF056 : =あ、え、言っちゃだめなのかな?。

330JF055 : <笑い>。

(167)では、329JF056 に二連鎖感動詞類「あ、え」と、後続発話「言っちゃだめなのかな?」が現れている。また、328JF056 「時間分かんなくない?」は、329JF056 「あ、え、言っちゃだめなのかな?」と音声的に繋がっているため、先行発話であると考えられる。

ここでは、先行発話の発話時に、発話者 JF056 が自分の質問を新情報として表していると考えられる。また、「あ」、「え」の発話時点で、発話者 JF056 が先行発話の命題「時間分かんなくない」にアクセスしている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表していると考えられる。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あ、え」は、【アクセス(A群)→アクセス(A群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「時間分かんなくない?あ、え、言っちゃだめなのかな?」は「X, 【A群, A群】, X」と表記できる。

次も、同じ「新情報、あ、え、新情報」のデータである。

(168)

422JF059 : そっか。

423JF059 : ケーキ出して…。

424JF059 : え、行ったことないからね、様子が分かんないんだよね。

425JF060 : ねえ、ほんとにまあ。

426JF060 : あー、合宿か。

427JF060 : 今年はどうなるん…。

428JF060 : =あ、え、OB 誰か来るって言った?。

429JF059 : えっとね、「人名 12 姓」さんが、

430JF060 : うん。

(168)では、428JF060 に二連鎖感動詞類「あ、え」と、後続発話「OB 誰か来るって言った?」が現れている。また、428JF060 は 427JF060 と音声的に繋がっている同じ発話者の発話であるため、427JF060 「今年はどうなるん」は先行発話であると考えられる。

ここでは、先行発話の発話時に、発話者 JF060 が自分の質問を新情報として表していると考えられる。また、「あ」、「え」の発話時点で、発話者 JF060 が先行発話の命題「今年はどうなる」にアクセスしている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表していると考えられる。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あ、え」は、【アクセス (A 群) → アクセス (A 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「今年はどうなるん…あ、え、OB 誰か来るって言った?」も「X, 【A 群, A 群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「新情報, え, あ, 新情報」類がある。

5.1.2.2. 「…、え、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「あ」がくるもの、即ち「新情報, え, あ, 新情報」類を扱う。

5.1.2.2.1. 「新情報, え, あ, 新情報」類

ここでは、「新情報, え, あ, 新情報」類を扱うが、本論文では「新情報, え, あ, 新情報」しか現れていない。(169)を見られたい。

(169)

522JF096 : あでも、「人名 2 名」ちゃんは、年上って感じ、あんまり、しないから。

523JF097 : あー。

524JF096 : =だって、いっつも、子供っぽいから。

525JF097 : <笑い>。

526JF096 : あの、飲んだり、飲んだりとかするから【【。

527JF097 : 】】最初の、その出会い方にもよりますよねー。

528JF096 : あー、確かに。

529JF096 : でもあたしはさー、え、あ、なんか、何?、他、おんなじ大学の彼とかだったら
ねー、

530JF097 : うん。

(169)では、529JF096 に先行発話「でもあたしはさー」と、二連鎖感動詞類「え、あ」と、後続発話「なんか、何?」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「え」、「あ」の発話時点で、発話者 JF096 が先行発話の命題「あたしは」にアクセスしている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表していると考えられる。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「え、あ」は、【アクセス (A 群) →アクセス (A 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「でもあたしはさー、え、あ、なんか、何?、他、おんなじ大学の彼とかだったらねー」も「X, 【A 群, A 群】, X」と表記できる。

5.1.2.3. 「…、あー、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「あー」がくるもの、即ち「*新情報*, あー, まー, *新情報*」類を扱う。

5.1.2.3.1. 「*新情報*, あー, まー, *新情報*」類

ここでは、「*新情報*, あー, まー, *新情報*」類を扱うが、本論文では「*新情報*, あー, まー, *新情報*」しか現れていない。(170)を見られたい。

(170)

0195①M09 : なんかよく食べるし、今、ゆっくり、ゆっくり、よく食べるから

0196①M10 : うんー

0197①M09 : もー「人名3」君は好き嫌いあんましないんだと思ったら

0198①M10 : おー

0199①M09 : 魚貝類, あー, まー, カニとか, エビとかまー, 嫌い人もおるしなー, グロイ
って言って、でも分かってないけど、魚が嫌いって言われた時には、まー嫌い
って苦手だったと言われた時には、“あー”とは

0200①M10 : イー[↑], でも、けっこー子供多いじゃない

(170)では、0199①M09に先行発話「魚貝類」と、二連鎖感動詞類「あー、まー」と、後続発話「カニとか、エビとか」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「あー、まー」の発話時点で、発話者①M09が先行発話の命題「魚貝類」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話は、真偽判断を下すことではなく、新情報を表している⁵¹。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あー、まー」は、【真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「魚貝類、あー、まー、カニとか、エビとか」は「X, [B群, B群], X」と表記できる。

5.1.2.4. 「…、あの一、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「あの一」がくるもの、即ち「新情報、あの一、その一、新情報」類、「新情報、あの一、まー、新情報」類、「新情報、あの一、そー、新情報」類を扱う。

5.1.2.4.1. 「新情報、あの一、その一、新情報」類

ここでは、「新情報、あの一、その一、新情報」類を扱うが、本論文では「新情報、あの一、その一、新情報」しか現れていない。(171)を見られたい。

(171)

210JF071：あんまり論文はさ、長すぎてもさー、(うん)なんかね、締まりがない、

211JF072：うん。

212JF071：でしよう？。

213JF072：私はかなり短かったから、(うん)でも、なんか、やっぱり同じようなことではずっと悩んでて、(うんうん)なんか、うん、その、基本的に私はジェンダーでやってるわけだけど、うん、なんか、あの一、その一、いろいろその、同じ家政婦のことについて書くにしても、その、都市農村の問題として書くのか、(うんうん) 或いは、その女性の中の、その階層差みたいな(うんうんうん)、私に書くのかとか、いろいろな、いろいろなものいろいろなもの見えてきているわけじゃない？。

214JF071：うんうんうん。

⁵¹ (170)では、後続発話「カニとか、エビとか」の後に、「まー」が現れている。その発話時点で、別の認知プロセスが始まっていると考えられる。従って、「あー、まー」の後続発話は「カニとか、エビとか」のみであると考えられる。

(171)では、213JF072 に先行発話「基本的に私はジェンダーでやってるわけだけど、うん、なんか」と、二連鎖感動詞類「あの一、その一」と、後続発話「いろいろその、同じ家政婦のことについて書くにしても、その、都市農村の問題として書くのか」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「あの一、その一」の発話時点で、発話者 JF072 が先行発話の命題「基本的に私はジェンダーでやってるわけだ」に対する真偽の検討を繰り返している。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あの一、その一」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「基本的に私はジェンダーでやってるわけだけど、うん、なんか、あの一、その一、いろいろその、同じ家政婦のことについて書くにしても、その、都市農村の問題として書くのか」は「X, 【B 群, B 群】, X」と表記できる。

5.1.2.4.2. 「新情報, あの一, ま, 新情報」類

ここでは、「新情報, あの一, ま, 新情報」類を扱うが、本論文では「新情報, あの一, ま, 新情報」しか現れていない。(172)を見られたい。

(172)

163JM028 : だから、おっきな失敗すると、(うん) あとで成功につながるよ。

164JFB027 : つながんのかなー？。

165JM028 : つながる。

166JFB027 : でもさ、その人がさ、(うん) 自分にとってさ、ほんとにさ、(うん) ほんともうさー、あ、もう、もう、ほんと素敵っていう(うん) 人と、そう、うまくいったのにさー(うん) そんなそんな、ようなことでだめんなっちゃってさー、そういうさ、偉大な人をさ、失ったリスクってすごい大きくない？。

167JM028 : あーそれは、それは、そうだけど(く笑い) あの一、ま、こう、客観的に言わせてもらえば、(うん) 《少し間》次一見つけた人も、たぶん、偉大な人だよく最後軽く笑いながら。

168JFB027 : になると思う？。

(172)では、167JM028 に先行発話「それは、それは、そうだけど」と、二連鎖感動詞類「あの一、ま」と、後続発話「こう、客観的に言わせてもらえば」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「あの一、ま」の発話時点で、発話者 JM028 が先行発話の命題「それは、それは、そうだ」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あの一、ま」は、【真偽の検討 (B

群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あーそれは、それは、そうだけどあの一、ま、こう、客観的に言わせてもらえば」は「X, 【B 群, C 群】, X」と表記できる。

次も、同じ「新情報, あの一, ま, 新情報」のデータである。

(173)

529JF064 : 悩めるから幸せな時期だよ、でも。

530JF063 : <笑い>。

531JF063 : あたしね、前回「JF064 名」ちゃんに会った時はね、ほんっとね、

532JF064 : うん。

533JF063 : なんか、うつだったね。

534JF064 : あー。

535JF063 : もう、なん、自分の口から出ること、全部さ、なんか、あの一、ま、なんか、後ろ向きっていうの??、 (うん) 前向きじゃないの。

536JF064 : うん。

(173)では、535JF063 に先行発話「自分の口から出ること、全部さ、なんか」と、二連鎖感動詞類「あの一、ま」と、後続発話「なんか、後ろ向きっていうの??」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表している。また、「あの一、ま」の発話時点で、発話者 JF063 が先行発話の命題「自分の口から出ること、全部」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「あの一、ま」は、【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「自分の口から出ること、全部さ、なんか、あの一、ま、なんか、後ろ向きっていうの??」は「X, 【B 群, C 群】, X」と表記できる。

5.1.2.4.3. 「新情報, あの一, 那一, 新情報」類

ここでは、「新情報, あの一, 那一, 新情報」類を扱うが、本論文では「新情報, あの一, 那一, 新情報」しか現れていない。(174)を見られたい。

(174)

0358①F02 : 理系の人に、ちょっと教えてもらって

0359①F01 : ちょっと教えてもらって、先生にも、質問しに行かんきや

0360①F02 : うん、でも

0361①F01：やばいなー

0362①F02：そー，先生，自分なんか，たぶん先生に聞いたら，無理なんよ

0363①F01：えっ，なんで？

0364①F02：先生って，なんか，あれやん，なんかで，あの一，そ一，自分なんか，めっちゃ踏み込んで聞いてしまうよ，で，細かすぎるから（うん），ちょっと，先生にお世話になれない，〔笑〕（〔笑〕），そ一，同期のほーが聞きやすい

0365①F01：自分で解決するしかない

(174)では，0364①F02に先行発話「先生って，なんか，あれやん，なんかで」と，二連鎖感動詞類「あの一，そ一」と，後続発話「自分なんか，めっちゃ踏み込んで聞いてしまうよ」が現れている。

ここでは，先行発話は新情報を表していると考えられる。また，「あの一，そ一」の発話時点で，発話者①F02が先行発話の命題「先生って」に対する真偽の検討を行い，真偽判断の確定を行っている。そして，後続発話は真偽判断を下すことではなく，新情報を表している。つまり，ターン中の二連鎖感動詞類「あの一，そ一」は，【真偽の検討（B群）→真偽判断の確定（D群）】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり，先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち，「先生って，なんか，あれやん，なんかで，あの一，そ一，自分なんか，めっちゃ踏み込んで聞いてしまうよ」は「X，【B群，D群】，X」と表記できる。

5.1.2.5. 「…，うーん，～，…」類

本節では，ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「うーん」がくるもの，即ち「新情報，うーん，まー，新情報」類を扱う。

5.1.2.5.1. 「新情報，うーん，まー，新情報」類

ここでは，「新情報，うーん，まー，新情報」類を扱うが，本論文では「新情報，うーん，まー，新情報」しか現れていない。(175)を見られたい。

(175)

0013①M11：うん，よー出てた，そんなんやった，うん，〈ちなみに俺は京都〉

0014①F12：〈そ一，わーたし〉，ちなみに？

0015①M11：うん

0016①F12：なんで？

0017①M11：なんで

0018①F12：うん

0019①M11：えっ，外国には，あんま行きたくないのと（うん），で，あと，うーん，ま一，

アニメの聖地とかも行きたいけど

0020①F12：京都で？

(175)では、0019①M11 に先行発話「外国には、あんま行きたくないのと（うん）で、あと」と、二連鎖感動詞類「うーん、まー」と、後続発話「アニメの聖地とかも行きたいけど」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「うーん、まー」の発話時点で、発話者①M11 が先行発話の命題「外国には、あんま行きたくないのと」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「うーん、まー」は、【真偽の検討（B 群）→真偽判断の保留（C 群）】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「外国には、あんま行きたくないのと（うん）、で、あと、うーん、まー、アニメの聖地とかも行きたいけど」は「X, 【B 群, C 群】, X」と表記できる。

同様の組み合わせとして、次の「新情報, えーっと, まー, 新情報」類がある。

5.1.2.6. 「…, えーっと, ～, …」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「えーっと」がくるもの、即ち「…, えーっと, まー, …」類を扱う。

5.1.2.6.1. 「新情報, えーっと, まー, 新情報」類

ここでは、「新情報, えーっと, まー, 新情報」類を扱うが、本論文では「新情報, えーっと, まー, 新情報」しか現れていない。(176)を見られたい。

(176)

0492①F12：うん、過去に戻る、未来でも、今のさー、段階で（うん）、例えば、未来へ行くとするじゃん

0493①M11：うん

0494①F12：なんか見たら、変わりそーじゃない？

0495①M11：まー、普通に考えて変わるやろ

0496①F12：うん（〔笑〕）、いやだあって思ったら、いやだと思わんでも、変わる気がするんだけど

0497①M11：それこそだって、過去の自分に、えーっと、まー、今とゆーべきか

0498①M11：うん

(176)では、0497①M11 に先行発話「それこそ、だって、過去の自分に」と、二連鎖感動詞類「えーっと、まー」と、後続発話「今とゆーべきか」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表している。また、「えーっと、まー」の発話時点で、発話者①M11 が先行発話の命題「それこそ、過去の自分に」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の保留を行っている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「えーっと、まー」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の保留 (C 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「それこそ、だって、過去の自分に、えーっと、まー、今とゆーべきか」は「X, 【B 群, C 群】, X」と表記できる。

5.1.2.7. 「…、その一、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「その一」がくるもの、即ち「…、その一、えー、…」類を扱う。

5.1.2.7.1. 「新情報、その一、えー、新情報」類

ここでは、「新情報、その一、えー、新情報」類を扱うが、本論文では「新情報、その一、えー、新情報」しか現れていない。(177)を見られたい。

(177)

0399①M11 : 好きなように体験していーやってゆーはなし

0400①F12 : 未来か

0401①M11 : やけ、その、例えば、あの一、武士の大将とか

0402①F12 : うん

0403①M11 : あの一、江戸時代の幕府の(うん)、幹部とかまでにならん、なるよーなレベルじゃなかったら(うん)、別に平民の人たちに関わるとか

0404①F12 : うん

0405①M11 : あるいは、ちらっと、その一、えー、都を見に行くとかさー、そーいうのはあるんじゃないかって

0406①F12 : でも(うん)それってさー(うん)、大きな歴史の流れ的には変わらないけど(うん)、小さい個人の人の歴史を考えていくと、変わる可能性はあるよね

(177)では、0405①M11 に先行発話「あるいは、ちらっと」と、二連鎖感動詞類「その一、えー」と、後続発話「都を見に行くとかさー、そーいうのはあるんじゃないかって」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「その一、えー」の発話時点で、発話者①M11 がその命題に対する真偽の検討を繰り返している。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「その一、えー」は、【真偽の検討 (B 群) → 真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「あるいは、ちらっと、その一、えー、都を見に行くとかさー、そーいうのはあるんじゃないと思って」も「X, 【B 群, B 群】, X」と表記できる。

5.1.2.8. 「…、まー、～、…」類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「まー」がくるもの、即ち「…、まー、うん、…」類を扱う。

5.1.2.8.1. 「新情報, まー, うん, 新情報」類

ここでは、「新情報, まー, うん, 新情報」類を扱うが、本論文では「新情報, まー, うん, 新情報」しか現れていない。(178)を見られたい。

(178)

314JFB025 : 氷だけあったって、(あ、ま、たしかに) 体に (たしかに) ながせんがいね、(あ、まー) でもその子は、氷しか持ってこんかってんで、(あー)、すんげーきれて、あたし (<笑い)。

315JFB025 : “はー” って、“もう全然分かってない” つつって、(あー) で、そんな悪い気分のままスタートしてんね、(あー) じ、自己ベストより 20 秒遅かった (あー)。

316JFB025 : だから、それ、が、1つ悔いではあるけど、(うん) 練習自体、まー、うん、悔いはない。

317JM026 : うんー。

(178)では、316JFB025 に先行発話「練習自体」と、二連鎖感動詞類「まー、うん」と、後続発話「悔いはない」が現れている。

ここでは、先行発話は新情報を表していると考えられる。また、「まー、うん」の発話時点で、発話者 JFB025 が先行発話の命題「練習自体」に対する真偽判断の保留から確定まで行っている。そして、後続発話は真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。つまり、ターン中の二連鎖感動詞類「まー、うん」は、【真偽判断の保留 (C 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話・後続発話は新情報(X)である。

即ち、「練習自体、まー、うん、悔いはない」は「X, 【C 群, D 群】, X」と表記できる。

5.1.2.9. ターン中の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、日本語の自然会話におけるターン中の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.1.2.1～5.1.2.8 で扱ったターン中の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 16 に示す。

表 16 ターン中の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧

発話者記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)			認知ユニット
		先行発話	二連鎖感動詞類	後続発話	
328JF056	時間分かんなくない?= =【あ、え】、言っちゃだめなのかな?	X	A, A	X	X, 【A, A】, X
427JF060	今年はどうなるん…= =【あ、え】、OB誰か来るって言った?	X	A, A	X	X, 【A, A】, X
529JF096	でもあたしはさー、【え、あ】、なんか、何?	X	A, A	X	X, 【A, A】, X
213JF072	基本的に私はジェンダーでやってるわけだけど、うん、なんか、【あの一、その一】、いろいろその、同じ家政婦のことについて書くにしても、その、都市農村の問題として書くのか	X	B, B	X	X, 【B, B】, X
0405①M11	あるいは、ちらっと、【その一、え一】、都を見に行くとかさー、そーいいうのはあるんじゃないと思って	X	B, B	X	X, 【B, B】, X
0199①M09	魚貝類、【あ一、ま一】、カニとか、エビとか	X	B, C	X	X, 【B, C】, X
167JM028	それは、それは、そうだけど(く笑い)【あの一、ま】、こう、客観的に言わしてもらえば	X	B, C	X	X, 【B, C】, X
535JF063	もう、なん、自分の口から出ること、全部さ、なんか、【あの一、ま】、なんか、後ろ向きっていうの??	X	B, C	X	X, 【B, C】, X
0497①M11	それこそ、だって、過去の自分に、【え一っと、ま一】、今とゆーべきか	X	B, C	X	X, 【B, C】, X
0019①M11	外国には、あんま行きたくないのと(うん)、で、あと、【うーん、ま一】、アニメの聖地とかも行きたいけど	X	B, C	X	X, 【B, C】, X
0364①F02	先生って、なんか、あれやん、なんかで、【あの一、そ一】、自分なんか、めっちゃ踏み込んで聞いてしまうよ	X	B, D	X	X, 【B, D】, X
316JFB025	練習自体、【ま一、うん】、悔いはない	X	C, D	X	X, 【C, D】, X

表 16 に示したターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせを以下のよう

表 17 日本語のターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)		
二連鎖感動詞類	先行発話	後続発話
	X	X
A, A	○	○
A, B		
A, C		
A, D		
B, B	○	○
B, C	○	○
B, D	○	○
C, C		
C, D	○	○
D, D		

表 17 を見ると分かるように、ターン中の二連鎖感動詞類では、「A 群, A 群」, 「B 群, B 群」, 「B 群, C 群」, 「B 群, D 群」, 「C 群, D 群」という組み合わせが見られている。また、二連鎖感動詞類は単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序に従っている⁵²。従って、「真偽判断に関する認知ユニット」を仮定することもできる。

そして、ターン中の二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話は現れておらず、新情報を表す発話(X)しか現れていない。ターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話は、少なくとも「X→A 群→B 群→C 群→D 群, X」という統語的順序が決まっている。

⁵² 現時点ではデータが少ないため、ターン中の二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わせが見られなかった。これは今後の課題とする。

5.1.3. ターン末尾の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン末尾の二連鎖感動詞類と対象として、先行発話も含めて考察する。先行発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話（ここでは、同語重複のこと）と、新情報を表す発話があると仮定している。

5.1.3.1. 「…， うん， ～」類

本節では、ターン末尾の二連鎖感動詞類の前項に「うん」がくるもの、即ち「…， うん， ～」類を扱う。

5.1.3.1.1. 「同語重複， うん， そー」類

ここでは、「同語重複， うん， そー」類を扱うが、本論文では「同語重複， うん， そー」は現れておらず、「同語重複， うん， そーそー」が現れている。(179)を見られたい。

(179)

1JFB027：なんかーや、「JF100 愛称」がさ、前にさ、「人名 1」にさー誘ってさー、（うん うんうん）いきなり直前に断られたって言ってたじゃん？。

2JF100：あー映画ね。

3JFB027：あ、映画ーね、<軽く笑いながら>うん、そうそう（うん）。

4JFB027：なんか、なんか、今日、今日その断りの、ものがきたんだけどー。

(179)では、3JFB027 に二連鎖感動詞類「うん、そうそう」と先行発話「映画ーね」が現れている。ここでは、発話者 JFB027 が笑いながら「映画ーね」と発話して、2JF100 の発話の一部を繰り返している。それによって、2JF100 の発話の命題に対する真偽判断の確定を下していると考えられる。このような意味で、「映画ーね」は 2JF100 の発話の同語重複である。そのうえで、「うん、そうそう」によって、その命題に対して真偽判断の確定を繰り返している。

即ち、「映画ーね、うん、そうそう」は【D'群（同語重複）、D 群、D 群】と表記できる。

5.1.3.2. 「…， あー， ～」類

本節では、ターン末尾の二連鎖感動詞類の前項に「あー」がくるもの、即ち「…， あー， ～」類を扱う。

5.1.3.2.1. 「新情報， あー， はい」類

ここでは、「新情報， あー， はい」類を扱う、本論文では「新情報， あー， はい」は現れておらず、「新情報， あー， はいはいはい」が現れている。(180)を見られたい。

(180)

412JF069 : 31 日ね、飲み会あるらしいよ、「学科名 1 略称」科で。

413JF069 : 行こうよ。

414JF070 : 31 なんか入ってた。

415JF069 : そう?。

416JF070 : でも何だろう。

417JF069 : 見て見て。

418JF069 : ([咳]) あっ、ハンカチは要るかな。

419JF070 : そっか、31 日の【 【。

420JF069 : 】】 なんか「学科名 略称」科【 【。

421JF070 : 】】 あっ、大丈夫、全然。

422JF069 : <笑いながら>全然大丈夫?。

423JF070 : 八王子病院だから<2 人で笑い>。

424JF069 : 入ってる入ってる。

425JF070 : 八王子病院に行つて、,

426JF069 : 3 時、あー、はいはいはい>{<}。

427JF070 : <####、>{>} 「人名 6 名」先生<笑い>。

428JF069 : これ、何時これ?。

429JF070 : 2 時。

(180)では、426JF069 に二連鎖感動詞類「あー、はいはいはい」と先行発話「3 時」が現れている。ここでは、426JF069 の先行発話「3 時」の発話は、425JF070「八王子病院に行つて」という発話に対する補足であるため、「3 時に八王子病院に行く」という新情報を表している。そのうえで、「あー、はいはいはい」の発話時点で、発話者 JF069 が先行発話の命題「3 時」に対する真偽の検討を行い、真偽判断の確定を下している。つまり、ターン末尾の二連鎖感動詞類「あー、はいはいはい」は、【真偽の検討 (B 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話は新情報(X)である。

即ち、「3 時、あー、はいはいはい」は「X, 【B 群, D 群】」と表記できる。

5.1.3.3. ターン末尾の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、日本語自然会話におけるターン末尾の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.1.3.1～5.1.3.2 で扱ったターン末尾の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 18 に示す。

表 18 ターン末尾の二連鎖感動詞類に関する日本語の会話データ一覧

発話者 記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)		認知ユニット
		先行発話	二連鎖 感動詞類	
3JFB027	【映画ーね、<軽く笑いながら>うん、そうそう】	D'同語重複	D, D	【D'重複類, D, D】
426JF069	3時、【あー、はいはいくはい】{<}	X	B, D	X, 【B, D】

表 18 に示したターン末尾の二連鎖感動詞類と先行発話の組み合わせを以下のようにまとめて示す。

表 19 日本語のターン末尾の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)		
二連鎖 感動詞類	先行発話	
	D'同語重複	X
A, A		
A, B		
A, C		
A, D		
B, B		
B, C		
B, D		○
C, C		
C, D		
D, D	○	

表 19 を見ると分かるように、ターン末尾の二連鎖感動詞類は、「B 群, D 群」, 「D 群, D 群」の組み合わせがしか現れていない。また、二連鎖感動詞類は単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序に従っている⁵³。

また、ターン末尾の二連鎖感動詞類の先行発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話 (D'群) と、新情報を表す発話(X)の 2 種類が見られる。即ち、ターン末尾の二連鎖感動詞類と先行発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは単純に並

⁵³ 現時点ではデータが少ないため、ターン末尾の二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わせが見られなかったが、今後の課題とする。

んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群・D'群」という統語的順序が決まっている。

なお、ターン末尾の二連鎖感動詞類の先行発話には、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、少なくとも「X→A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序が決まっている。

5.1.4. 認知ユニットに関する仮説の修正

本節では、日本語自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類の考察を通して、「真偽判断に関する認知ユニット」に関する仮説を修正する。

5.1.4.1. 仮説の修正

まず、1ターン内の二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、1ターンの二連鎖感動詞類を構成する感動詞類と同じく、大きく4種類の認知プロセスに分けられる。また、二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わせが許されることと、二連鎖感動詞類の認知プロセスは、単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっていることが明らかになった。

そして、1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話(D'群)と、新情報を表す発話(X)の2種類が見られる。ここでは、1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話は、以下のような認知プロセスが立てられる。

(181)「D'群」: 1ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素がある場合、その発話時に、発話者が命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

具体的には、以下のようなものが見られる。

- a. 副詞:「確かに」、「本当に」
- b. 動詞:「分かる」
- c. 同語重複: 先行発話(あるいはその一部)を重複する発話

ここでは、1ターンの中で、二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話があるとき、それがD群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある、ということを示している。また、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群・D'群」という統語的順序が決まっている。

なお、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、少なくとも「X→A群→B群→C群→D群→X」という統語的順序が決まっている。

従って、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を以下のように修正する。

(182)真偽判断に関する認知ユニット:

【アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群・D'群)】

5.1.4.2. 反復

前節では、「真偽判断に関する認知ユニット」に関する仮説を修正したが、この仮説をさらに支持する「反復」という現象を観察する。

本論文では、1 ターン内の二連鎖感動詞類を観察すると、しばしば反復現象が見られる。反復には、同じ形式が反復される場合と、前項と後項で同じ群の感動詞類が反復される場合とがある。

一方、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスの反復現象も見られる。以下、5.1.1～5.1.3 で扱った真偽判断に関する認知プロセスが反復される会話データを表 20 に示す。

表 20 真偽判断に関する認知プロセスが反復される日本語の会話データ一覧

発話者記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)			認知ユニット
		先行発話	二連鎖感動詞類	後続発話	
117JFB025	【うんー、うんうんうん、ほんとに】		D, D	D'副詞	【D, D, D'副詞】
0463①F01	【あ、うんうんうんうん、分かる分かる、でも分かる】		A, D	D'動詞	【A, D, D'動詞】
601JF094	【<あー>{>、うん、分かるー】		B, D	D'動詞	【B, D, D'動詞】
0035①M11	【あー [↑↓]、うんうん、分かる】		D, D	D'動詞	【D, D, D'動詞】
13JF108	【あ、そうそうそれだけそれだけ】		A, D	D'同語重複	【A, D, D'同語重複】
690JF093	【あ、うん、『がまる』なんだ、うん】		A, D	D'同語重複, D	【A, D, D'同語重複, D】
450JF070	【あー、うん、正しい】		B, D	D'同語重複	【B, D, D'同語重複】
224JMB009	【うん、そうそう、『クロスエンジェル』】		D, D	D'同語重複	【D, D, D'同語重複】
3JFB027	【映画一ね、<軽く笑いながら>うん、そうそう】	D'同語重複	D, D		【D'同語重複, D, D】

表 20 を見ると分かるように、D 群の感動詞類と D'群の先行発話・後続発話の反復がよく見られる。真偽判断の確定を行う認知プロセスの頻度が圧倒的に高い理由としては、D 群と D'群が聞き手に渡さなければならない情報であるからであろう。真偽判断結果の情報を可能な限り確実に渡すために反復が行われるのではないかと考えられる。このことから、次のように仮定する。

(183)認知プロセスの反復に関する条件：

真偽判断の確定を行う認知プロセスは反復できる。

ここでは、真偽判断の確定を行う認知プロセスは反復できる、ということを表している。

5.1.4.3. リセット感動詞類

本節では、修正した「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説をさらに支持する「リセット」という現象を観察する。

本論文では、1 ターン内の二連鎖感動詞類を観察すると、真偽判断の認知ユニットの途中で、認知プロセスの流れがキャンセルされ、リセットされる（認知ユニットの開始段階に戻る）リセット感動詞類もある。ここでは、リセット感動詞類の直後に別の発話が始まる場合も見られる。以下の会話データを見られたい。

(184)

0300①M04 : 塾講師しとるんよね、その人

0301①M03 : あ, え[↑], 大学生?

0302①M04 : いや, 違う, 普通の

(184)では, 0301①M03 に「あ, え[↑]」という発話が現れている。前項の「あ」はA群に属するが, 後項の「え[↑]」は真偽判断をしているわけではなく, 先行発話の命題「塾講師しとる, その人」が示す新情報を理解できなかった(取り損なった)ため, 発話者①M03 が発話者①M04 に対し聞き直しているのである。従って, 発話者①M03 は, 「大学生?」という新情報(X)を表していると考えられる。

次も, 同じリセット感動詞類「え[↑]」が現れるデータである。

(185)

0135①M09 : 「人名3」君いつ川蟬知ったん

0136①M10 : えー[↑], いつ, いつよ, でもなんか動物奇想天外とかで, <やった気がする>

0137①M09 : <あー, あったやん, あー>

0138①M10 : なんか, たぶんテレビで, うーん

0139①M09 : そーそー川蟬聞かんでしょー

0140①M10 : あ, もし, あんまり聞かん

0141①M09 : 聞かんよね, 綺麗な鳥だとは思うけど, 《2s》うんー[↑], 《4s》いや, でも, 「人名2」先生住んでいる近くに川蟬飛んでるかなとびょつくりした

0142①M10 : うんー, え[↑], その, 川, なんだなー, 違うかなー

0143①M09 : 分からん, どこに住んでるか知らなかったさー

0144①M10 : <あー>

(185)では, 0142①M10 に「うんー, え[↑]」という発話が現れている。前項の「うんー」はD群に属し, それによって, 先行発話の命題「でも, 「人名2」先生住んでいる近くに川蟬飛んでるかなとびょつくりした」に対する真偽判断は終了している。後項の「え[↑]」は真偽判断をしているわけではなく, 先行発話の命題が示す新情報を完全に理解できなかった(取り損なった)ため, 発話者①M10 が「その, 川, なんだなー, 違うかなー」によって, 新情報(X)として表していると考えられる。

以上のことから, 「え[↑]」は新情報取得の失敗の標示であると考えられる。そして, これによって, 真偽判断の認知プロセスの流れを中断することになる。つまり, 「え[↑]」はリセット感動詞類として, 認知ユニットをリセットしている。

即ち、(184)の「あ、え[↑]、大学生?」は「【A 群】、リセット感動詞類、X」と表記できる。(185)の「うんー、え[↑]、その、川、なんだなー、違うかなー」は「【D 群】、リセット感動詞類、X」と表記できる。

「え[↑]」と同様の機能を持つと考えられる感動詞類に、「えー[↑]」があると考えられる。(186)を見られたい。

(186)

0396①F02: 自分はもともとイギリス英語も、アメリカ英語も(うん)、オーストラリアも(うん)、違いが分からん

0397①F01: あ、らしー、なんか、「人名 15」さんに教えてもらって

0398①F02: マジで?、何が違う、[笑]

0399①F01: なんか、CAN があるじゃん、できるみたい(うん)、あれが、なんかイギリスだった「カン」とゆーらしー

0400①F02: あー、そりゃ、有名よね

0401①F01: それしか調べてない

0402①F02: YOU CAN と CAN

0403①F01: でも、なんかオーストラリアは本当にやばいらしー

0404①F02: えっ、何がやばい、[笑]

0405①F01: なんか<全然>違うらしー

0406①F02: <全然>、えー[↑]、えっ、でも、普通、英語は英語よね

0407①F01: まー、英語は英語だから、まー、書く、書記とこー全部一緒じゃない

(186)では、0406①F02 に「えー[↑]、えっ」という 2 つ異なる感動詞類が並んでいる発話が見られている。また、「全然」という先行発話と、「でも、普通、英語は英語よね」という後続発話が見られる。

ここでは、先行発話「全然」は、0405①F01 の発話の同語重複である。それによって、0405①F01 の命題「全然違う」に対する真偽判断の確定を下している。先行発話の命題に対する真偽判断は終了している。しかし、その直後の「えー[↑]」は何であろうか。これは真偽判断をしているわけではなく、先行発話 0405①F01 の命題が示す新情報を完全に理解できなかった(取り損なった)ため、発話者①F02 が発話者①F01 に対し聞き直しているのである。従って、発話者①F02 は、「えっ」によって、0405①F01 の命題「全然違う」に対して再度アクセスしていると考えられる。そのうえで、発話者①F02 が「でも、普通、英語は英語よね」という新情報(X)を表していると考えられる。

以上のことから、「えー[↑]」は新情報取得の失敗の標示であると考えられる。そして、これによって、真偽判断の認知プロセスの流れを中断することになる。つまり、「えー[↑]」はリセット感動詞類として、認知ユニットをリセットしている。

即ち、「全然，えー[↑]，えっ，でも，普通，英語は英語よね」は「D'群（同語重複）」，リセット感動詞類，【A 群】，X」と表記できる。

以上より、「え[↑]」，「えー[↑]」は，真偽判断に関する認知ユニットとは別のものであり，リセット感動詞類であることが分かる。即ち，リセット感動詞類は，真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場し，それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っている。このように仮定することによって，認知ユニットに関する仮説も維持できることになる。ただ，リセット感動詞類にどのようなものが属するのかについては，網羅できていない。今後の課題である。

5.1.5. まとめ

5.1 では、日本語の自然会話における 1 ターン内の二連鎖感動詞類を対象とし、どのような種類の感動詞類が連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで、二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を検証し、修正した。さらに、感動詞類の反復とリセット感動詞類も広く見られている。その結果、以下のことが明らかになった。

- (187)①1 ターン内の二連鎖感動詞類は、4 種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス (A 群)、真偽の検討 (B 群)、真偽判断の保留 (C 群)、真偽判断の確定 (D 群) によって構成されている。
- ②1 ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話 (D'群) と、新情報を表す発話(X)の 2 種類が見られる。
- ③1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは「A 群, B 群, C 群, D 群・D'群」という統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスは、全体として 1 つの認知ユニット (ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」) を形成している。
- ④1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、「X→A 群, B 群, C 群, D 群, X」という統語的順序が決まっている。
- ⑤1 ターン内の二連鎖感動詞類に 2 種類の反復 (同じ形式の反復と同じ群の反復) が見られる。また、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスの反復現象も見られる。
- ⑥真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類が存在する。

5.2. 中国語の考察

本節では、データIVを利用し、中国語の自然会話に現れる 1 ターン内の二連鎖感動詞類について、その出現位置により、「ターン初頭の二連鎖感動詞類」、「ターン中の二連鎖感動詞類」、「ターン末尾の二連鎖感動詞類」の3種類に分けて、観察していく。

5.2.1. ターン初頭の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン初頭の二連鎖感動詞類を対象として、後続発話も含めて考察する。後続発話には、新情報を表す発話と、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話（ここでは、副詞、同語重複のこと）があると仮定する。

5.2.1.1. 「哦、～、…」(あ、～、…)類

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「哦」(あ)がくるもの、即ち「哦、欸、新情報」(あ、えっ、新情報)類、「哦、对、新情報」(あ、そー、新情報)類、「哦、对、副詞」(あ、そー、副詞)類、「哦、欸、同語重複」(あ、えっ、同語重複)類を扱う。

5.2.1.1.1. 「哦、欸、新情報」(あ、えっ、新情報)類

ここでは、「哦、欸、新情報」(あ、えっ、新情報)類を扱うが、本論文では「哦、欸、新情報」(あ、えっ、新情報)しか現れていない。(188)を見られたい。

(188)

0201◎F11 : 嗯, 然后下午 12 点 50, 接着有发, 他们学辈, 那个长辈的发表(哦), 把那个发表预习一下

うん, そして午後 12 時 50 分から, 発表, 先輩たち, その先輩の発表(あ), その発表内容を予習するんだ

0202◎F12 : 哦, 欸, 明天你们也有啊

{o, ai }

あ, えっ, 明日◎F11 ちゃんたちも出るの

0203◎F11 : 嗯

うん

(188)では、0202◎F12 に二連鎖感動詞「哦、欸」(あ、えっ)が現れている。ここでは、「哦」(あ)、「欸」(えっ)の発話時点で、発話者◎F12 が 0201◎F11 の発話内容の命題「把那个发表预习一下」(その発表内容を予習する)にアクセスしている。しかし、後続発話の「明天你们也有啊」(明日◎F11 ちゃんたちも出るの)は、どのような意味を持っているのだろうか。ここでは、後続発話は、真偽判断を下すことではなく、新情報を表している。

つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「哦，欸」（あ，えっ）は，【アクセス（A群）→アクセス（A群）】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。後続発話「明天你们也有啊」（明日◎F11 ちゃんたちも出るのか）は新情報を表していると考えられる。以下，このような新情報を表す発話を「X」で表記する。

即ち，「哦，欸，明天你们也有啊」は「【A群，A群】，X」と表記できる。

5.2.1.1.2. 「哦，对，新情報」（あ，そー，新情報）類

ここでは，「哦，对，新情報」（あ，そー，新情報）類を扱うが，本論文では「哦，对，新情報」（あ，そー，新情報）しか現れていない。(189)を見られたい。

(189)

0199◎F11：我今天把它整理出来，因为那个明天上课嘛（哦），明天一天的课（哦），早上10点不是需要拿着电脑上那个课吗？

今日中にまとめて，明日なんか授業があるから，（あ），明日丸1日授業があるんだ（あ），朝10時にパソコンを持ってあの授業に出るんじゃない？

0200◎F12：<哦，对对对，我也有>〔笑〕

{o, dui dui dui }

<あ，そーそーそー，私も出る>〔笑〕

0201◎F11：嗯，然后下午12点50，接着有发，他们学辈，那个长辈的发表（哦），把那个发表预习一下

うん，また午後12時50分から，発表，先輩たち，その先輩の発表（あ），その発表内容を予習するんだ

(189)では，0200◎F12に二連鎖感動詞「哦，对对对」（あ，そーそーそー）が現れている。ここでは，「哦」（あ）の発話時点で，発話者◎F12が0199◎F11の「早上10点是需要拿着电脑上那个课」（朝10時にパソコンを持ってあの授業に出る）にアクセスしている。そのうえで，発話者◎F12が「对对对」（そーそーそー）という発話によって，その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また，「我也有」（私も出る）という後続発話は新情報を表していると考えられる。つまり，ターン初頭の二連鎖感動詞類は，【アクセス（A群）→真偽判断の確定（D群）】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり，後続発話は新情報(X)である。

即ち，「哦，对对对，我也有」は「【A群，D群】，X」と表記できる。

5.2.1.1.3. 「哦，对，副詞」（あ，そー，副詞）類

ここでは、「哦, 对, 副詞」(あ, そー, 副詞) 類を扱うが, 本論文では「哦, 对, 副詞」(あ, そー, 副詞) しか現れていない。(190)を見られたい。

(190)

0317◎F03 : 「地名 3」

「地名 3」

0318◎F04 : 一直想去, 一直都没有去

ずっと行きたかったけど, 行けなかった

0319◎F03 : 在我们学校简直就是, [舌] 你们学校应该也是一样的

うちの学校はまるで, [舌] ◎F04 ちゃんたちの学校も一緒でしょー

0320◎F04 : 太近了, 我们学校?, <我们学校?>

近すぎ, うちの学校?, <うちの学校?>

0321◎F03 : <就是女生比较多>

<なんか女の子が多いよね>

0322◎F04 : 哦, 对, 就是

{o, dui}

あ, そー, 確かに

0323◎F03 : <男>

<男>

(190)では, 0322◎F04 に二連鎖感動詞類「哦, 对」(あ, そー) と後続発話「就是」(確かに) が現れている。ここでの「哦, 对」(あ, そー) の発話時点で, 発話者◎F04 が 0321◎F03 の命題「女生比较多」(女の子が多い) にアクセスし, 真偽判断の確定を行っている。そのうえで, 発話者◎F04 が副詞の「就是」(確かに) という発話によって, 先行発話の命題に対して肯定し, 受容していると考えられる。

以上より, 後続発話に「就是」(確かに) のような副詞が現れる場合, 以下のような仮説が立てられる。

(191)1 ターンの中で, 二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素(ここでは副詞)があるとき, それが D 群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある。そのような要素を, 「D'群(副詞)」とする。

即ち, 「哦, 对, 就是」(あ, そー, 確かに) は「【A 群, D 群, D'群(副詞)】」と表記できる。

5.2.1.1.4. 「哦, 欸, 同語重複」(あ, えっ, 同語重複) 類

ここでは、「哦，欸，同語重複」(あ，えっ，同語重複)類を扱うが，本論文では「哦，欸，同語重複」(あ，えっ，同語重複)しか現れていない。(192)を見られたい。

(192)

0289◎F09：去年不是推迟了吗，因为去年不是下大雨吗
去年は延期されたね，去年大雨だったじゃん

0290◎F10：哦
あ

0291◎F09：「国名1」不是被洪水了吗〔笑〕，好惨，然后，然后就推到9月份，那天好像放烟花了，你那个时候好像没回来
「国名1」が洪水の被害にあったじゃん〔笑〕，ひどかったよ，そして，そして9月に延期された，その日花火をしたよ，◎F10 ちゃんはまだ帰ってなかったみたいね

0292◎F10：哦，欸，<9月份我还没，哦一[↓]>
{o, ai}

あ，えっ，<9月に私はまだ，あ一[↓]>

0293◎F09：<你那个时候>，对，你那个时候在国内，你还没回来，那个时候还在放假<その時>，そー，その時◎F10 ちゃんは国内にいたね，まだ帰ってなかった，その時まだ夏休み中

(192)では，0292◎F10 に二連鎖感動詞「哦，欸」(あ，えっ)が現れている。ここでは，「哦」(あ)，「欸」(え)の発話時点で，発話者◎F10 が0291◎F09 の発話内容の命題「你那个时候好像没回来」(◎F10 ちゃんはまだ帰ってなかったみたい)にアクセスしている。しかし，後続発話の「9月份我还没」(9月に私はまだ)は，どのような意味を持っているのだろうか。これは，◎F10 が0291◎F09 の発話(その一部)を繰り返す，その命題に対して肯定し，受容していると考えられる。このような意味で，「9月份我还没」(9月に私はまだ)は先行発話の内容を繰り返している。さらに，「9月份我还没」(9月に私はまだ)の後に，「哦一[↓]」(あ一[↓])が現れている。「哦一[↓]」(あ一[↓])の発話時点で，発話者◎F10 が先行発話の命題に対する再度肯定的な判断を下していると考えられる。

以上より，「9月份我还没」(9月に私はまだ)のような「同語重複」が現れる場合，以下のような仮説が立てられる。

(193)1 ターンの中で，二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素(ここでは「同語重複」)があるとき，それがD群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある。そのような要素を，「D'群(同語重複)」とする。

即ち、0292©F10 の発話は【A 群, A 群, D'群 (同語重複), D 群】と表記できる。

5.2.1.2. 「啊, ~, …」(あ, ~, …) 類

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「啊」(あ) がくるもの、即ち「啊, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報) 類を扱う。

5.2.1.2.1. 「啊, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報) 類

ここでは、「啊, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報) 類を扱うが、本論文では「啊, 对, 新情報」(あ, そー, 新情報) は現れておらず、「啊, 对对, 新情報」(あ, そーそー, 新情報) が現れている。(194)を見られたい。

(194)

0415©F03 : 还有, 昨天下午我越跟「人名 1 的姓」老师交流我就越有这种, <一切都是虚构的>
で, 昨日の午後, 「人名 1 の姓」先生と話せば話すほどこんな感じになるね,
<すべて架空のものだ>

0416©F04 : <他也是这样学的>
<先生もこーいうように学んだ>

0417©F03 : 那书就是他写的
その本先生が書いたよ

0418©F04 : 啊, 对对 [笑], 欸, 虚构什么虚构主义, 构造主义
{a, dui dui}

あ, そーそー [笑], えっ, 架空のものって架空主義, 構造主義

0419©F03 : 嗯, 他他, 他特别喜欢构造主义, 他就觉得, 也不是他喜欢, 我觉得应该是就是一个, 像客观的, 去让你去怎么看这个事情
うん, 先生, 先生は構造主義大好き, なんか, 好きというか, なんかそれは, 客観的, どー考えるべきかっていうことだね

(194)では、0418©F04 に二連鎖感動詞「啊, 对对」(あ, そーそー) が現れている。ここでは、「啊」(あ) の発話時点で、発話者©F04 が 0417©F03 の「那书就是他写的」(その本先生が書いた) にアクセスしている。そのうえで、発話者©F04 が笑いながら「对对」(そーそー) という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また、後続発話の「欸, 虚构什么虚构主义, 构造主义」(えっ, 架空のものって架空主義, 構造主義) は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「啊, 对对」(あ, そーそー) は【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、0418©F04 の発話は【A 群, D 群】、X」と表記できる。

5.2.1.3. 「欸, ~, …」(えっ, ~, …) 類

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「欸」(えっ) がくるもの、即ち「欸, 对, 同語重複」(えっ, そー, 同語重複) 類を扱う。

5.2.1.3.1. 「欸, 对, 同語重複」(えっ, そー, 同語重複) 類

ここでは、「欸, 对, 同語重複」(えっ, そー, 同語重複) 類を扱うが、本論文では「欸, 对, 同語重複」(えっ, そー, 同語重複) は現れておらず、「欸, 对对, 同語重複」(えっ, そーそー, 同語重複) が現れている。(195)を見られたい。

(195)

0128©F02 : <雪菜吧>

<高菜かしら>

0129©F01 : <你见过吗?>, 那种黑色的, <也不是黑色>

<見たことある?>, その黒いの, <まー黒くないけど>

0130©F02 : <就是南方>, 南方的白菜对吧?

<南のほー>, 南のほうの白菜でしょー?

0131©F01 : <南方的白菜?>

<南のほーの白菜?>

0132©F02 : <北方没有>, 对, 上海的那个雪菜拉面

<北のほーにはない>, そー, 上海のその高菜ラーメン

0133©F01 : 欸, 对对, 雪菜雪菜 (嗯), 跟雪菜挺像的

{ai, dui dui}

えっ, そーそー, 高菜高菜 (うん), 高菜に似てる

0134©F02 : 嗯, 酸菜鱼不就是<也是那个酸菜>

うん, 酸菜魚くもその酸菜じゃないの>

(195)では、0133©F01 に二連鎖感動詞「欸, 对对」(えっ, そーそー) が現れている。ここでは、「欸」(えっ) の発話時点で、発話者©F01 が 0132©F02 の「上海的那个雪菜拉面」(上海のその高菜ラーメン) にアクセスしている。そのうえで、発話者©F01 が「对对」(そーそー) という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また、発話者©F01 が、後続発話の「雪菜雪菜」(高菜高菜) によって、0132©F02 の発話 (その一部) を繰り返し、その命題に対して真偽判断の確定を行っている。

即ち、「欸, 对对, 雪菜雪菜」(えっ, そーそー, 高菜高菜) は【A 群, D 群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

5.2.1.4. 「哦一，～，…」(あ一，～，…)類

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「哦一」(あ一)がくるもの、即ち「哦一，对，新情報」(あ一，そ一，新情報)類を扱う。

5.2.1.4.1. 「哦一，对，新情報」(あ一，そ一，新情報)類

ここでは、「哦一，对，新情報」(あ一，そ一，新情報)類を扱うが、本論文では「哦一，对，新情報」(あ一，そ一，新情報)は現れておらず、「哦一，对对，新情報」(あ一，そ一，そ一，新情報)が現れている。(196)を見られたい。

(196)

0312◎F02：卧室也很小，因为她们东西可能本身也比较<多>

寝室も小っちゃいし，彼女たちのものも<多いし>

0313◎F01：<多哈>

<多いね>

0314◎F02：感觉她们的衣服呀，鞋子呀堆满了整个屋，还有什么毛绒玩具呀〔笑〕

なんか彼女たちの服とか，靴とか，部屋がぎゅーぎゅーになっている，ぬいぐるみもあるね〔笑〕

0315◎F01：可能跟我是一样的<〔笑〕>

私と同じかも<〔笑〕>

0316◎F02：<哦一，对对>，你家也是，就感觉好像，本来我们两家应该是一样的面积

{o:, dui dui}

<あ一，そ一そ一>，◎F01 ちゃんの部屋も，なんかね，部屋の広さが同じなの

に

0317◎F01：一样的格局

同じだね

(196)では、0316◎F02 に二連鎖感動詞「哦一，对对」(あ一，そ一そ一)が現れている。ここでは、「哦一」(あ一)の発話時点で、発話者◎F02 が 0315◎F01 の「可能跟我是一样的」(私と同じかも)に対する真偽の検討を行っている。そのうえで、発話者◎F02 「对对」(そ一そ一)という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また、後続発話の「你家也是，就感觉好像，本来我们两家应该是一样的面积」(◎F01 ちゃんの部屋も，なんかね，部屋の広さが同じなのに)は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「哦一，对对」(あ一，そ一そ一)は【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、0316◎F02 の発話は「【B 群，D 群】，X」と表記できる。

5.2.1.5. 「嗯ー，～，…」(うーん，～，…)類

本節では、ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「嗯ー」(うーん)がくるもの、即ち「嗯ー，也行，新情報」(うーん，まー，新情報)類，「嗯ー，对，新情報」(うーん，そー，新情報)類，「嗯ー，是，新情報」(うーん，そー，新情報)類を扱う。

5.2.1.5.1. 「嗯ー，也行，新情報」(うーん，まー，新情報)類

ここでは、「嗯ー，也行，新情報」(うーん，まー，新情報)類を扱うが、本論文では「嗯ー，也行，新情報」(うーん，まー，新情報)しか現れていない。(197)を見られたい。

(197)

0491◎M17：疫情赶紧好吧〔舌〕，疫情不好太耽误时间，都浪费了

早く疫病に退散してほしー〔舌〕，疫病で時間の無駄だ，無駄だね

0492◎M16：嗯ー，也行，我说真的，你现在只要一般以青年博士，我看招聘上，青年博士基
准的都以 35 岁以下为青年博士

{en:, ye xing}

うーん，まー，実はね，今ね一般的には若者博士，募集要項を見てね，若者博
士の判断基準は 35 歳以下なら若者博士と認められるね

0493◎M17：对，我就是，因为我知道这个东西，所以说我必须在 35 岁之前赶紧

そー，私も，それは知ってるから，だから 35 歳までに早めに

(197)では、0492◎M16 に二連鎖感動詞「嗯ー，也行」(うーん，まー)が現れている。ここでは、「嗯ー」(うーん)の発話時点で、発話者◎M16 が 0491◎M17 の「疫情不好太耽误时间，都浪费了」(疫病で時間の無駄だ，無駄だ)について真偽の検討を行っている。そのうえで、「也行」(まー)という発話によって、その命題に対する真偽判断の保留を行っている。また、後続発話の「我说真的，你现在只要一般以青年博士，我看招聘上，青年博士基准的都以 35 岁以下为青年博士」(実はね，今ね一般的には若者博士，募集要項を見てね，若者博士の判断基準は 35 歳以下なら若者博士と認められるね)は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「嗯ー，也行」(うーん，まー)は【真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)】をモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、0492◎M16 の発話は「【B群，C群】，X」と表記できる。

5.2.1.5.2. 「嗯ー，对，新情報」(うーん，そー，新情報)類

ここでは、「嗯ー，对，新情報」(うーん，そー，新情報)類を扱うが、本論文では「嗯ー，对，新情報」(うーん，そー，新情報)しか現れていない。(198)を見られたい。

(198)

0153©F07 : 突然想起我今天早上没, 真的我本来今天早上想的是洗个脸, 涂个防晒(嗯一),
什么都没弄
突然思い出したが, 今朝何も, 実はね今朝顔を洗って, 日焼け止めクリームを
塗りたかったけど(うーん), 何もしなかった

0154©F08 : 嗯一, 对, 我也没有啊, 我也没洗脸
{en:, dui}
うーん, そ一, 私も何もしなかったよ, 顔も洗わなかったよ

0155©F07 : 对
そ一

(198)では, 0154©F08 に二連鎖感動詞「嗯一, 对」(うーん, そ一)が現れている。ここでは, 「嗯一」(うーん)の発話時点で, 発話者©F08 が 0153©F07 の「什么都没弄」(何もしなかった)に対する真偽の検討を行っている。そのうえで, 発話者©F08 が「对」(そ一)という発話によって, その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また, 後続発話「我也没有啊, 我也没洗脸」(私も何もしなかったよ, 顔も洗わなかったよ)は新情報を表していると考えられる。つまり, ターン初頭の二連鎖感動詞類「嗯一, 对」(うーん, そ一)は, 【真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】をモニターする発話であり, 後続発話は新情報(X)である。

即ち, 0154©F08 の発話は「【B 群, D 群】, X」と表記できる。

(199)

0226©F11 : 嗯一 [↓], 我一直觉得她这手机壳好看, 特别夏天(嗯), 特别清凉
うん一 [↓], 彼女のスマートフォンのケースはいい感じね, 夏に合うね, (う
ん), 清凉感があるね

0227©F12 : 嗯一, 对, 「人名2 的名」的表情包都是可爱的 [笑]
{en:, dui}
うーん, そ一, 「人名2 の名」さんのスタンプも可愛一ね [笑]

0228©F11 : 嗯一 [↓]
うん一 [↓]

(199)では, 0227©F12 に二連鎖感動詞「嗯一, 对」(うーん, そ一)が現れている。ここでは, 「嗯一」(うーん)の発話時点で, 発話者©F12 が 0226©F11 の「特别清凉」(清凉感がある)に対する真偽の検討を行っている。そのうえで, 発話者©F12 が「对」(そ一)という発話によって, その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また, 後続発話の「人

名2的名的表情包都是可爱的」（「人名2の名」さんのスタンプも可愛ーね）は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「嗯ー，对」（うーん，そー）【真偽の検討（B群）→真偽判断の確定（D群）】をモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、0227◎F12の発話は「【B群，D群】，X」と表記できる。

5.2.1.5.3. 「嗯ー，是，新情報」（うーん，そー，新情報）類

ここでは、「嗯ー，是，新情報」（うーん，そー，新情報）類を扱うが、本論文では「嗯ー，是，新情報」（うーん，そー，新情報）しか現れていない。(200)を見られたい。

(200)

0422◎M14：〔笑〕要提前把这个要求说一下，<“会做饭吗？”>

〔笑〕その要求を事前に言ってね，<“料理できるか？”>

0423◎F15：<对，会做饭的>，对，我筛选一下，会做饭的先留下，就是脾气好的也留下，都要求，然后

<そー，料理できる人>，そー，選別してみよう，料理できる人を先を選んで，穏やかで優しー人も選んで，全員に要求して，で

0424◎M14：他们新生来，应该都找好了呀

新入生たちは，もう決めたんでしょー

0425◎F15：他们在群里肯定有人没找上的那种

彼らはグループの中で，決められなかった人がきつといるね

0426◎M14：嗯ー，<是，现在就有>

{en:，shi}

うーん，<そー，今もいるよ>

0427◎F15：<肯定有>，就像现在不是也有吗

<きつとおる>，今もいるよね

(200)では、0426◎M14に二連鎖感動詞「嗯ー，是」（うーん，そー）が現れている。ここでは、「嗯ー」（うーん）の発話時点で、発話者◎M14が0425◎F15の「他们在群里肯定有人没找上的那种」（彼らはグループの中で，決められなかった人がきつといる）に対する真偽の検討を行っている。そのうえで、発話者◎M14は「是」（そー）という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また、後続発話の「现在就有」（今もいるよ）は新情報を表していると考えられる。つまり、ターン初頭の二連鎖感動詞類「嗯ー，是」（うーん，そー）は【真偽の検討（B群）→真偽判断の確定（D群）】をモニターする発話であり、後続発話は新情報(X)である。

即ち、0426◎M14の発話は「【B群，D群】，X」と表記できる。

5.2.1.6. 「嗯, ~, …」(うん, ~, …) 類

本節では, ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「嗯」(うん) がくるもの, 即ち「嗯, 对, 同語重複」(うん, そー, 同語重複) 類を扱う。

5.2.1.6.1. 「嗯, 对, 同語重複」(うん, そー, 同語重複) 類

ここでは, 「嗯, 对, 同語重複」(うん, そー, 同語重複) 類を扱うが, 本論文では「嗯, 对, 同語重複」(うん, そー, 同語重複) しか現れていない。(201)を見られたい。

(201)

0148◎M13 : 比如说那个我看了一下他扫地机器人嘛对不对(嗯), 不能超过多少, 1万1万多就不能买

例えばそのロボット掃除機みたいね(うん), 上限はどのぐらいね, 1万もしくは1万以上なら買えないね

0149◎M14 : 1万多?, 电量?

1万以上?, 电量?

0150◎M13 : 嗯, 对, 电量, 因为它有电池的嘛, 你必须, 而且不能托运嘛, 肯定得随身就要过安检那样过

{en, dui}

うん, そー, 电量, バッテリーがあるから, 必ず, しかも預け入れできないね, 手荷物にすると検査しなきゃ

0151◎M14 : 那电量太小了, 那它怎么吸

電量が結構小さいじゃん, どのように動くか

(201)では, 0150◎M13 に二連鎖感動詞「嗯, 对」(うん, そー) が現れている。ここでは, 「嗯」(うん), 「对」(そー) の発話時点で, 発話者◎M13 が 0149◎M14 の命題「电量」(电量) に対して真偽判断の確定を繰り返している。また, 発話者◎M13 が, 後続発話の「电量」(电量) という発話によって, 0149◎M14 の「电量?」(电量?) という質問に対する肯定的な応答を行っている。つまり, 0150◎M13 が「电量」(电量) の発話時に, 0149◎M14 の命題に対して真偽判断の確定を行っていると考えられる。このような意味で, 「电量」(电量) は先行発話の同語重複である。

即ち, 「嗯, 对, 电量」(うん, そー, 电量) は【D 群, D 群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

(202)

- 0260◎F04 : 我一直, 其实我觉得很困惑这点, 就举个很简单的例子吧, 比如说单单拿学「国名 4」语来讲, 当时有人反对你学「国名 4」语?
 ずっと, 実は戸惑っていることがある, 例えば, 「国名 4」語の学習のこと,
 ◎F03 ちゃんに反対した人がいるの?
- 0261◎F03 : 当然有啦, 我觉得很可笑
 もちろんいるよ, 可笑しいね
- 0262◎F04 : 是家里人吗?
 家族に言われたの?
- 0263◎F03 : 除了家里人, 朋友啊认识的一些人, 问你“啊, 你学什么的?”“学「国名 4」语的”, “唉你学什么「国名 4」语啊, <「国名 4」人这么坏>, 就大致上都是这种”
 家族だけじゃなくて, 友達とか知り合いに聞かれて, “あ, 専門は何?” “「国名 4」語”, “あーあなぜ「国名 4」語を学ぶの, <「国名 4」人にいいイメージを持っていないのに>, 大体こんな感じ”
- 0264◎F04 : <嗯, 对, 是这样的>, 我家里人基本上, 就是应该大家都有这样想法, 但表面上肯定要过得去 [笑]
 {en, dui}
<うん, そー, こんな感じね>, うちもほとんど, そー思うはずだけど, 表面的には悪くないと思ってるよ [笑]
- 0265◎F03 : “哦ー [↓], 真好”什么的, ” 「国名 4」挺好的”什么的
 “あー [↓], いいね”とか, “「国名 4」はまーいいね”とか

(202)では, 0264◎F04 に二連鎖感動詞「嗯, 对」(うん, そー) が現れている。ここでは, 「嗯」(うん), 「对」(そー) の発話時点で, 発話者◎F04 が 0263◎F03 の命題「“你学什么「国名 4」语, <「国名 4」人这么坏>, 就大致上都是这种」(“なぜ「国名 4」語を学ぶ, <「国名 4」人にいいイメージを持っていないのに>, 大体こんな感じ) に対して真偽判断の確定を繰り返している。また, 発話者◎F04 が, 後続発話の「是这样的」(こんな感じね) という同語重複によって, その命題に対する真偽判断の確定を再度下していると考えられる。

即ち, 「嗯, 对, 是这样的」(うん, そー, こんな感じね) は【D 群, D 群, D'群 (同語重複)】と表記できる。

5.2.1.7. 「啊ー [↓], ~, …」(あー [↓], ~, …) 類

本節では, ターン初頭の二連鎖感動詞類の前項に「啊ー [↓]」(あー [↓]) がくるもの, 即ち「啊ー [↓], 嗯, 新情報」(あー [↓], うん, 新情報) 類を扱う。

5.2.1.7.1. 「啊ー [↓], 嗯, 新情報」(あー [↓], うん, 新情報) 類

ここでは、「啊ー [↓] , 嗯, 新情報」(あー [↓] , うん, 新情報) 類を扱うが, 本論文では「啊ー [↓] , 嗯, 新情報」(あー [↓] , うん, 新情報) は現れておらず, 「啊ー [↓] , 嗯嗯嗯, 新情報」(あー [↓] , うんうんうん, 新情報) が現れている。(203)を見られたい。

(203)

0358◎M16 : 那挺好 [笑] , 她毕业了吧?

いーね [笑] , 彼女は卒業したのか?

0359◎M17 : 她去年毕业的, 2019年7月份毕业的, 6, 7月份

去年卒業した, 2019年7月に卒業した, 6, 7月に

0360◎M16 : 啊ー [↓] , 嗯嗯嗯, 我记得, <什么时候>来的来?

{a:, en en en }

あー [↓] , うんうんうん, 僕の記憶は, <いつ>来たでしょー?

0361◎M17 : <1年了>, 她本来4月份要来的, 但因为疫情, 她那个学校发的签证都过来了, 但是中国这边不给签

<1年だった>, もともとは4月に来る予定だったけど, 疫病の影響で, 彼女の学校からビザを送ってくれたけど, 中国側は手続きをしてくれないんだ

(203)では, 0360◎M16 に二連鎖感動詞「啊ー [↓] , 嗯嗯嗯」(あー [↓] , うんうんうん) が現れている。ここでは, 「啊ー [↓]」(あー [↓]), 「嗯嗯嗯」(うんうんうん) の発話時点で, 発話者◎M16 が 0359◎M17 の命題「她去年毕业的, 2019年7月份毕业的, 6, 7月份」(去年卒業した, 2019年7月に卒業した, 6, 7月に) に対して真偽判断の確定を繰り返している。また, 後続発話の「我记得, 什么时候来的来?」(僕の記憶は, いつ来たでしょー?) の発話時に, 発話者◎M16 が自分の疑問を新情報として表している。つまり, 「啊ー [↓] , 嗯嗯嗯」(あー [↓] , うんうんうん) は【真偽判断の確定 (D 群) →真偽判断の確定 (D 群)】をモニターする発話であり, 後続発話は新情報(X)である。

即ち, 0360◎M16 の発話は「【D 群, D 群】, X」と表記できる。

5.2.1.8. ターン初頭の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、中国語の自然会話におけるターン初頭の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.2.1.1～5.2.1.7 で扱ったターン初頭の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 21 に示す。

表 21 ターン初頭の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧

発話者記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)		認知ユニット
		二連鎖感動詞類	後続発話	
0322©F04	【哦, 对, 就是】 【あ, そー, 確かに】	A, D	D'副詞	【A, D, D'副詞】
0292©F10	【哦, 欸, <9月份我还没, 哦-[↓]>】 【あ, えっ, <9月に私はまだ, あ-[↓]>】	A, A	D'同語重複, D	【A, A, D'同語重複, D】
0133©F01	【欸, 对对, 雪菜雪菜】 【えっ, そーそー, 高菜高菜】	A, D	D'同語重複	【A, D, D'同語重複】
0150©M13	【嗯, 对, 电量】 【うん, そー, 電量】	D, D	D'同語重複	【D, D, D'同語重複】
0202©F12	【哦, 欸】, 明天你们也有啊 【あ, えっ】, 明日©F11ちゃんたちも出るの	A, A	X	【A, A】, X
0200©F12	【<哦, 对对对】, 我也有> 【<あ, そーそーそー】, 私もある>	A, D	X	【A, D】, X
0418©F04	【啊, 对对】, 欸(笑), 虚构什么虚构主义, 构造主义 【あ, そーそー】, えっ(笑), 架空のものって架空主義, 構造主義	A, D	X	【A, D】, X
0492©M16	【嗯-, 也行】, 我说真的, 你现在只要一般以青年博士, 我看招聘上, 青年博士基准的都以35岁以下为青年博士 【うーん, まー】, 実はね, 今ね一般的には若者博士, 募集要項を見てね, 若者博士の判断基準は35歳以下なら若者博士と認められるね	B, C	X	【B, C】, X
0316©F02	【<哦-, 对对>】, 你家也是, 就感觉好像, 本来我们两家应该是一样的面积 【<あー, そーそー>】, ©F01ちゃんの部屋も, なんかね, 部屋の広さが同じなのに	B, D	X	【B, D】, X
0154©F08	【嗯-, 对】, 我也没有啊, 我也没洗脸 【うーん, そー】, 私も何をしなかったよ, 顔も洗わなかったよ	B, D	X	【B, D】, X
0232©F12	【嗯-, 对】, 「人名2的名」的表情包都是可爱的 【うーん, そー】, 「人名2的名」さんのスタンプも可愛ーね	B, D	X	【B, D】, X
0426©M14	【嗯-, <是>】, 现在就有 【うーん, <そー>】, 今もおるよ>	B, D	X	【B, D】, X
0264©F04	【<嗯, 对, 是这样的>】 【<うん, そー, こんな感じね>】	D, D	X	【D, D】, X
0360©M16	【啊-[↓], 嗯嗯】, 我记得, <什么时候>来的来? 【あ-[↓], うんうんうん】, 私の記憶は, <いつ>来たでしょー?	D, D	X	【D, D】, X

表 21 に示したターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせを以下のようにまとめて示す。

表 22 中国語のターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)				
二連鎖 感動詞類	後続発話			
	D	D'副詞	D'同語重複	X
A, A	○		○	○
A, B				
A, C				
A, D		○	○	○
B, B				
B, C				○
B, D				○
C, C				
C, D				
D, D			○	○

表 22 を見ると分かるように、ターン初頭の二連鎖感動詞類では、「A 群, B 群」, 「A 群, C 群」, 「C 群, D 群」の二連鎖感動詞類の組み合わせが見当たらなかったが、筆者の内省によると、「啊, 嗯—」(あ, うーん) (A 群, B 群), 「啊, 也是」(あ, ま—) (A 群, C 群), 「也是, 对对」(ま—, そ—そ—) (C 群, D 群) などは文法的に不自然ではないことが確認されている。以下の会話データを見られたい⁵⁴。

(204)

発話者 1: 暑假, 想去哪里?
夏休み, どこに行きたい?
 発話者 2: 啊, 嗯—, 冲绳怎么样?
 {a, en:}
あ, うーん, 冲绳はどー?

(205)

発話者 1: 一早去, 不用排队
朝早く行けば, 列に並ばなくてもいい
 発話者 2: 啊, 也是, 那明天早上 6 点出发吧
 {a, ye shi}
あ, ま—, じゃ, 明日 6 時に出発しよー

⁵⁴ (204)~(206) は作例であるが、ネイティブチェックの結果、いずれも自然な発話であるとのことである。

(206)

発話者 1: 一早去, 不用排队

朝早く行けば, 列に並ばなくてもいい

発話者 2: 也是, 对对, 那明天早上 6 点出发吧

{ye shi, dui dui dui}

まー, そーそー, じゃ, 明日 6 時に出発しよー

そうすると, 4 種類の群ではすべての組み合わせ (「A 群, B 群」, 「A 群, C 群」, 「A 群, D 群」, 「B 群, C 群」, 「B 群, D 群」, 「C 群, D 群」) が許されることになる。

また, 二連鎖感動詞類の認知プロセスは, 単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく, 少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序が決まっている。

そして, ターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話には, 真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話 (D'群) と, 新情報を表す発話(X)の 2 種類が見られる。

ターン初頭の二連鎖感動詞類と後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは単純に並んでいるわけではなく, 少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群・D'群」という統語的順序が決まっている。

なお, ターン初頭の二連鎖感動詞類の後続発話には, 真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合, 少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群→X」という統語的順序が決まっている。

5.2.2. ターン中の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン中の二連鎖感動詞類と対象として、先行発話・後続発話も含めて考察する。

5.2.2.1. 「…、哦、～、…」(…、あ、～、…)類

本節では、ターン中の二連鎖感動詞類の前項に「哦」(あ)がくるもの、即ち哦、是、同語重複」(新情報、あ、そー、同語重複)類を扱う。

5.2.2.1.1. 「新情報、哦、是、新情報」(新情報、あ、そー、新情報)類

ここでは、「新情報、哦、是、同語重複」(新情報、あ、そー、同語重複)を扱うが、本論文では「新情報、哦、是、同語重複」(新情報、あ、そー、同語重複)しか現れていない。(207)を見られたい。

(207)

0116©F10 : 这算<接续词, 不是副词ね>

これ<接続詞, 副詞じゃない>

0117©F09 : <接续词, 不是副词> [笑] ([笑]), 没有, 我觉得刚看日语看多了, 太搞笑了, 没有啊, 就是它我不知道为什么, 之前在看日语的时候, 它不是有些称作为叫副词吗?

<接続詞, 副詞じゃないね> [笑] ([笑]), いや, なんか日本ドラマ見すぎちゃった, 結構面白い, いや, なんかなぜか分からんけど, 以前日本語を見たとき, 副詞として考えたじゃないか?

0118©F10 : 副词是, <副词是用来形容>

副詞は, <副詞の使用は>

0119©F09 : <“我给你说”>这种, #, 哦, 是, “我给你说”, “就是说”, 说到这个词性这个东西, 其实我一直都分不清楚这个词性, 我只知道名词和动词, 其他词我都不知道怎么回事 [笑], 你知道吗, 就是我不知道该怎么分

{o, shi }

<“言っておくよ”>みたいね, #, あ, そー, “言っておくよ”, “例えば”, この品詞っていう, 実は私がずっとこの品詞が分からない, 名詞と動詞しか分からない, そのほかはさっぱり分からない [笑], 分かるね, なんかのよーに区別するのか分からないのよ

0120©F10 : 是中文还是

中国語のことかあるいは

(207)では、0119©F09 に二連鎖感動詞「哦，是」(あ，そ一) が現れている。先行発話は「“我给你说” 这种，#」(“言っておくよ” みたいね，#) であり，後続発話は「“我给你说”，“就是说”」(“言っておくよ”，“例えば”) である⁵⁵。ここでは，先行発話の発話時点で，発話者©F09 が新情報を表している。そして，「哦」(あ) の発話時点で，発話者©F09 が先行発話の命題「“我给你说” 这种」(“言っておくよ” みたい) にアクセスをしている。「是」(そ一) の発話時点で，発話者©F09 が，その命題に対する真偽判断の確定を行っている。また，発話者©F09 が，「“我给你说”」(“言っておくよ”) という同語重複によって，先行発話の命題に対する真偽判断の確定を再度下している。さらに，「“就是说”」(“例えば”) という発話は新情報を表していると考えられる。

即ち，「“我给你说” 这种，#，哦，是，“我给你说”，“就是说”」(“言っておくよ” みたいね，#，あ，そ一，“言っておくよ”，“例えば”) は「X，【A 群，D 群，D' 群 (同語重複)】，X」と表記できる。

⁵⁵ 0119©F09 に現れている「“我给你说”」(“言っておくよ”)，「“就是说”」(“例えば”) は，副詞の使用例として挙げられている。

5.2.2.2. ターン中の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、中国語の自然会話におけるターン中の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.2.2.1 で扱ったターン中の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 23 に示す。

表 23 ターン中の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧

発話者 記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)			認知ユニット
		先行発話	二連鎖 感動詞類	後続発話	
0179©F15	<“我给你说”>这种, #, 【哦, 是, “我给你说”】 , “就是说” <“言っておくよ”>みたいね, #, 【あ, そー, “言っておくよ”】, “例えば”	X	A, D	D'同語重複, X X,	【A, D, D'同語重複】, X

表 23 に示したターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせを以下のよう
にまとめて示す。

表 24 中国語のターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)			
二連鎖 感動詞類	先行発話	後続発話	
	X	D'同語重複	X
A, A			
A, B			
A, C			
A, D	○	○	○
B, B			
B, C			
B, D			
C, C			
C, D			
D, D			

表 24 を見ると分かるように、ターン中の二連鎖感動詞類では、「A 群, D 群」という組み
合わせしか現れていない。また、二連鎖感動詞類は単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけ
ではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序に従っている⁵⁶。

また、ターン中の二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロ
セスをモニターしている発話 (D'群) と、新情報を表す発話(X)の 2 種類が見られる。即ち、
ターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロ
セスは単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群・D'群」とい
う統語的順序が決まっている。

⁵⁶ 現時点ではデータが少ないため、ターン末尾の二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わ
せが見られなかった。これについては今後の課題とする。

なお、ターン中の二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、少なくとも「X→A 群→B 群→C 群→D 群→X」という統語的順序が決まっている。

5.2.3. ターン末尾の二連鎖感動詞類

ここでは、ターン末尾の二連鎖感動詞類と対象として、先行発話も含めて考察する。先行発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話（ここでは、同語重複のこと）と、新情報を表す発話があると仮定している。

5.2.3.1. 「…、哦、～」（～、あ、～）類

本節では、ターン末尾の二連鎖感動詞類の前項に「哦」（あ）がくるもの、即ち「新情報、哦、是、新情報」（新情報、あ、そー、新情報）類を扱う。

5.2.3.1.1. 「新情報、哦、哦ー」（～、あ、あー）類

ここでは、「新情報、哦、哦ー」（～、あ、あー）類を扱うが、本論文では「新情報、哦、哦ー」（～、あ、あー）しか現れていない。(208)を見られたい。

(208)

0147◎F03 : 这个有一点大, 是这样子, 天皇, 《2s》「万世一脉」就日语有个词叫(嗯)「万」, 「万世一脉」

ちょっと広すぎた, これね, 天皇, 《2s》「万世一系」っていう日本語の言葉がある(うん)「万」, 「万世一系」

0148◎F04 : 所有的事情都是要一脉相承这样

世の中のことが一連に通じているね

0149◎F03 : 「世代」的「世」

「世代」の「世」

0150◎F04 : 「万世」, 哦, <哦ー>

{o, o:}

「万世」, あ, <あー>

0151◎F03 : <就像>我们那个, 炎黄子孙, 我们一脉相承什么, 血液一脉相承

<例えば>私たちあの一, 炎帝と黄帝の子孫であり, 一連に通じているね, 血統が一連に通じているみたい

(208)では、0150◎F04 に二連鎖感動詞「哦、哦ー」（あ、あー）と先行発話「万世」（万世）が現れている。ここでは、0150◎F04 の先行発話は◎F04 が発話時点で獲得した新情報を表していると考えられる。そのうえで、「哦、哦ー」（あ、あー）の発話時点で、発話者◎F04 が先行発話の命題「万世」（万世）にアクセスし、真偽の検討を行っている。なお、「哦ー」（あー）の発話と同時に、0151◎F03 の「就像」（例えば）が発話されている。要するに、発話者◎F04 が検討する時点で、発話者◎F03 に、発話権が奪われたため、真偽判断の確定ができなかったのであろう。つまり、ターン末尾の二連鎖感動詞類「哦、哦ー」（あ、あー）

は、【アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話は新情報(X)である。

即ち、0150©F04 の発話は「X, 【A 群, B 群】」と表記できる。

5.2.3.1.2. 「新情報, 哦, 对」(～, あ, そー) 類

ここでは、「新情報, 哦, 对」(～, あ, そー) 類を扱うが、本論文では「新情報, 哦, 对」(～, あ, そー) は現れておらず、「新情報, 哦, 对对」(～, あ, そーそー) が現れている。(209)を見られたい。

(209)

0387©F01 : 我住进去之后才知道, 原来我那个房间 5 年都没有住过人, 我说一进去咋那么干净呢

私は入居してから分かった, その部屋 5 年間で誰も住んでいなかった, なんかめっちゃきれー

0388©F02 : 哟, 欸

えっ, えっ

0389©F01 : 因为开, 我刚住进来的时候

なんか, 私が入居した時

0390©F02 : 以前是仓, 仓库的那个房间吗?, 哦, 对对

{o, dui dui}

もともとソ, 倉庫だったの?, あ, そーそー

0391©F01 : 好像是 (嗯)

たぶん (うん)

(209)では、0390©F02 に二連鎖感動詞「哦, 对对」(あ, そーそー) と先行発話「以前是仓, 仓库的那个房间吗?」(もともとソ, 倉庫だったの?) が現れている。ここでは、先行発話の内容は新情報を表していると考えられる。また、「哦」(あ) の発話時点で、発話者©F02 が先行発話の命題「以前是仓, 仓库的那个房间」(もともとソ, 倉庫の部屋) にアクセスしている。そのうえで、「对对」(そうそう) という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。つまり、ターン末尾の二連鎖感動詞類「哦, 对对」(あ, そーそー) は、【アクセス (A 群) →真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話は新情報(X)である。

即ち、0390©F02 の発話は「X, 【A 群, D 群】」と表記できる。

5.2.3.2. 「…, 欸, ～」(～, えっ, ～) 類

本節では、ターン末尾の二連鎖感動詞類の前項に「欸」（えっ）がくるもの、即ち「新情報, 欸, 对」（～, えっ, そー）類を扱う。

5.2.3.2.1. 「新情報, 欸, 对」（～, えっ, そー）類

ここでは、「新情報, 欸, 对」（～, えっ, そー）類を扱うが、本論文では「新情報, 欸, 对」（～, えっ, そー）しか現れていない。(210)を見られたい。

(210)

0178©M14 : <做プリンター ‘purinta’ 的?>

<プリンターを製造するの?>

0179©F15 : <叫> [舌] 《3s》忘记了, 实在不想, 不记得了, 还做它, 然后它还发明了一个就是很大的一个就是把纸, 用完的纸放进去之后, 就可以变成一个新的纸, 就是那种, 很环保, 欸, 对

{ai, dui}

<会社名を> [舌] 《3s》忘れちゃった, 本当に覚え, 覚えていない, ほかにも, あとは紙に関する素晴らしい発明をしたよ, 使い切った紙を入れて, 新しい紙に変えるよ, なんかその, 環境保護ね, えっ, そー

0180©M14 : 可消墨吧?, 那个叫

インクを消す技術でしょー?, 名称は

(210)では、0179©F15 に二連鎖感動詞「欸, 对」（えっ, そー）と先行発話「很环保」（環境保護ね）が現れている。ここでは、先行発話の内容は新情報を表していると考えられる。また、「欸」（えっ）の発話時点で、発話者©F15 が先行発話の命題「很环保」（環境保護）にアクセスしている。そのうえで、「对」（そー）という発話によって、その命題に対する真偽判断の確定を行っている。つまり、ターン末尾の二連鎖感動詞類「欸, 对」（えっ, そー）は、【アクセス (A 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターする発話であり、先行発話は新情報(X)である。

即ち、「很环保, 欸, 对」（環境保護ね, えっ, そー）は「X, 【A 群, D 群】」と表記できる。

5.2.3.3. ターン末尾の二連鎖感動詞類のまとめ

本節では、中国語の自然会話におけるターン中の二連鎖感動詞類に関する考察をまとめてみる。

まず、5.2.3.1～5.2.3.2 で扱ったターン中の二連鎖感動詞類に関する会話データを表 23 に示す。

表 25 ターン末尾の二連鎖感動詞類に関する中国語の会話データ一覧

発話者 記号	1ターンの発話内容	認知プロセス(群)・新情報(X)		認知ユニット
		先行発話	二連鎖 感動詞類	
0150©F04	「万世」, 【哦, <哦→>】 「万世」, 【あ, <あー>】	X	A, B	X, 【A, B】
0390©F02	以前是仓, 仓库的那个房间吗?, 【哦, 对对】 もともとソ, 倉庫の部屋だったの?, 【あ, そーそー】	X	A, D	X, 【A, D】
0179©F15	很环保, 【欸, 对】 環境保護ね, 【えっ, そー】	X	A, D	X, 【A, D】

表 25 に示したターン中の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話の組み合わせを以下のよう

にまとめて示す。

表 26 中国語のターン末尾の二連鎖感動詞類と後続発話の組み合わせ

認知プロセス(群)・新情報(X)	
二連鎖 感動詞類	先行発話
	X
A, A	
A, B	○
A, C	
A, D	○
B, B	
B, C	
B, D	
C, C	
C, D	
D, D	

表 26 を見ると分かるように、ターン中の二連鎖感動詞類では、「A 群, B 群」, 「A 群, D 群」という組み合わせしか現れていない。また、二連鎖感動詞類は単純に 2 つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序に従っている⁵⁷。

そして、ターン末尾の二連鎖感動詞類の先行発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話は現れておらず、新情報を表す発話(X)しか現れていない。ターン末

⁵⁷ 現時点ではデータが少ないため、ターン末尾の二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わせが見られなかった。これについては今後の課題とする。

尾の二連鎖感動詞類と先行発話は、少なくとも「X→A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的順序が決まっている。

5.2.4. 認知ユニットに関する仮説の修正

本節では、中国語自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類の考察を通じて、「真偽判断に関する認知ユニット」に関する仮説を修正する。

5.2.4.1. 仮説の修正

まず、1ターン内の二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、1ターンの二連鎖感動詞類を構成する感動詞類と同じく、大きく4種類の認知プロセスに分けられる。また、二連鎖感動詞類では、すべての認知プロセスの組み合わせが許されることと、二連鎖感動詞類の認知プロセスは、単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっていることが明らかになった。

そして、1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話(D'群)と、新情報を表す発話(X)の2種類が見られる。ここでは、1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話は、以下のような認知プロセスが立てられる。

(211)「D'群」: 1ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素がある場合、その発話時に、発話者が命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

具体的には、以下のようなものが見られる。

- a. 副詞:「确实」(確かに)
- b. 同語重複: 先行発話(あるいはその一部)を重複する発話

ここでは、1ターンの中で、二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話があるとき、それがD群と同様に真偽判断の確定という認知プロセスを担う場合がある、ということを示している。また、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群・D'群」という統語的順序が決まっている。

なお、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、少なくとも「X→A群→B群→C群→D群→X」という統語的順序が決まっている。

従って、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を以下のように修正する。

(212)真偽判断に関する認知ユニット:

【アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群・D'群)】

5.2.4.2. 反復

前節では、「真偽判断に関する認知ユニット」に関する仮説を修正したが、この仮説をさらに支持する「反復」という現象を観察する。

本論文では、1 ターン内の二連鎖感動詞類を観察すると、しばしば反復現象が見られる。反復には、同じ形式が反復される場合と、前項と後項で同じ群の感動詞類が反復される場合とがある。

一方、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスの反復現象も見られる。以下、5.2.1～5.2.3 で扱った真偽判断に関する認知プロセスが反復される会話データを表 27 に示す。

表 27 真偽判断に関する認知プロセスが反復される中国語の会話データ一覧

発話者 記号	1ターンの発話内容	認知プロセス（群）・新情報（X）			認知ユニット
		先行発話	二連鎖 感動詞類	後続発話	
0322©F04	【哦，对，就是】 【あ，そー，確かに】		A, D	D副詞	【A, D, D副詞】
0292©F10	【哦，欸，<9月份我还没，哦-[↓]>】 【あ，えっ，<9月に私はまだ，あ-[↓]>】		A, A	D同語重複, D	【A, A, D同語重複, D】
0133©F01	【欸，对对，雪菜雪菜】 【えっ，そーそー，高菜高菜】		A, D	D同語重複	【A, D, D同語重複】
0150©M13	【嗯，对，电量】 【うん，そー，电量】		D, D	D同語重複	【D, D, D同語重複】
0179©F15	<“我给你说”>这种，#，【哦，是，“我给你说”】，“就是说” <“言っておくよ”>みたいね，#，【あ，そー，“言っておくよ”】，“例えば”	X	A, D	D同語重複, X	X, 【A, D, D同語重複】，X

表 27 を見ると分かるように、D 群の感動詞類と D群の先行発話・後続発話の反復がよく見られる。真偽判断の確定を行う認知プロセスの頻度が圧倒的に高い理由としては、D 群と D群が聞き手に渡さなければならない情報であるからであろう。真偽判断結果の情報を可能な限り確実に渡すために反復が行われるのではないかと考えられる。このことから、次のように仮定する。

(213)認知プロセスの反復に関する条件：

真偽判断の確定を行う認知プロセスは反復できる。

ここでは、真偽判断の確定を行う認知プロセスは反復できる、ということを表している。

5.2.4.3. リセット感動詞類

本節では、修正した「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説をさらに支持する「リセット」という現象を観察する。

本論文では、1 ターン内の二連鎖感動詞類を観察すると、真偽判断の認知ユニットの途中で、認知プロセスの流れがキャンセルされ、リセットされる（認知ユニットの開始段階に戻

る)リセット感動詞類もある。ここでは、リセット感動詞類の直後に別の発話が始まる場合も見られる。以下の会話データを見られたい。

(214)

0426◎F12：你有平板，用平板看

タブレット PC 持ってるじゃん，それを使ってみよー

0427◎F11：啊，有平板倒是，但是懒嘛

あ，それはあるけど，面倒くさいね

0428◎F12：〔笑〕

〔笑〕

0429◎F11：就用手机，她这个随时随地都能使，你看我这个就没法支（嗯），可讨厌了

スマホを使ってる，彼女のスマホリングはどこでも使えるね，私のものはスタンドできないね（うん），本当に嫌だ

0430◎F12：嗯，哎呀，我想回国了

{en, ai ya}

うん，あーあ，帰国したいなー

0431◎F11：想回国，我也想回国，我觉得我说我要回国去，休整一下

帰国したいね，私も帰国したい，私はね帰国して，心も身も休めたいね

(214)では、0430◎F12の「嗯，哎呀」（うん，あーあ）という発話が現れている。ここでは、肯定判断を行う「嗯」（うん）はD群に属し、それによって、先行発話の命題「可讨厌了」（本当に嫌だ）に対する真偽判断は終了している。後項の「哎呀」（あーあ）は【嗯】（うん）の認知ユニットには含まれないと考えられる。「哎呀」（あーあ）の後続発話「我想回国了」（帰国したいなー）は、新情報を表している。要するに、「哎呀」（あーあ）によって、話題が「スマホリング」から「帰国」のことに変わっている。即ち、「哎呀」（あーあ）は真偽判断の認知ユニットを終了させるリセット感動詞類である。

即ち、0430◎F12の発話は、「【D群】、リセット感動詞類、X」と表記できる。

以上より、「哎呀」（あーあ）は、真偽判断に関する認知ユニットとは別のものであることが分かる。即ち、リセット感動詞類は、真偽判断に関する認知プロセスの流れの途中に登場し、話題の転換と関わり、それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っている。このように仮定することによって、認知ユニットに関する仮説も維持できることになる。ただ、リセット感動詞類にどのようなものが属するのかについては、今後の課題である。

5.2.5. まとめ

5.2 では、中国語の自然会話における、1 ターン内の二連鎖感動詞類を対象とし、どのような種類の感動詞類が連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで、二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにし、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を検証し、修正した。さらに、感動詞類の反復とリセット感動詞類も広く見られている。その結果、以下のことが明らかになった。

- (215)①1 ターン内の二連鎖感動詞類は、4 種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス (A 群)、真偽の検討 (B 群)、真偽判断の保留 (C 群)、真偽判断の確定 (D 群) によって構成されている。
- ②1 ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話 (D'群) と、新情報を表す発話(X)の 2 種類が見られる。
- ③1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは「A 群→B 群→C 群→D 群・D'群」という統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスは、全体として1つの認知ユニット(ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」)を形成している。
- ④1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、「X→A 群→B 群→C 群→D 群→X」という統語的順序が決まっている。
- ⑤1 ターン内の二連鎖感動詞類に2種類の反復(同じ形式の反復と同じ群の反復)が見られる。また、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスの反復現象も見られる。
- ⑥真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類「哎呀」(あーあ)が存在する。「哎呀」(あーあ)は、真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場し、話題の転換に関わる。

5.3. 比較

本節では、5.1～5.2 に考察した日本語自然会話と中国語自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類に関する記述（二連鎖感動詞類の組み合わせ、先行発話、後続発話、反復、リセット感動詞類）について、日本語と中国語を比較する。その結果、表28に示す。

表28 日本語と中国語の1ターン内の二連鎖感動詞類に関する比較

項目	言語	日本語	中国語
	二連鎖感動詞類の組み合わせ	A, B	○
A, C		○	
A, D		○	○
B, C		○	○
B, D		○	○
C, D		○	
先行発話・後続発話	D'	○	○
	X	○	○
反復	同じ形式の感動詞類	○	○
	同じ群の感動詞類	○	○
	同じ認知プロセス	○	○
リセット感動詞類		○	○

表30より、まず、日中両言語における二連鎖感動詞類の組み合わせについて、以下の共通点が見られる。

- (216)①二連鎖感動詞類は、4種類の任意出現の認知プロセス、即ち、アクセス（A群）、真偽の検討（B群）、真偽判断の保留（C群）、真偽判断の確定（D群）によって構成されている。このことは、日本語にも中国語にも仮定できる。
- ②4種類の認知プロセスは、「アクセス（A群）→真偽の検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスを1つの認知ユニット（ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」）として仮定する。
- ③今回の日本語の会話データには、二連鎖感動詞類の組み合わせがすべて出現している。一方、中国語の会話データには、「A群, C群」、「C群, D群」の二連鎖感動詞類の組み合わせは現れなかった。しかし、筆者の内省によると、「啊, 也是」（あ, まー）（A群, C群）、「也是, 对对」（まー, そーそー）（C群, D群）などは文法的に不自然ではないことが確認できる。そうすると、4種類の群ではすべての組み合わせが許されることになる。

次に、日中両言語における二連鎖感動詞類が現れる1ターンの先行発話・後続発話について、以下の共通点が見られる。

- (217)①1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話(D'群)と、新情報を表す発話(X)の2種類が見られる。
- ②1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは「A群→B群→C群→D群・D'群」という統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスは、全体として1つの認知ユニット(ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」)を形成している。
- ③1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロセスが流れていない場合、「X→A群→B群→C群→D群→X」という統語的順序が決まっている。

次に、日中両言語における二連鎖感動詞類を構成する感動詞類の反復について、以下のような共通点が見られる。

- (218)1ターン内の二連鎖感動詞類に2種類の反復(同じ形式の反復と同じ群の反復)が見られる。また、1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスの反復現象も見られる。

さらに、日中両言語の二連鎖感動詞類が現れる1ターンにおけるリセット感動詞類について、以下の共通点が見られる。

- (219)①日中両言語においては、真偽判断に関する認知ユニットの途中で、その認知プロセスを中断し、再度最初から認知ユニットを開始させる、リセット感動詞類が存在する。
- ②日本語のリセット感動詞類には、「え[↑]」、「えー[↑]」が存在する。「え[↑]」、「えー[↑]」は新情報を理解できなかった(取り損なった)ことを標示する。一方、中国語のリセット感動詞類には、「哎呀」(あーあ)が存在する。「哎呀」(あーあ)は、話題の転換を行っていることを標示する。

以上より、日中両言語における同様の認知プロセスの仮説が立てられ、認知ユニットの存在も検証できた。

また、日中両言語における1ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する認知プロセスは、「アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群・D'群)」というように統語的順序が決まっている。

このように順序付けられた認知プロセスを1つの集合体と考え、それを「認知ユニット」として提案した。

(220)認知ユニット：

自然会話において二連鎖感動詞類が現れる場合、そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

従って、本論文では、(221)のように限定して認知ユニットを仮定した。

(221)真偽判断に関する認知ユニット：

【アクセス (A 群) → 真偽の検討 (B 群) → 真偽判断の保留 (C 群) → 真偽判断の確定 (D 群・D'群)】

6. まとめ

日本語においても、中国語においても、自然会話では二連鎖感動詞類が頻繁に出現する。従来の研究では、二連鎖感動詞類を構成する単独感動詞類は、1つの品詞として位置づけられているにもかかわらず、その本質については、まだ明らかになっていない。また、なぜ二連鎖感動詞類のように複数の単独感動詞類が連続して現れるのか、これについては、従来の研究は見られないと言っても過言ではない。しかも、二連鎖感動詞類に関する日本語と中国語との対照研究は、皆無である。

そこで、本論文では、談話的・認知的アプローチによって、筆者の独自調査によるデータと、コーパスデータを分析することによって、日本語と中国語の自然会話における二連鎖感動詞類の性質を明らかにし、二連鎖感動詞類の発話時に、どのような一連の心的な認知プロセスをモニターしているのかを解明した。

まず、第4章では、日本語と中国語の自然会話における1ターンの二連鎖感動詞類を対象とし、前項と後項にはどのような感動詞類が分布するかといった問題を統語的に分析するとともに、そこにどのような認知プロセスが流れているのかという問題を考察した。その結果、1ターンの二連鎖感動詞類には、「真偽判断に関する認知ユニット」が対応している、という仮説を提案した。

また、第5章では、日本語と中国語の自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類を対象とし、どのような種類の感動詞類が連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで、二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにした。最終的には、「真偽判断に関する認知ユニット」の仮説を検証し、修正した。

6.1. 二連鎖感動詞類について

ここでは、日本語と中国語の自然会話における二連鎖感動詞類の考察についてまとめる。

まず、日本語の自然会話における考察をまとめると、二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、以下のように大きく4種類の認知プロセスに分けられた。

- (22)①「A群」(「あ」、「え」、「あっ」、「えっ」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対するアクセスを行う。
- ②「B群」(「あー」、「あーん」、「うーん」、「えー」、「えーつと」、「うん[↑]」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽の検討を行う。
- ③「C群」(「ま」、「まー」、「そーん[↑]」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の保留を行う。
- ④「D群」(「そー」、「うん」、「はい」、「あーん[↑↓]」など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

次に、中国語の自然会話における考察をまとめると、二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、以下のように大きく4種類の認知プロセスに分けられた。

- (223)①「A群」(「啊」(あ),「哦」(あ),「欸」(えっ)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対するアクセスを行う。
- ②「B群」(「哦ー」(あー),「啊ー」(あー),「嗯ー」(うーん)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽の検討を行う。
- ③「C群」(「也对」(まー),「也是」(まー),「也行」(まー)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の保一留を行う。
- ④「D群」(「对」(そー),「嗯」(うん),「嗯ー [↑↓]」(うんー [↑↓]),「啊ー [↓]」(あー [↓]),「是」(そー)など):発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

これらの認知プロセスは、日本語の場合と同じである。

また、二連鎖感動詞類は単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっている。即ち、「アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群)」という一連の認知プロセスがあると仮定できる。この統語的順序は日本語・中国語に共通するものであるため、このような一連の認知プロセスを「認知ユニット」と捉え、以下のように定義した。

(224)認知ユニット:

自然会話において二連鎖感動詞類が現れる場合、そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

(225)真偽判断に関する認知ユニット:

【アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群)】

ここでは、認知ユニットには他の機能を担ったものもあり得るため、様々な認知ユニットの中の1つとして、「真偽判断に関する認知ユニット」があると仮定した。

6.2. 先行発話・後続発話について

ここでは、日本語と中国語の自然会話における1ターン内の二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話の考察についてまとめる。

1ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスをモニターしている発話(D群)と、新情報を表す発話(X)から構成されていると仮

定した。ここでは、1 ターン内における二連鎖感動詞類の先行発話・後続発話は、以下のよう
な認知プロセスが立てられた。

(226) 「D'群」: 1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素がある場合、
その発話時に、発話者が命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

また、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に流れている真偽判断に関する
認知プロセスは単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「A 群→B 群→C 群→D 群・D'
群」という統語的順序が決まっている。

なお、1 ターン内の二連鎖感動詞類と先行発話・後続発話に、真偽判断に関する認知プロ
セスが流れていない場合、少なくとも「X→A 群→B 群→C 群→D 群→X」という統語的順
序が決まっている。

6.3. 認知ユニットについて

本論文での分析結果をまとめてみると、二連鎖感動詞類が現れている 1 ターンの発話に
は、発話の進行と並行に、認知プロセスが流れていると考えられる。即ち、認知プロセスは
発話と同時に存在しているものである。従って、本論文では、(227)のように限定して認知ユ
ニットを仮定した。

(227)真偽判断に関する認知ユニット:

【アクセス (A 群) →真偽の検討 (B 群) →真偽判断の保留 (C 群) →真偽判断の確
定 (D 群・D'群)】

本論文では、二連鎖感動詞類だけでなく、その前後にある特定の先行発話・後続発話にも
認知プロセスが流れていることを仮定した。このことから考えると、会話全体に何らかの認
知プロセスが流れていることが想定できる。ただ、どのような認知プロセスが流れているの
かについて解明することは、現時点では非常に難しいと考える。なぜなら、認知プロセスを
浮き彫りにする手段として、何を観察すればよいのかが不明であるからである。本論文では、
それが二連鎖感動詞類というものであった。しかし、真偽判断に関する認知プロセス以外の
ものを見出そうとする場合、二連鎖感動詞類以外の要素に注目する必要があるかもしれな
い。それが何であるかが、現時点では不明なのである。この問題は大きな課題として残る。

7. 問題点・今後の課題

本章では、問題点及び今後の課題について言及する。

7.1. データについて

ここでは、本論文におけるデータに関する問題点をまとめる。

7.1.1. データの量

本論文で扱うデータは、日本語自然会話のデータ（総時間約 900 分）（筆者が収集したデータ 6 本、BTSJ コーパスデータ 44 本）、中国語自然会話のデータ（総時間約 300 分）（筆者が収集したデータ 10 本）である。日本語のデータと中国語のデータの量が全体的に少ないこと、及び両者のバランスが良くないことが問題として挙げられる。今後、日本語・中国語のデータ、またほかの言語の会話データを収集しつつ、様々な角度から綿密に分析し、本論文の結果を検証する必要がある。

近年、コーパスの構築は盛んになっている一方で、中国語のコーパスでは文学作品や教科書やニュースなどがコーパスの材料となっていることが多い。しかし、本論文の研究対象である自然会話ではないため、利用できない。今後、筆者自身が中国語の自然会話のデータを収集しつつ、中国語自然会話コーパスを構築していきたい。

7.1.2. データの種類

感動詞類は自然会話のような話し言葉に現れるだけでなく、小説のような書き言葉にも見られる。しかし、両者においては、感動詞類の出現頻度やバリエーションなどが異なると考えられる。

今後、書き言葉のデータなども含めて、感動詞類に関する考察をより深めなければならない。

7.1.3. 発話者の属性

本論文では分析対象となるデータの発話者は若年層（10 代～20 代）の友人同士である。ほかの世代（30 代、40 代、50 代など）のデータをさらに分析する必要がある。また、初対面や上下関係などの会話データについて、分析する必要がある。さらに、インフォーマントの地域、年齢、性別などの属性の影響についても考察すべきである。

特に、本論文では、中国語母語話者に対して、第二言語（日本語）による母語（中国語）への影響については考慮していないが、インフォーマントの第二言語の学習歴や外国での生活歴などの影響については、今後の課題とする。

7.2. 感動詞類について

ここでは、感動詞類に関する問題点をまとめる。

7.2.1. 感動詞類の待遇性, 位相性

感動詞類の運用における待遇や位相に関する問題が残る。例えば, 以下の会話データがある。

(228)

0151①F05 : どーいう人が好きなの

0152①M06 : 控えめで大人しー子

0153①F05 : いや, 同性, 同性, 男子

0154①M06 : 同性?

0155①F05 : 女子じゃなくて, 男子 [咳]

0156①M06 : え, 無理って言わんっす

0157①F05 : え[↑], [笑]

0158①M06 : いやいや, それは無理やろって言うよーにあんまり言わんやつ, [笑], わかり
ずら

0159①F05 : えっ, でも, 無理何でも言われたら

0160①M06 : あね, まー

0161①F05 : 常識の範囲以内でこと

(228)では, 0160①M06に「あね, まー」が現れている。「あね」は感動詞類の方言表現として考えられるであろう。

(229)

0045①M11 : 北海道に行ったら, 何したい, <何見たい>?

0046①F12 : <北海道に行ったら>

0047①M11 : うん

0048①F12 : まず, 旭川, 旭山 (うん), 旭川 (うん), 動物園

0049①M11 : うんうん, そーよね, 動物園

0050①F12 : 動物園に行くのと (うん), うちのお父さんが北海道に行った時に (うん), ほ
っけがすごい美味しかっただっ

0051①M11 : あっ, えー, そーなんじゃ

0052①F12 : だから (うん), 回転寿司, 行くのもいーし ([笑]), そーいうほっけを食べる
ものいーだろーし (うん), あと, じゃがバターもちよー美味しかった (あー)
って言ったから, グルメだね

(229)では、0051①M11に二連鎖感動詞類「あっ、えー」と後続発話「そーなんじゃ」が現れている。「そーなんじゃ」は感動詞類の方言表現として考えられるであろう。

従って、「あね」、「そーなんじゃ」が、どのような意味・機能を持っているのか、あるいは、その発話時には、どのような認知プロセスが見られるのかについては、改めて検討する必要がある。

感動詞類の待遇的性質（上下関係、親密度など）や位相的性質（男女差、地域差、個人差など）は、今後の課題とする。

7.2.2. 感動詞類と終助詞・語気（助）詞

本論文では、日本語の感動詞類の「そー」などの直後に終助詞「よ」、「ね」が来る場合に関して、1つの感動詞類「そーよ」、「そーね」として見なし、「そー」と同様の認知プロセスとして捉えている。また、中国語の感動詞類の「对」（そー）などの直後に語気詞「啊」（ね）、「呀」（ね）が来る場合に関しても、1つの感動詞類「对呀」（そーね）、「对啊」（そーね）として扱い、「对」（そー）と同様の認知プロセスとして捉えている。しかし、「あ、そーね」、「あ、そーだ」、「啊，对了」（あ、そーだ）、「啊，对呀」（あ、そーね）などのような場合、「そー」と「对」（そー）は感動詞類の機能をもっていないように見える場合がある。

現時点では、終助詞・語気（助）詞は、感動詞類の直後によく現れる。なお、それらが感動詞類に与える影響については、本論文では言及していない。また、それぞれの詳細なニュアンスや機能の差異についても、今後、厳密に分析していきたい。

7.2.3. 感動詞類のイントネーション

本論文では、感動詞類のイントネーションの問題も残っている。例えば、日本語の感動詞類の「そー[↓↑]」について、1つの感動詞類として見なし、そのイントネーションは、1拍目から2拍目にかけては下降調で、2拍目から3拍目にかけては上昇調である。また、中国語の感動詞類の「嗯ー[↑↓]」（うんー[↑↓]）についても、1つの感動詞類として見なし、そのイントネーションは、1拍目から2拍目にかけては上昇調で、2拍目から3拍目にかけては下降調である。なお、イントネーションの表記方法が適切であるのかについては、改めて検討する必要がある。

今後、データを増やしつつ、感動詞類のイントネーションに関する考察をより深めなければならぬ。

7.2.4. 各群の感動詞類

本論文では、二連鎖感動詞類を構成する感動詞類は、大きく4種類の認知プロセスに分けられる。時系列には、二連鎖感動詞類は単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく、少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっている。しかし、各群に属する感動詞類の差異については、今後の課題とする。

また、「あ、忘れた」、「あー、鍵かけるのを忘れちゃった」などのような A 群、B 群は、独り言に出現しても不自然ではない。一方、「まー、忘れた」、「うん、鍵かけるのを忘れちゃった」などのような C 群、D 群は、独り言には出現しにくいであろう。

このことから、4 種類の認知プロセスについて、「A 群→B 群→C 群→D 群」という統語的關係以外の、別の構造が存在する可能性も考えられる。また、認知プロセス以外の別の仕組みが存在するかもしれない。本論文では、独話のデータについては扱っていない。今後、独話のデータなども含めて、感動詞類に関する考察をより深めなければならない。

7.2.5. 感動詞類の反復

反復においては多くの問題がある。

まず、4.1.11.1 より、日本語の二連鎖感動詞類の後項という位置で、「そー」、「うん」、「はい」の反復がよく見られる。「そー」が 2 回、3 回、4 回、5 回、6 回、7 回反復されている。「うん」が 2 回、3 回、4 回、5 回反復されている。「はい」も 2 回、3 回、4 回、5 回反復されている。いずれも D 群の感動詞類である。ここでは、D 群の感動詞類の反復の回数が発話者の肯定の強さと比例すると述べたが、なぜ強く肯定する必要があるのか（前項の種類と関係があるのか）、なぜその回数でないといけないのかについては問題として残っている。また、リズムの心地さとの関連性が考えられるのかといった問題は残る。

また、4.2.7.1 より、中国語の二連鎖感動詞類の後項という位置で、「对」（そー）の反復がよく見られる。D 群の「对」（そー）が 2 回、3 回、5 回反復されている。中国語自然会話における感動詞類の反復についても、「2・3・4・5」のリズムの心地さがあると考えられるのかといった問題は残る。

7.2.6. 連鎖感動詞類

自然会話においては、単独感動詞類、二連鎖感動詞類のみならず、三連鎖感動詞類、四連鎖感動詞類、五連鎖感動詞類などのような「連鎖感動詞類」の存在が予測される。

まず、以下の三連鎖感動詞類の会話データを見られたい。

(230)

278JF064：論文とかは順調?、お茶の。

279JF063：お茶ねー、うん、全然書いてないんだけど、今本読んでるところ。

280JF064：そっかそっか。

281JF063：うん。

282JF064：はー。

283JF064：いいね、でも、すごく。

284JF063：うん。

285JF064：そういう、進路考えてるんだね。

286JF063 : ちょっとね、うん、そう。

287JF064 : でもやっぱ、いいよね。

(230)では、286JF063 に二連鎖感動詞類「ちょっとね、うん、そう」と先行発話「ちょっとね」が現れている⁵⁸。「ちょっと」については、岡本佐智子・斎藤シゲミ(2004:70)に、「ちょっと」の1つの機能には「あの、そのう、ちょっと、こう、なんて言ったらいいのか」のように、言いよどみを埋める間投詞の働きがあり、沈黙を回避しようとしているのであり、「ちょっと」自体に意味はない」とある。従って、本論文では、「ちょっとね」は感動詞類として考える。

ここでは、「ちょっとね」の発話時点で、発話者 JF063 が先行発話 285JF064 の命題「そういう、進路考えてる」に対する真偽判断の保留を行っていると考えられる。そのうえで、「うん、そう」によって、その命題に対して真偽判断の確定を行っている。つまり、三連鎖感動詞類「ちょっとね、うん、そう」は、【真偽判断の保留 (C 群) → 真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

次も、同じ「ちょっとね、うん、そう」のデータである。

(231)

194JF074 : 論文とかは順調?、お茶の?。

195JF073 : お茶ね、うーん、全然書いてないんだけど、いま本を読んでもとこ。

196JF074 : そっかそっか [小さい声で]。

197JF073 : うん。

198JF074 : あー、いいね、でも、すごく。

199JF073 : うん。

200JF074 : そういう…、進路を考える…、ね。

201JF073 : ちょっとね、うん、そう。

202JF074 : でもね、やっぱり、いいよね、自分の空間…、はいいよね、そういうお店くんだり><。

(231)⁵⁹では、201JF073 の発話である三連鎖感動詞類「ちょっとね、うん、そう」も、【真偽判断の保留 (C 群) → 真偽判断の確定 (D 群) → 真偽判断の確定 (D 群)】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

⁵⁸ (230)の会話データの音声が開示されていないため、確認することができない。ここでは、「ちょっとね」のイントネーションが下降調であると考えられる。

⁵⁹ (230)と(231)の会話データは異なる発話者であるが、発話内容が重なっている部分がある。データの音声が開示されていないため、確認することもできない。BTSJ コーパスにミスがある可能性がある。これに関しては保留する。

次は、三連鎖感動詞類の直後に、二連鎖感動詞類が現れる会話データである。()を見られたい。

(232)

0008①M10：富士通とかさー(うん)，ウィン，ウィンドウズをなんか，借り借りとるかたちなん？

0009①M09：あ，え[↑]

0010①M10：マイクロソフト社から

0011①M09：あー[↓]，そーよね，そー，えーっとね，あの一，パソコンを構成するものとしてまずこの箱よね，機械よ

0012①M10：うん

(232)では、0011①M09に三連鎖感動詞類「あー[↓]，そーよね，そー」が現れている。ターン初頭の三連鎖感動詞類は、【真偽判断の確定(D群)→真偽判断の確定(D群)→真偽判断の確定(D群)】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。その直後に、二連鎖感動詞類が「えーっとね，あの一」が現れている。それは、【真偽の検討(B群)→真偽の検討(B群)】という認知プロセスの流れをモニターしていると考えられる。

ここから、1ターンの発話には、認知ユニットが連続して出現すると考えられる。即ち、ここにも真偽判断に関する認知プロセスが流れていることが仮定できるであろう。しかし、四連鎖感動詞類や、五連鎖感動詞類などは今回のデータから見られない。今後、データを増やしつつ、感動詞類の連鎖現象に分析していきたい。それにより、本論文では導き出した感動詞類の連鎖現象に潜んでいる普遍的なルール・法則性の検証になるであろう。

7.2.7. リセット感動詞類

リセット感動詞類についての分析は、未だ不十分である。本論文では、上昇調の「え[↑]」は、真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場し、それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っているリセット感動詞類として考える。しかし、以下のように、リセット感動詞類が真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場せず、ターン初頭に現れる会話データが見られる。

(233)

739JF056：それに最後の晚餐<笑い>。

740JF055：酔っ払いー<笑いながら>。

741JF056：しょっぱかった、<うん>{<>笑いながら}。

742JF055：<あれ>{>}ね、あれ、お父さんが、“あれ絶対まちがいで”って。

743JF056：あれおかしいよねー=。

744JF055 : = “砂糖と入れ間違いだと思う” って。

745JF056 : え?、えー。

746JF055 : それで(うーん)、たぶん、2 人とも同じやつで、<シェイカーでやったから
>{<}。

747JF056 : <うんうんうん>{>}うん。

748JF055 : なんか、うん、2 人ともなんかしょっぱい、<何だっけ?>{<}<笑いながら>。

(233)⁶⁰では、745JF056 に「え?、えー」が現れている。ここでは、「え?」は、先行発話の命題が示す新情報を受け入れようとする時点で、理解できなかつた（取り損なつた）ため、新情報取得の失敗の標識である。そして、「えー」によって、発話者 JF056 は先行発話の命題に対して真偽の検討を行っている。

しかし、ここでは、「え?」は真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場せず、ターン初頭に現れている。「え?」の直前に話者交替が起こっている。話者交替すると同時に、発話者 JF056 が先行発話の命題に対してアクセスを行っていると考えられるだろう。つまり、話者交替する時点で、「アクセス」を行うという認知プロセスが流れている。しかし、「え?」の直前にアクセスを担う言語形式は現れていない。おそらく何らかの非言語表現が存在したのかもしれない。少し飛躍して考えると、話者交替という現象自体にアクセスという認知プロセスが流れているのかもしれないが、現時点では根拠は得ていない。リセット感動詞類や話者交替などの問題は、今後の課題として研究していきたい。

7.3. 新情報 (X) ・命題について

本論文では、1 ターン内の二連鎖感動詞類とその先行研究・後続発話には、真偽判断に関する認知プロセスが流れていることを仮定し、真偽判断を行っていない発話は新情報(X)とした。新情報(X)にも何らかの認知プロセスを仮定できるかもしれない。「真偽判断に関する認知プロセス」以外のものについては、今後の課題とする。

また、二連鎖感動詞類の先行発話には、命題内容が明確になっていない場合がある。以下のデータを見られたい。

(234)

26JF055 : あの、語劇の<脚本を>{<}ね、

27JF056 : <あ、劇>{>}、うんうん。

28JF055 : 印刷しててー 【】。

29JF056 : 【】 あ、あ、脚本、誰か、書き下ろしたりしたの?。

30JF055 : ううん。

31JF055 : なんかね (うん)、あの、さい、あの、

⁶⁰ BTSJ コーパスにおける「え?」のイントネーションが上昇調であるため、「え[↑]」と同一視する。

32JF056 : <あ、うん>{<}。

33JF055 : <アメリカの>{>}人が書いたやつを、インターネットで、見つけて (あ、うんうんうん)、コメディなんだけど、

(234)では、32JF056 に二連鎖感動詞類「あ、うん」が現れている。二連鎖感動詞類の先行発話「なんかね (うん)、あの、さい、あの」には、命題内容が言語形式として現れていない。また、(235)のように、非言語形式が現れる場合もある。

(235)

0744①F08 : スイートポテト美味しい決めてるもう (あー)、コンビニだっても美味しいだから

0745①F07 : それはめっちゃ分かる、いや、でも

0746①F08 : うん、スイートポテト家で作ったも美味しい出てこない

0747①F07 : 家で作らへん?

0748①F08 : 芋ばーして、砂糖ばーして、生クリームばーして

0749①F07 : 適当やね

0750①F08 : [笑]

0751①F07 : えっ、うーん (うん)、家でお菓子、ケーキばかり作ってたクッキーとか

0752①F08 : 昔はすごい作っていたらしいよ

(235)では、0751①F07 に二連鎖感動詞類「えっ、うーん」が現れている。二連鎖感動詞類の先行発話には、「[笑]」しか現れていない。さらに、(236)のように先行発話に感動詞類が現れる場合もある。

(236)

0254①M10 : イー[↑]、なんか天ぷらとか

0255①M09 : うん

0256①M10 : あんまり食べれん

0257①M09 : あ、そーなん?

0258①M10 : うん

0259①M09 : え、まー、揚げたてはおいしいでしょう

0260①M10 : 揚げたてはおいしい

(236)では、0259①M09 に二連鎖感動詞類「え、まー」が現れている。二連鎖感動詞類の先行発話には、「うん」しか現れていない。

以上のように、二連鎖感動詞類の先行発話には命題内容が明示的に現れていない場合がよく見られる。二連鎖感動詞類の「あ、うん」、「えっ、うーん」の発話時に何にアクセスしているのか、「あー、まあ」の発話時に何に対する真偽の検討を行っているのか、「あ、うん」、「えっ、うーん」、「え、まー」の発話時に真偽判断に関する認知プロセスが流れているのかどうかという問題が残るが、今後、厳密に分析していきたい。

7.4. 非言語音声について

本論文では、「うんうん」などのようなポーズがない場合は1つの感動詞類として捉え、一方「うん、うん」などのようなポーズがある場合は2つの感動詞類として捉えている。以下の会話データを見られたい。

(237)

254JF058 : <うんー>{<}-

255JF057 : <ごめんね>{-}-、マジでー、1日=。

256JF057 : =メールしようと思ってたけど、ごめん<忘れてて>{<}-<笑いながら>。

257JF058 : <あ、うん>{-}-、うん。

258JF058 : や、ていうか聞いたからいい、<すぐ>{<}-。

(237)では、257JF058に「あ、うん、うん」が現れている。ここでは、「あ」の発話時点で、発話者 JF058 が、先行発話の命題「メールし」（メールする）にアクセスしている。そのうえで、発話者 JF058 が「うん、うん」という発話によって、その命題を肯定している。しかし、2つの「うん」の発話時に流れている認知プロセスが同じであるかどうか、また、「うん、うん」のポーズが現れる時点で、発話者はどのような認知プロセスを行っているのであろうかといった問題は残る。従って、「あ、うん、うん」を「あ」と「うんうん」からなる二連鎖感動詞類として考えられるかどうかについては、今後の課題とする。

次に、中国語自然会話のデータを見られたい。

(238)

0134©F02 : 嗯，酸菜鱼不就是<也是那个酸菜>

うん，酸菜鱼<もその酸菜じゃないの>

0135©F01 : <啊，对，对对对>

{a, dui, dui dui dui}

<あ，そー，そーそーそー>

0136©F02 : 对，这跟这个完全不是一个味儿 [笑]

そう，これとこれと全然違う味だよ [笑]

(238)では、0135©F01 に二連鎖感動詞類「啊，对，对对对」（あ，そー，そーそーそー）が現れている。ここでは、「啊」（あ）の発話時点で、発話者©F01 は、0134©F02 の命題「酸菜鱼」（酸菜魚）についてアクセスしている。そのうえで、発話者©F01 が「对，对对对」（そー，そーそーそー）という発話によって、その命題を肯定している。しかし、「对」（そー）と「对对对」（そーそーそー）の発話時に流れている認知プロセスが同じであるかどうか、また、「对，对对对」（そー，そーそーそー）のポーズが現れる時点で、発話者はどのような認知プロセスを行っているのであろうかといった問題は残る。従って、「啊，对，对对对」（あ，そー，そーそーそー）を「啊」（あ）と「对对对对」（そーそーそーそー）からなる二連鎖感動詞類として考えられるかどうかについては、今後の課題とする。

今後、「あ、うん、うん」、「啊，对，对对对」（あ，そー，そーそーそー）のような会話データを考察しつつ、ポーズの長さが認知プロセスの流れに影響を与えるかどうかについても、厳密に分析していきたい。さらに、連鎖感動詞類の判断基準について、再検討していきたい。

また、感動詞類の発話時に、笑いや咳払いなどの音声が見られる場合がある。次のデータを見られたい。

(239)

106JMB010：うん、実際<書いてくれそうになったら、うん、自分で書かないと>{<>笑いな
がら>【【。

107JF106：】】<あ、やっぱりレポートは、うん、自分で書かないとだめかな>{<}って思
って<笑いながら>。

108JMB010：珍しい。

109JF106：“頑張れば、できるんで”。

110JMB010：あ、そう<軽く笑い>、“自分で書きたいんです”、（そう）（<笑い>）何だよ
それ<軽く笑いながら>。

111JF106：や、あたしさ、それでさ、あとで、しんどい目にあうねん。

(239)では、110JMB010 に二連鎖感動詞類「あ、そう」が現れている。「D」群の「そう」の発話時に、発話者が軽く笑っている。同様のデータが中国語会話でも見られる。

(240)

0415©F03：还有，昨天下午我越跟「人名 11 的姓」老师交流我就越有这种，<一切都是虚构
的>で，昨日の午後，「人名 11 の姓」生と話せば話すほどこんな感じになるね，
<すべて架空のものだ>

0416©F04：<他也是这样学的>
<先生もこういうように学んだ>

0417©F03 : 那书就是他写的

その本先生が書いたよ

0418©F04 : 啊, 对对 [笑], 欸, 虚构什么虚构主义, 构造主义

あ, そーそー [笑], えっ, 架空のものって架空主義, 構造主義

(240)では, 0418©F04 に二連鎖感動詞「啊, 对对」(あ, そーそー) が現れている。D 群「对对」(そーそー) の発話時に, 発話者が笑っている。

(241)

0127©F05 : 哦, 你还上了那个课呀 [笑]

あ, その授業も履修したのか [笑]

0128©F06 : 对, 一个只有<一个学分>, 一个只有

そー, 1つの授業は<1単位>, 1つはそれだけ

0129©F05 : <宗教吗?>, 啊ー [↓]

<宗教なの?>, あー [↓]

0130©F06 : 那是经济学部的课

それは経済学部の授業だね

0131©F05 : 啊ー [↓], [咳] 对, 「人名3 的姓」老师那个是经济学部的课

あー [↓], [咳] そー, 「人名3 の姓」先生の授業は経済学部のものね

0132©F06 : 嗯嗯

うんうん

(241)では, 0131©F05 の「啊ー [↓], 对」(あー [↓], そー) という発話が現れている。ここでは, D 群の「啊ー [↓]」(あー [↓]) の発話時に, 発話者が咳払いをしている。また, 別の非言語音声として, (242)のようなものも現れている。

(242)

0369©F11 : 学校有什么事的话你能办

何か用事があれば学校で手続きできるね

0370©F12 : 哦ー [↓], [舌] 哎呀, 我还有一个问题就是, 就是我就那个奖学金, 它每个月1号都要去签字, 那我要是回家我要正好那段时间你就不行

{o:, ai ya}

あー [↓], [舌] あーあ, もう1つ問題があるのよ, なんかね私の奨学金のこと, それは毎月1日にサインしなきゃ, もし帰国したら, その間にサインすることができなくなるね

(242)では、0370©F12の「哦ー [↓] , 哎呀」(あー [↓] , あーあ)という発話が現れている。ここでは、D群の「哦ー [↓] 」(あー [↓])の発話した直後に、発話者が舌打ちをしている。

于康(2007:111-112)では、「日本語母語話者の「舌打ち」を言語化する際、「チェッ」「チェ」「チッ」「チョッ」が使われることがあるが、言語化できずに「舌打ちをする(した)」を用いてその動作を記述することも内容である。つまり、オノマトペと動作記述との間に意味機能のずれが存在する」と位置付けている。一方、「舌打ち」を、中国語でどのように言語化すれば適当であるかは更なる研究が必要であるが、それに近い表現として、“啧 ze”や“呸 za”“呸嘴 za zui”といったものが上げられる」と述べている。また、于康(2007:133)では、「現在の日本語母語話者は、「舌打ち」を周りの人に不快感をあたえてしまい、苛立ちや侮蔑の感情が含まれるものとして認識しているようである。一方、その「舌打ち」に相当すると思われる中国語の“啧”や“呸”“呸嘴”“呸舌”には、相手に不快感を与えたり、苛立ちや侮辱のような気持ちをさせたりする意味も含まれるが、現代の日本語ほど、意味が固定化され、コミュニケーションにおける意味伝達の偏りが見られるものではない」と述べている。ここでは、日中両言語の舌打ちの本質については、まだ明らかになっておらず、音声的な違いがあり、意味や機能などが異なっていると考えられるであろう。従って、中国語の舌打ちをどのように扱うについて、今後の課題とする。

以上のように、笑い、咳払い、舌打ちなどの非言語音声がしばしばD群の感動詞類とともに発話されている。これらの非言語音声の発話時にも、認知的な流れがあるかもしれない。今後の課題として研究していきたい。

8. おわりに

本論文では、談話的・認知的アプローチによって、二連鎖感動詞類が出現する1ターンの発話に、真偽判断に関する1つの独立した認知ユニットが対応しているという理論を構築した。それとともに、二連鎖感動詞類だけでなく、その前後にある特定の先行発話・後続発話にも認知プロセスが流れていることを仮定した。このことから考えると、会話全体に何らかの認知プロセスが流れていることが想定できる。ただ、どのような認知プロセスが流れているのかについて解明することは、現時点では非常に難しいと考える。なぜなら、認知プロセスを浮き彫りにする手段として、何を観察すればよいか不明であるからである。本論文では、それが二連鎖感動詞類というものであった。しかし、真偽判断に関する認知プロセス以外のものを見出そうとする場合、二連鎖感動詞類以外の要素に注目する必要があるかもしれない。それが何であるかが、現時点では不明なのである。この問題は大きな課題として残る。

また、本論文では、日本語と中国語の自然会話における感動詞類の複数連鎖を対象としたが、これら両言語のみに適用されるルールや法則性の解明を目指したわけではない。言語普遍的なルールや法則性を導き出すことを目指したものである。今後、日本語・中国語データを増やすことは言うまでもなく、ほかの言語の会話データを収集しつつ、様々な角度から綿密に分析し、本論文の仮説を検証する必要がある。

そして、本論文で構築している理論について、日本語教育に対しても参考となることを期待する。筆者は日本語を第二言語とする言語学習者として、学校教育において日本語の語彙・文法・聴解などを習ったが、感動詞類に関する学習はあまりしなかった。それは、おそらく日本語教育の中では非常に扱いにくい文法項目であることや、日本語教育で扱う文法項目の優先順位が低いことが原因となっているからであろう。しかし、本論文で述べたように、感動詞類には何らかの認知プロセスが流れていることから考えると、言語習得にとっては非常に重要な要素である可能性が高い。問題は感動詞類の教育をどのような方法で実践するかということであるが、この点について別の機会に譲らざるを得ない。

さらに、本論文で扱った問題は人工知能などへの影響も期待できるだろう。もし感動詞類が認知プロセスを促進あるいは制御するものであるならば、人間の言語処理・言語理解という領域においては必ず議論しなければならない問題となるだろう。

以上述べたように、様々な分野・領域において、感動詞類に関する研究は必須のものとなるに違いないと考える。本論文が今後の進展に貢献することを願いたい。

参考文献

(著者・編者のアルファベット順)

<日本語文献>

- 有元光彦 (2018) 「出雲方言における感動詞類「け(一)」について」小林隆 (編) (2018), pp.273-294, ひつじ書房.
- 坊農真弓 (2002) 「プロソディからみた「うん」と「そう」」定延利之 (編) (2002), pp.113-126, ひつじ書房.
- 陳海濤 (2017) 「中国語フィラー“这个”の使用法の分類に関する考察」『人間生活文化研究』27, pp.629-637.
- 張恒悦 (2016) 『現代中国語の重ね型—認知言語学的アプローチ—』, 白帝社.
- デボラ・カメロン (2012) 『話し言葉の談話分析』(言語学翻訳叢書 15) 林宅男 (訳), ひつじ書房.
- 遠藤智子 (2012) 「非規範的な文法使用の対人的・認知的動機: 現代中国語会話における節末部我覚得を例に」『認知言語学論考』10, pp.247-297, ひつじ書房.
- フェルディナン・ド・ソシュール (2016) 『新訳ソシュール一般言語学講義』町田健 (訳), 研究社.
- 魏春娥 (2015) 「談話におけるフィラー「ま(一)」の待遇差に関する予備的考察」『東アジア研究』13, pp.75-93, 山口大学大学院東アジア研究科.
- 魏春娥 (2016) 『談話におけるフィラー待遇の研究—「ま(一)」と「なんか」について—』博士論文, 山口大学大学院東アジア研究科.
- 裴明文 (2017) 「日韓語の副詞終了文に対する対照研究: 副詞の感動詞的用法について」『研究論集』17, pp.119-134, 北海道大学文学研究科.
- 浜田麻里 (2014) 「接続詞」日本語文法学会 (編) (2014), pp.350-351, 大修館書店.
- 林四郎 (2013) 『文の姿勢の研究』, ひつじ書房.
- 廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・金谷優・長野明子 (編) (2017) 『三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ』(開拓社叢書 28), 開拓社.
- 井上優 (2002) 「“是吗?”に関する覚え書」定延利之 (編) (2002), pp.61-74, ひつじ書房.
- 井上優・黄麗華 (2007) 「日本語と中国語の真偽疑問文」彭飛 (編) (2007), pp.35-57, 和泉書院.
- 金山泰子・二宮理佳 (2013) 「「ええ」の機能に関する考察—文学作品の用例分析を通して—」『ICU 日本語教育研究』9, pp.33-44, 国際基督教大学日本語教育研究センター.
- 川田拓也 (2010) 『日本語フィラーの音声形式とその特徴について—聞き手とのインタラクションの程度を指標として—』博士論文, 京都大学大学院文学研究科.
- 川上恭子 (1993) 「談話における「まあ」の用法と機能(一)—応答型用法の分類—」『園田国文』, pp.69-78, 園田学園女子短期大学国文学会.

- 木部暢子（2007）「調査方法を選ぶ」小林隆・篠崎晃一（編）（2007），pp.23-45, ひつじ書房.
- 金珍娥（2013）『談話論と文法論—日本語と韓国語を照らす』, くろしお出版.
- 金水敏（2017）「役割語における感動詞」「感動詞ワークショップ」発表配布資料, 於県立広島大学, 2017年12月16日.
- 金水敏・田窪行則（1990）「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』3, pp.85-116, 講談社.
- 北野浩章（2000）「応答やあいづちに用いられる照応的な「そう」について：談話データにみる自然な対話の特徴」『京都大学言語学研究』19, pp.79-93, 京都大学大学院文学研究科言語学研究室.
- 小林隆（編）（2018）『感性の方言学』, ひつじ書房.
- 小林隆・川崎めぐみ・澤村美幸・椎名渉子・中西太郎（2017）『方言学の未来をひらく—オノマトペ・感動詞・談話・言語行動』, ひつじ書房.
- 小林隆・澤村美幸（2017）「感動詞の方言学」『方言学の未来をひらく—オノマトペ・感動詞・談話・言語行動』, pp.87-205, ひつじ書房.
- 小林隆・篠崎晃一（編）（2007）『ガイドブック方言調査』, ひつじ書房.
- 小出慶一（2011）「「いや」の否定性と談話での機能」『埼玉大学紀要』47（2）, pp.145-156, 埼玉大学教養学部.
- 小出慶一（2012）「フィラーとしての「ちょっと」について」『埼玉大学紀要』48（1）, pp.59-71, 埼玉大学教養学部.
- 小出美河子（2007）「感動詞」『日本語学キーワード事典』小池清治・細川英雄・犬飼隆・小林賢次（編）（2007）, p.280, 朝倉書店.
- 近藤安月子（2018）『「にほんごらしさ」の文法』研究社.
- 黄郁蕾・玉岡賀津雄（2015）「中国人日本語学習者の助言場面における意識と行動に影響する諸要因」『言語文化と日本語教育』（48・49）, pp.11-21, お茶の水女子大学日本言語文化学会.
- 黄麗華（2002）「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら—」定延利之（編）（2002）, pp.47-60, ひつじ書房.
- 興水優（1985）『中国語の語法の話—中国語文法概論』（中国語研究学習双書8）, 光生館.
- 興水優・島田亜美（2009）『中国語わかる文法』, 大修館書店.
- 串田秀也（2002）「会話中の「うん」と「そう」—話者性の交渉との関わりで—」定延利之（編）（2002）, pp.5-46, ひつじ書房.
- 串田秀也（2005）「「いや」のコミュニケーション学」『月刊言語』34（11）, pp.44-51, 大修館書店.
- 串田秀也・林誠（2015）「WH 質問への抵抗—感動詞「いや」の相互行為上の働き—」友定賢治（編）（2015）, pp.169-211, ひつじ書房.

- 串田秀也・定延利之・伝康晴（編）（2005）『活動としての文と発話』（シリーズ文と発話 1），ひつじ書房.
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』，くろしお出版.
- 三矢重松（1908）『高等日本文法』，明治書院.
- 泉子・K・メイナード（1993）『会話分析』（日英語対照研究シリーズ（2）），くろしお出版.
- 泉子・K・メイナード（1997）『談話分析の可能性：理論・方法・日本語の表現性』，くろしお出版.
- 泉子・K・メイナード（2004）『談話言語学—日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』，くろしお出版.
- 糸山洋介（2014）『日本語研究のための認知言語学』，研究社.
- 森山卓郎（2000）『ここからはじまる日本語文法』，ひつじ書房.
- 森山卓郎（2015）「感動詞と応答—新情報との遭遇を中心に—」友定賢治（編）（2015），pp.53-81, ひつじ書房.
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩（2017）『モダリティ』（日本語文法 3）岩波書店.
- 森雄一・高橋英光（2013）『認知言語学基礎から最前線へ』，くろしお出版.
- 中島平三（編）（2009）『言語学の領域（I）』（シリーズ朝倉<言語の可能性>1），朝倉書店.
- 中島平三・今井邦彦（編）（2009）『言語学の領域（II）』（シリーズ朝倉<言語の可能性>2），朝倉書店.
- 中本敬子・李在鎬（編）（2011）『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』，ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法』（第1巻），くろしお出版.
- 仁田義雄（2009）『日本語のモダリティとその周辺』，ひつじ書房.
- 大浜るい子（2001）「「えっ」の談話機能」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 50, pp.161-170, 広島大学大学院教育学研究科.
- 岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004）「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」『北海道文教大学論集』（5），65-76, 北海道文教大学
- 沖森卓也・山本真吾・木村義之・木村一（編）（2016）『副詞・連体詞・接続詞・感動詞』（品詞別学校文法講座【第四巻】），明治書院.
- 大河内康憲（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』，くろしお出版.
- 小野寺典子（編）（2017）『発話のはじめと終わり—語用論的調節のなされる場所』，ひつじ書房.
- 大野剛・中山俊秀（2017）「文法システム再考—話しことばに基づく文法研究に向けて」鈴木亮子・秦かおり・横森大輔（編）（2017），pp.5-34, ひつじ書房.
- 彭飛（編）（2007）『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴日本語から

- みた中国語の特徴』, 和泉書院.
- 鹿琮世・藤山和子 (編) (1988) 『新しい中国語語法』, 東宝書店.
- 劉伝霞 (2020a) 「BTSJ コーパスにおける二連鎖感動詞類について」 『Journal of East Asian Identities』 5, pp.1-10, 山口大学・淡江大学.
- 劉伝霞 (2020b) 「中国語談話における二連鎖感動詞類について」 『東アジア研究』 18, pp.133-149, 山口大学大学院東アジア研究科.
- 劉伝霞・有元光彦 (出版予定) 「日本語会話の二連鎖感動詞類に関する予備的考察」 友定賢治 (編) 『感動詞研究の展開』, ひつじ書房.
- 劉月華 (1992) 『中国語の表現と機能』 平松圭子・高橋弥守彦・永吉昭一郎 (訳), 好文出版.
- 定延利之 (2000) 『認知言語論』, 大修館書店.
- 定延利之 (2002) 「「うん」と「そう」に意味はあるか」 定延利之 (編) (2002), pp.75-111, ひつじ書房.
- 定延利之 (2005) 「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」 『月刊言語』 34 (11), pp.33-39, 大修館書店.
- 定延利之 (2007) 「話し手は言語で感情・評価・態度を表して目的を達するか?—日常の音声コミュニケーションから見えてくること—」 『自然言語処理』 14 (3), pp.3-15, 言語処理学会.
- 定延利之 (2010) 「会話においてフィラーを発するということ」 『音声研究』 14 (3), pp.27-39, 日本音声学会.
- 定延利之 (2015) 「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」 友定賢治 (編) (2015), pp.3-14, ひつじ書房.
- 定延利之 (編) (2002) 『「うん」と「そう」の言語学』, ひつじ書房.
- 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」「あのー」—」 『言語研究』 108, pp.74-93, 日本言語学会.
- 定延利之・張麗娜 (2007) 「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」 彭飛 (編) (2007), pp.99-119, 和泉書院.
- H. サックス・E. A. シェグロフ・G. ジェファソン (2010) 『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織』 西阪仰 (訳), 世界思想社.
- 佐久間まゆみ 「文章・談話における「段」の構造と機能」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』 13, pp.64-84, 早稲田大学日本語研究教育センター.
- 佐藤有希子 (2005) 「日本語母語話者の雑談における「うん」と「そう」—フィラーとして用いられる場合—」 『国際開発研究フォーラム』 29, pp.107-124, 名古屋大学大学院国際開発研究科.
- 澤田治美 (編) (2014) 『モダリティ I: 理論と方法』 (ひつじ意味講座 3), ひつじ書房.
- 澤田治美 (編) (2014) 『モダリティ II: 事例研究』 (ひつじ意味講座 4), ひつじ書房.

- 城田俊・尹相實（2015）『ことばの結びつきかた—新日本語語彙論』，ひつじ書房。
- 杉崎鉦司（2015）『はじめての言語獲得—普遍文法に基づくアプローチ』，岩波書店。
- 鈴木亮子・秦かおり・横森大輔（編）（2017）『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』，ひつじ書房。
- 周国龍（1994）「要求行為における「ちょっと～」の機能に関する—考察」『名古屋大学人文科学研究』23，pp.167-178，名古屋大学大学院文学研究科院生・研究生自治会。
- 武内道子・佐藤裕美（編）（2011）『発話と文のモダリティ—対照研究の視点から』（神奈川大学言語学研究叢書1），ひつじ書房。
- 田窪行則（1990）「対話における聞き手領域の役割について」『認知科学の発展』3，pp.67-84，講談社。
- 田窪行則（1994）「音声対話の言語学のモデル 副題：談話管理標識としての感動詞の分析」『情報処理学会研究報告：SLP，音声言語情報処理』94（40），pp.15-22，九州大学文学部。
- 田窪行則（1995）「音声言語の言語学的モデルをめざして—音声対話管理標識を中心に—」『情報処理』36（11），pp.1020-1026，九州大学文学部言語学講座。
- 田窪行則（2005）「感動詞の言語学的位置づけ」『月刊言語』34（11），pp.14-21，大修館書店。
- 田窪行則・金水敏（1996）「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』3-3，pp.59-74，日本認知科学会。
- 田窪行則・金水敏（1997）「応答詞・感動詞の談話機能」『文法と音声』，pp.275-279，くろしお出版。
- TA THANH HUYEN（2018）「日本語談話における沈黙の世代差：沈黙が挿入される統語環境をめぐる」『東アジア研究』16，pp.105-123，山口大学大学院東アジア研究科。
- TA THANH HUYEN（2020）『日本語談話における沈黙に関する研究』博士論文，山口大学大学院東アジア研究科。
- 時枝誠記（1950）『日本文法—口語篇』，岩波書店。
- 富樫純一（2001）「情報の獲得を示す談話標識について」『筑波日本語研究』6，pp.19-41，筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科日本語学研究室。
- 富樫純一（2002a）「談話標識「まあ」について」『筑波日本語研究』7，pp.15-31，筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科日本語学研究室。
- 富樫純一（2002b）「「はい」と「うん」の関係をめぐって」定延利之（編）（2002），pp.127-157，ひつじ書房。
- 富樫純一（2005）「「へえ」「ほう」「ふーん」の意味論」『月刊言語』34（11），pp.22-29，大修館書店。
- 友定賢治（2005）「感動詞への方言学的アプローチ—「立ち上げ詞」の提唱」『月刊言語』34（11），pp.56-63，大修館書店。

- 友定賢治（編）（2015）『感動詞の言語学』，ひつじ書房.
- 内田聖二（2011）「引用とモダリティー—メタ表象の視点から」『発話と文のモダリティー—対照研究の視点から』（神奈川大学言語学研究叢書 1），pp.21-42, ひつじ書房.
- 于康（2007）「中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について」『Ex：エクス：言語文化論集』 5, pp.109-134, 関西学院大学.
- 梅木俊輔（2013）「感動詞への「と」の付加をめぐる語用論的意味に関する覚書」『言語科学論集』 17, pp.73-84, 京都大学大学院人間・環境学研究科言語科学講座.
- 宇佐美まゆみ（2015）「基本的な文字化の原則 2015 年改訂版」 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」（リーダー：宇佐美まゆみ）.
- 宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」（リーダー：宇佐美まゆみ）.
- VUONG THI BICH LIEN（2012）「若年層における感動詞の品詞転成について」『東アジア研究』 10, pp.53-65, 山口大学大学院東アジア研究科.
- VUONG THI BICH LIEN（2013）『若年層における感動詞の動態研究』 博士論文, 山口大学大学院東アジア研究科.
- VUONG THI BICH LIEN・有元光彦（2013）「若年層における感動詞の独立性」『山口大学教育学部研究論叢』 63（1），pp.51-68, 山口大学教育学部.
- 山梨正明（1995）『認知文法論』，ひつじ書房.
- 山梨正明（2000）『認知言語学理論』，くろしお出版.
- 山梨正明（2004）『ことばの認知空間』，開拓社.
- 山梨正明（2016）『自然理論と日常言語』，くろしお出版.
- 山梨正明（2017）『新版推論と照応—照応研究の新展開』，くろしお出版.
- 山根智恵（2002）『日本語の談話におけるフィラー』，くろしお出版.
- 山岡寶（1986）「新情報・旧情報の概念に基づく談話分析への一批判」『相愛大学研究論集』 2, pp.73-87, 相愛大学.
- 吉村公弘（2002）「アスペクト（aspect）」辻幸夫（編）（2002），p.2, 研究社.
- 熊磊（2016）『日本語の談話における初頭性及び末尾性に関する研究』 博士論文, 山口大学大学院東アジア研究科.
- 熊磊（2016）「日本語談話における文の初頭行動・末尾行動の鏡像関係」『東アジア研究』 14, pp.161-178, 山口大学大学院東アジア研究科.
- 蔡嘉綾（2009）『日中両言語の自然談話データを用いた会話の対照分析—フィラーの使用を中心に—』 博士論文, 東北大学大学院国際文化研究科言語文化交流論講座.

<中国語文献>

- 北京大学中文系 1955·1957 级语言班（编）（1982）《现代汉语虚词例释》，商务印书馆。
- 高彦梅（2000）〈汉英感叹词对比研究〉山东外语教学 NO.4, pp.13-17.
- 高彦梅（2001）〈感叹词如何体现话语基调〉外语教学 NO.3, pp.14-18.
- 胡琼（2017）〈20 世纪以来叹词研究综述〉鸡西大学学报 NO.3, pp. 148-153.
- 蒋静（2013）〈日语和汉语感叹词的认知对比分析〉湖南广播电视大学学报 NO.2, pp.47-51.
- 李成军（2005）《现代汉语感叹句研究》博士論文，武汉大学。
- 李丛禾（2007）〈感叹词的认知理据和语用功能探究〉外语学刊 NO.3, pp.118-122.
- 刘丹青（2011）〈叹词的本质—代句词〉世界外语教学 NO.2, pp. 147-158.
- 刘月华·潘文娉·胡韦华（2010）《实用现代汉语语法》（增订本），商务印书馆。
- 吕叔湘（1999）《现代汉语八百词》（增订本），商务印书馆。
- 束定芳（2013）〈认知语言学研究方法、研究现状、目标与内容〉西华大学学报 NO.3, pp.52-56.
- 严辰松（2000）〈语言理据探究〉解放军外国语学院学报 NO.6, pp. 1-6.
- 周国光（2016）〈叹词的语法功能、语义功能及其定位〉语言科学 NO.3, pp.225-233.
- 赵元任（1979）《汉语口语语法》商务印书馆。
- 钟紫琦（2019）〈话语标记语“啧啧”语用功能探析〉语言文学研究, pp.16-18.
- 朱晓亚（1994）〈现代汉语感叹句初探〉徐州师范学院学报 NO.2, pp.124-127.

<辞典類>

- 相原茂（編）（2010）『講談社中日辞典』（第三版），講談社.
- 愛知大学中日大辞典編纂処（編）（1988）『中日大辞典』（増訂第二版），大修館書店.
- 浅田秀子（2017）『現代感動詞用法辞典』，東京堂出版.
- 大東文化大学中国語大辞典編纂室（編）（1994）『中国語大辞典』，角川書店.
- 亀井孝・千野栄一・河野六郎（1995）『言語学大辞典〈第6巻〉術語編』，三省堂.
- 小池清治・細川英雄・犬飼隆・小林賢次（編）（2007）『日本語学キーワード事典』，朝倉書店.
- 中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄（監修）（2015）『最新英語学・言語学用語辞典』，開拓社.
- 日本語文法学会（編）（2014）『日本語文法事典』，大修館書店.
- 日本語学会（編）（2018）『日本語学大辞典』，東京堂出版.
- 日本認知科学会（編）（2002）『認知科学辞典』，共立出版.
- Peter Hugoe Matthews（2009）『オックスフォード言語学辞典』中島平三・瀬田幸人（監訳），朝倉書店.
- Robert A.Wilson・Frank C.Keil（編）『MIT 認知科学大事典』中島秀之（訳），共立出版.
- 呂叔湘（2004）『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』，東宝書店.
- 斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）（2015）『明解言語学辞典』，三省堂.
- 辻幸夫（編）（2002）『認知言語学キーワード事典』，研究社.
- 辻幸夫・楠見孝・菅井三実・野村益寛・堀江薫・吉村公宏（編）（2019）『認知言語学大事典』，朝倉書店.

謝辞

博士論文を執筆するにあたり、ご指導、ご鞭撻とご援助をいただいた方々に、この場をお借りして感謝の意を申し上げます。

山口大学大学院東アジア研究科の有元光彦教授には、言語学分野で初学者である筆者を受け入れて、言語学の基礎的知識にはじまり、本論文の構想、研究手法、研究姿勢など、研究に関するあらゆることを教えていただきました。筆者が研究生の時から6年間、終始一貫して温かいご指導とご鞭撻をいただきました。また、論文提出期限が迫り、不安な時期に励ましのお言葉をかけてくださり、勇気付け、論文執筆に前向きに取り組むことができるよう力強く支えてくださいました。甚大なる感謝の意を表します。

副指導教員の吉村誠教授（2020年3月まで）、葛崎偉教授、山本冴里准教授には、論文の審査とともに、研究に関して丁寧で温かいご指導、論文執筆についての激励をいただきました。謹んで感謝申し上げます。

本論文を提出するにあたり、副査を引き受けてくださいました葛崎偉教授、和田学教授、山本冴里准教授には、非常に貴重なご意見・ご指摘をいただきましたこと深く感謝いたします。

県立広島大学の友定賢治名誉教授には、ご多忙の中、外部審査委員を引き受けていただきまして、深く御礼申し上げます。数多くの貴重なご助言と激励を賜りましたことをここに記すとともに、心より感謝申し上げます。

山口大学東アジア研究科の先生方からも、有益なご指摘と心温まる励ましをいただきました。厚く御礼申し上げます。

さらに、会話調査を行う際に、ご協力いただいた山口大学の日本人学生の方々、中国人留学生の方々には、個人情報保護の点からお名前は出せませんが、心より御礼申し上げます。

最後に、これまで私を温かく応援してくれた家族・友達に心から感謝します。

ここに記しきれない多くの方々のご協力のもと、本論文が成立していることを明記します。この感謝の気持ちを忘れず、今後も研究活動で皆様のご支援にお応えし、より一層勉学に励んで参ります。

皆様、ありがとうございました。

令和3年3月吉日

劉 伝霞

【付録】

付録 1 話者承諾書

付録 2 データ I

付録 3 データ II

付録 4 データ III

付録 5 データ IV

付録 1 には、「話者承諾書」（「調査にご協力くださる方へ」「調査研究への参加の同意書」「同意の取り消し」）を掲載する。

付録 2 のデータ I には、左から「通し番号」「発話者」、「発話内容」といった順で項目を配置している。二連鎖感動詞類を赤字で示す。6 本のデータの「通し番号」と「ページ数」は以下のようにまとめて示す。

データ番号	通し番号	ページ数	データ番号	通し番号	ページ数
I-01	0001～0709	5～16	I-04	0001～0762	31～43
I-02	0001～0368	17～23	I-05	0001～0424	44～51
I-03	0001～0382	24～30	I-06	0001～0590	52～61

付録 3 のデータ II には、左から「ライン番号」、「発話文番号」、「発話文終了」、「話者」、「発話内容」といった順で項目を配置している。二連鎖感動詞類を赤字で示す。24 本のデータの「通し番号」（ライン番号）と「ページ数」は以下のようにまとめて示す。

データ番号	通し番号	ページ数	データ番号	通し番号	ページ数
II-01	1～485	62～70	II-13	1～314	148～153
II-02	1～327	71～77	II-14	1～223	154～158
II-03	1～295	78～84	II-15	1～264	159～163
II-04	1～309	85～90	II-16	1～344	164～170
II-05	1～218	91～95	II-17	1～264	171～176
II-06	1～365	96～102	II-18	1～392	177～184
II-07	1～432	103～110	II-19	1～315	185～190
II-08	1～361	111～117	II-20	1～472	191～199
II-09	1～379	118～124	II-21	1～286	200～205
II-10	1～279	125～130	II-22	1～337	206～212
II-11	1～607	131～141	II-23	1～349	213～219
II-12	1～276	142～147	II-24	1～390	220～227

付録4のデータⅢには、左から「ライン番号」、「発話文番号」、「発話文終了」、「話者」、「発話内容」といった順で項目を配置している。二連鎖感動詞類を赤字で示す。20本のデータの「通し番号」（ライン番号）と「ページ数」は以下のようにまとめて示す。

データ番号	通し番号	ページ数	データ番号	通し番号	ページ数
Ⅲ-01	1～668	228～240	Ⅲ-11	1～421	343～350
Ⅲ-02	1～660	241～252	Ⅲ-12	1～590	351～361
Ⅲ-03	1～603	253～263	Ⅲ-13	1～356	362～368
Ⅲ-04	1～385	264～270	Ⅲ-14	1～410	369～376
Ⅲ-05	1～660	271～282	Ⅲ-15	1～577	377～386
Ⅲ-06	1～866	283～297	Ⅲ-16	1～326	387～393
Ⅲ-07	1～462	298～306	Ⅲ-17	1～229	394～398
Ⅲ-08	1～806	307～320	Ⅲ-18	1～824	399～413
Ⅲ-09	1～500	321～329	Ⅲ-19	1～714	414～426
Ⅲ-10	1～756	330～342	Ⅲ-20	1～1002	427～444

付録5のデータⅣには、左から「通し番号」「発話者」、「発話内容」といった順で項目を配置している。二連鎖感動詞類を赤字で示す。10本のデータの「通し番号」と「ページ数」は以下のようにまとめて示す。

データ番号	通し番号	ページ数	データ番号	通し番号	ページ数
Ⅳ-01	0001～0491	445～453	Ⅳ-06	0001～0489	489～497
Ⅳ-02	0001～0444	454～462	Ⅳ-07	0001～0490	498～506
Ⅳ-03	0001～0541	463～472	Ⅳ-08	0001～0454	507～515
Ⅳ-04	0001～0308	473～479	Ⅳ-09	0001～0536	516～525
Ⅳ-05	0001～0456	480～488	Ⅳ-10	0001～0492	526～535

※付録2, 付録3, 付録4, 付録5については、著作権上の点から、ホームページに公開しない。

調査にご協力くださる方へ

この調査についてのご説明:

1. 研究課題名(博士論文題目):

自然会話における二連鎖感動詞類に関する研究

2. 調査の目的

本調査は、劉 伝霞(調査担当者、山口大学大学院東アジア研究科)の博士論文作成における言語データを収集するために、実施するものです。

3. 調査の方法

- ・調査は、参加者同士2人ずつに分かれ、ペアごとに自由に会話(雑談)をしていただくという方法で行います。会話の中身については、制限はございません。何をしゃべっていただいても結構です。
- ・調査の際に年齢やお仕事、これまでに住んだことのある地域などについてお尋ねすることがあります。会話の特徴をまとめるときに、これらの情報を考慮する必要があるためですが、これらの個人情報に関しては、十分な注意を払い、責任をもって管理いたします。

4. 調査の場所と時間

- ・調査は、山口大学東アジア研究科研究室で行います。
- ・調査に参加していただくのは、「30分程度」です。

5. 調査を実施する者

- ・調査担当者: 劉伝霞(山口大学大学院東アジア研究科・大学院生)

6. 調査に関する資料の開示について

この調査に関するご質問がありましたら、いつでも調査担当者にお尋ね下さい。

7. 調査への参加が任意であること

この調査には、自由な意思で参加してください。調査の途中でも、やめることができます。また、調査が終わったあとに、調査への参加の同意を取り消すこともできます。その場合、別紙「同意の取り消し」の文書に署名して、下記までお申し出下さい。

同意を撤回する場合の連絡先:

担当者: 劉 伝霞

住 所: 〒***-*** * * * * *

電 話: ***-***-***

電子メール: ***@yamaguchi-u.ac.jp

8. この調査への参加に伴う危害の可能性について

この調査により、健康被害等の危険や、痛み等の不快な状態、その他あなたに不利益となることが生じる可能性はありません。

調査中に疲れた場合などは、おっしゃってください。

9. 個人情報の取り扱い

あなたの個人情報や言語データが記された資料は、厳重に保管します。また、あなたの個人情報をコンピュータに入力する場合は、情報が漏れることのないよう、対策を十分に施したコンピュータを使用し、厳重に情報を保管し、紛失、盗難などのないようにします。

10. 調査終了後の対応と研究成果の公表

この調査が終わった後、お伺いした内容は、個人情報を厳重に管理したうえで保存します。また、この調査で得られた成果を、博士論文以外にも調査報告書や専門の学会誌、学術雑誌などに発表することがあります。その際は、あなたのプライバシーに十分配慮します。

録音音声を公開する場合は、事前にご承諾を得るようにいたします（現時点では公開は予定していません）。

11. 調査に伴う参加者の方への謝金等

調査担当者が大学院生であるため、調査にご協力くださった方に、お礼を差し上げることができません。ご容赦ください。

12. 問い合わせ先・苦情等の連絡先

・調査担当者：劉 伝霞

住 所：〒*****-***** *****

電 話：*****-*****-*****

電子メール：*****@yamaguchi-u.ac.jp

・指導教員： 有元 光彦（山口大学大学院東アジア研究科・教授）

住 所：〒*****-***** *****

電 話：*****-*****-*****

電子メール：*****@yamaguchi-u.ac.jp

以上の内容をよくご理解いただいたうえで、この調査に参加することに同意していただける場合は、別紙の「調査研究への参加の同意書」に署名し、日付を記入して調査担当者にお渡し下さい。

調査研究への参加の同意書

山口大学大学院東アジア研究科・大学院生

劉 伝霞 様

私は「自然会話における二連鎖感動詞類に関する研究」の調査に関する説明を受け、この調査研究に参加することに同意します。

また、調査の内容が言語の学術的研究を目的として使用されることに同意します。その際、個人情報については、以下のようにお願いします。

(1) 博士論文、調査報告書、研究発表、研究論文等での発表について

・次の中で公表してもよい内容があれば をしてください。

生年（年齢） 性別 居住歴 職業 所属

(2) 録音したあなたの声をホームページ等で公開することについて

・公開することを 承諾する 承諾しない

・承諾する場合、次の中で公表してもよい内容があれば をしてください。

生年（年齢） 性別 居住歴 職業 所属

その他（特にご希望があれば、以下にご記入ください）

.....年.....月.....日

参加者署名.....

調査担当者署名.....

同意の取り消し

山口大学大学院東アジア研究科・大学院生

劉 伝霞 様

私は、「自然会話における二連鎖感動詞類に関する研究」の調査に参加することに同意し、同意書に署名しましたが、その同意を取り消します。

- 同意の取り消し前のデータについては 利用しても構いません。
- 利用せずに破棄してください。

年 月 日

署名.....